文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 休講	1学期	1	2	1年	
	異文化理解の基礎 ANT110F 休講	1学期	1	2	1年	
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	1年	1
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	1年	2
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	1学期	1	2	1年	3
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	1年	4
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	1年	5
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	1年	6
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	1年	7
	可能性としての歴史 HIS200F 休講	2学期	2	2	2年	
	現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	2年	8
	言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	1学期	2	2	2年	9
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	2年	10
	共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期	2	2	2年	11
	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	2年	12

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高　京子	1学期 2年	2	2	13
	情報社会を読む INF200F 浅羽　修丈	2学期 2年	2	2	14
	地域資源管理論 ENV200F 廣川　祐司	2学期 2年	2	2	15
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 徳永 政夫　他	1学期 1年	1	2	16
	教養基礎演習I GES101F 伊原木　大祐	1学期 1年	1	2	17
	教養基礎演習I GES101F 稲月　正	1学期 1年	1	2	18
	教養基礎演習I GES101F 神原　ゆうこ	1学期 1年	1	2	
	教養基礎演習I GES101F 小林 道彦	1学期 1年	1	2	
	教養基礎演習I（防衛セミナー） GES101F 戸蒔　仁司	1学期 1年	1	2	19
	教養基礎演習I GES101F 日高　京子	1学期 1年	1	2	20
	教養基礎演習I GES101F 廣川　祐司	1学期 1年	1	2	21
	教養基礎演習I GES101F 石川　敬之	1学期 1年	1	2	22
	教養基礎演習I（発達障がいセミナー） GES101F 伊野 憲治	1学期 1年	1	2	23
	教養基礎演習II GES102F 徳永 政夫　他	2学期 1年	1	2	24
	教養基礎演習II GES102F 眞鍋　和博　他	2学期 1年	1	2	25

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II GES102F 伊原木　大祐	2学期 1年	1	2	26
	教養基礎演習II GES102F 稲月　正	2学期 1年	1	2	27
	教養基礎演習II GES102F 神原　ゆうこ	2学期 1年	1	2	28
	教養基礎演習II GES102F 小林 道彦	2学期 1年	1	2	
	教養基礎演習II（防衛セミナー） GES102F 戸蒔　仁司	集中 1年	1	2	29
	教養基礎演習II GES102F 日高　京子	2学期 1年	1	2	30
	教養基礎演習II GES102F 廣川　祐司	2学期 1年	1	2	31
	教養基礎演習II GES102F 石川　敬之	2学期 1年	1	2	32
	教養基礎演習II（発達障がいセミナー） GES102F 伊野　憲治	2学期 1年	1	2	33
	教養演習AI GES201F 伊原木　大祐	1学期 2年	2	2	34
	教養演習AI GES201F 稲月　正	1学期 2年	2	2	35
	教養演習AI GES201F 神原　ゆうこ	1学期 2年	2	2	
	教養演習AI GES201F 小林 道彦	1学期 2年	2	2	
	教養演習AI GES201F 徳永　政夫、高西　敏正	1学期 2年	2	2	
	教養演習AI（防衛セミナー） GES201F 戸蒔　仁司	1学期 2年	2	2	36

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＡⅠ GES201F 日高　京子	1学期	2	2	2年	37
	教養演習ＡⅠ GES201F 石川　敬之	1学期	2	2	2年	38
	教養演習ＡⅠ（発達障がいセミナー） GES201F 伊野　憲治	1学期	2	2	2年	39
	教養演習ＡⅡ GES202F 伊原木　大祐	2学期	2	2	2年	40
	教養演習ＡⅡ GES202F 稲月　正	2学期	2	2	2年	41
	教養演習ＡⅡ GES202F 神原　ゆうこ	2学期	2	2	2年	42
	教養演習ＡⅡ GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	2年	
	教養演習ＡⅡ GES202F 徳永　政夫、高西　敏正	2学期	2	2	2年	
	教養演習ＡⅡ（防衛セミナー） GES202F 戸蒔　仁司	集中	2	2	2年	43
	教養演習ＡⅡ GES202F 日高　京子	2学期	2	2	2年	44
	教養演習ＡⅡ GES202F 二宮　正人	2学期	2	2	2年	
	教養演習ＡⅡ GES202F 石川　敬之	2学期	2	2	2年	45
	教養演習ＡⅡ（発達障がいセミナー） GES202F 伊野　憲治	2学期	2	2	2年	46
	教養演習ＢⅠ GES301F 伊原木　大祐	1学期	3	2	3年	47
	教養演習ＢⅠ GES301F 稲月　正	1学期	3	2	3年	48

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＢＩ GES301F 神原　ゆうこ	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢＩ GES301F 小林 道彦	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢＩ GES301F 徳永　政夫、高西　敏正	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢＩ（防衛セミナー） GES301F 戸蒔　仁司	1学期 3年	3	2	49
	教養演習ＢＩ GES301F 日高　京子	1学期 3年	3	2	50
	教養演習ＢＩ GES301F 石川　敬之	1学期 3年	3	2	51
	教養演習ＢＩ（発達障がいセミナー） GES301F 伊野 憲治	1学期 3年	3	2	52
	教養演習ＢＩＩ GES302F 伊原木　大祐	2学期 3年	3	2	53
	教養演習ＢＩＩ GES302F 稲月　正	2学期 3年	3	2	54
	教養演習ＢＩＩ GES302F 神原　ゆうこ	2学期 3年	3	2	55
	教養演習ＢＩＩ GES302F 小林 道彦	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢＩＩ GES302F 徳永　政夫、高西　敏正	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢＩＩ（防衛セミナー） GES302F 戸蒔　仁司	集中 3年	3	2	56
	教養演習ＢＩＩ GES302F 日高　京子	2学期 3年	3	2	57
	教養演習ＢＩＩ GES302F 二宮 正人	2学期 3年	3	2	

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＢⅡ GES302F 石川　敬之	2学期 3年	3	2	58
	教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー） GES302F 伊野　憲治	2学期 3年	3	2	59
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川　大介　他	1学期 1年	1	2	60
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部　竹川大介	2学期 1年	1	2	61
	地球の生いたち GOL001F 長井　孝一	2学期 1年	1	2	62
	自然史へのいざない BIO001F 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター　日高京子	2学期 1年	1	2	63
	くらしと化学 CHM001F 秋貞　英雄	1学期 1年	1	2	64
	現代人のこころ PSY003F 森永　今日子	1学期 1年	1	2	65
	人間と生命 BIO002F 日高　京子	2学期 1年	1	2	66
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高　京子　他	2学期 1年	1	2	67
	未来を創る環境技術 ENV003F 龍　有二　他	1学期 1年	1	2	68
	私たちと宗教 PHR006F 佐藤　眞人	2学期 1年	1	2	69
	思想と現代 PHR004F 伊原木　大祐	1学期 1年	1	2	70
	文化と表象 MCC001F 真鍋　昌賢	2学期 1年	1	2	71
	言語とコミュニケーション LIN001F 漆原　朗子　他	2学期 1年	1	2	72

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	芸術と人間 PHR001F 真武　真喜子	2学期	1	2	1年	73
	文学を読む LIT001F 生住　昌大　他	2学期	1	2	1年	74
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	1年	75
	民主主義とは何か PLS002F 中道　壽一	1学期	1	2	1年	76
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	1年	77
	政治のなかの文化 ANT001F 神原　ゆうこ	2学期	1	2	1年	78
	人権論 SOC004F 柳井　美枝	1学期	1	2	1年	79
	ジェンダー論 GEN001F 力武　由美	1学期	1	2	1年	80
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治　他	2学期	1	2	1年	81
	共生の作法 LAW001F 今泉 恵子　他	1学期	1	2	1年	82
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭	2学期	1	2	1年	83
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	1年	84
	市民活動論 RDE001F 西田　心平	2学期	1	2	1年	85
	企業と社会 BUS001F 山下　剛	1学期	1	2	1年	86
	現代社会と倫理 PHR002F 伊原木　大祐	1学期	1	2	1年	87

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期 1年	1	2	88
	都市と地域 RDE002F 南 博 他	1学期 1年	1	2	89
	現代の国際情勢 IRL003F 尹 明憲 他	1学期 1年	1	2	90
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期 1年	1	2	91
	グローバル化する経済 ECN001F 田中 淳平 他	1学期 1年	1	2	92
	テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	2学期 1年	1	2	93
	国際紛争と国連 IRL005F 休講	2学期 1年	1	2	
	国際社会と日本 IRL004F 阿部 容子 他	2学期 1年	1	2	94
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期 1年	1	2	95
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 久木 尚志 他	1学期 1年	1	2	96
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期 1年	1	2	97
	歴史の読み方II HIS005F 赤司 友徳	1学期 1年	1	2	98
	そのとき世界は HIS002F 伊野 憲治	2学期 1年	1	2	99
	戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期 1年	1	2	100
	ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期 1年	1	2	101

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人物と時代の歴史 HIS001F 山﨑 勇治 他	1学期	1	2	1年	102
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	1年	103
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	1年	104
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	1年	105
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	1年	106
	人文地理学 GEO110F 外枦保 大介	2学期	1	2	1年	107
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	1年	108
	地誌学 GEO112F 外枦保 大介	1学期	1	2	1年	109
	日本国憲法 LAW120F 中村 英樹	2学期	1	2	1年	110
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	1年	111
	メンタル・ヘルスII PSY002F 寺田 千栄子	2学期	1	2	1年	112
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 髙西 敏正	1学期	1	2	1年	113
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	1年	114
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期	1	2	1年	115
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 髙西 敏正	2学期	1	2	1年	116

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期	1	2	1年	117
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期	1	2	1年	118
	自己管理論 HSS003F 山本 浩二	2学期	1	2	1年	119
	フィジカル・エクササイズI（ソフトボール） HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	1年	120
	フィジカル・エクササイズI（サッカー） HSS081F 山崎 将幸	1学期	1	1	1年	121
	フィジカル・エクササイズI（テニス） HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	1年	122
	フィジカル・エクササイズI（バレーボール） HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	1年	123
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	1年	124
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	1年	125
	フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ） HSS081F 加倉井 美智子	1学期	1	1	1年	126
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 山崎 将幸	2学期	1	1	1年	127
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	1年	128
	フィジカル・エクササイズII（バスケットボール） HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	1年	129
	フィジカル・エクササイズII（バレーボール） HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	1年	130
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	1年	131

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII（サッカー） HSS082F 山崎 将幸	2学期	1	1	1年	132
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	1年	133
	フィジカル・エクササイズII（サッカー） HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	1年	134
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	1年	135
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	1年	136
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	1年	137
	キャリア・デザイン CAR100F 見舘 好隆	1学期	1	2	1年	138
	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	1年	139
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 休講	2学期	1	2	1年	
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見舘 好隆	1学期	2	2	2年	140
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見舘 好隆	2学期	2	2	2年	141
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	2年	142
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	1年	143
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	1年	144
	プロジェクト演習I CAR280F 見舘 好隆	1学期	2	2	2年	145

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習II CAR281F 見舘　好隆	2学期 2年	2	2	146
	プロジェクト演習III CAR380F 見舘　好隆	1学期 3年	3	2	147
	プロジェクト演習IV CAR381F 見舘　好隆	2学期 3年	3	2	148
■教養特講	教養特講I（教養を磨く『新聞のちから』） SPL001読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月　正、永末　康介	2学期 1年	1	2	149
	教養特講II（グローバリゼーションと倫理的消費） SPL002F 大平　剛	1学期 1年	1	2	150
	教養特講III（まなびと講座Ａ） SPL003F 休講	1学期 1年	1	2	
	教養特講IV（まなびと講座Ｂ） SPL004F 眞鍋　和博	2学期 1年	1	2	151
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾　泰士	1学期 比１－３．再履	1	2	152
	データ処理 INF101F 佐々木　実	1学期 比１－１．再履	1	2	153
	データ処理 INF101F 佐々木　実	1学期 比１－２．再履	1	2	154
	データ処理 INF101F 佐藤　貴之	2学期 １学期未修得者再履	1	2	155
	情報表現 INF230F 休講	1学期 2年	2	2	
	情報表現 INF230F 中尾　泰士	2学期 2年	2	2	156
	情報表現 INF230F 棚次　奎介	2学期 2年	2	2	157
	情報表現 INF230F 浅羽　修丈	2学期 2年	2	2	158

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報メディア演習 INF330F 浅羽　修丈	2学期 3年	3	2	159
	情報メディア演習 INF330F 中尾　泰士	2学期 3年	3	2	160
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I（比1-A） ENG101F 吉田　禎子	1学期 比1 - A	1	1	161
	英語I（比1-B） ENG101F 下條　かおり	1学期 比1 - B	1	1	162
	英語I（比1-C） ENG101F 十時　康	1学期 比1 - C	1	1	163
	英語I（比1-D） ENG101F 船方　浩子	1学期 比1 - D	1	1	164
	英語II（比1-A） ENG111F ホセ・クルーズ	2学期 比1 - A	1	1	165
	英語II（比1-B） ENG111F 下條　かおり	2学期 比1 - B	1	1	166
	英語II（比1-C） ENG111F 十時　康	2学期 比1 - C	1	1	167
	英語II（比1-D） ENG111F 船方　浩子	2学期 比1 - D	1	1	168
	英語III（比1-A） ENG102F ダニー・ミン	1学期 比1 - A	1	1	169
	英語III（比1-B） ENG102F マイケル・バーグ	1学期 比1 - B	1	1	170
	英語III（比1-C） ENG102F クリストファー・オサリバン	1学期 比1 - C	1	1	171
	英語III（比1-D） ENG102F ホセ・クルーズ	1学期 比1 - D	1	1	172
	英語IV（比1-A） ENG112F ダニー・ミン	2学期 比1 - A	1	1	173

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV（比１-Ｂ） ENG112F　ホセ・クルーズ	2学期	1	1	比１ - Ｂ	174
	英語IV（比１-Ｃ） ENG112F　クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	比１ - Ｃ	175
	英語IV（比１-Ｄ） ENG112F　永末　康介	2学期	1	1	比１ - Ｄ	176
	英語V（比２-Ａ） ENG201F　ダンカン・ウォトリィ	1学期	2	1	比２ - Ａ	177
	英語V（比２-Ｂ） ENG201F　杉山 智子	1学期	2	1	比２ - Ｂ	178
	英語V（比２-Ｃ） ENG201F　伊藤 晃	1学期	2	1	比２ - Ｃ	179
	英語V（比２-Ｄ） ENG201F　漆原 朗子	1学期	2	1	比２ - Ｄ	180
	英語VI（比２-Ａ） ENG211F　安丸　雅子	2学期	2	1	比２ - Ａ	181
	英語VI（比２-Ｂ） ENG211F　伊藤 晃	2学期	2	1	比２ - Ｂ	182
	英語VI（比２-Ｃ） ENG211F　杉山 智子	2学期	2	1	比２ - Ｃ	183
	英語VI（比２-Ｄ） ENG211F　漆原 朗子	2学期	2	1	比２ - Ｄ	184
	英語VII（比２-Ａ） ENG202F　シェーン・ドイル	1学期	2	1	比２ - Ａ	185
	英語VII（比２-Ｂ） ENG202F　ホセ・クルーズ	1学期	2	1	比２ - Ｂ	186
	英語VII（比２-Ｃ） ENG202F　ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	比２ - Ｃ	187
	英語VII（比２-Ｄ） ENG202F　船方　浩子	1学期	2	1	比２ - Ｄ	188

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII（比２-Ａ） ENG212F シェーン・ドイル	2学期	2	1	比２ - Ａ	189
	英語VIII（比２-Ｂ） ENG212F ホセ・クルーズ	2学期	2	1	比２ - Ｂ	190
	英語VIII（比２-Ｃ） ENG212F ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	比２ - Ｃ	191
	英語VIII（比２-Ｄ） ENG212F マーニー・セイディ	2学期	2	1	比２ - Ｄ	192
	英語IX（比人３年） ENG301F 渡邊　嘉則	1学期	3	1	比人３年	193
	英語X（比人３年） ENG311F 渡邊　嘉則	2学期	3	1	比人３年	194
	英語XI（比人３年） ENG302F ダンカン・ウォトリィ	1学期	3	1	比人３年	195
	英語XII（比人３年） ENG312F デビット・ニール・マクレーラン	2学期	3	1	比人３年	196
■第二外国語	中国語I CHN101F 板谷　秀子	1学期	1	1	比１年（学籍番号　偶数）	197
	中国語I CHN101F 小椋　吾郎	1学期	1	1	比１年（学籍番号　奇数）	198
	中国語II CHN111F 板谷　秀子	2学期	1	1	比１年（学籍番号　偶数）	199
	中国語II CHN111F 小椋　吾郎	2学期	1	1	比１年（学籍番号　奇数）	200
	中国語III CHN102F 陳　青鳳	1学期	1	1	比１年（学籍番号　偶数）	201
	中国語III CHN102F 張　瑾	1学期	1	1	比１年（学籍番号　奇数）	202
	中国語IV CHN112F 陳　青鳳	2学期	1	1	比１年（学籍番号　偶数）	203

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語IV CHN112F 張　瑾	2学期	1	1	比１年（学籍番号　奇数）	204
	中国語V CHN201F 小椋　吾郎	1学期	2	1	比２年	205
	中国語VI CHN211F 小椋　吾郎	2学期	2	1	比２年	206
	中国語VII CHN202F ホウ　ラメイ（彭腊梅）	1学期	2	1	比２年	207
	中国語VIII CHN212F ホウ　ラメイ（彭腊梅）	2学期	2	1	比２年	208
	上級中国語I CHN301F 唐　雋	1学期	3	1	英国済営比人３年	209
	上級中国語II CHN311F 唐　雋	2学期	3	1	英国済営比人３年	210
	上級中国語III CHN302F 王　晨	1学期	3	1	英国済営比人３年	211
	上級中国語IV CHN312F 王　晨	2学期	3	1	英国済営比人３年	212
	朝鮮語I KRN101F 金　貞淑	1学期	1	1	比１年	213
	朝鮮語II KRN111F 金　貞淑	2学期	1	1	比１年	214
	朝鮮語III KRN102F チャン　ユンヒャン	1学期	1	1	比１年	215
	朝鮮語IV KRN112F チャン　ユンヒャン	2学期	1	1	比１年	216
	朝鮮語V KRN201F チャン　ユンヒャン	1学期	2	1	済営比人律政群２年	217
	朝鮮語VI KRN211F チャン　ユンヒャン	2学期	2	1	済営比人律政群２年	218

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VII KRN202F チャン　ユンヒャン	1学期	2	1	済営比人律政群２年	219
	朝鮮語VIII KRN212F チャン　ユンヒャン	2学期	2	1	済営比人律政群２年	220
	上級朝鮮語I KRN301F 金　貞淑	1学期	3	1	英中国済営比人３年	221
	上級朝鮮語II KRN311F 金　貞淑	2学期	3	1	英中国済営比人３年	222
	上級朝鮮語III KRN302F 金　貞愛	1学期	3	1	英中国済営比人３年	223
	上級朝鮮語IV KRN312F 金　貞愛	2学期	3	1	英中国済営比人３年	224
	ロシア語I RUS101F 芳之内　雄二	1学期	1	1	英中国済営比人律政１年	225
	ロシア語II RUS111F 芳之内　雄二	2学期	1	1	英中国済営比人律政１年	226
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シェスタコーワ	1学期	1	1	英中国済営比人律政１年	227
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シェスタコーワ	2学期	1	1	英中国済営比人律政１年	228
	ロシア語V RUS201F 芳之内　雄二	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	229
	ロシア語VI RUS211F 芳之内　雄二	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	230
	ロシア語VII RUS202F ナタリア・シェスタコーワ	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	231
	ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シェスタコーワ	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	232
	ドイツ語I GRM101F 山下　哲雄	1学期	1	1	比１年	233

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語II GRM111F 山下　哲雄	2学期	1	1	比１年	234
	ドイツ語III GRM102F 岩本　真理子	1学期	1	1	比１年	235
	ドイツ語IV GRM112F 岩本　真理子	2学期	1	1	比１年	236
	ドイツ語V GRM201F 山下　哲雄	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	237
	ドイツ語VI GRM211F 山下　哲雄	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	238
	ドイツ語VII GRM202F 山下　哲雄	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	239
	ドイツ語VIII GRM212F 山下　哲雄	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	240
	フランス語I FRN101F 福島　勲	1学期	1	1	比１年	241
	フランス語II FRN111F 福島　勲	2学期	1	1	比１年	242
	フランス語III FRN102F コモン　ティエリ	1学期	1	1	比１年	243
	フランス語IV FRN112F コモン　ティエリ	2学期	1	1	比１年	244
	フランス語V FRN201F 坂田　由紀	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	245
	フランス語VI FRN211F 坂田　由紀	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	246
	フランス語VII FRN202F 小野　菜都美	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	247
	フランス語VIII FRN212F 小野　菜都美	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	248

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語I SPN101F 富田　広樹	1学期	1	1	比１年	249
	スペイン語II SPN111F 富田　広樹	2学期	1	1	比１年	250
	スペイン語III SPN102F ミヨコ・フジヨシ	1学期	1	1	比１年	251
	スペイン語IV SPN112F ミヨコ・フジヨシ	2学期	1	1	比１年	252
	スペイン語V SPN201F 青木　文夫	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	253
	スペイン語VI SPN211F 青木　文夫	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	254
	スペイン語VII SPN202F 辻　博子	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	255
	スペイン語VIII SPN212F 辻　博子	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	256
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水　順子	1学期	1	1	留学生１年	257
	日本語II JSL102F 則松　智子	1学期	1	1	留学生１年	258
	日本語III JSL103F 徐　暁輝	1学期	1	1	留学生１年	259
	日本語IV JSL111F 清水　順子	2学期	1	1	留学生１年	260
	日本語V JSL112F 則松　智子	2学期	1	1	留学生１年	261
	日本語VI JSL113F 徐　暁輝	2学期	1	1	留学生１年	262
	日本語VII JSL104F 小林　浩明	1学期	2	1	留学生２年	263

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語VIII JSL114F 清水　順子	2学期	2	1	留学生２年	264
	日本事情（人文）A JPS101F 清水　順子	1学期	1	2	留学生１年	265
	日本事情（人文）B JPS102F 則松　智子	2学期	1	2	留学生１年	266
	日本事情（社会）A JPS103F 小林　浩明	1学期	1	2	留学生１年	267
	日本事情（社会）B JPS104F 小林　浩明	2学期	1	2	留学生１年	268
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化（領域系）科目	比較民族学 ANT213M 成末　繁郎	1学期	2	2	２年	269
	人類学概論 ANT100M 竹川　大介	2学期	1	2	１年	270
	比較宗教・思想 PHR211M 新村　昭雄	2学期	2	2	２年	271
	比較歴史・文化 HIS200M 寺田　由美	2学期	2	2	２年	272
	日米文化比較 ARE260M 十時　康	2学期	2	2	２年	273
	日英文化比較 ARE261M 高山　智樹	1学期	2	2	２年	274
	日仏文化比較 ARE262M 福島　勲	2学期	2	2	２年	275
	日中文化比較 ARE264M 鄧　紅	1学期	2	2	２年	276
	比較中国思想 ARE310M 鄧　紅	2学期	2	2	２年	277
	比較東洋美術 PHR212M 五月女　晴恵	2学期	2	2	２年	278

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化（領域系）科目	比較映像・文化 MCC211M 前田 譲治	1学期 2年	2	2	279
	比較表象文化 MCC210M 真鍋 昌賢	1学期 2年	2	2	280
	比較日本文学（近現代） LIT225M 生住 昌大	2学期 2年	2	2	281
	比較日本文学（古典） LIT226M 渡瀬 淳子	2学期 2年	2	2	282
	比較広域文学 LIT200M 岩本 真理子	2学期 2年	2	2	283
	比較ジェンダー論 GEN210M 力武 由美	2学期 2年	2	2	284
	比較社会意識 SOC210M 古賀 琢磨	2学期 2年	2	2	285
	比較社会文化 SOC211M 古賀 琢磨	1学期 2年	2	2	286
	近現代美術 PHR213M 真武 真喜子	1学期 2年	2	2	287
	情報社会論 SOC213M 明間 肇	集中 2年	2	2	288
	消費社会論 SOC214M 阪井 俊文	2学期 2年	2	2	289
	理論社会学 SOC212M 鈴木 健之	集中 2年	2	2	290
	フィールドワーク論 ANT212M 門馬 一平	1学期 2年	2	2	291
	人間性の進化 ANT211M 木下 靖子	集中 2年	2	2	292
■比較文化（地域系）科目	日本の宗教文化 PHR214M 佐藤 眞人	1学期 2年	2	2	293

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化（地域系）科目	日本の近代思想 PHR217M 赤司　友徳	2学期	2	2	2年	294
	日本の生活文化 JPS211M 八百　啓介	2学期	2	2	2年	295
	日本の歴史と社会 HIS210M 八百　啓介	1学期	2	2	2年	296
	日本文学史（古典） LIT223M 渡瀬　淳子	1学期	2	2	2年	297
	日本文学史（近現代） LIT224M 河内　重雄	2学期	2	2	2年	298
	日本語学概論I LIN220M 堀尾　香代子	1学期	1	2	1年	299
	日本語学概論II LIN221M 堀尾　香代子	2学期	1	2	1年	300
	日本の古典文学 LIT220M 渡瀬　淳子	1学期	2	2	2年	301
	日本の近代文学 LIT221M 生住　昌大	1学期	2	2	2年	302
	日本の現代文学 LIT222M 河内　重雄	1学期	2	2	2年	303
	日本の芸能文化 JPS210M 佐藤　眞人	2学期	2	2	2年	304
	日本の美術 PHR215M 五月女　晴恵	1学期	2	2	2年	305
	日本の宗教と美術 PHR216M 五月女　晴恵	2学期	2	2	2年	306
	日本の大衆文化 JPS212M 真鍋　昌賢	2学期	2	2	2年	307
	日本の都市文化 JPS213M 赤司　友徳	2学期	2	2	2年	308

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化（地域系）科目	日本文学概論 LIT213M 生住　昌大　他	2学期 1年	1	2	309
	現代日本語学 LIN222M 岡田　美穂	1学期 2年	2	2	310
	日本語表現法 LIN223M 岡田　美穂	1学期 2年	2	2	311
	日本語音声学 LIN224M 矢野　準	2学期 2年	2	2	312
	漢文学 LIT250M 楢崎　洋一郎	1学期 2年	2	2	313
	日本語教育学概論 LIN240M 小林　浩明	1学期 2年	2	2	314
	異文化間コミュニケーション概論 MCC212M 山崎　和夫	2学期 2年	2	2	315
	アメリカの社会と文化 ARE222M 前田　譲治	1学期 2年	2	2	316
	アメリカ文化論 ARE223M ダニエル・ストラック	2学期 2年	2	2	317
	アメリカ文学概論 LIT230M 前田　譲治	2学期 1年	1	2	318
	アメリカの現代文学 LIT232M 新村　昭雄	2学期 2年	2	2	319
	アメリカの１８-１９世紀文学 LIT233M 新村　昭雄	1学期 2年	2	2	320
	アメリカの大衆文化 ARE221M 前田　譲治	2学期 2年	2	2	321
	アメリカの都市文化 ARE224M 寺田　由美　他	1学期 2年	2	2	322
	英語学概論 LIN232M 北峯　裕士	1学期 2年	2	2	323

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化（地域系）科目	英語史 LIN330M 北峯 裕士	2学期 2年	2	2	324
	英文法I LIN230M 廣田 恵美	1学期 2年	2	2	325
	英文法I LIN230M 廣田 恵美	1学期 2年	2	2	326
	英文法II LIN231M 廣田 恵美	2学期 2年	2	2	327
	英文法II LIN231M 廣田 恵美	2学期 2年	2	2	328
	英語音声学 LIN233M ジェニファー・ラーソンホール	1学期 2年	2	2	329
	イギリスの社会と文化 ARE232M 高山 智樹	1学期 2年	2	2	330
	イギリス文化論 ARE234M 木原 謙一	1学期 2年	2	2	331
	ドイツ文化論 ARE241M 岩本 真理子	1学期 2年	2	2	332
	イギリス文学概論 LIT231M 村里 好俊	2学期 1年	1	2	333
	イギリスの現代文学 LIT234M 田部井 世志子	1学期 2年	2	2	334
	イギリスの１８-１９世紀文学 LIT235M 村里 好俊	2学期 2年	2	2	335
	イギリスの大衆文化 ARE231M 高山 智樹	2学期 2年	2	2	336
	フランス文化論 ARE240M 福島 勲	1学期 2年	2	2	337
	西洋美術史 PHR218M 貞包 博幸	1学期 2年	2	2	338

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化（地域系）科目	アメリカ文化史 ARE227M 寺田 由美	1学期 2年	2	2	339
	イギリスの生活 ARE235M 松隈 達也	1学期 2年	2	2	340
	イギリス文化史 ARE233M 久木 尚志	1学期 2年	2	2	341
	環大西洋の社会史 HIS230M 寺田 由美	2学期 2年	2	2	342
	スペイン文化論 ARE242M 富田 広樹	1学期 2年	2	2	343
	イスパニア地域論 ARE243M 富田 広樹	2学期 2年	2	2	344
	ロシア歴史文化論 HIS231M 太田 丈太郎	1学期 2年	2	2	345
	ユーラシアの多文化世界 ARE265M 芳之内 雄二	2学期 2年	2	2	346
	社会言語学 LIN310M 平野 圭子	2学期 2年	2	2	347
■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文１ ENG171M アンデリュー・ジッツマン	1学期 1年（１－ａ）	1	1	348
	英会話・英作文１ ENG171M アンデリュー・ジッツマン	1学期 1年（１－ｂ）	1	1	349
	英会話・英作文１ ENG171M ホセ・クルーズ	1学期 1年（１－ｃ）	1	1	350
	英会話・英作文１ ENG171M ポール・ガラフ・スティール	1学期 1年（１－ｄ）	1	1	351
	英会話・英作文１ ENG171M ポール・ガラフ・スティール	1学期 1年（１－ｅ）	1	1	352
	英会話・英作文１ ENG171M アンデリュー・ジッツマン	1学期 1年（１－ｆ）	1	1	353

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文１ ENG171M ホセ・クルーズ	1学期	1	1	１年（１－ｇ）	354
	英会話・英作文１ ENG171M ホセ・クルーズ	1学期	1	1	１年（１－ｈ）	355
	英会話・英作文２ ENG172M アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	１年（１－ａ）	356
	英会話・英作文２ ENG172M アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	１年（１－ｂ）	357
	英会話・英作文２ ENG172M ホセ・クルーズ	2学期	1	1	１年（１－ｃ）	358
	英会話・英作文２ ENG172M ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	１年（１－ｄ）	359
	英会話・英作文２ ENG172M ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	１年（１－ｅ）	360
	英会話・英作文２ ENG172M アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	１年（１－ｆ）	361
	英会話・英作文２ ENG172M ホセ・クルーズ	2学期	1	1	１年（１－ｇ）	362
	英会話・英作文２ ENG172M ホセ・クルーズ	2学期	1	1	１年（１－ｈ）	363
	英会話・英作文３ ENG271M ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	２年（２－ａ）	364
	英会話・英作文３ ENG271M クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	２年（２－ｂ）	365
	英会話・英作文３ ENG271M ホセ・クルーズ	1学期	2	1	２年（２－ｃ）	366
	英会話・英作文３ ENG271M ホセ・クルーズ	1学期	2	1	２年（２－ｄ）	367
	英会話・英作文３ ENG271M ドローキス　ダニエル	1学期	2	1	２年（ＡＥＳ１）	368

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文３ ENG271M クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	２年（ＡＥＳ２）	369
	英会話・英作文４ ENG272M ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	２年（２－ａ）	370
	英会話・英作文４ ENG272M クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	２年（２－ｂ）	371
	英会話・英作文４ ENG272M ホセ・クルーズ	2学期	2	1	２年（２－ｃ）	372
	英会話・英作文４ ENG272M ホセ・クルーズ	2学期	2	1	２年（２－ｄ）	373
	英会話・英作文４ ENG272M ドローキス　ダニエル	2学期	2	1	２年（ＡＥＳ１）	374
	英会話・英作文４ ENG272M クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	２年（ＡＥＳ２）	375
	英会話・英作文５ ENG273M ドローキス　ダニエル	1学期	2	1	２年（ＡＥＳ１）	376
	英会話・英作文５ ENG273M クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	２年（ＡＥＳ２）	377
	英会話・英作文６ ENG274M ドローキス　ダニエル	2学期	2	1	２年（ＡＥＳ１）	378
	英会話・英作文６ ENG274M クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	２年（ＡＥＳ２）	379
	英会話・英作文７ ENG371M 三宅　啓子	1学期	3	1	３年	380
	英会話・英作文７ ENG371M ホセ・クルーズ	1学期	3	1	３年	381
	英会話・英作文７ ENG371M ポール・ガラフ・スティール	1学期	3	1	３年	382
	英会話・英作文７ ENG371M クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	３年（ＡＥＳ）	383

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文８ ENG372M 三宅　啓子	2学期	3	1	３年	384
	英会話・英作文８ ENG372M ホセ・クルーズ	2学期	3	1	３年	385
	英会話・英作文８ ENG372M ポール・ガラフ・スティール	2学期	3	1	３年	386
	英会話・英作文８ ENG372M クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	３年（ＡＥＳ）	387
	英会話・英作文９ ENG373M アンデリュー・ジッツマン	1学期	4	1	４年	388
	英会話・英作文１０ ENG374M アンデリュー・ジッツマン	2学期	4	1	４年	389
	アメリカ文化講読 ARE220M 吉津　京平	1学期	1	2	１年（１－２・１－３）	390
	アメリカ文化講読 ARE220M 新村　昭雄	2学期	1	2	１年（１－１）	391
	日本文化文献講読Ａ LIT210M 生住　昌大	1学期	1	2	１年	392
	日本文化文献講読Ｂ LIT211M 堀尾　香代子	2学期	2	2	２年	393
	イギリス文化講読 ARE230M 松隈　達也	1学期	1	2	１年（１－１・１－３）	394
	イギリス文化講読 ARE230M 吉津　京平	2学期	1	2	１年（１－２）	395
	日本文化英文講読 JPS290M 吉津　京平	1学期	1	2	１年（１－１・１－２）	396
	日本文化英文講読 JPS290M 田部井　世志子	2学期	1	2	１年（１－３）	397
	日本文化文献講読Ｃ LIT212M 佐藤　眞人	1学期	2	2	２年	398

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	フランス文化講読 ARE340M 福島　勲	1学期 3年	3	2	399
	ドイツ文化講読 ARE341M 岩本　真理子	2学期 3年	3	2	400
	スペイン文化講読 HIS330M 富田　広樹	2学期 3年	3	2	401
	ロシア文化講読 ARE350M 太田　丈太郎	2学期 3年	3	2	402
	Advanced English I ENG353M ロジャー・ウィリアムソン	1学期 4年	4	2	403
	Advanced English I ENG353M ロジャー・ウィリアムソン	1学期 4年	4	2	404
	Advanced English I ENG353M ロジャー・ウィリアムソン	1学期 4年	4	2	405
	Advanced English I ENG353M ロジャー・ウィリアムソン	1学期 4年	4	2	406
	Advanced English II ENG354M アダム・ヘイルズ	2学期 4年	4	2	407
	Advanced English II ENG354M アダム・ヘイルズ	2学期 4年	4	2	408
	Advanced English II ENG354M アダム・ヘイルズ	2学期 4年	4	2	409
	Advanced English II ENG354M アダム・ヘイルズ	2学期 4年	4	2	410
■演習・卒論科目	演習A-1 SEM311M 生住　昌大	1学期 3年	3	2	411
	演習A-1 SEM311M 岩本　真理子	1学期 3年	3	2	412
	演習A-1 SEM311M 河内　重雄	1学期 3年	3	2	413

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■演習・ 卒論科目	演習Ａ-１ SEM311M 佐藤 眞人	1学期 ３年	3	2	414
	演習Ａ-１ SEM311M 五月女 晴恵	1学期 ３年	3	2	415
	演習Ａ-１ SEM311M 高山 智樹	1学期 ３年	3	2	416
	演習Ａ-１ SEM311M 田部井 世志子	1学期 ３年	3	2	417
	演習Ａ-１ SEM311M 寺田 由美	1学期 ３年	3	2	418
	演習Ａ-１ SEM311M 鄧 紅	1学期 ３年	3	2	419
	演習Ａ-１ SEM311M 富田 広樹	1学期 ３年	3	2	420
	演習Ａ-１ SEM311M 福島 勲	1学期 ３年	3	2	421
	演習Ａ-１ SEM311M 堀尾 香代子	1学期 ３年	3	2	422
	演習Ａ-１ SEM311M 前田 譲治	1学期 ３年	3	2	423
	演習Ａ-１ SEM311M 真鍋 昌賢	1学期 ３年	3	2	424
	演習Ａ-１ SEM311M 八百 啓介	1学期 ３年	3	2	425
	演習Ａ-１ SEM311M 山口 裕子	1学期 ３年	3	2	426
	演習Ａ-１ SEM311M 渡瀬 淳子	1学期 ３年	3	2	427
	演習Ａ-１ SEM311M 小林 浩明	1学期 ３年	3	2	428

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習Ａ-１ SEM311M 門田　彩	1学期 ３年	3	2	429
	演習Ａ-２ SEM312M 生住　昌大	2学期 ３年	3	2	430
	演習Ａ-２ SEM312M 岩本　真理子	2学期 ３年	3	2	431
	演習Ａ-２ SEM312M 河内　重雄	2学期 ３年	3	2	432
	演習Ａ-２ SEM312M 佐藤 眞人	2学期 ３年	3	2	433
	演習Ａ-２ SEM312M 五月女　晴恵	2学期 ３年	3	2	434
	演習Ａ-２ SEM312M 高山　智樹	2学期 ３年	3	2	435
	演習Ａ-２ SEM312M 田部井 世志子	2学期 ３年	3	2	436
	演習Ａ-２ SEM312M 寺田 由美	2学期 ３年	3	2	437
	演習Ａ-２ SEM312M 鄧　紅	2学期 ３年	3	2	438
	演習Ａ-２ SEM312M 富田　広樹	2学期 ３年	3	2	439
	演習Ａ-２ SEM312M 福島　勲	2学期 ３年	3	2	440
	演習Ａ-２ SEM312M 堀尾　香代子	2学期 ３年	3	2	441
	演習Ａ-２ SEM312M 前田 譲治	2学期 ３年	3	2	442
	演習Ａ-２ SEM312M 真鍋　昌賢	2学期 ３年	3	2	443

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■演習・ 卒論科目	演習Ａ-２ SEM312M 八百 啓介	2学期 ３年	3	2	444
	演習Ａ-２ SEM312M 山口 裕子	2学期 ３年	3	2	445
	演習Ａ-２ SEM312M 渡瀬 淳子	2学期 ３年	3	2	446
	演習Ａ-２ SEM312M 小林 浩明	2学期 ３年	3	2	447
	演習Ａ-２ SEM312M 門田 彩	2学期 ３年	3	2	448
	演習Ｂ-１ SEM313M 生住 昌大	1学期 ４年	4	2	449
	演習Ｂ-１ SEM313M 岩本 真理子	1学期 ４年	4	2	450
	演習Ｂ-１ SEM313M 河内 重雄	1学期 ４年	4	2	451
	演習Ｂ-１ SEM313M 佐藤 眞人	1学期 ４年	4	2	452
	演習Ｂ-１ SEM313M 五月女 晴恵	1学期 ４年	4	2	453
	演習Ｂ-１ SEM313M 髙山 智樹	1学期 ４年	4	2	454
	演習Ｂ-１ SEM313M 田部井 世志子	1学期 ４年	4	2	455
	演習Ｂ-１ SEM313M 寺田 由美	1学期 ４年	4	2	456
	演習Ｂ-１ SEM313M 鄧 紅	1学期 ４年	4	2	457
	演習Ｂ-１ SEM313M 富田 広樹	1学期 ４年	4	2	458

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■演習・ 卒論科目	演習Ｂ-１ SEM313M 福島　勲	1学期 ４年	4	2	459
	演習Ｂ-１ SEM313M 堀尾　香代子	1学期 ４年	4	2	460
	演習Ｂ-１ SEM313M 前田 譲治	1学期 ４年	4	2	461
	演習Ｂ-１ SEM313M 真鍋　昌賢	1学期 ４年	4	2	462
	演習Ｂ-１ SEM313M 八百 啓介	1学期 ４年	4	2	463
	演習Ｂ-１ SEM313M 山口　裕子	1学期 ４年	4	2	464
	演習Ｂ-１ SEM313M 渡瀬　淳子	1学期 ４年	4	2	465
	演習Ｂ-１ SEM313M 小林　浩明	1学期 ４年	4	2	466
	演習Ｂ-２ SEM314M 生住　昌大	2学期 ４年	4	2	467
	演習Ｂ-２ SEM314M 岩本　真理子	2学期 ４年	4	2	468
	演習Ｂ-２ SEM314M 河内　重雄	2学期 ４年	4	2	469
	演習Ｂ-２ SEM314M 佐藤 眞人	2学期 ４年	4	2	470
	演習Ｂ-２ SEM314M 五月女　晴恵	2学期 ４年	4	2	471
	演習Ｂ-２ SEM314M 高山　智樹	2学期 ４年	4	2	472
	演習Ｂ-２ SEM314M 田部井 世志子	2学期 ４年	4	2	473

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習Ｂ-２ SEM314M 寺田 由美	2学期 ４年	4	2	474
	演習Ｂ-２ SEM314M 鄧 紅	2学期 ４年	4	2	475
	演習Ｂ-２ SEM314M 富田 広樹	2学期 ４年	4	2	476
	演習Ｂ-２ SEM314M 福島 勲	2学期 ４年	4	2	477
	演習Ｂ-２ SEM314M 堀尾 香代子	2学期 ４年	4	2	478
	演習Ｂ-２ SEM314M 前田 譲治	2学期 ４年	4	2	479
	演習Ｂ-２ SEM314M 真鍋 昌賢	2学期 ４年	4	2	480
	演習Ｂ-２ SEM314M 八百 啓介	2学期 ４年	4	2	481
	演習Ｂ-２ SEM314M 山口 裕子	2学期 ４年	4	2	482
	演習Ｂ-２ SEM314M 渡瀬 淳子	2学期 ４年	4	2	483
	演習Ｂ-２ SEM314M 小林 浩明	2学期 ４年	4	2	484
■専門基礎教育科目 ■入門科目	比較文化入門１（日本） SEM111M 佐藤 眞人	1学期 １年	1	2	485
	比較文化入門２（欧米） SEM112M 高山 智樹	2学期 １年	1	2	486
■概論科目	欧米文化概論 ARE161M 高山 智樹 他	2学期 １年	1	2	487
	比較文学概論 LIT100M 谷口 秀子	集中 １年	1	2	488

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■専門基礎教育科目 ■概論科目	日本文化概論 JPS110M 河内　重雄	1学期 1年	1	2	489
	文化交流史 HIS100M 八百 啓介	2学期 1年	1	2	490
	世界の文化遺産 ARE190M 山口　裕子 他	1学期 1年	1	2	491
	比較文化概論 ARE160M 高山　智樹　他	2学期 1年	1	2	492
	メディア文化概論 MCC110M 真鍋　昌賢	1学期 1年	1	2	493
■自由科目	書道 MCC220M 大森　アユミ	1学期（ペア） 2年	2	2	494
	第二言語習得論 LIN241M 小林　浩明	2学期 2年	2	2	495
	日本語教育カリキュラム論 LIN340M 家根橋　伸子	1学期 3年	3	2	496
	日本語教授法 LIN341M 小林　浩明	2学期 3年	3	2	497
	異文化間教育 LIN342M 矢野　花織	1学期 3年	3	2	498
	日本語教育方法論 LIN343M 清水　順子	2学期 3年	3	2	499
	日本語教育実習 LIN380M 小林　浩明	1学期 4年	4	1	500
	日本語教育実習 LIN380M 小林　浩明	2学期 4年	4	1	501
	生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期 2年	2	2	502
	博物館概論 MUS200M 門田　彩	1学期 2年	2	2	503

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■自由科目	博物館経営論 MUS210M 永尾　正剛	2学期 2年	2	2	504
	博物館情報・メディア論 MUS212M 那須　孝幸	2学期 2年	2	2	505
	博物館展示論 MUS213M 門田・北九州市立文学館・北九州市漫画ミュージアム	2学期 2年	2	2	506
	博物館資料保存論 MUS214M 渡抜 由季	2学期 2年	2	2	507
	博物館教育論 MUS215M 岩本　史緒	1学期 2年	2	2	508
	博物館資料論 MUS211M 門田　彩	1学期 2年	2	2	509
	博物館実習I MUS280M 野井･門田　他	2学期（ペア） 3年	3	2	510
	博物館実習II MUS380M 野井・門田　他	1学期（ペア） 4年	4	1	511
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期 1年	1	2	512
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	2学期 1年	1	2	513
	発達心理学 PSY222M 税田　慶昭	1学期 2年	2	2	514
	教育制度論 EDU227M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	515
	教育課程論 EDU360M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	516
	英語科教育法A EDU250C 休講	1学期 3年	3	2	
	英語科教育法A EDU250C 森　千鶴	1学期 3年	3	2	517

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法Ｂ EDU251C 休講	2学期 3年	3	2	
	英語科教育法Ｂ EDU251C 森　千鶴	2学期 3年	3	2	518
	英語科教育法Ｃ EDU252C 雪丸　尚美	1学期 3年	3	2	519
	英語科教育法Ｄ EDU253C 雪丸　尚美	2学期 3年	3	2	520
	国語科教育法Ａ EDU230C 休講	1学期 3年	3	2	
	国語科教育法Ｂ EDU231C 休講	2学期 3年	3	2	
	国語科教育法Ｃ EDU232C 坂東　智子	1学期 3年	3	2	521
	国語科教育法Ｄ EDU233C 坂東　智子	2学期 3年	3	2	522
	道徳教育指導論 EDU262M 田中　友佳子	2学期 2年	2	2	523
	特別活動論 EDU263M 楠　凡之	1学期 2年	2	2	524
	教育方法学 EDU260M 下地　貴樹	1学期 2年	2	2	525
	生徒・進路指導論 EDU261M 楠　凡之	2学期 2年	2	2	526
	教育相談 EDU264M 楠　凡之	1学期 2年	2	2	527
	教育実習１ EDU380C 楠　凡之　他	2学期 3年	3	2	528
	教育実習２ EDU480C 恒吉　紀寿　他	1学期 4年	4	2	529

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習３ EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期 ４年	4	2	530
	教職実践演習（中・高） EDU490C 休講	2学期 ４年	4	2	
■選択科目	教育心理学 PSY220M 下地 貴樹	2学期 ２年	2	2	531
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田 慶昭	2学期 ２年	2	2	532
	教育社会学 EDU225M 作田 誠一郎	集中 ２年	2	2	533
	人権教育論 EDU228M 弓野 勝族	1学期 ２年	2	2	534
	教育工学 EDU265M 休講	2学期 ２年	2	2	

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 休講	2学期	1	2	1年	
	異文化理解の基礎 ANT110F 休講	1学期	1	2	1年	
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	1年	535
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	1年	536
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	1年	537
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	1年	538
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	1年	539
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	1年	540
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	1年	541
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 二宮 正人	1学期	1	2	1年	
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	1年	542
	現代人のこころ PSY003F 休講	1学期	1	2	1年	
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期	1	2	1年	
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	1年	543
	文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2	1年	

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	1年	
	民主主義とは何か PLS002F 中道　壽一	1学期	1	2	1年	544
	人権論 SOC004F 柳井　美枝	1学期	1	2	1年	545
	ジェンダー論 GEN001F 力武　由美	1学期	1	2	1年	546
	障がい学 SOW001F 休講	2学期	1	2	1年	
	社会調査 SOC003F 稲月　正	2学期	1	2	1年	547
	市民活動論 RDE001F 西田　心平	2学期	1	2	1年	548
	企業と社会 BUS001F 山下　剛	1学期	1	2	1年	549
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2	1年	
	現代の国際情勢 IRL003F 尹 明憲　他	1学期	1	2	1年	550
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之　他	2学期	1	2	1年	551
	グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	1年	
	国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期	1	2	1年	552
	国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	1年	
	歴史の読み方I HIS004F 赤司　友徳	1学期	1	2	1年	553

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方II HIS005F 休講	1学期 1年	1	2	
	そのとき世界は HIS002F 伊野 憲治	2学期 1年	1	2	554
	人物と時代の歴史 HIS001F 山﨑 勇治 他	1学期 1年	1	2	555
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 休講	2学期 1年	1	2	
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期 1年	1	2	556
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期 1年	1	2	
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 休講	1学期 1年	1	2	
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 山本 浩二	2学期 1年	1	2	557
	フィジカル･エクササイズI（バドミントン） HSS081F 徳永 政夫	1学期 1年	1	1	558
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 休講	2学期 1年	1	1	
■情報教育科目	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	2学期 1学期未修得者再履	1	2	559
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期 2年	2	2	560
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化（領域系）科目	比較社会意識 SOC210M 休講	2学期 2年	2	2	
	比較社会文化 SOC211M 休講	1学期 2年	2	2	
■自由科目	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期 2年	2	2	

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期 1年	1	2	561
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	2学期 1年	1	2	562
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期 2年	2	2	563
	教育制度論 EDU227M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	564
	教育課程論 EDU360M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	565
	英語科教育法Ａ EDU250C 森 千鶴	1学期 3年	3	2	566
	英語科教育法Ｂ EDU251C 森 千鶴	2学期 3年	3	2	567
	英語科教育法Ｃ EDU252C 休講	1学期 3年	3	2	
	英語科教育法Ｄ EDU253C 休講	2学期 3年	3	2	
	国語科教育法Ａ EDU230C 休講	1学期 3年	3	2	
	国語科教育法Ｂ EDU231C 休講	2学期 3年	3	2	
	国語科教育法Ｃ EDU232C 休講	1学期 3年	3	2	
	国語科教育法Ｄ EDU233C 休講	2学期 3年	3	2	
	道徳教育指導論 EDU262M 田中 友佳子	2学期 2年	2	2	568
	特別活動論 EDU263M 楠 凡之	1学期 2年	2	2	569

文学部 比較文化学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育方法学 EDU260M 下地　貴樹	1学期 2年	2	2	570
	生徒・進路指導論 EDU261M 楠　凡之	2学期 2年	2	2	571
	教育相談 EDU264M 楠　凡之	1学期 2年	2	2	572
	教育実習１ EDU380C 楠　凡之　他	2学期 3年	3	2	573
	教育実習２ EDU480C 恒吉　紀寿　他	1学期 4年	4	2	574
	教育実習３ EDU481C 恒吉　紀寿　他	1学期 4年	4	2	575
	教職実践演習（中・高） EDU490C 楠　凡之　他	2学期 4年	4	2	576
■選択科目	教育心理学 PSY220M 田島　司	2学期 2年	2	2	577
	障害児の心理と指導 PSY223M 休講	2学期 2年	2	2	
	教育社会学 EDU225M 休講	1学期 2年	2	2	
	人権教育論 EDU228M 弓野　勝族	1学期 2年	2	2	578
	教育工学 EDU265M 大塚　一徳	2学期 2年	2	2	579

ことばの科学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原　朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津　由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田　直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　序(1)：ことばの不思議
第2回　序(2)：ことばの習得
第3回　ことばの単位(1)：音韻
第4回　連濁
第5回　鼻濁音
第6回　ことばの単位(2)：語
第7回　語の基本：なりたち・構造・意味
第8回　語の文法：複合語・短縮語・新語
第9回　ことばの単位(3)：文
第10回　動詞の自他
第11回　日本語と英語の受動態
第12回　数量詞
第13回　時制と相：方言比較
第14回　ことばと脳：言語野と他の領域
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度…10%　課題…30%　期末試験…60%

ことばの科学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際学入門 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		

国際学入門	IRL100F

授業の概要　/Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく２本の柱が必要となる。すなわち、①グローバライゼイションのすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバライゼイション】【多様化】
第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
第11回：「地域研究」の技法。【フィールド･ワーク】
第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
第14回：まとめ
第15回：質問

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜指示する。

国際学入門 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活世界の哲学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
○ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
○ホルクハイマー / アドルノ『啓蒙の弁証法––哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
○ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
○ハンナ・アレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　近代とは何か【概説】
３回　近代の勃興【ガリレイと科学革命】
４回　生活世界の概念（１）【フッサールの科学批判】
５回　生活世界の概念（２）【ハイデガーの世界論】
６回　生活世界の変容（１）【近代産業社会】
７回　生活世界の変容（２）【戦争の美学】
８回　確認テスト
９回　生活世界の変容（３）【政治の美学】
１０回　生活世界の変容（４）【ホロコースト】
１１回　生活世界の変容（５）【全体主義と思考能力】
１２回　生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
１３回　古代世界の公共空間（１）【古代文明と戦争】
１４回　古代世界の公共空間（２）【アテナイ民主政】
１５回　古代世界の公共空間（３）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…40%　　学期末試験…60%
（第８回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。）

生活世界の哲学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード　/Keywords

科学技術　生活世界　活動　ポリス

日本の防衛 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促し

本年度は特に「平和安全法制」について力点を入れて解説する。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識･理解の獲得、②課題発見･分析･解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　安全保障と防衛(1)
　安全保障を学ぶことの重要性、
第3回　安全保障と防衛(2)
　安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
第4回　安全保障と防衛(2)
　脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
第5回　日本の安全保障(1)
　安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
第6回　日本の安全保障(2)
　安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献)
第7回　日本の防衛(1)
　防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
第8回　日本の防衛(2)
　海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
第9回　日本の防衛(3)
　平和安全法制の概要
第10回　日本の防衛(4)
　平和安全法制の論点
第11回　日本の脅威(1)
　北朝鮮の脅威①　兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
第12回　日本の脅威(2)
　北朝鮮の脅威②　弾道ミサイル及び大量破壊兵器
第13回　日本の脅威(3)
　中国海空軍の脅威①　中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
第14回　日本の脅威(4)
　中国海空軍の脅威②　中国軍の戦略と行動
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてくだい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命と環境 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）903円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（日高・中尾）
２回　自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）　【物質の単位】【自然科学】
３回　自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）　【元素】【原子】【超新星爆発】
４回　自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）　【DNA】【タンパク質】
５回　生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）　【種】【学名】【系統樹】
６回　生物の多様性（２）単細胞生物と多細胞生物（日高）　【細胞膜】【共生説】
７回　生物の多様性（３）生態系と進化（日高）　【食物連鎖】【絶滅】【進化】
８回　遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）　【突然変異】【遺伝学】
９回　遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）　【有性生殖】【減数分裂】
１０回　遺伝子の多様性（３）多様な生命の紹介（外部講師）
１１回　科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）　【血液型】【星座】
１２回　科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）　【太陽活動】【地球温暖化問題】
１３回　科学的な方法とは（３）人類の起源を調べるには（日高）【ミトコンドリア】
１４回　関連ビデオ鑑賞（日高）
１５回　質疑応答とまとめ（日高）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題４０％、期末テスト６０％

生命と環境 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
・ ２学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

情報社会への招待 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，情報社会を総合的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎として，変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの １【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの ２【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウエア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウェア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

情報社会への招待 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 75%
日常の授業への取り組み … 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って，授業の資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，授業中に配布した課題プリントを持ち帰って，次回の授業時に提出したり，北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第9回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第10回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第11回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第13回　復習
第14回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第15回　総括　- おわりに -

成績評価の方法　/Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

現代社会と文化 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と文化	ANT210F

授業の概要　/Course Description

グローバルな現代世界において,異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身ににつけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。しかし、授業中に指示した資料に目を通し、以下の参考文献を含め関連する文献は、図書館などを活用して、各人の興味にあわせて読んでおくこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
○浮ケ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
○太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
○陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
○本多俊和ほか2011『グローバリゼーションの人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：授業の説明　/ 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部　現代社会において異文化を理解するということ
第2回　文化を「知る」とはどういうことか？
第3回　ナショナリズムと文化
第4回　「未開の人々」へのエキゾチズム
第5回　植民地主義と文化
第6回　先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義
第7回　多文化主義の可能性と限界
第8回　分類の不明瞭さ①：国籍・人種
第9回　分類の不明瞭さ②：移動する人々
第10回　中間テスト

第II部　文化の違いを超えて？
第11回　近代・ポスト近代という時代の認識と文化
第12回　身体の近代化
第13回　中間テストの解説
第14回　普遍的な医療と普遍的でない身体
第15回　癒しの多様性　/　講義全体の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト40%、期末テスト60%
そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
・高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
・講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
・中間テストの無断欠席者（または代替課題の未提出者）、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。ただし、自分で情報を集め、吟味する能力は問われます。講義で自分が学んだことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとする意識が大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
・「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生、および「異文化理解の基礎」（昨年度開講、本年度開講なし）を受講済みの学生は理解が深まると思います。

キーワード　/Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor	漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝　幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	1学期	講義	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

言語と認知	LIN210F

授業の概要　/Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書　/Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

第1回　序（漆原・全員）
第2回　眼はどのように動いているか、それをどう測定するか（中溝）
第3回　文を読むとき、眼はどのように動いているのか（中溝）
第4回　言語活動時、脳のどこが働いているか（中溝）
第5回　ことばはどのように身につけられるのか（言語習得）（漆原）
第6回　ことばはどのように失われるのか（失語症・失文法）（漆原）
第7回　脳と心のなりたち（脳のはたらきを支配する遺伝子）（日高）
第8回　ことばはなぜヒトに特有なのか（言語と遺伝子）（日高）
第9回　特別講義（外部講師）：2016年度実績　東京大学教授　大堀　壽夫氏
第10回　文の形と意味をつなぐもの（文法形式と意味の類像性）（杉山）
第11回　左右の区別がなかったら（ことばと思考・言語相対論）（杉山）
第12回　概念と言葉（概念におけるプロトタイプ効果など）（ストラック）
第13回　隠喩とは何か（隠喩論）（ストラック）
第14回　詩とほのめかし（アイコン性、phonaesthemesなど）（ストラック）
第15回　まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション（全員）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　20%　　レポート　16% x 5 = 80%
（すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。）

言語と認知 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
＊「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共生社会論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		

共生社会論	SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
第8回：自閉症とは【自閉症】
第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

共生社会論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共同体と身体 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

共同体と身体	PHR210F

授業の概要　/Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　日本的身体の哲学
３回　日本的身体のイメージ
４回　古代ギリシャの身体観１【プラトン】
５回　古代ギリシャの身体観２【ソポクレス】
６回　古代ギリシャの身体観３【通時的概観】
７回　キリスト的共同体の身体
８回　近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
９回　身体・家族・社会１【精神分析的アプローチ】
１０回　身体・家族・社会２【脳科学的アプローチ】
１１回　身体・家族・社会３【シュレーバー症例】
１２回　身体・家族・社会４【差別される身体】
１３回　身体の社会的統制１【政治と規律】
１４回　身体の社会的統制２【統制される身体】
１５回　身体の社会的統制３【処罰される身体】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末テスト…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業で扱われる内容は、１年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

共同体と身体 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気･ 就活･ 実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード　/Keywords

心身二元論　身体像　精神病理　規律と監視

戦争論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

戦争論	PLS210F

授業の概要　/Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書　/Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
第３回　ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
第４回　戦争概論～戦争の定義
第５回　戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
第６回　戦争の経歴(2)革命戦争
第７回　戦争の経歴(3)近代戦争
第８回　両大戦の特徴(1)総力化
第９回　両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
第10回　日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
第11回　核兵器の構造
第12回　核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
第13回　核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
第14回　核兵器の役割（抑止概念、抑止条件、相互確証破壊）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくと、さらに深く理解できる。

戦争論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命科学と社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命科学と社会	BIO200F

授業の概要　/Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、（１）生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、（２）DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、（３）食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、（４）遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　生命科学の基礎（１）遺伝子の概念　【DNA二重らせん】
３回　生命科学の基礎（２）生命活動の実行役　【タンパク質】
４回　生命科学の基礎（３）ゲノム　【ヒトゲノム計画】
５回　DNAでわかること（１）遺伝と疾患　【メンデル遺伝】
６回　DNAでわかること（２）個性と体質　【遺伝子検査】
７回　DNAでわかること（３）DNA鑑定　【多型】
８回　安心・安全とは（１）食品と医薬品　【健康食品】
９回　安心・安全とは（２）遺伝子組換え作物　【カルタヘナ法】
１０回　安心・安全とは（３）人体と放射線（外部講師）【確率的影響】【がん】
１１回　生命の倫理（１）モデル生物（外部講師）【動物愛護】
１２回　生命の倫理（２）ES細胞とiPS細胞　【再生医療】
１３回　生命の倫理（３）ゲノム編集　【遺伝子操作】
１４回　関連ビデオ鑑賞
１５回　質疑応答・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題　４０％
期末テスト　６０％

生命科学と社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleにより提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。基礎部分をより体系的に学びたい者は２学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

情報社会を読む 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会を読む	INF200F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

●情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
●最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
●未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
●未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　身の回りにあるICTと情報社会　【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
２回　位置情報を利用したサービス　【ジオメディア】【GPS】
３回　演習１：位置情報を利用した未来のサービスを読む
４回　ソーシャルメディアがもたらすコミュニケーションの変化と集合知　【SNS】【ミニブログ】
５回　ソーシャルメディアを利用したビジネスモデル　【ソーシャルコマース】
６回　演習２：ソーシャルメディアを利用した未来のサービスを読む
７回　コンピュータは持ち歩くから着る時代へ　【ウェアラブルコンピュータ】
８回　近未来の入力装置　【モーション操作】
９回　演習３：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
１０回　カメラは何を認識できるか　【画像処理】【画像認識】
１１回　個人を特定できるコンピュータとその危険性　【顔画像認証】
１２回　画像認識はどこまで人間に近づけるか【画像認識】【機械学習】
１３回　演習４：画像認識を利用した未来のサービスを読む
１４回　人間の社会生活に入ってきた自律型ロボット【人工知能】【技術的特異点】
１５回　自律型ロボットが人間社会に及ぼす影響について【雇用問題】【道徳】【法整備】

情報社会を読む 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・　５０％、授業中に実施するグループワーク課題・・・　４０％、レポート・・・　１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、授業内容を反復すること。
事前課題を北方Moodleで提供することがあるので、参照して学んでおくこと。
授業時間外では、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくと、課題に取り組みやすくなる。

履修上の注意　/Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイディアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。
また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード　/Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地域資源管理論	ENV200F

授業の概要　/Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。
本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。
①漁業権（漁業法）・ 草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。
②地域資源を有効に活用する手法　- フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -
③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約　ー滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟についてー

上記の事例を、いくつかの紛争事例・ 裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○鈴木龍也, 富野暉一郎編著（２００６）『コモンズ論再考』晃洋書房
角谷 嘉則著（２００９）『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社
神谷由紀子編著（２０１４）『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　地域資源の考え方
第3回　行き過ぎた市場主義経済の弊害
第4回　生業とは何か？
第5回　適応した共助の仕組み
第6回　静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み①　- 日本の伝統的な茅資源の利用方法についてー
第7回　静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み②　- 株式会社制度を利用した現代的地域資源の共同管理システムー
第8回　地域資源の過少利用問題を超えて
第9回　地域資源を活用したまちづくりの実践　- フットパスとは何か？ -
第10回　外部講師の講演　「フットパスはどうやって創るのか？」
第11回　フットパスのまとめ
第12回　地域資源としての都市環境　- 景観問題の観点から -
第13回　都市の特徴と管理組織
第14回　総括と復習
第15回　おわりに

地域資源管理論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

最終試験：１００％（持ち込み不可）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、最終試験の一発で決定する。
また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話（判例）や法律の話に言及する機会が多々ある。
平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。
そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクレーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。
尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクレーション種目」なども多数実践していきます。

教科書　/Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　グループデイスカッション（１）
２回　グループデイスカッション（２）
３回　グループデイスカッション（３）
４回　グループゲーム　（１）
５回　グループゲーム　（２）
６回　自分自身を理解する
７回　自分自身を人に理解させること
８回　野外活動とは？
９回　キャンプ実習についての講義（１）安全性と有効性
１０回　キャンプ実習についての講義（２）野外炊飯
１１回　キャンプ実習についての講義（３）テント設営
１２回　キャンプ実習の実施（１）
１３回　キャンプ実習の実施（２）
１４回　キャンプ実習の実施（３）
１５回　キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け）　…８０％　　レポート　…２０％
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習は別途実習費（約４０００円）かかりますので注意してください。
キャンプ実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○中根千枝『タテ社会の人間関係––単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
○中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養基礎演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第１回目の授業に出席する必要があります。
本基礎演習に履修登録済みの場合（２年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している４年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については７月初頭に提示する予定）。この授業は２年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。
（１）社会学的なものの見方・考え方
（２）文献資料の調べ方
（３）質的社会調査の考え方とやり方
（４）レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は15人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書　/Textbooks

『知的複眼思考法』、苅谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業内容の紹介
第２回　創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』（１）
第３回　考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』（２）
第４回　問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』（３）
第５回　複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』（４）
第６回　自分の「問い」をたてる
第７回　情報を集める（１）- 図書館の利用
第８回　情報を集める（２）- Webサイトの利用
第９回　情報をまとめる（１）- ブレーンストーミング
第10回　情報をまとめる（２）- KJ法
第11回　自らの問いと方法を明確にする
第12回　質的社会調査の考え方
第13回　フィールドワーク
第14回　アクティブ・インタビュー
第15回　調査倫理について

教養基礎演習I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…４０％　　レポート…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題を出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論 等を含めること（レジュメの作成方法については授業中に説明する）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅰ	GES101F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に３回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度…５０％　レポート…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

教養基礎演習I（防衛セミナー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼンカを身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社（2015年）
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認（１）【酵素】【代謝】
３回　基本的事項の確認（２）【遺伝子】【DNA】
４回　基本的事項の確認（３）　テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備（１）
６回　グループによるプレゼンテーションの準備（２）
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション（１）
１２回　個人によるプレゼンテーション（２）
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書　/Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方–』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
第3回：環境問題についての考え方について
第4回：テキストの輪読①
第5回：テキストの輪読②
第6回：テキストの輪読③
第7回：テキストの輪読④
第8回：テキストの輪読⑤
第9回：テキストの輪読⑥
第10回：テキストの輪読⑦
第11回：テキストの輪読⑧
第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
第13回：プレ・レポート報告会
第14回：プレ・レポート報告会
第15回：プレ・レポート報告会＋まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

大学における学習方法、レジュメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習I（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書　/Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：発達障がいの世界１（発達障がいとは）
第３回：発達障がいの世界2（自閉症理解の歴史）
第４回：発達障がいの世界3（支援法の基礎）
第５回：発達障がいの世界４（応用行動分析学的アプローチ）
第６回：発達障がいの世界５（ＴＥＡＣＣＨプログラム的アプローチ）
第７回：発達障がいの世界６（構造化）
第８回：発達障がいの世界７（コミュニケーション指導法）
第９回：発達障がいの世界８（行動問題への対応）
第１０回：資料輪読、ディスカッション。
第１１回：資料輪読、ディスカッション。
第１２回：資料輪読、ディスカッション。
第１３回：資料輪読、ディスカッション。
第１４回：資料輪読、ディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容５０％
議論への参加度５０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意　/Remarks

教養基礎演習I（発達障がいセミナー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。
そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクレーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。
本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書　/Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　自分自身を理解すること（１）
３回　自分自身を理解すること（２）
４回　自分自身を人に理解させること（１）
５回　自分自身を人に理解させること（２）
６回　人を理解すること（１）
７回　人を理解すること（２）
８回　スキー実習についての講義（１）（場所の選定）
９回　スキー実習についての講義（２）（スキーの安全性）
１０回　スキー実習についての講義（３）（スキー技術）
１１回　スキー実習についての講義（４）（スキー実習について）
１２回　スキー実習の実施（１）
１３回　スキー実習の実施（２）
１４回　スキー実習の実施（３）
１５回　スキー実習の実施（４）

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務付け）　…　８０％　　レポート　…２０％
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター, 小林　敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

地域経済の活性化策としてどの地域も力を入れている観光振興。
本授業では、民間事業者や行政の様々な取組みや観光産業の現状、その他今後の方向性等を学習することによって、地域社会への貢献および観光振興に資する人材の育成を目指すことを目的とする。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

北九州市観光情報ファイル『彩遊季』

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス (オリエンテーション)
第2回：北九州市の観光について
第3回：北九州市の歴史・ 文化1　門司
第4回：北九州市の歴史・ 文化2　小倉
第5回：北九州市の歴史・ 文化3　若戸
第6回：北九州市の歴史・ 文化4　八幡
第7回：北九州市と文学
第8回：北九州の観光素材1　世界遺産・ 近代化遺産
第9回：北九州の観光素材2　産業観光・ 工場夜景
第10回：北九州の観光素材3　北九州フィルムコミッション
第11回：企業と観光
第12回：観光案内ボランティア1
第13回：観光案内ボランティア2
第14回：観光案内ボランティア3
第15回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業の貢献度：40%
・ 理解度確認テスト：30%
・ レポート：30%

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に各回の詳細テーマを提示しますので、事前にテーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、北九州の観光資源や制度、取組みについて復習し、考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

横断的学習を行うに当たり、グループディスカションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義は北九州市観光協会提供の講義です。近代化遺産や産業観光などの観光振興の推進に力を入れている北九州市の現状について学んでいただきます。将来旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域活性化などに興味がある人には最適です。

キーワード　/Keywords

観光振興、人材育成、地域活動、横断的学習

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については１２月後半に提示する予定）。この授業は、２年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

社会学的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

（１）「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
・質的調査と量的調査の違いを理解する。
・インタビューをするためには、どのようなことが必要なのかを学ぶ。
・調査倫理について理解する。

（２）インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
・資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書　/Textbooks

なし（適宜、資料を配付する。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房
○谷富夫編,2008,『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』,世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「問い」をたてる
第３回　論証戦略を立てる（方法を考える）
第４回　情報を集める - 北九大図書館
第５回　情報を集める - CiNii、国立国会図書館（NDL-OPAC）、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第６回　質的社会調査の考え方
第７回　フィールドワーク
第８回　インタビュー
第９回　ライフヒストリー分析
第10回　調査の企画
第11回　データの作成から論文の執筆まで
第12回　質的調査の応用
第13回　質的調査と調査倫理
第14回　インタビュー調査
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　課題（レポート）…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題が出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジュメを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード　/Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

レポートの書き方と入門：
　本演習では、「調べ物をしてレポートの書く」ということがよくわからない学生（主として1年生）向けに、レポートの書き方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、比較的最近出版されたとなった文庫や新書を選ぶことが多いです。一般読者を想定して執筆されたテキストを土台として、論点の見つけ方、関連資料の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、より完成度の高いレポートの作成を目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身つけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書　/Textbooks

演習で用いるテキストは第1回目の出席者の興味関心にあわせて、第1回目の演習で決定します。候補は次の2冊です。
『風評被害』（関谷直也・光文社新書）
『民族とネイション』（塩川伸明・岩波新書）
たとえば、欧州難民問題やヨーロッパ社会の右傾化は、日本でも報道されます。これらについて知りたいと思ったとき、単に情報を調べるだけという段階から一歩進むため、問題を理解するための土台として、報道によって作られるイメージの問題（前者）やそもそも民族やナショナリズムとは何か（後者）という議論を扱いたいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか（編）2006　『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
○専修大学出版企画委員会（編）2009『知のツールボックス』 専修大学出版会
○白井利明・高橋一郎　2008　『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：レポートを書くとは？今学期のテキストについての相談
第2回　大学における本の読みかた・探しかた
第３回　読んだ本をどう活用するのか？
第４回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第5回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第6回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第7回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第8回　テーマの見つけかた
第9回　レポート構想報告
第10回　レポート構想報告
第11回　レポート構想報告
第12回　レポート構想報告
第13回　文章を推敲する：レポート相互添削
第14回　文章のブラッシュアップのために
第15回　レポート最終報告会

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%
ただし、報告者の無断欠席や課題未提出者は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・レジュメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などにはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意　/Remarks

・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・毎年この演習は1学期に開講していましたが、今年度は2学期開講で、レポートの書き方に特化したものとします。
・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、書くまでの準備にも時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

キーワード　/Keywords

レポートの書きかた、問題のたてかた、考察のしかた、本の読みかた、議論のしかた

教養基礎演習II（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI（教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI）を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中（8月中下旬～9月上旬）にかけて、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

防衛白書

教養基礎演習II（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認 (１) 【細胞】
３回　基本的事項の確認 (２) 【再生医療】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備 (１)
６回　グループによるプレゼンテーションの準備 (２)
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション (１)
１２回　個人によるプレゼンテーション (２)
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいは１学期までに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命と環境」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書　/Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書）　￥840＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
第3回：テキストの輪読①
第4回：テキストの輪読②
第5回：テキストの輪読③
第6回：テキストの輪読④
第7回：テキストの輪読⑤
第8回：テキストの輪読⑥
第9回：テキストの輪読⑦
第10回：テキストの輪読⑧
第11回：テキストの輪読⑨
第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
第13回：プレ・ レポート報告会
第14回：プレ・ レポート報告会
第15回：プレ・ レポート報告会＋まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度）　50%
期末レポート　50%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。

そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード　/Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習II（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書　/Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：教養基礎演習Iの復習。
第３回：教養基礎演習Iの復習。
第４回：教養基礎演習Iの復習。
第５回：資料を輪読し、ディスカッション。
第６回：資料を輪読し、ディスカッション。
第７回：資料を輪読し、ディスカッション。
第８回：資料を輪読し、ディスカッション。
第９回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１０回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１１回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１２回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１３回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１４回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容50％
議論への参加度50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養基礎演習II（発達障がいセミナー）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

履修上の注意　/Remarks

伊野担当の教養基礎演習I（発達障がいセミナー）を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習AI【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○中根千枝『タテ社会の人間関係––単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
○中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習AI【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第１回目の授業に出席する必要があります。
なお、本演習に履修登録済みの場合（２年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している４年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については７月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習AI 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

AI（１学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。
（１）自らの関心に沿った「問い」の立て方
（２）論証戦略（実証方法の道筋）の設定
（３）情報収集の方法
（４）文献レビューの方法（レジュメの作り方）
（５）論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。
報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

○『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
○『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
○『実証研究の手引き–調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
その他、適宜、紹介する。

教養演習AI【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「テーマ」について考える
第３回　「問い」を立てる
第４回　論証戦略を考える（方法を検討する）
第５回　情報を集める１ - 北九大図書館
第６回　情報を集める２ - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第７回　論文検討会１
第８回　文献レビュー（テキスト批評）１
第９回　文献レビュー（テキスト批評）２
第10回　文献レビュー（テキスト批評）３
第11回　文献レビュー（テキスト批評）４
第12回　文献レビュー（テキスト批評）５
第13回　文献レビュー（テキスト批評）６
第14回　文献レビュー（テキスト批評）７
第15回　論文検討会２

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…40%　レポート…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論等を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習AI（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。
この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に３回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習AI（防衛セミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習AI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼンカを身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社　(2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認（１）【酵素】【代謝】
３回　基本的事項の確認（２）【遺伝子】【DNA】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備（１）
６回　グループによるプレゼンテーションの準備（２）
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後に実施）
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション（１）
１２回　個人によるプレゼンテーション（２）
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習:自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習:授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習AI【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」、「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習AI【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習ＡＩ【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習AI（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書　/Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション。
第2回：教養基礎演習の復習。
第3回：教養基礎演習の復習。
第4回：資料の輪読、ディスカッション。
第5回：資料の輪読、ディスカッション。
第6回：資料の輪読、ディスカッション。
第7回：資料の輪読、ディスカッション。
第8回：資料の輪読、ディスカッション。
第9回：資料の輪読、ディスカッション。
第10回：資料の輪読、ディスカッション。
第11回：資料の輪読、ディスカッション。
第12回：資料の輪読、ディスカッション。
第13回：資料の輪読、ディスカッション。
第14回：資料の輪読、ディスカッション。
第15回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容50％
議論への参加度50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意　/Remarks

伊野担当教養基礎演習（発達障がいセミナー）I、IIを履修済みであることが望ましい。

教養演習AI（発達障がいセミナー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡII 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡII	GES202F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習AII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については１２月後半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習AII 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

AII（２学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回２名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、１～２ヶ月に１度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「論文執筆計画書」の報告
第２回　文献レビュー（テキスト批評）１
第３回　文献レビュー（テキスト批評）２
第４回　文献レビュー（テキスト批評）３
第５回　文献レビュー（テキスト批評）４
第６回　論文検討会１
第７回　調査法の検討１
第８回　調査法の検討２
第９回　文献レビュー（テキスト批評）５
第10回　文献レビュー（テキスト批評）６
第11回　論文検討会２
第12回　文献レビュー（テキスト批評）７
第13回　文献レビュー（テキスト批評）８
第14回　レポート報告会
第15回　まとめ

教養演習AII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　　レポート（論文）…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習AII 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

国籍・国境について考える：
　本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べることが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれません。どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
（候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『＜群島＞の歴史社会学』石原俊著・弘文堂）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：本演習の目的説明、テキスト決定
第2回　新聞からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
第3回　映像からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
第4回　テキスト輪読と議論
第5回　テキスト輪読と議論
第6回　テキスト輪読と議論
第7回　テキスト輪読と議論
第8回　テキスト輪読と議論
第9回　レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
第10回　レポート構想報告
第11回　レポート構想報告
第12回　レポート構想報告
第13回　レポート構想報告
第14回　レポート相互添削
第15回　最終レポート報告会

教養演習AII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
・ 報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・ レジュメの作成・関連文献の読書・レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意　/Remarks

・ 初回の授業でテキストなどを決定するので、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
・ テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・ 今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード　/Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習ＡII（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　集中
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

教養演習ＡＩの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI（教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI）を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中（8月中下旬～9月上旬）にかけて、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

防衛白書

教養演習AII（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習AII 【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認 (１) 【細胞】
３回　基本的事項の確認 (２) 【再生医療】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備 (１)
６回　グループによるプレゼンテーションの準備 (２)
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション (１)
１２回　個人によるプレゼンテーション (２)
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。
・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習AII 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養演習AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＡII（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡII	GES202F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書　/Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：教養演習ＡI復習。
第３回：教養演習ＡI復習。
第４回：視聴およびディスカッション。
第５回：視聴およびディスカッション。
第６回：視聴およびディスカッション。
第７回：視聴およびディスカッション。
第８回：視聴およびディスカッション。
第９回：視聴およびディスカッション。
第１０回：視聴およびディスカッション。
第１１回：視聴およびディスカッション。
第１２回：視聴およびディスカッション。
第１３回：視聴およびディスカッション。
第１４回：視聴およびディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

ディスカッションでの発言内容５０％
ディスカッショへの参加度５０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習AII（発達障がいセミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する場合があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習（発達障がいセミナー）I、IIおよび教養演習（発達障がいセミナー）AI履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○中根千枝『タテ社会の人間関係――単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
○中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第１回目の授業に出席する必要があります。
なお、本演習に履修登録済みの場合（２年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している４年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については７月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

BI（１学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。
（１）自らの関心に沿った「問い」の立て方
（２）論証戦略（実証方法の道筋）の設定
（３）情報収集の方法
（４）論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。
報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

○『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
○『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
○『実証研究の手引き–調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
その他、適宜、紹介する。

教養演習BI【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「テーマ」について考える
第３回　「問い」を立てる
第４回　論証戦略を考える（方法を検討する）
第５回　情報を集める１ - 北九大図書館
第６回　情報を収集する２ - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第７回　論文検討会１
第８回　文献レビュー（テキスト批評）１
第９回　文献レビュー（テキスト批評）２
第10回　文献レビュー（テキスト批評）３
第11回　文献レビュー（テキスト批評）４
第12回　文献レビュー（テキスト批評）５
第13回　文献レビュー（テキスト批評）６
第14回　文献レビュー（テキスト批評）７
第15回　論文検討会２

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…40%　課題…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論等を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習ＢＩ（防衛セミナー）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意　/Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼンカを身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社（2015年）
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認（１）【酵素】【代謝】
３回　基本的事項の確認（２）【遺伝子】【DNA】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備（１）
６回　グループによるプレゼンテーションの準備（２）
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション（１）
１２回　個人によるプレゼンテーション（２）
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習BI【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習ＢＩ【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＢＩ（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
第３回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
第４回：自閉症スペクトラムの理解（療育・教育・支援方法の変遷）。
第５回：支援法の基礎（構造化）。
第６回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
第７回：支援法の基礎（行動問題）。
第８回：支援の実践およびディスカッション。
第９回：支援の実践およびディスカッション。
第１０回：支援の実践およびディスカッション。
第１１回：支援の実践およびディスカッション。
第１２回：支援の実践およびディスカッション。
第１３回：支援の実践およびディスカッション。
第１４回：支援の実践およびディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

支援法の理解度５０％
議論への参加度５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習BI(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIおよび教養演習(発達障がいセミナー)AI、AII履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習ＢⅡ【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については１２月後半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習ＢII 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

BII（２学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回２名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、１～２ヶ月に１度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「論文執筆計画書」の報告
第２回　文献レビュー（テキスト批評）１
第３回　文献レビュー（テキスト批評）２
第４回　文献レビュー（テキスト批評）３
第５回　文献レビュー（テキスト批評）４
第６回　論文検討会３
第７回　調査法の検討１
第８回　調査法の検討２
第９回　文献レビュー（テキスト批評）５
第10回　文献レビュー（テキスト批評）６
第11回　論文検討会４
第12回　文献レビュー（テキスト批評）７
第13回　文献レビュー（テキスト批評）８
第14回　レポート報告会
第15回　まとめ

教養演習ＢII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　レポート・論文…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習BII 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

国籍・国境について考える：
　本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べることが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれません。どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
（候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『＜群島＞の歴史社会学』石原俊著・弘文堂）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：本演習の目的説明、テキスト決定
第2回　新聞からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
第3回　映像からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
第4回　テキスト輪読と議論
第5回　テキスト輪読と議論
第6回　テキスト輪読と議論
第7回　テキスト輪読と議論
第8回　テキスト輪読と議論
第9回　レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
第10回　レポート構想報告
第11回　レポート構想報告
第12回　レポート構想報告
第13回　レポート構想報告
第14回　レポート相互添削
第15回　最終レポート報告会

成績評価の方法　/Assessment Method

・授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
・報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

教養演習BII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・レジュメの作成・関連文献の読書・レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意　/Remarks

・初回の授業でテキストなどを決定するので第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
・単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
・テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード　/Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習ＢII（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

教養演習ＢⅠの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーⅠ（教養基礎演習Ⅰ、あるいは、教養演習AⅠ、教養演習BⅠ）を受講した者に限られる。「Ⅰ」を受講しないで、「Ⅱ」だけ受講することはできない。詳細は、「Ⅰ」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中（8月中下旬～9月上旬）にかけて、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

防衛白書

教養演習ＢⅡ（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認 (１) 【細胞】
３回　基本的事項の確認 (２) 【再生医療】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備 (１)
６回　グループによるプレゼンテーションの準備 (２)
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション (１)
１２回　個人によるプレゼンテーション (２)
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

教養演習BII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：支援法に関する文献輪読。
第３回：支援法に関する文献輪読。
第４回：支援法に関する文献輪読。
第５回：支援法に関する文献輪読。
第６回：支援法に関する文献輪読。
第７回：支援法に関する文献輪読。
第８回：支援の実践およびディスカッション。
第９回：支援の実践およびディスカッション。
第１０回：支援の実践およびディスカッション。
第１１回：支援の実践およびディスカッション。
第１２回：支援の実践およびディスカッション。
第１３回：支援の実践およびディスカッション。
第１４回：支援の実践およびディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

支援法の理解度５０％
報告内容５０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習（発達障がいセミナー）Ⅰ、Ⅱおよび教養演習（発達障がいセミナー）ＡⅠ、ＡⅡ、ＢⅠ履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

自然学のまなざし 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松　文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然学のまなざし	ENV002F

授業の概要　/Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系· 理系と人間の頭を２つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書　/Textbooks

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■竹川
第１講　自然学で学ぶこと
第２講　今西錦司という人がいた
第３講　バックミンスターフラーという人がいた
第４講　人類の進化と狩猟採集生活
第５講　自然学における日常実践
第６講　カボチャ島の自然学【食と資源】
第７講　風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
第８講　自然学の視点の重要性
■岩松
第９講　近世の旅と自然
第１０講　山村暮らしと故郷
第１１講　山と森の自然観
第１２講　竹の産業史
第１３講　竹の文化
第１４講　木の文化
第１５講　第９〜１４講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

（竹川）
講義で紹介するさまざまな活動に参加する　・・・ 15%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える　・・・ 15%
講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く　・・・ 20%
（岩松）
小レポート…25%　試験…25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　到津の森公園、文学部　竹川大介

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		

動物のみかた	Z0L001F

授業の概要　/Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書　/Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編　小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　動物園学概論１（動物園の歴史）
２回　動物園学概論２（人と公園の歴史）
３回　キーパーの仕事１（動物の飼育と歴史）
４回　キーパーの仕事２（動物園のみかた）
５回　キーパーの仕事３（動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割）
６回　キーパーの仕事４（どうぶつと人間のくらい）
７回　キーパーの仕事５（動物園とデザイン）
８回　キーパーの仕事６（動物園の植栽）
９回・１０回　校外実習（到津の森公園）
１１回　獣医の仕事１（どうぶつの病気）
１２回　獣医の仕事２（どうぶつたちとくらそう）
１３回　動物園学まとめ１（動物園を振り返る）
１４回　動物園学まとめ２（新しい動物園とは）
１５回　まとめ（外部講師講演）

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート … ８０％　　平常の学習状況 … ２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意　/Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることで人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

キーワード　/Keywords

動物園

地球の生いたち 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　長井　孝一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地球の生いたち	G0L001F

授業の概要　/Course Description

我々の住む地球は太陽系の第３惑星として，今から約４６億年前に誕生した。その４６億年の地球史の中で，大地や海，大気が形成され，地球生命が誕生し，さらに，そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約３８億年前に誕生し，長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今，地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として，その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在，我々はこれまでにも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では，地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書　/Textbooks

教科書は使用せず，プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会），1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店），861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）,1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方　【地質時代と絶対年代】
２回目：生きている地球１ 【地球惑星の構成としくみ】
３回目：生きている地球２ 【ウェゲナーと大陸移動説】
４回目：生きている地球３ 【プレートテクトニクストとプルームテクトニクス】
５回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
６回目：地球地球史を記録する地層と化石１　【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
７回目：地球地球史を記録する地層と化石２　【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
８回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
９回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
１０，１１回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
　　１０回目：カンブリア爆発の特徴と原因
　　１１回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
１２回目：繰り返す大量絶滅１【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
１３回目：繰り返す大量絶滅２ 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
１４回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
１５回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し，授業の内容を復習すること。また，シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない，可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて，授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意　/Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して，地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード　/Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター　日高京子

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然史へのいざない	BI0001F

授業の概要　/Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思います。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【　】内はキーワード、（　）内は担当学芸員名)。

１回　ガイダンス
２回　自然史博物館見学（１）〜博物館を楽しもう
３回　植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋）　【食物連鎖】【共生】
４回　アンモナイトの古生物学（御前）　【化石】【進化】【古生態】
５回　鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）【絶滅危惧】【多様性の保全】
６回　石の声が聞こえる（森）　【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
７回　化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）【化石の有用性】【生命史】
８回　骨から知る脊椎動物進化（大橋）　【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
９回　化石が語る魚類の進化（籔本）　【魚類化石】
１０回　深海生物〜その形と適応的意義（下村）　【深海】
１１回　昆虫の多様性と進化（蓑島）　【分類】【学名】
１２回　二次的自然と哺乳類（馬場）　【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
１３回　タイトル未定
１４回　自然史博物館見学（２）〜課題研究
１５回　まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： http://www.kmnh.jp/
講義タイトルおよび順序は変更になることがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

・２回の博物館見学は原則必須とする。
・授業中の課題60%、期末レポート40%

自然史へのいざない 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前に各回のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ １回目の博物館見学は10月15日（日）、２回目は１１月以降各自で自由に行う。
・ 博物館までの交通費および入館料は自己負担とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

くらしと化学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　秋貞　英雄 / Akisada　Hideo / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

くらしと化学	CHM001F

授業の概要　/Course Description

化学物質とその物性は自然を豊かにし、生活を豊かにし、未来社会を展望するのに必要です。また、現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。それゆえ、市民はその中で、身近な問題での科学・技術情報への一定の興味とその開放を必要としています。同時に、得られた情報を正しく理解するための、基礎的な化学知識を理解することが必要とされます。　そのために、基礎的な化学知識を学習します。その知識を基に、化学と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、重要な物性である物質三態（気・液・固）や物性と分子構造が自然現象とどう関わるかを学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も説明します。さらに化学物質(無機物、有機物）と身近な現象や材料との関わりを、生活に必要な生体物質(糖、脂質、タンパク質、核酸など）とそれらを含む食品、薬とその作用、環境問題はそれに影響する物質、放射能および地球温暖化に関連した事項に絞って解説をします。

教科書　/Textbooks

「あなたと化学」 - くらしを支える化学15講 -
著者：齋藤勝裕 著
出版社：裳華房
定価2160円（本体2000円＋税8％）/ 2015年9月発行
ISBN 978-4-7853-3505-2　C3043

参考書(図書館蔵書には ○）　/References（Available in the library: ○　）

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」John Emsley著、渡辺正訳　(丸善) \2200円、 ISBN 978-4-621-04227-4
「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著(丸善)￥2200+税　ISBN978-4-621-08016-0 演習用として
○「沈黙の春」R. Carson著、青木 梁一訳　(新潮社)
○「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著　(翔泳社)

くらしと化学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1) 1章 原子と分子が全てをつくる - 原子の構造と化学結合 -
2) 2章 私たちは空気で囲まれている - 気体の状態と性質 -
PV=nRTから言えること、気体の種類
3) 3章 地球は水の惑星 - 水の特性と物質の状態 -
液体・固体とは、水は特殊な物質
4) 3章補足　プリント (＋14章一部) 界面とコロイド・ゲル (分子とマクロ物質の境界領域で) 。
5) 5章　元素の80％は金属元素 - 金属の多彩な性質 -
補足：無機化合物、ガラス、コンクリート
6) 4章、12章：酸・塩基、酸化・還元 - 電池
7) 4章、12章：44章　炭が燃えると熱くなる - 化学反応とエネルギー変化 -
12章　電気ってなんだろう？ - 発光と化学エネルギー -
8)　6章　有機物は炭素でできている - 有機化学超入門 -
化学構造と物性、有機化合物の分類
9)　11章　プラスチックってなんだろう？ - 高分子の化学 -
10)　7章　生命体をつくるもの - 生体分子の世界 -
糖、脂質、タンパク質、核酸
11)　9章、10章：9章　私たちの食べているもの - 食料品の化学 -
10章　毒と薬は同じもの？ - 医薬品と毒物の化学 -
12)　8章　シャボン玉のふしぎ - 分子膜のはたらき -
13)　13章　原子力と電力の関係って？ - 原子力と放射線の化学 -
14)　15章　環境は化学で成り立っている - 化学からみた地球環境 -
15) まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。授業で出たり、一般に見られる化学的現象とその理解を結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など) ２０％、期末試験８０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調することで復習がやりやすいので行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問する。

履修上の注意　/Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料 (プリント) を必ず受け取る (翌週も配る) 。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくと良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通しておく。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード　/Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基
電池、化学反応、アミノ酸、糖、資質、拡散、温暖化物質、放射能

現代人のこころ 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　森永　今日子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		

現代人のこころ	PSY003F

授業の概要　/Course Description

この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、それを、グループワーク等を通じて体験していただきます。そして課題として、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をグループでレポートとポスターにまとめ、ポスターツーアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書　/Textbooks

ハンドアウトを学習支援フォルダにアップしますので、講義前に、学習支援フォルダからダウンロード、印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. ガイダンス，グループ分け
2. 心理学とは　NHK大心理学実験　研究計画の基礎
3. コミュニケーションと共有　GWメンバー紹介作成(1)
4. GWメンバー紹介作成(2)
5. 集団討議(1)
6. 集団討議(2)
7. 集団の心理学
8. 伝えるスキル（アサーション、説得的コミュニケーション）
9. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成(1)
10. レポート・ポスター作成(2)
11. レポート・ポスター作成(3)
12. レポート・ポスター作成(4)
13. ポスターツアー1
14. ポスターツアー2
15. まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%)　+　PT個人ポイント(20%)　+　試験(40%) - 【平常点（減算式）】
※ PTとはポスターツアーを指し、、グループで作り上げるものです。詳細は講義中に説明します。
※平常点は、講義一回目に示したルールに反した場合（講義を放棄した居眠り、別科目の作業、スマートフォン操作、グループワーク不参加等）による減算式です。単なる欠席は減算の対象となりません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

グループ課題（レポートおよびポスター）作成のために必要。

現代人のこころ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。
☆アクティブラーニングとは…
教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）
講師は，学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。
学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し，その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。
※グループワークに参加する意思のない方やスケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

課題は簡単ではなく、楽な科目ではありません。
主体的にしっかり取り組んだ学生からは「やりがいがあった」「楽しかった」という感想が、そうでない学生からは「二度とやりたくない」「講義に来るのが嫌だった」という感想が出ています。
主体的にしっかり取り組みたいという方への受講をお勧めします。

キーワード　/Keywords

心理学、認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング、ポスターツアー

人間と生命 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人間と生命	BIO002F

授業の概要　/Course Description

ヒトの体は約６０兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には２万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで（１）体はどのような物質からできているか、（２）遺伝子は体の何をどのように決めているのか、（３）細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、（４）体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　体を作る物質（１）細胞の構成成分　【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
３回　体を作る物質（２）食物分子と代謝　【酵素】【触媒】
４回　体を作る物質（３）遺伝物質DNA　【二重らせん】
５回　体を作るしくみ（１）遺伝子発現　【セントラルドグマ】
６回　体を作るしくみ（２）遺伝子できまること　【ゲノム】【体質】
７回　体を作るしくみ（３）発生と分化　【転写因子】【胚】
８回　細胞の社会（１）細胞の増殖　【細胞周期】【細胞死】
９回　細胞の社会（２）シグナル伝達　【受容体】【シグナル分子】
１０回　細胞の社会（３）社会の反逆者・がん　【がん遺伝子】
１１回　体を守るしくみ（１）寿命と老化　【染色体】【テロメア】
１２回　体を守るしくみ（２）細菌とウイルス　【ウイルス】【細菌】
１３回　体を守るしくみ（３）免疫　【自然免疫】【抗体】
１４回　関連ビデオ鑑賞
１５回　質疑応答・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題　４０％
期末テスト　６０％

人間と生命 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

環境都市としての北九州 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房　義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科 三宅　博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科, 松永　裕己 / マネジメント研究科　専門職学位課程 村江　史年 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		

環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要　/Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト　2016年改訂版　900円+税
http://www.city.kitakyushu.lg.jp

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（日高）
２回　持続可能な社会をめざして〜ESD〜（法学部・三宅）
３回　北九州の自然・生態系（外部講師）
４回　北九州における環境政策（外部講師）
５回　環境問題と市民の関わり（外部講師）
６回　環境問題とソーシャルビジネス（外部講師）
７回　環境首都検定に向けて（外部講師）
８回　施設見学・環境ミュージアム
９回　小テスト（日高）
１０回　北九州の環境経済（経済学部・牛房）
１１回　環境ビジネスとエコタウン事業（マネジメント研究科・松永）
１２回　環境問題と企業の取り組み（外部講師）
１３回　施設見学・エコタウン
１４回　環境問題に関するシンポジウム（外部講師）
１５回　環境問題と学生の取り組み（421Lab・村江）

成績評価の方法　/Assessment Method

環境首都検定の成績（４０％）、小テストおよび授業中の課題（６０％）

環境都市としての北九州 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールに注意すること。
・ 環境ミュージアム見学は１１月２３日（木）午前または午後の予定。参加できない場合は各自で見学すること。
・ 環境首都検定は１２月３日（日）
・ エコタウン（バスツアー）は１２月２７日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。

＊授業スケジュールは変更の可能性もある。第１回目ガイダンス時に確認すること。
＊環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd

キーワード　/Keywords

環境、ESD、北九州市

未来を創る環境技術 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	龍　有二 / Yuji RYU / 建築デザイン学科（19～）, 伊藤　洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科（19～） 李　丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科（19～）, 黎　暁紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科（19～） 泉　政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科（19～）, 宮里　義昭 / Yoshiaki MIYAZATO / 機械システム工学科（19～） 吉山　定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科（19～）, 松田　鶴夫 / Tsuruo MATSUDA / 環境技術研究所 髙島　康裕 / Yasuhiro TAKASHIMA / 情報システム工学科（19～）, 福田　展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科（19～） 高　偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科（19～）, 保木　和明 / Kazuaki HOKI / 建築デザイン学科（19～） 二渡　了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科（19～）, 望月　慎一 / Shinichi MOCHIZUKI / 環境生命工学科（19～） 河野　智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科（19～）

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21 世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		

未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要　/Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回：社会における環境技術の役割
第２回：身近にある土壌汚染のリスクと対策
第３回：ナノレベルの材料設計とその応用：環境問題の解決を目指して
第４回：廃棄物の発酵ガスから水素および液体燃料の合成
第５回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その１・燃料電池）
第６回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その２・消防戦術）
第７回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その３・エンジン)
第８回：環境モニタリングシステムの開発について
第９回：生活環境を向上させる最適化手法
第10回目：環境に配慮する建築デザイン
第11回目：都市・建築における省エネルギー・自然エネルギー利用と環境技術
第12回目：地震の多い日本で安全な建物をつくり長く使うための技術
第13回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み
第14回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生みだすバイオテクノロジー
第15回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
レポートおよび小テスト30%
期末課題50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード /Keywords

環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

私たちと宗教 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

私たちと宗教	PHR006F

授業の概要　/Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。

授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教である仏教と神道を軸にして、キリスト教・イスラム教・道教などと比較しながら理解を深めてもらう。

教科書　/Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）
○末木文美士『日本宗教史』（岩波新書）
○末木文美士『日本仏教史』（新潮社・新潮文庫）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の概要説明
２回　日本人の宗教観
３回　宗教の諸類型
４回　宗教の構成要素
５回　仏教について１（インド仏教と日本仏教）
６回　仏教について２（中国の宗教と中国仏教）
７回　仏教について３（日本仏教の諸宗派）
８回　仏教について４（日本仏教の祖先崇拝・本覚思想）
９回　神道について１（日本の神と祭り）
１０回　神道について２（神道の成立）
１１回　神道について３（神仏習合の教説）
１２回　神道について３（神仏習合の諸相）
１３回　日本宗教の特色１（神道と仏教の共存）
１４回　日本宗教の特色２（神仏隔離と近代の神仏分離）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　７０％　平常の学習状況　３０％

私たちと宗教 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書を自分で読んでいくこと。
事前に配布した資料については下読みしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード　/Keywords

宗教、仏教、神道、ユダヤ教、キリスト教

思想と現代 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

思想と現代	PHR004F

授業の概要　/Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『哲学の歴史　第９巻--反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
○『哲学の歴史　第１２巻--実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
○小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　実存の思想（１）【概説】
３回　実存の思想（２）【キルケゴール】
４回　実存の思想（３）【ハイデガー】
５回　実存の思想（４）【サルトルの哲学】
６回　実存の思想（５）【サルトルの文学】
７回　実存の思想（６）【メルロ=ポンティ】
８回　実存の思想（７）【補足】
９回　精神分析の思想（１）【前期フロイト】
１０回　精神分析の思想（２）【後期フロイト】
１１回　精神分析の思想（３）【フロイト以後】
１２回　フェミニズムの思想（１）【第一波～第二派】
１３回　フェミニズムの思想（２）【日本のウーマン・リブ】
１４回　フェミニズムの思想（３）【フレンチ・フェミニズム】
１５回　フェミニズムの思想（４）【クイア】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末テスト…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

思想と現代 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気･ 就活･ 実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

文化と表象 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		

文化と表象	MCC001F

授業の概要　/Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　【表象論事始め】　理論的背景
３回　【表象の歴史的追尾】イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
４回　イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
５回　イメージとしての〈日本〉③【演劇】
６回　イメージとしての〈日本〉④【映画】
７回　イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
８回　イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
９回　イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
１０回　【特別講義】
１１回　【表象分析事始め】映画を事例として①【活字から映像へ】
１２回　映画を事例として②【原作とテーマ設定】
１３回　映画を事例として③【作り手の複数性】
１４回　映画を事例として④まとめ
１５回　全体総括

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点 (課題・コメントカードなど)　… 25%　　期末レポート　…　75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

文化と表象 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

言語とコミュニケーション 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山﨑 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのはなぜなのでしょうか。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
○『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
○『社会言語学への招待–社会・文化・コミュニケーション』田中 春美（他）著、ミネルヴァ書房、1996年。
○『社会言語学入門–生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二 著、研究社出版, 1997年。
○『ジェンダーの言語学』永原 浩行（他）編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。
第1回 序：「ことば」とは（漆原）
第2回 コミュニケーションとことばの発達（漆原）
第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション（漆原）
第4回 語用論（山﨑）
第5回 ことばと文化（山﨑）
第6回 異文化間コミュニケーション（山﨑）
第7回 会話の規則（平野）
第8回 日本語の方言（平野）
第9回 ことばのバリエーション（平野）
第10回 （予定）外部講師による特別講義
第11回 認知発達とコミュニケーション（松田）
第12回 ヒューマンエラーとアフォーダンス（松田）
第13回 ことばとジェンダー（漆原）
第14回 グローバル化とコミュニケーション（漆原）
第15回 まとめ（担当者によるパネル・ディスカッション）（漆原）

言語とコミュニケーション 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…20%　　レポート…20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員の課題・レポートの提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
＊「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

芸術と人間 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　真武　真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

芸術と人間	PHR001F

授業の概要　/Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認する。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、表現の原動力となるものを考察し、現代社会との関係、影響力を探っていく。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「現代アート事典　モダンからコンテンポラリーまで…世界と日本の現代美術用語集」　美術手帖編集部　美術出版社 2009
「現代美術史日本篇 1945-2014」著・ 中ザワヒデキ　アートダイバー　2014
「20世紀末・ 日本の美術――それぞれの作家の視点から」編著・ 中村ケンゴ　アートダイバー　2015

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. 寺山修司　劇的想像力について
4. 中平卓馬　なぜ植物図鑑か
5. フランク・ ステラ ミニマル/マキシマル
6. 高松次郎　不在を追いかけて
7. ロバート・ スミッソン　大地の改造計画
8. ウォールター・ デ・ マリア　　わたしに電話をください
9. アネット・ メッサジェ　　聖と俗のメッセンジャー
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. ソフィー・ カル フィクションとしての写真
12. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
13. 山口圭介 原発に抗する
14. ヤノベケンジ 失われた遊園地
15. 会田誠 道程

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト　2 回　　60%
レポート(学期末)　40%

芸術と人間 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
(2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード　/Keywords

文学を読む 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, 村上　義明 / 北方キャンパス　非常勤講師 畑中　佳恵 / 北方キャンパス　非常勤講師, 藤崎　祐二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	2学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

文学を読む	LIT001F

授業の概要　/Course Description

◎総合テーマ
大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手に取ってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなものですが、それは本当なのでしょうか？　さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2017年のテーマ：「文学」への誘い
ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。
今年度の「文学を読む」では、担当教員が大学１年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティヴなメッセージについて、熱く語ります。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

①言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
②「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
③修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書　/Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　文学理論の歴史概観（畑中佳恵）
第３回　トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」（畑中佳恵）
第４回　イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」（畑中佳恵）
第５回　イギリス文学への誘い（木原謙一）
第６回　イギリス文学のメッセージ性・まとめ（木原謙一）
第７回　日本上代文学への誘い（藤崎祐二）
第８回　日本上代文学へのメッセージ性（藤崎祐二）
第９回　まとめ（藤崎祐二）
第10回　日本近世文学への誘い（村上義明）
第11回　日本近世文学のメッセージ性・まとめ（村上義明）
第12回　日本現代詩への誘い（稲田大貴）
第13回　日本現代詩のメッセージ性・まとめ（稲田大貴）
第14回　日本現代文学への誘い（河内重雄）
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート＝100％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品についての予習（作品を読む、作者について調べる、など）と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代正義論	PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
○マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業(上）（下）』(早川書房、2010年）
○盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
○川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
○川本隆史『ロールズ　-　正義の原理』（講談社、1997年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　現代正義論とは　～　問題の所在
第２回　現代正義論とは　～　本講義の概観
［第３回～第７回まで　「正義」の応用問題（生命倫理と法）］
第３回　脳死・臓器移植①　～　臓器移植法の制定と改正
第４回　脳死・臓器移植②　～　法改正時の諸論点
第５回　脳死・臓器移植③　～　改正臓器移植法の施行と課題
第６回　安楽死・尊厳死①　～基本概念の整理と国内の状況
第７回　安楽死・尊厳死②　～諸外国の状況
第８回　現代正義論①　～　ロールズの正義論
第９回　現代正義論②　～　ロールズとノージック
第10回　現代正義論③　～　ノージックのリバタリアニズム
第11回　現代正義論④　～　サンデルの共同体主義
第12回　現代正義論⑤　～　共同体主義【論争】
第13回　現代正義論⑥　～　アマルティア・センの正義論
第14回　現代正義論⑦　～　センとロールズ・ノージック
第15回　まとめ

現代正義論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80%　　講義中に課す感想文…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ＮＨＫ教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード　/Keywords

ロールズ　ノージック　サンデル　正義　脳死　尊厳死

民主主義とは何か 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　中道　壽一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要　/Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の３つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運 動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、１９３８年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。
そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書　/Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○Ｊ・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
第１回　はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
第２回　「デモス」と「クラティア」について
第３回　二つの民主主義伝統について
第４回　近代市民革命と自由民主主義について
第５回　現代民主主義の理論の比較・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
第６回　現代民主主義の理論の比較・・参加民主主義論、共生の民主主義論
第７回　現代民主主義の理論の比較・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
第８回　まとめのグループ討論、グループ発表
第９回　民主主義の運動（組織）について・・１９８９年の東欧革命、１９６８年の「青年の反乱」の日独比較
第１０回　民主主義の運動（組織）について・・１９３８年の日独青少年交歓事業について
第１１回　民主主義の制度について・・議院内閣制と大統領制の比較
第１２回　議院内閣制民主主義の諸問題について
第１３回　大統領制民主主義の諸問題について
第１４回　民主主義制度の比較のまとめ・・首相公選制について
第１５回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。
日常の授業への取り組み　２０％
小テスト　１０％
レポート（任意）　２０％
定期試験　５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）を配布しますので、当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書き留めた穴埋め箇所を中心にして復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、
国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。
多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。
毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失しないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落すると、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を行う予定ですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

社会学的思考 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

社会学的思考	SOC002F

授業の概要　/Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケーム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会学的に考えていく。とりあげるトピックは、社会的排除と貧困、グローバル化と排外主義等を予定している。（授業進度の関係で、取り上げるトピックは１つになることもある。）

教科書　/Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　社会学的な考え方とは
第３回　社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
第４回　社会と個人をつなぐ１ - デュルケム１【集合意識と行為】
第５回　社会と個人をつなぐ２ - デュルケム２【社会規範と自殺 - 自己本位的自殺】
第６回　社会と個人をつなぐ３ - デュルケム３【社会規範と自殺 - アノミー的自殺】
第７回　社会と個人をつなぐ４ - ウェーバー１【理解社会学】
第８回　社会と個人をつなぐ５ - ウェーバー２【信仰と社会 - プロテスタンティズムと資本主義】
第９回　社会と個人をつなぐ６ - フロム１【社会的性格とファシズム】
第10回　社会と個人をつなぐ７ - フロム２【デモクラシーと大衆社会】
第11回　現代社会の解読１ - 貧困と社会的排除１【生活困窮状況とそのメカニズム】
第12回　現代社会の解読２ - 貧困と社会的排除２【支援のあり方】
第13回　現代社会の解読３ - グローバル化の進展と排外主義１【排外主義の様相】
第14回　現代社会の解読４ - グローバル化の進展と排外主義２【排外主義のメカニズム】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題…１５％　　期末試験…８５％
（総合的に判断する）

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード　/Keywords

社会的行為、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、グローバル化、排外主義

政治のなかの文化 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

政治のなかの文化	ANT001F

授業の概要　/Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代的な政治体制や経済体制が世界中に広がる以前から、さまざまな共同体において独自の統治の方法があり（これもまた文化のひとつである）、近代国家に特有の制度が共有されるようになっても、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、現代の世界への総合的な理解と考察を深めることが目的である。

教科書　/Textbooks

教科書は特に指定しないが、以下の参考文献や講義中に紹介した資料は各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。また授業では配布資料を配るが、口頭での説明もしっかりメモすること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』ＮＴＴ出版
○織田竜也ほか（編）2009『経済からの脱出』春風社
○春日直樹（編）2008 『人類学で世界をみる』 ミネルヴァ書房
○ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
○本多俊和ほか編 2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入/グローバル化の時代と文化
第2回　理念の土着化は可能か？
第3回　伝統社会のなかの政治の始まり
第4回　互酬と社会
第5回　伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
第6回　価値観と文化
第7回　資本主義への対抗
第8回　中間テスト
第9回　政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
第10回　政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
第11回　開発の現場における文化と公共性
第12回　中間テストの解説
第13回　地域通貨の可能性とコミュニティの現在
第14回　「求められる市民参加」の時代
第15回　公共性と文化

政治のなかの文化 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト40%、期末テスト60%
※そのほか講義への貢献を平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。このほか適宜授業への積極的参加を加点する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で購入する必要はありません。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法や、電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。欠席しても履修できるかも知れませんが、不利になるかもしれないことを覚悟してください。
・講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
・中間テストの無断欠席者（または代替提出課題の未提出者）、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・人々はどうやって意思決定をしてきた（いる）か、どうやって経済活動をしてきた（いる）かということに興味があると、講義の内容は面白いのではないかと思います。
・ビジョン科目II「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生、およびビジョン科目I「異文化理解の基礎」（本年度非開講、昨年度開講）を受講済み学生は、授業の理解度が高まります。

キーワード　/Keywords

政治、公共性、文化、互酬性、国家

人権論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　柳井　美枝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係･歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義･重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

人権論	SOC004F

授業の概要　/Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。
本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。
その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標
１．人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
２．人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
３．現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
４．自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書　/Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社）福岡県人権研究所発行 ￥1000）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。
※５～１４については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心をもち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　力武　由美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

ジェンダー論	GEN001F

授業の概要　/Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのかーそのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書　/Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ–女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　日本語とジェンダー–戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
２回　ジェンダー・リテラシーで読み解く文学–村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
３回　現代アートとジェンダー–映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
４回　男もつらいよ–アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
５回　ジェンダー家族を超えて–週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
６回　セクシュアリティを考える–あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
７回　学校教育の今昔–学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
８回　社会保障とジェンダー–津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
９回　ジェンダーの視点からみる農業–エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
１０回　アジア現代女性史の試み–ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
１１回　女性差別撤廃条約と人権–絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
１２回　ジェンダーと平和学–女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
１３回　グローバリゼーションと労働市場–国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
１４回　デートDV–TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス（DV）】
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言…25%、プレゼン…25%、レポート…25%、期末試験…25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する３つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		

障がい学	SOW001F

授業の概要　/Course Description

「障害」というと否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。
また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
第5回：自閉症とは【自閉症】
第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
第7回：文化モデル的作品の評価【３つのモデルとの関連で】
第8回：３つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

履修上の注意　/Remarks

障がい学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共生の作法 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	今泉 恵子 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科 朴 元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科 高橋 衛 / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）があることを知ることが重要である。
そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　法と道徳について
第３回　殺人する自由はあるか？ー人権保障の限界
第４回　行政活動と法治主義
第５回　国際社会と法–国際行政の観点から
第６回　犯罪とは何か
第７回　刑罰とは何か
第８回　性差別と暴力～セクシャル・ハラスメントとドメステッィク・バイオレンス
第９回　家族とは何か
第10回　担保とは何か
第11回　契約とは何か
第12回　商取引における不正競争と法
第13回　企業形態と法
第14回　民事訴訟とは何か
第15回　社会保障の必要性と社会保険について考えよう

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

レポートによる（100％，ただし④に注意）。
①　受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから，テーマを１つ選び，レポートを１本作成して提出すること。
②　レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは３０００字以上とする。
③　レポートには，所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
④　出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は，レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意　/Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくと、各回の理解がいっそう深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード　/Keywords

【現代社会】　【共生】　【作法】　【ルール】

法律の読み方 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

法律の読み方	LAW002F

授業の概要　/Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書　/Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス–法律を読むために
２回　憲法の役割と基本原則を知る①【最高法規】【個人の尊厳】【基本的人権】【国民主権】
３回　憲法の役割と基本原則を知る②【平和主義】【権力分立】【違憲法令審査制】【個人と国家】
４回　民法の役割と基本原則を知る①【私的自治】【所有権の絶対】【過失責任】【家族法の特質】
５回　民法の役割と基本原則を知る②【公共の福祉】【信義誠実の原則】【権利濫用】【取引の安全】
６回　刑法の役割と基本原則を知る①【罪刑法定主義】【犯罪の要件】【刑罰】
７回　刑法の役割と基本原則を知る②【刑事手続】【裁判員制度】【刑事責任と民事責任】
８回　法の特性と構造、機能を知る①【社会規範】【法規範の特性】【社会統制】【活動促進】
９回　法の特性と構造、機能を知る②【紛争解決】【行為規範】【裁判規範】【法源】
１０回　法の適用と解釈の仕方を知る　【裁判所】【裁判の役割】【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
１１回　判例の読み方を知る　【判例集】【判例の調べ方】【事実の概要】【判旨】【参照条文】
１２回　判例を読む①　【判例部分の抽出】【判例研究の意義】【判例研究の仕方】
１３回　判例を読む②　【判例評価の方法】【判例と学説】【特別受益】【生命保険金】
１４回　法律の視点から社会を読む　【相続】【親子関係】【婚姻】【離婚】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…　２０　%　　定期試験…　８０　%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

法律の読み方 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意　/Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法’17』信山社（１，０００円）をお勧めします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会調査 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		

社会調査	SOC003F

授業の概要　/Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書　/Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
○『ガイドブック社会調査（第２版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　何のための社会調査か
第２回　量的調査と質的調査
第３回　調査と研究の進め方
第４回　社会調査を企画する
第５回　ワーディング（１）【質問文の作成】
第６回　ワーディング（２）【選択肢の作成】
第７回　調査票の構成
第８回　サンプリングの考え方
第９回　サンプリングの方法
第10回　実査の準備
第11回　データファイルの作成（実習）１【入力フォームの作成】
第12回　データファイルの作成（実習）２【ＳＰＳＳファイルの作成とデータクリーニング】
第13回　データファイルの作成（実習）３【度数分布表の作成】
第14回　分布と統計量、クロス集計、相関係数
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…３０％　日常の授業への取り組み…１０％　レポート…６０％
（総合的に判断する。）

社会調査 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード　/Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

市民活動論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業と社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		

企業と社会	BUS001F

授業の概要　/Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書　/Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論　第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文眞堂、1991年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　【企業観の変遷】【6つの企業観】
第2回「財・サービスの提供機関」としての企業①　【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
第3回「財・サービスの提供機関」としての企業②　【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
第4回「株式会社」としての企業①　【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
第5回「株式会社」としての企業②　【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
第6回「大企業」としての企業①　【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
第7回「大企業」としての企業②　【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
第8回2-7回のまとめ
第9回「家」としての日本企業①　人事における日本企業特有の現象（１）　【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
第10回「家」としての日本企業②　人事における日本企業特有の現象（２）　【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
第11回「家」としての日本企業③　株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
第12回「家」としての日本企業④　「家」の概念　【日本企業の独自性】【家の論理】
第13回「家」としての日本企業⑤　今後の日本的経営　【原理と構造】【家社会】
第14回「社会的器官」としての日本企業　【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
第15回総括

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 50%　　中間テスト・・・ 30%　　レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

企業と社会 【昼】

履修上の注意　/Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代社会と倫理 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と倫理	PHR002F

授業の概要　/Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ピーター・シンガー『実践の倫理　新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
○ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
○加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
○江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
○安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか――要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
３回　現代における人命の価値（１）【生命の神聖説】
４回　現代における人命の価値（２）【積極的行為と消極的行為】
５回　現代における人命の価値（３）【最大幸福原理】
６回　現代における人命の価値（４）【不完全義務】
７回　現代における人命の価値（５）【自己意識】
８回　現代における人命の価値（６）【FLO】
９回　問題事例の検討（１）【優生学】
１０回　問題事例の検討（２）【殺人行為】
１１回　問題事例の検討（３）【まとめ】
１２回　現代における公平性の意義（１）【人口問題】
１３回　現代における公平性の意義（２）【公平主義】
１４回　現代における公平性の意義（３）【貧困問題】
１５回　現代における公平性の意義（４）【援助義務論】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

現代社会と倫理 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第１回もしくは第２回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気･ 就活･ 実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード　/Keywords

生命　義務論　功利主義　貧困　公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　西日本新聞社、基盤教育センター　稲月正

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

現代社会と新聞ジャーナリズム	SOC001F

授業の概要　/Course Description

多メディア時代の今、「新聞」について学ぶ。インターネットやＳＮＳが爆発的に普及する中で、新聞の役割は変質している、との声も聞かれる。しかし、実際、テレビにせよ、ネットにせよ、その情報の出所は新聞であることが多い。さらに、ネットの情報は真偽不明で断片的、一面的であり、信頼性に欠けていることが多々ある。しかも、24時間、洪水のように情報が飛び交う中で、内容が整理され、信頼性のある情報を発信する新聞の存在感が注目を集めている。

新聞の特性は①事実を客観的に伝える②背景や問題点を深く掘り下げる③権力者などの不正を追及する④社会が抱える課題の解決策を提供する、などであり、普通の生活者が社会との関係を「考える」、明日の生き方を「選択する」際に役立つとされる。

講義では、新聞社のデスクや記者などが、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話し、ビジネスの可能性なども展望する。一連の講義を通じ、現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」（メディアを読み解く力）を身につけるのが授業の目標である。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

【第1回】オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状（編集企画委員長）
【第2回】九州経済をどう見るか / 経済記者の視点（経済部長）
【第3回】子どもに明日を / 貧困の実相を追う（社会部記者）
【第4回】国政の現場から / ブロック紙の永田町取材（社会部デスク）
【第5回】ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる（編集センターデスク）
【第6回】デジタル時代の新聞/電子メディアへの挑戦（メディアラボ部員）
【第7回】地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは（文化部デスク）
【第8回】アジアと九州を考える / 国際報道の現場から（国際部長）
【第9回】スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの（運動部デスク）
【第10回】新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは（デザイン部デスク）
【第11回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは（写真部記者）
【第12回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面（もの知りタイムズ編集長）
【第13回】戦後70年を超えて / 国の安全保障を考える（報道センター記者）
【第14回】働く現場とは / （生活特報部デスク）
【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか（北九州本社記者）

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート（３回）・・・100％
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわず、成績を不可（Ｄ）とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義と考察を通して、「メディアリテラシー」（メディアを読み解く力）ならびに現代社会を解読する力を身につけてほしい。

キーワード　/Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

都市と地域 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　南　博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 奥山　恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

都市と地域	RDE002F

授業の概要　/Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状の課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待します。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

【地域】適宜文献や資料を紹介する。
【都市】特になし。参考となる文献等については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　共通　：授業及び講師紹介
２回　地域１　：地域の概念：世界と日本の事例
３回　地域２　：地域をどのように学問するか：地域学と地域科学
４回　地域３　：地域間という考え方
５回　地域４　：グループ討論：あなたの地域は？その地域との関わりは？
６回　地域５　：地域事例紹介１（国内事例予定）
７回　地域６　：地域事例紹介２（海外事例予定）
８回　地域７　：課題レポート発表・討論
９回　都市１　：都市の概念
１０回　都市２　：都市へ人や産業が集まる理由
１１回　都市３　：都市問題、都市の衰退
１２回　都市４　：人口減少社会における都市（１）【コンパクト化】
１３回　都市５　：人口減少社会における都市（２）【地方創生】
１４回　都市６　：事例研究：「かんもん（関門）海峡都市」の活性化
１５回　都市７　：都市と「市民」「大学生」

成績評価の方法　/Assessment Method

【地域】全体の５０％：クイズ…１５％　授業内貢献…１０％　レポート…２５％
【都市】全体の５０％：レポート…３５％　日常の授業への取り組み…１５％

都市と地域 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【地域】日頃から「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察して授業に臨んで下さい。新聞やＴＶニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。
【都市】各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。また、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、地域の博物館等を見学したりして理解を深めること。授業資料を授業後にMoodleに掲載するので、事後学習に活用すること。

履修上の注意　/Remarks

【地域】前半の「地域」の部の間に数回、クイズ（小テスト）を行う（当日発表）。レポートは各自印刷の上、地域７の授業に持参し授業終了後の提出とする。授業内ディスカッションを活発に行うので、発言の無い学生は授業内貢献の評価が芳しくなくなる。
【都市】レポート提出方法等については授業中に説明する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

【地域】「地域」という概念は多様であり、それらを理解することにより空間としての地域に対する自らの視点を形成することを期待する。
【都市】日常生活を送る中で、「この都市の良い / 悪いところ」と感じたことを記憶に留め、「なぜ現状のようになっているのか」「今後どのように改善すべきか」等を考えることの習慣化を期待する。

キーワード　/Keywords

地域科学、地域学、都市問題、都市政策

現代の国際情勢 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科 大平　剛 / 国際関係学科, 北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科 白石　麻保 / 中国学科, 松田　智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科 山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代の国際情勢	IRL003F

授業の概要　/Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書　/Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　尹明憲　オリエンテーション
第2回　アダム・ヘイルズ　演劇とインターナショナリズム　【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】【協力】
第３回　アーノルド・ウェイン　The Role of Public Spaces in New York City　【urban space】【parks】【recreation】【enjoyment】【renovation】
第４回　大平　変容するアジア情勢と日本の国際協力（１）中国ファクター
第５回　大平　変容するアジア情勢と日本の国際協力（２）日本の安全保障戦略
第６回　北　現代アメリカ合衆国の社会（１）　【人種】
第７回　北　現代アメリカ合衆国の社会（２）　【移民】
第８回　白石　中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
第９回　松田　総合商社と海外プロジェクト　【プロジェクトファイナンス、世界銀行】
第１０回　山本　ヨーロッパの危機（１）　【地域主義】【民主主義】
第１１回　山本　ヨーロッパの危機（２）　【ユーロ】【難民】
第１２回　李　日韓関係の展開（１）【脱植民地化】【脱帝国化】【残された問題】
第１３回　李　日韓関係の展開（２）【安全保障】【（脱）冷戦】【朝鮮半島問題】
第１４回　尹　東アジアの経済事情（１）【地域的特徴】【経済関係】
第１５回　尹　東アジアの経済事情（２）【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（8回）100%

現代の国際情勢 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の担当者の指示に従うこと。授業終了後には復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード　/Keywords

開発と統治 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治	IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバリゼーションが刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発券・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ（明石書店）、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 「開発と統治」をはじめるにあたって 担当：三宅
第２回 民主化問題を考える視座（１） 【民主化問題】 担当：伊野
第３回 民主化問題を考える視座（２） 担当：伊野
第４回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐって 【ミャンマー】 担当：伊野
第５回 世界と日本のフードバンク 【フードバンク】 担当：原田正樹・三宅
第６回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？ 【ライフアゲイン】 担当：原田・三宅
第７回 子ども食堂「もがるか」の運営と人々 【こども食堂】 担当：原田・三宅
第８回 フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論 【学生】 担当：原田・三宅
第９回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
第10回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて 【米国】 担当：申
第11回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
第12回 グループワーク（アクティビティ作り）を通じたガバナンス概念の把握 【グループワーク】 担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念提示を考える 担当三宅・伊野・申
第15回 まとめ（グループ・ディスカッション）

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度…30％ 小課題の提出…20 ％ 試験…50 ％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治 【昼】

履修上の注意　/Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード　/Keywords

ガバナンス　ミャンマー　フードバンク　韓国　米国　地域社会　子ども会　グループワーク

グローバル化する経済 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科, 前田　淳 / MAEDA JUN / 経済学科 柳井　雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林　紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科 魏　芳 / FANG WEI / 経済学科, 武田　寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科　専門職学位課程 任　章 / NIN Akira / マネジメント研究科　専門職学位課程

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身についてる。
	コミュニケーション力		

グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要　/Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション–グローバル化とは何か
2回　自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【貿易保護政策】
3回　地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【TPP】
4回　企業の海外進出と立地（１）【直接投資】
5回　企業の海外進出と立地（２）【人件費】【為替レート】
6回　海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
7回　先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
8回　グローバル化とファイナンス（１）【アベノミクス】【金融市場】
9回　グローバル化とファイナンス（２）【資産運用】【行動ファイナンス】
10回　ビジネスと会計ルールのグローバル化（１）【大企業と財務報告】
11回　ビジネスと会計ルールのグローバル化（２）【国際会計基準IFRS】
12回　バブルと国際金融危機（１）【資産価格】【バブル】【不良債権】
13回　バブルと国際金融危機（２）【リーマンショック】【不況の伝播】
14回　国際金融危機の伝染（１）【欧州金融危機】【資産担保証券】
15回　国際金融危機の伝染（２）【銀行同盟】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意　/Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは学習支援フォルダにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

テロリズム論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

テロリズム論	PLS001F

授業の概要　/Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見･分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
３回　テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
４回　テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴　①テロの目的　②テロの標的　③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
５回　テロの歴史(1)
テロの起源、１９世紀のテロとアナキズム
６回　テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
７回　現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か)
８回　現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG９、ダッカ事件とSAT）
９回　反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
10回　無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
11回　無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
12回　無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
13回　９１１米国同時多発テロ(1)
９１１の特異性
９１１の概要と計画性
14回　９１１米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際社会と日本 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 中野　博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科 金　鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		

国際社会と日本	IRL004F

授業の概要　/Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。（１）戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。（２）アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書　/Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

橋本寿朗　編『現代日本経済 第３版』(有斐閣アルマ、2011年)
○五百旗頭真　編『戦後日本外交史 第3版補訂版』（有斐閣アルマ、2014）
その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．ガイダンス
2．戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3．占領下日本の「外交」　【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4．サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立　【講和条約】【戦後秩序】
5．日本の戦後処理（賠償）【賠償】【請求権】【経済協力】
6．日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開　【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7．日韓国交への道程 / 日中国交への道程　【脱植民地化】【デタント】【台湾問題】
8．冷戦後の日本外交　【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9．世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバリゼーション】【数字で見る日本経済】
10．戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11．日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12．戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13．日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14．グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15．地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

国際社会と日本 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート　50%　　テスト　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意　/Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード　/Keywords

東アジア　安全保障政策　冷戦　戦後復興　グローバリゼーション

韓国の社会と文化 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

韓国の社会と文化	ARE010F

授業の概要　/Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書　/Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　韓国について概観
3　韓国についてもっと知ろう
4　韓国の歴史①【三国時代～朝鮮王朝】
5　韓国の歴史②【19世紀末～】
6　現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
7　歴代大統領から見る韓国社会と文化
8　韓国人の名字と名前
9　日韓の食文化について考える①【VTR視聴】
10　日韓の食文化について考える②
11　現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
12　韓国の若者たちの世界
13　日韓の住居文化について考える①【VTR視聴】
14　日韓の住居文化について考える②
15　まとめ

＊上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズ、出張などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度 (出席レポートや討論への参加) ４０％
期末レポート６０％

韓国の社会と文化 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までには予め毎回のテーマについて参考文献を読み、授業終了後には各自の「考え」をまとめること

履修上の注意　/Remarks

●初回の授業には必ず出席すること

・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。（チャイム以降の入室は遅刻とみなす。遅刻３回をもって１回の欠席とカウントする）
・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用（コピペ等）が発覚したレポートは０点とする

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

エスニシティと多文化社会	IRL001F

授業の概要　/Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ヨーロッパにおけるとエスニシティと多文化主義【国民国家】
2回　連合王国イギリス 【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
3回　連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
4回　イギリスにおける文化摩擦 【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
5回　イギリスにおける多文化主義 【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
6回　英仏のエスニシティ問題 【同化主義】【スカーフ問題】
7回　英仏の国民統合 【共和国原理】【ライシテ】
8回　前半のまとめ
8回　東南アジアと「エスニシティ論」
9回　「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
10回　「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
11回　「独立か否か」(1)インドネシア・アチェの事例から
12回　「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
13回　「二セモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
14回　「二セモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
15回　後半のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意　/Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

歴史の読み方I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke　/ 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅰ	HIS004F

授業の概要　/Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがち些細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。
１．この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
２．この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実は一つに限られてはいません。
３．この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：
この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『想像の共同体』（NTT出版）
○小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
○新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
○ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
○野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
○網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）
門脇禎二『吉備の古代史』（NHKブックス）
○鳥越信『桃太郎の運命』（ミネルヴァ書房）

歴史の読み方I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス①授業の進め方
２回　前近代東アジアの伝統世界
３回　日本の近代と国民国家の問題点
４回　『ラスト・サムライ』の誤解
５回　新渡戸稲造の『武士道』
６回　武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
７回　『平家物語』を読む①二つの平家物語
８回　『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
９回　県名を読む①国郡制と幕藩制
１０回　県名を読む②県名と県庁所在地
１１回　県名を読む③戊辰戦争を「見直す
１２回　「国語」とは何か
１３回　網野善彦と日本史の多様性
１４回　『もののけ姫』を読む–網野史学と【縄文文化】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業レポート・・・ 50%、筆記試験・・・ 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード　/Keywords

歴史の読み方II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　赤司　友徳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅱ	HIS005F

授業の概要　/Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、逓信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、またボーイスカウト、ＮＨＫ設立にも貢献した、多彩な経歴を持つ人物である。後藤の卓抜した先見性と行動力、リーダーシップは戦前から現代に至るまで人気があり、高く評価されてきた。本講義では、後藤新平というその卓抜した人物の評伝を通して、日本の近代史についてより深く理解し、歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。また小説に描かれた後藤新平もあわせて読むことで、歴史小説と歴史研究との違いも考察するきっかけとしたい。

教科書　/Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965〜67年〔復刻版〕
○北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』学陽書房、2013年
この他は講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　修業時代
第3回　愛知県病院長兼医学校長時代
第4回　衛生局時代（１）
第5回　衛生局時代（２）
第6回　台湾民政長官時代
第7回　南満州鉄道総裁時代
第8回　第2次桂内閣時代
第9回　第3次桂内閣時代
第10回　寺内正毅内閣時代
第11回　第一次世界大戦後の欧米歴訪
第12回　東京市長時代
第13回　対ヨッフェ交渉
第14回　関東大震災と帝都復興
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（80％）と平常点（授業への参加態度、コメント等で20％）で総合的に評価する。

歴史の読み方II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、講義の前までに、参考文献に挙げた郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』（学陽書房、2013年）の指定された範囲を読んで来るのが望ましい。また授業の中で適宜参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用することが期待される。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

そのとき世界は 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

そのとき世界は	HIS002F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：ミャンマー概説１（風土、文化）。
第３回：ミャンマー概説２（社会）。
第４回：１９３０年代の世界。
第５回：１９３０年代のミャンマー。
第６回：1930年農民大反乱。
第７回：第２次世界大戦と世界。
第８回：第２次世界大戦とミャンマー。
第９回：1960年代の世界。
第１０回：1960年代のミャンマー。
第１１回：1980年代の世界。
第１２回：1980年代のミャンマー
第１３回：現代のミャンマー。
第１４回：民主化のゆくえ。
第１５回：まとめ。
第１５回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート１００％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意 /Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

戦後の日本経済 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　土井　徹平 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		

戦後の日本経済	ECN002F

授業の概要　/Course Description

皆さんは、"Ｊａｐａｎ ａｓ Ｎｏ１"と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界Ｎｏ１の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、"Ｊａｐａｎ ａｓ Ｎｏ１"と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。

このことをふまえ本講義では、主に１９５０年代から６０年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション - 歴史を学ぶ意義 -
第２回　Ⅰ．現代社会の理想と現実
　　１．現代の若者の就職と結婚
第３回　２．キャリア形成を巡る理想と現実
第４回　Ⅱ．戦後文化の担い手
　　１．「高度経済成長期」と文化形成
第５回　２．「団塊の世代」
第６回　Ⅲ．「高度経済成長」への道程 - 主に人口論的観点から -
　　１．戦後の人口問題
第７回　２．「高度経済成長」と「人口ボーナス」
第８回　３．「高度経済成長」と人口集中 - 農村から都市へ -
第９回　４．「高度経済成長」と北九州
第１０回　Ⅳ．「幸せ」のモデル化とキャリア形成
　　１．「豊かさ」の象徴
第１１回　２．モデルのモデル - テレビを通じた文化の伝播 -
第１２回　３．「理想的」家族像の形成
第１３回　４．「勤勉性」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
第１４回　Ⅴ．「ロストジェネレーション」
　　１．「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
第１５回　２．モデルの喪失と新たな文化形成

戦後の日本経済 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…８０％　日常での授業への取り組み…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード　/Keywords

日本経済史　戦後史　高度経済成長　団塊の世代

ものと人間の歴史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ものと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ものと人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ものと人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ものと人間の歴史	HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノと人間の関わり方の現場に焦点をしぼり、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　自動車がつくった社会【モータリゼーション】
第3回　カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
第4回　自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
第5回　自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
第6回　自動車発明の前提１【職人文化】
第7回　自動車発明の前提２【互換性の思想】
第8回　自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
第9回　フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
第10回　自動車と道路【道路】
第11回　現代社会 - 「光の巨大」
第12回　環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
第13回　原子力政策と地域社会
第14回　情報化と外部問題 - 方法としての情報化
第15回　どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験　50%　　レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

ものと人間の歴史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード　/Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　山﨑　勇治 / 北方キャンパス　非常勤講師, 新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

人物と時代の歴史	HIS001F

授業の概要　/Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
　なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
　二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。
まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、３代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
　さらに、大英帝国の後を継いで１００年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第３代ジェファーソン大統領、第７代ジャクソン大統領、第１６代リンカン大統領、第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山﨑は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の２人について人物と時代を語る。その際、２人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。
　２１世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第１主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。
　イギリスでは１昨年からのＥＵ離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なＥＵ離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればＥＵ存続にも影響を与えかねない。
　こうした背景も視野に入れながら、第２次世界大戦後に果たした世界のアメリから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にＥＵ（ヨーロッパ連合）の形成過程において３度もＥＥＣ（とＥＣ）に申請してやっと認められたイギリスがなぜＥＵから出て行くと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書　/Textbooks

資料を配付します。（新村）

口述講義。その際資料を配布する。（山﨑）

人物と時代の歴史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

参考書(図書館蔵書には ◯) /References (Available in the library: ◯)

新渡戸稲造『武士道』（ＢＵＳＨＩＤＯ）
○藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
○中村彰彦『保科正之』（中公新書）
『歴代アメリカ大統領」（ブティック社）

毎日の新聞（朝日、毎日、読売などどの新聞でも良い）を購読のこと。（山﨑）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本,、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
（新村）
第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
第3回 【３・１１東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
第5回 聖徳太子（厩戸皇子）と【飛鳥・奈良時代】
第6回 アメリカ大統領I（初代ワシントン大統領、３代ジェファーソン大統領、７代ジャクソン大統領、１６代リンカン大統領）【独立戦争・建国・南北戦争時代】
第7回 アメリカ大統領II（第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領）第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

（山﨑）
第8回 ２１世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケ ル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
第9回 イギリスとＥＵの関係について
第10回 キャメロン首相と国民投票
第11回 なせＥＵ離脱派の投票率がが残留派より多かったのか
第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何かー
第13回 トランプ候補が勝利した理由
第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか–グローバル経済はどんな影響を受けるのか
第15回 総まとめーレポート提出の要件、提出締切日などの説明–

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70％）と平常の学習状況（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ヨーロッパ道徳思想史	PHR005F

授業の概要　/Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・文学・演劇・音楽・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は２年ごとに一部内容を入れ替える予定であり、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度と異なり、とくに近代以後の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　古代ギリシャ人の道徳【徳について】
３回　古代ギリシャ人の道徳【国について】
４回　ルネサンスの道徳観（１）【マキャヴェリ】
５回　ルネサンスの道徳観（２）【シェイクスピア】
６回　ルネサンスの道徳観（３）【まとめ】
７回　革命前夜の道徳観（１）【アンシャン・レジームの崩壊】
８回　革命前夜の道徳観（２）【『フィガロの結婚』解説前半】
９回　革命前夜の道徳観（３）【『フィガロの結婚』解説後半】
１０回　理性の道徳（１）【啓蒙思想】
１１回　理性の道徳（２）【近代道徳哲学の基本形】
１２回　事例検討（１）【功利性について】
１３回　事例検討（２）【厳格主義について】
１４回　道徳の黄昏（１）【道徳の破壊】
１５回　道徳の黄昏（２）【革命と権力】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私語などの迷惑行為に対しては厳しい態度で臨む。履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

キーワード　/Keywords

日本史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　古賀　康士 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本史	HIS110F

授業の概要　/Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？　それは単に過去の出来事を暗記するだけのことでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。
　この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書　/Textbooks

各回て゛レシ゛ュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業担当者か゛必要に応し゛て紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？
第２回：さまざまな「歴史」のとらえ方
第３回：「日本」とは何か？
第４回：古代国家と天皇
第５回：中世人の世界　–その法と社会–
第６回：越境するヒトとモノ
第７回：世界史のなかの「近世」
第８回：歴史人口学の世界
第９回：結婚と離縁　–江戸時代の夫婦のあり方–
第10回：貨幣からみる近世社会
第11回：日本の近代　–明治国家の建設–
第12回：帝国主義の時代
第13回：「日本人」と戦争
第14回：戦後日本とわたしたちの時代
第15回：まとめ　–「歴史」を学ぶということ–
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（40%、小レポートなどを含む）、期末試験（60%）によって評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書を積極的に読むようにして下さい。

日本史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東洋史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　植松　慎悟 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

東洋史	HIS120F

授業の概要　/Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義のガイダンス
2回　秦（１）–戦国時代から中国統一へ–
3回　秦（２）–始皇帝の統一政策–
4回　前漢前期（１）–項羽と劉邦–
5回　前漢前期（２）–高祖と冒頓単于–
6回　前漢前期（３）–呂后–
7回　前漢中期（１）–武帝–
8回　前漢中期（２）–昭帝–
9回　前漢中期（３）–宣帝–
10回　前漢後期（１）–元帝–
11回　前漢後期（２）–成帝–
12回　前漢後期（３）–哀帝–
13回　新の王莽 –王莽は「簒奪者」か–
14回　後漢の光武帝と「漢委奴国王」
15回　まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・・７０％　日常の授業への取り組み・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。

東洋史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくと、理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

中国　歴史　政治　社会　文化　皇帝制度

西洋史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　　疇谷　憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　　単位 /Credits　2単位　　学期 /Semester　1学期　　授業形態 /Class Format　講義　　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

西洋史	HIS130F

授業の概要　/Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】内はキーワード）
１回　「１３世紀世界システム」とヨーロッパ　【パックス・モンゴリカ】
２回　ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界　【港市国家】
３回　イベリア諸国の形成　【レコンキスタ】
４回　「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
５回　新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
６回　ポルトガル海洋帝国の形成①　【香辛料】
７回　ポルトガル海洋帝国の形成②　【点と線の支配】
８回　スペインによる植民地帝国の形成①　【ポトシ】
９回　スペインによる植民地帝国の形成②　【モナルキーア・イスパニカ】
１０回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
１１回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
１２回　環大西洋世界の展開①　【第二次英仏百年戦争】
１３回　環大西洋世界の展開②　【環大西洋革命】
１４回　ヨーロッパ勢力とアジアの海　【近代世界システム】
１５回　まとめ　【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内に課す小レポート（５回）・・・２５％、期末試験・・・７５％
（小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください（とくに世界史）。
高校世界史の教科書・資料集は有益です。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

特にありません。

西洋史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　外枦保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人文地理学	GE011OF

授業の概要　/Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　経済発展と人口移動(1)　近世・ 近代日本の都市発展
第3回　経済発展と人口移動(2)　現代日本の都市発展
第4回　農業立地と農村の変化(1)　農業立地論
第5回　農業立地と農村の変化(2)　日本農村の構造的変化
第6回　都市構造と都市システム(1)　中心地理論
第7回　都市構造と都市システム(2)　都市の内部構造
第8回　都市構造と都市システム(3)　都市と郊外
第9回　都市構造と都市システム(4)　都市システム
第10回　商業立地と流通システム(1)　チェーンストアの配送
第11回　商業立地と流通システム(2)　大型店と商店街
第12回　製造業の立地と集積(1)　工業立地論
第13回　製造業の立地と集積(2)　産業集積の実態
第14回　製造業の立地と集積(3)　産業集積の実態
第15回　製造業の立地と集積(4)　空間分業

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・ 事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人文地理学 【昼】

キーワード　/Keywords

土地地理学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　野井 英明 / Hideaki　Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

土地地理学	GE0111F

授業の概要　/Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学とされています。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を高めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書　/Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅　付・地図の読み方入門」(大沼一雄著　東洋選書)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　地理学では何を学ぶか
2回　地図の役割と地図の能力　【地理的情報を整理する働き】
3回　地図の歴史　【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
4回　地図にはどのような種類があるか　【地図には様々な種類がある】
5回　地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
6回　地図記号と景観　【地図を読む楽しみ】
7回　山の地形を地形図から描く１　(講義・実習)【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
8回　山の地形を地形図から描く２　(実習)
9回　地図を利用して地表を計測する
10回　地形図を利用して景観を読みとる１(実習)　【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
11回　地形図を利用して景観を読みとる２(実習)　【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
12回　リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
13回　空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
14回　衛星データを利用して地表の環境を調べる
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…30%　試験…70%

土地地理学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地誌学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　外枦保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地誌学	GE0112F

授業の概要　/Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。
本年度は、様々な空間スケールにおける、欧米諸国の経済地誌をテーマとする。特に、世界都市や鉱工業地域など産業構造の変動が大きな地域を中心に取り上げる。欧米諸国の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。
必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書　/Textbooks

松原　宏編　『先進国経済の地域構造』　東京大学出版会　2003年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　ヨーロッパ総論(1)：ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
第3回　ヨーロッパ総論(2)：ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
第4回　イギリス地誌：連合王国としてのイギリス、戦後イギリスの展開など
第5回　ドイツ地誌：石炭産地と工業地域の形成、グローバル化とドイツの諸都市など
第6回　スペイン地誌：スペインにおける民族主義、ビルバオの産業発展と地域再生など
第7回　フランス地誌：首都パリと郊外、ライシテと移民問題など
第8回　イタリア地誌：イタリアの産業と南北問題、自動車工業都市トリノなど
第9回　北欧地誌：福祉国家と国民負担、鉄鉱山都市キルナなど
第10回　ベネルクス地誌：ベルギーの言語と産業、環境意識とオランダの都市政策
第11回　スイス・ポーランド地誌：スイスの時計産業とジュラ地域、ポーランドの空間構造と経済
第12回　アメリカ合衆国地誌(1)：アメリカ合衆国の産業発展、鉄鋼都市ピッツバーグ
第13回　アメリカ合衆国地誌(2)：自動車工業都市フリント
第14回　アメリカ合衆国地誌(3)：アメリカの西部開拓、シリコンバレーの発展と展開
第15回　カナダ地誌：カナダ発展の歩み、カナダ経済・社会の諸特徴

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意　/Remarks

高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

地誌学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本国憲法 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本国憲法	LAW120F

授業の概要　/Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○浦部法穂『憲法学教室　第3版』（日本評論社、2016年）
○芦部信喜『憲法　第6版』（岩波書店、2015年）
○長谷部恭男『憲法　第6版』（新世社、2014年）
○野中俊彦ほか『憲法I　第5版』『憲法II　第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　憲法とは何か①–国家と憲法
第2回　憲法とは何か②–民主主義と立憲主義
第3回　平和主義①–平和主義と「正しい」戦争
第4回　平和主義②–日本国憲法の平和主義
第5回　表現の自由とその限界①–表現の自由の保障根拠
第6回　表現の自由とその限界②–規制の根拠と手段の妥当性
第7回　自己決定権とは何か①–憲法上の根拠と内容
第8回　自己決定権とは何か②–生命の自己決定？
第9回　自己決定権とは何か③–安楽死･尊厳死法制化の是非
第10回　議院内閣制①–国会と内閣の関係
第11回　議院内閣制②–国会の制度と運営
第12回　議院内閣制③–国会と選挙制度
第13回　憲法と死刑制度①–日本国憲法と死刑制度
第14回　憲法と死刑制度②–立法政策上の諸課題
第15回　全体まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100%）。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法史　立憲主義　基本的人権　統治機構

メンタル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　寺田　千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅠ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なこころで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書　/Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　メンタルヘルスを学ぶ目的
第2回　メンタルヘルスに関する基礎知識（１）【日本における現状と課題】
第3回　メンタルヘルスに関する基礎知識（２）【問題の種類】
第4回　メンタルヘルスに関する基礎知識（３）【よくある誤解】
第5回　ライフサイクルとメンタルヘルス（１）【子ども】
第6回　ライフサイクルとメンタルヘルス（２）【大人】
第7回　精神と行動の異変（１）【精神症状】
第8回　精神と行動の異変（２）【精神疾患①】
第9回　精神と行動の異変（３）【精神疾患②】
第10回　精神と行動の異変（４）【子どものころから現れやすい問題】
第11回　セルフケア①【ストレスの仕組み】
第12回　セルフケア②【ストレスマネジメント】
第13回　セルフケア③【相談の有用性】
第14回　セルフケア④【ソーシャルサポート】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%　　日常の授業への取り組み　50%

メンタル・ヘルスI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意　/Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰しも精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード　/Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　寺田　千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅡ	PSY002F

授業の概要　/Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なこころで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書　/Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　メンタルヘルスを学ぶ目的
第2回　自己分析①【心理テスト】
第3回　自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
第4回　精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
第5回　精神病理の紹介②【人格障害】
第6回　自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
第7回　自己覚知②【ライフヒストリー】
第8回　自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
第9回　リフレッシュ【感動、感謝】
第10回　事例検討①【非行】
第11回　事例検討②【虐待】
第12回　事例検討③【ホームレス】
第13回　事例検討④【孤立、社会的排除】
第14回　事例検討⑤【障害】
第15回　受援力、援助力

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%　　日常の授業への取り組み　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

メンタル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　髙西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習 ＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？ ＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書　/Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　健康体力の理解
３回　身体のケアについて　メンタル面
４回　身体のケアについて　フィジカル面
５回　ウォーミングアップとクーリングダウン
６回　用具を使って身体を整える
７回　セルフマッサージで身体を整える
８回　テーピングによる簡単な予防
９回　トレーニングによって身体を整える
１０回　ウエイトトレーニングの注意点
１１回　体脂肪を減らすトレーニング
１２回　柔軟性を高める運動　一人で行うもの
１３回　柔軟性を高める運動　二人で行うもの
１４回　腰痛と運動
１５回　運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　レポート…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義･実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）

１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　（実習）ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
４回　（講義）ストレッチの理論
５回　（実習）ストレッチの実際、ゲーム
６回　（講義）ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコペース】
７回　（実習）軽運動、エアロビクス･ダンス【笑顔】
８回　（講義）フェアプレイ、スポーツマンシップとは
９回　（実習）球技を楽しもう①（卓球、ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１０回　（実習）球技を楽しもう②（卓球、ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１１回　（講義）これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
１２回　（講義）これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
１３回　（講義）レッツ・スポーツ【計画・企画】
１４回　（実習）レッツ・スポーツ【主体性】
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　レポート　…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習 ＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？ ＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書　/Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康体力の理解
３回　身体のケアについて　メンタル面
４回　身体のケアについて　フィジカル面
５回　ウォーミングアップとクーリングダウン
６回　用具を使って身体を整える
７回　セルフマッサージで身体を整える
８回　テーピングによる簡単な予防
９回　トレーニングによって身体を整える
１０回　ウエイトトレーニングの注意点
１１回　体脂肪を減らすトレーニング
１２回　柔軟性を高める運動　一人で行うもの
１３回　柔軟性を高める運動　二人で行うもの
１４回　腰痛と運動
１５回　運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　レポート…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義･実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）

１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　（実習）ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
４回　（講義）ストレッチの理論
５回　（実習）ストレッチの実際、ゲーム
６回　（講義）ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコペース】
７回　（実習）軽運動、エアロビクス･ダンス【笑顔】
８回　（講義）フェアプレイ、スポーツマンシップとは
９回　（実習）球技を楽しもう①（卓球、ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１０回　（実習）球技を楽しもう②（卓球、ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１１回　（講義）これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
１２回　（講義）これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
１３回　（講義）レッツ・スポーツ【計画・企画】
１４回　（実習）レッツ・スポーツ【主体性】
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　レポート　…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

自己管理論	HSS003F

授業の概要　/Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活をすることは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション
２．防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか．被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
３．若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
４．体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
５．ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
６．地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
７．薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や，サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
８．歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
９．依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
１０．心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防，対処法について学ぶ
１１．喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒，薬物の正しい知識を学ぶ
１２．思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び，今後の人生設計を描いていく
１３．人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害，ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
１４．自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
１５．小試験（選択，記述）

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回のミニレポート・・70%　　小試験・・30%

自己管理論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、講義内容、講師が異なります。講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意　/Remarks

①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
⑤4分の3以上の出席を必要とする。
授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

外部講師の都合により，授業計画の順番が変更することがあります。また，「履修上の注意」にも記載していますが，外部講師による講義が主となるため，通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては，第一回のオリエンテーションでプリントを配布し，説明しますので，第一回目から必ず出席してください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（ソフトボール）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　キャッチボール（スローイング、キャッチング）
３回　ピッチング（ウインドミル）
４回　バッティング（トスバッティング）
５回　ゴロの捕球・フライの捕球
６回　守備練習
７回　フリーバッティング
８回　ベースランニング
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ゲーム（１）　内野の連係プレイ
１２回　ゲーム（２）　内外野の連係プレイ
１３回　ゲーム（３）　走者の進め方
１４回　ゲーム（４）　まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（ソフトボール）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（サッカー）【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サッカーの基本技術（リフティング）の習得と試しのゲーム（１）
３回　サッカーの基本技術（パス）の習得と試しのゲーム（２）
４回　サッカーの基本技術（シュート）の習得と試しのゲーム（３）
５回　サッカーの戦術（ディフェンス）の説明
６回　サッカーの戦術（ディフェンス）の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術（オフェンス）の説明
８回　サッカーの戦術（オフェンス）の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用説明
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合（１）パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合（２）戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合（３）まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（サッカー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（テニス）【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　ストロークの基礎練習（球出しによるフォアハンド練習）
３回　ストロークの基礎練習（ラリーの中でのフォアハンド練習）
４回　ストロークの基礎練習（球出しによるバックハンド練習）
５回　ストロークの基礎練習（ラリーの中でのバックハンド練習）
６回　サービスの基礎練習
７回　ボレーの基礎練習
８回　スマッシュの基礎練習
９回　ルールの説明
１０回　戦術の説明・実践
１１回　シングルスゲーム（１）ゲーム法の解説
１２回　シングルスゲーム（２）ゲームの実践
１３回　ダブルスゲーム（１）ゲーム法の解説
１４回　ダブルスゲーム（２）ゲームの実践
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（テニス）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（バレーボール）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）＜アンダーサーブ＞
３回　サーブ練習（２）＜オーバーサーブ＞
４回　パス練習（１）＜アンダーパス＞
５回　パス練習（２）＜オーバーパス＞
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）＜サイド＞
８回　アタック練習（２）＜センター＞
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　＜サーブに留意して＞
１２回　ゲーム（２）　＜サーブカットに意識して＞
１３回　ゲーム（３）　＜アタックに留意して＞
１４回　ゲーム（４）　＜フォーメーションに留意して＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（バレーボール）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト（ヘアピン・クリアー）
５回　基本的な打ち方とフライト（ドロップ）
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習（ヘアピンリターン）
８回　応用組み合わせ練習（ドロップリターン）
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（バドミントン）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　スキル獲得テスト①
４回　基本的な打ち方とフライト（ヘアピン・クリアー）
５回　基本的な打ち方とフライト（ドロップ）
６回　サービスの練習
７回　ゲームの展開方法と審判法の習得
８回　ダブルスのゲーム法の解説
９回～１４回　ダブルスゲーム（リーグ戦）
１５回　スキル獲得テスト②

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・エクササイズI（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず 履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（受講上の注意）
２回　バレーボール（１）　サーブ、パスの基礎練習
３回　バレーボール（２）　ルール説明とゲーム
４回　バドミントン（１）　基本的な打ち方とフライト練習
５回　バドミントン（２）　ダブルスのルール説明とゲーム
６回　卓球（１）　フォアハンド、バックハンドの基礎練習
７回　卓球（２）　ダブルスのルール説明とゲーム
８回　ソフトバレーボール（１）　サーブ、パス、アタックの基本練習
９回　ソフトバレーボール（２）　ルール説明とゲーム
１０回　ショートテニス（１）　フォアハンド、バックハンドの基礎練習
１１回　ショートテニス（２）　ルール作りとゲーム
１２回　選択種目（１）　【バレーボール】　【卓球】
１３回　選択種目（２）　【バドミントン】　【ショートテニス】
１４回　選択種目（３）　【ソフトバレーボール】　【バドミントン】
１５回　スキル獲得の確認（選択種目）

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　スキル獲得テスト　…３０％

フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、　ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　ストローク練習（１）＜スマッシュ＞
４回　ストローク練習（２）＜ドロップ、ハイクリアー＞
５回　ストローク練習（３）＜ドライブ、ヘアピン＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（２）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（３）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）＜ヘアピン＞
４回　フライト練習（２）＜ハイクリアー＞
５回　フライト練習（３）＜ドライブ、スマッシュ＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（２）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（３）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バスケットボール）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　集団行動〔走る（ラン）・跳ぶ（ジャンプ）・投げる（スロー）〕
３回　ボールに慣れる（ドリブル・パス・シュート）
４回　シュートの基礎練習（レイアップシュート・ジャンプシュート）
５回　応用練習（２対１）
６回　応用練習（３対２）
７回　ルール・戦術の説明
８回　簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
９回　スキルアップ（ドリブルシュート・リバウンド）
１０回　スキルアップ（速攻、スクリーンプレイ）
１１回　ゲーム（１）　ゾーンディフェンス（２－３）
１２回　ゲーム（２）　ゾーンディフェンス（２－１－２）
１３回　ゲーム（３）　マンツーマンディフェンス
１４回　ゲーム（４）　まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（バスケットボール）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バレーボール）【昼】

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）＜アンダーサーブ＞
３回　サーブ練習（２）＜オーバーサーブ＞
４回　パス練習（１）＜アンダーパス＞
５回　パス練習（２）＜オーバーパス＞
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）＜サイド＞
８回　アタック練習（２）＜センター＞
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　＜サーブに留意して＞
１２回　ゲーム（２）　＜サーブカットに意識して＞
１３回　ゲーム（３）　＜アタックに留意して＞
１４回　ゲーム（４）　＜フォーメーションに留意して＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（バレーボール）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）＜ヘアピン＞
４回　フライト練習（２）＜ハイクリアー＞
５回　フライト練習（３）＜ドライブ、スマッシュ＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（２）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（３）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サッカーの基本技術（リフティング）の習得と試しのゲーム（１）
３回　サッカーの基本技術（パス）の習得と試しのゲーム（２）
４回　サッカーの基本技術（シュート）の習得と試しのゲーム（３）
５回　サッカーの戦術（ディフェンス）の説明
６回　サッカーの戦術（ディフェンス）の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術（オフェンス）の説明
８回　サッカーの戦術（オフェンス）の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用説明
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合（１）パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合（２）戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合（３）まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト（ヘアピン・クリアー）
５回　基本的な打ち方とフライト（ドロップ）
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習（ヘアピンリターン）
８回　応用組み合わせ練習（ドロップリターン）
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　サッカーの基本技術（リフティング）の習得と試しのゲーム（１）
３回　サッカーの基本技術（パス）の習得と試しのゲーム（２）
４回　サッカーの基本技術（シュート）の習得と試しのゲーム（３）
５回　サッカーの戦術（ディフェンス）の説明
６回　サッカーの戦術（ディフェンス）の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術（オフェンス）の説明
８回　サッカーの戦術（オフェンス）の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用習得
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合（１）パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合（２）戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合（３）まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）＜ヘアピン＞
４回　フライト練習（２）＜ハイクリアー＞
５回　フライト練習（３）＜ドライブ、スマッシュ＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（３）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（４）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード　/Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。
①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
③コミュニケーションをとることに慣れる
④社会人としての基本的な態度を身につける
⑤自分について知る
授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
2回　進路の現状【就職･公務員･教員等の進路準備スケジュール】
3回　学生生活とキャリア【社会人基礎力･学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
4回　自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
5回　インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
6回　仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
7回　企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
8回　働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
9回　就職試験を体験する【ＳＰＩ、一般常識】
10回　様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
11回　キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
12回　自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
13回　就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
14回　学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
15回　まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　　授業内のレポート…20%　　まとめのレポート…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたことと相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。
①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード　/Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、ＳＰＩ、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。
①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
③コミュニケーションをとることに慣れる
④社会人としての基本的な態度を身につける
⑤自分について知る
授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
2回　進路の現状【就職･公務員･教員等の進路準備スケジュール】
3回　学生生活とキャリア【社会人基礎力･学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
4回　自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
5回　インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
6回　仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
7回　企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
8回　働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
9回　就職試験を体験する【ＳＰＩ、一般常識】
10回　様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
11回　キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
12回　自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
13回　就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
14回　学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
15回　まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　　授業内のレポート…20%　　まとめのレポート…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたことと の相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。
①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード　/Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、ＳＰＩ、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2016年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が13年連続で第１位、「主体性」が７年連続で第２位となり、以下、第３位「協調性」、第４位「チャレンジ精神」であり、コミュニケーション能力は当然として、主体性・協調性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？　それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な行動とは、以下の3つです。

１．コミュニケーション能力
２．幅広い視野・柔軟性
３．失敗を恐れない志向性

＜進め方と目標＞
3つの力を身に付けるために、まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、最終回までに身に付けていただきたいと思います。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ◯) /References (Available in the library: ◯)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究–能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫『キャリアデザイン入門１基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール『ハイフライヤー　次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー　自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子『改訂版　アサーション・トレーニング –さわやかな〈自己表現〉のために』金子書房
○中原淳・長岡健『ダイアローグ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取 一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社
○金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○見舘好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方–マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究 』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の3つの力：【1】コミュニケーション能力、【2】幅広い視野・柔軟性、【3】失敗を恐れない志向性
１回　全体ガイダンス【1】【2】【3】
２回　社会で求められる力【1】【2】【3】
３回　インターンシップや地域活動（先輩登壇）【1】【2】【3】
４回　傾聴【1】
５回　アサーション・トレーニング【1】
６回　アイデンティティ【1】【2】【3】
７回　働くということ（社会人登壇）【1】【2】【3】
８回　クリエイティブシンキング【1】【2】【3】
９回　就職活動を知る（内定者登壇）【1】【2】【3】
１０回　企業団体研究１【1】【2】
１１回　企業団体研究２【1】【2】
１２回　計画された偶発性【1】【2】【3】
１３回　ロールモデルインタビュー（社会人を取材する）【1】【2】【3】
１４回　ロールモデルインタビュー（先輩を取材する）【1】【2】【3】
１５回　本授業の統括【1】【2】【3】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト：72%
課題レポート（2回）：12%
最終レポート（相互評価）：16%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。
2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※眞鍋和博先生の「キャリアデザイン」（木曜・金曜）もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違って履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません（私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます（グループを固定する回もあり）。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、インターンシップや地域活動など、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要　/Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。
しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないでしょうか。
この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。
コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。
講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話を聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書　/Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス　　【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
2回　コミュニケーション上手になるために
　　【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
3回　聴くことの重要性
　　【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
4回　話す・伝えるテクニック
　　【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
5回　マナーおもてなしの心
　　【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
6回　美しい敬語をマスターする
　　【正しい日本語で話す、ニセ丁寧語、若者言葉とはなど】
7回　障害をお持ちの方へのコミュニケーション
　　【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
8回　プレゼンテーションを磨く
　　【プレゼンテーションとは　、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法（PREP法）など】
9回　質問応対力（面接）
　　【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
10回　グループディスカッション①
　　【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
11回　グループディスカッション②
　　【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
12回　ディベート
　　【ディベートとは、目的、流れなど】
13回　授業の振り返り
　　【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
14回　発表
　　【1人プレゼンテーション】
15回　まとめ
　　【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%、授業の成果物…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意　/Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事が社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事Ⅰ	CAR210F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状　②仕事の現実　③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1.企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2.仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3.大学時代にすべきこと・してほしいこと
4.学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

＜進め方＞講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

＜目標＞様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　全体ガイダンス
第2～15回　各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

＜2016年度＞株式会社電通九州 / 株式会社studio-L / 株式会社フジドリームエアラインズ / アイリスオーヤマ株式会社 / 福岡県庁 / 株式会社力の源ホールディングス（一風堂） / 株式会社ジャパネットホールディングス / 株式会社ワークスアプリケーションズ / 福岡地方検察庁 / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社西日本シティ銀行 / 株式会社星野リゾート・マネジメント / 株式会社ウェザーニューズ / 旭酒造株式会社（獺祭）

＜2015年度＞株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会（NHK） / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構（JAXA） / 九州旅客鉄道株式会社（JR九州） / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社（JAL） / 株式会社ニトリ / 北九州市

＜2014年度＞株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行） / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート…91%　　最終レポート…9%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

履修上の注意　/Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード　/Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事Ⅱ	CAR211F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞社会で働くために必要とされる課題解決能力を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。

＜進め方＞以下のスキームで地元企業団体（5団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。

1.地元企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2.提示された課題についての解決プランを作成します。
3.地元企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
　ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4.フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5.地元企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
　社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

＜目標＞現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる課題解決能力を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書　/Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　全体ガイダンス
第2～4回　各企業団体による課題提示
第5回　課題解決の方法についての講義
第6～10回　中間発表
第11～15回　最終発表

※参考
＜2016年度の企業団体と課題＞
■NHK北九州放送局
NHKの「ニュースブリッジ北九州」になるためには？
■北九州市役所
「ウーマンワークカフェ北九州」のPR戦略を考える
■株式会社力の源ホールディングス（一風堂）
訪日外国人旅行者の福岡の店舗と、帰国後の母国の店舗への来店促進
■株式会社タカギ
若者が浄水器を使う文化を育むにはどうすればいいのか？
■株式会社大創産業（DAISO）
アルバイトの採用と定着の戦略を考える

＜2015年度の企業団体＞
株式会社インテリジェンス / 北九州市役所 / 株式会社力の源ホールディングス（一風堂） / 株式会社タカギ / 株式会社スターフライヤー

＜2015年度の企業団体＞
株式会社名門大洋フェリー / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社井筒屋 / 株式会社タカギ / 北九州市役所

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）･･･50%
最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）･･･45%
最終レポート･･･5%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームにて振り返りを行ってください。

履修上の注意　/Remarks

※第1回で挑戦する課題とグループを決めますので、必ず第1回は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員（mitate@kitakyu-u.ac.jp）までメールで連絡をしてください。
※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の半分を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

キーワード　/Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、職業統合的学習、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習

地域の達人 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		

地域の達人	CAR212F

授業の概要　/Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・ 地域貢献活動を行っている方
・ 仕事以外で社会貢献・ 地域貢献活動を行っている方
・ 雇われないで個人として仕事をしている方
・ 会社やお店を経営している方
このような社会人をお招きし、以下の点についてお話していただきます。

①どんな活動をしているのか
②活動のねらい、社会的意義、成果
③活動するときに乗り越えた壁
④人、組織をどう動かすのか
⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回～13回　地域の達人によるお話
第14回　達人を振り返る
第15回　まとめ

【2015年度登壇者】
海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、、まりづくりプロデューサー、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事かどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、
2016年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　レポート…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主

サービスラーニング入門I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	地域で活動する上で求められる自己管理力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力		

サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要　/Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
・ 地域活動の実践と学び

教科書　/Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回目　ガイダンス　講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
第２回目　サービスラーニング概論①（サービスラーニングという概念と考え方）
第３回目　サービスラーニング概論②（サービスラーニングの理論と実践）
第４回目　地域活動概論①（地域活動の紹介）
第５回目　地域活動概論②（コミュティワークの紹介と応用）
第６回目　地域活動参加学生とのワークショップ①
第７回目　地域活動参加学生とのワークショップ②
第８回目　サービスラーニング活動の紹介
第９回目　サービスラーニングに向けて①（マナー・ ルール・ 手続き等について）
第１０回目　サービスラーニングに向けて②（サービスラーニングを通じた学びへの姿勢）
第１１回目　実践報告①
第１２回目　実践報告②
第１３回目　実践報告③
第１４回目　実践報告④
第１５回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート＋講義中の課題」（６０点）＋「実践報告レポート」（４０点）＝合計１００点評価

サービスラーニング入門I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意　/Remarks

本科目は「サービス・ラーニング」への実際の参加を前提をしています。したがって、「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を自ら探し、受け入れの了解を得、その後、実際にそこで活動をしてもらいます。また、サービスラーニングは参加者の積極性や自発性を必要とします。そのため、第一回目の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどについて「事前レポート」（１５００字程度）を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は必須とします。受講にあたっては、こうした課題に対して積極的にコミットし、自発性を持って望むことを求めます。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。

サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加したサービスラーニングの活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気付きを得られることを期待します。

教科書　/Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　サービス・ラーニング概論①（サービスラーニングの理論枠組み）
3　サービス・ラーニング概論②（実践としてのサービスラーニングについて）
4　サービス・ラーニングの実践と学び①（受入先の探索）
5　サービス・ラーニングの実践と学び②（実践にむけての心構えと準備）
6　サービス・ラーニングの実践に向けて①（実習先での学習計画の作成・提出）
7　サービス・ラーニングの実践に向けて②（学習計画書の修正・提出）
8　計画発表会①
9　計画発表会②
10　実践報告①
11　実践報告②
12　実践報告③
13　実践報告④
14　受講生による振り返り
15　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加貢献（50点）＋活動報告書（50点）＝100点

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため、講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は１学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していなければ履修登録を認めないというわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門Iの内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、そのための課題を別途課すことになります。そして、その課題＋「サービス・ラーニング入門II」の課題の両方を提出して初めて単位を認めるかたちとします。当然、この授業で「サービス・ラーニング入門I」の課題を提出したからといって、「サービス・ラーニング入門I」の単位を得ることはできません。以上の点を十分に留意し登録して下さい。
また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

プロジェクト演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。

プロジェクト演習Ⅰ	CAR280F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度（80%）、最終レポート（20%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。

プロジェクト演習Ⅱ	CAR281F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度（80%）、最終レポート（20%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習III 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロジェクト演習Ⅲ	CAR380F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度（80%）、最終レポート（20%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロジェクト演習Ⅳ	CAR381F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度（80%）、最終レポート（20%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習Ⅳ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor　読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月　正、永末　康介

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講 I	SPL001 F

授業の概要　/Course Description

将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す (聞く) 力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を楽しく読みながら、仲間と力を合わせたグループワークを行います。授業を通じて、「前へ踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」も身につけられるようアシストします。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。読売新聞朝刊 (講義開催週の水、木、金発行分、全15回分で税込み計1800円) を授業資料として活用します。 1 回目の授業で、新聞の受け取り方法等について説明します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第 1 回　　オリエンテーション
第 2 ～ 8 回　　文章の読み方、書き方、取材方法などを学ぶ
第 9 ～ 1 3 回　深く考える力を身につける
第 1 4 ～ 1 5 回　まとめ (発表や講評)

通常のグループワークのほか、「まわしよみ新聞」や、「新聞でハテナソン」という新たな手法 (論点や疑問点を整理して質問力を鍛える手法) を取り入れます。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加状況や課題などを通じて総合的に判断します (１００％)。[詳しくは1回目の授業で説明する予定です。]

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

新聞を毎回活用します。読んで興味があることを見つけることが事前・ 事後学習になります。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

キーワード　/Keywords

新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

教養特講II（グローバリゼーションと倫理的消費）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養特講

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅱ	SPL002F

授業の概要　/Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないか、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書　/Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。
○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション（講義の目的、進め方、文献案内など）、「倫理的消費」について
第2回　フェアトレードの誕生と展開
第3回　フェアトレードの役割と課題
第4回　アジア太平洋資料センター（PARC）編『もっと！フェアトレード』（DVD）の上映とディスカッション
第5回　本田正之氏による講演：「フェアトレード試食会の取り組み」（仮）
第6回　ファスト・ファッションとエシカル・ファッション
第7回　『ザ・トゥルー・コスト』（DVD）の上映（一部のみ）とディスカッション
第8回　宮下緑氏による講演：「フェアトレード・ショップの経営からみえてくるもの」（仮）
第9回　紛争問題と私たちの暮らし
第10回　アジア太平洋資料センター（PARC）編『スマホの真実』（DVD）の上映とディスカッション
第11回　ペットボトルが生み出す環境破壊
第12回　「100円ショップ」の舞台裏
第13回　アジア太平洋資料センター（PARC）編『徹底解剖！100円ショップ』の上映とディスカッション
第14回　八田麻理子氏による講演：「環境保全、貧困撲滅、フェアトレードをリンクさせる実践」（仮）
第15回　全講義内容を踏まえてのまとめとディスカッション

教養特講II（グローバリゼーションと倫理的消費）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題の提出（5回×20％）・・・ 100％
テーマが終了する度に、そこで学んだことについてレポートを課します（A4一枚程度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

講義の後はDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では、各方面で活躍されている外部講師の方を3名お招きし、実際の現場の話を交えてご講義いただきます。

キーワード　/Keywords

倫理的消費、フェアトレード、エシカル

教養特講Ⅳ（まなびと講座Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅳ	SPL004F

授業の概要　/Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要となる、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための知識や能力を育成することを目的とする。
また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1日目（第1回～第3回）
・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
2日目（第4回～第6回）
・ ESDとテーマ①
3日目（第7回～第9回）
・ ESDとテーマ②
4日目（第10回～第12回）
・ ESDとテーマ③
5日目（第13回～第15回）
・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

【2015年度実績】
1日目（第1回～第3回）
・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等　- 九州工業大学提供
2日目（第4回～第6回）
・ 国際理解　- 北九州市立大学提供
3日目（第7回～第9回）
・ 誰もが住みやすい社会のデザイン　- 西日本工業大学提供
4日目（第10回～第12回）
・ 生物多様性から生命を学ぶ　- 九州共立大学提供
5日目（第13回～第15回）
・ 微力だけど無力ではない。私たちが考える素敵な未来　- 北九州市立大学提供

教養特講Ⅳ（まなびと講座Ｂ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業への貢献度：60％
・ 授業における成果物：40％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

履修上の注意　/Remarks

・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション（小倉北区の魚町商店街内）」等にて開講されます。
・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育（子供）・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード　/Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－３．再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　佐々木　実 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－１．再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　佐々木　実 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－２．再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　佐藤　貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90% 、積極的な授業参加 … 10%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現 【昼】

担当者名 /Instructor　棚次　奎介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90% 、積極的な授業参加 … 10%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90% 、積極的な授業参加 … 10%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報メディア演習 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報メディア演習	INF330F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間に与える影響について考える力を身に付けることである。現代の情報社会では、様々な情報メディアが存在する。それらの情報メディアを通じて、情報が正確に伝わり、有効に活用される場合はよいが、逆に、誤って伝わったり、有害になったりする場合もある。様々な情報メディアの特性を十分に理解した上で、それらを受け入れ、不要・過剰な情報を制限し、有効活用し、効果的な情報を新しくつくることが大切である。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

●様々な情報メディアの特性に関する知識
●情報メディアが人間の心理や認知、学習に与える影響（情報受信）
●効果的な情報発信の方法（情報発信）
●情報メディアの有効活用の方法（情報活用）
●様々な情報メディアの課題点と解決策

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

教科書　/Textbooks

坂元昂 監修、高橋秀明、山本博樹 編著：メディア心理学入門、学文社、2002年、2,592円。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回目：情報メディアとは何か 【ガイダンス】【情報メディア】
２回目：情報メディアと人間の心理 【情報発信】【情報受信】
３回目：情報メディアとしての絵本・紙芝居と理解 【知的発達】【情緒的発達】
４回目：情報メディアとしてのマンガと理解【文字と絵】【記号】【コマ割り】
５回目：映像の理解と心理 【映像技法】
６回目：取扱い説明書の理解と学習【ヒューマン・インタフェース】【デザイン】【ユーザ・サポート】
７回目：メディアとしてのインターネット【CMC】【フレーミング現象】【データベース】【思い出のメディア】
８回目：電話・テレビ電話によるコミュニケーション 【情報伝達】【認知過程】
９回目：ゲームの心理的影響と学習【心的過程】【心理的影響】【実験ツール】【利用資源】
１０回目：テレビ・ビデオの心理的影響【コミュニケーション手段】【教育】
１１回目：文書・Webデザイン【内部設計】【外部設計】【レイアウト】【図と地】
１２回目：映像・ビジュアルデザイン【つくるリテラシー】【映像表現】
１３回目：製品・インタフェース・デザイン【ユーザビリティ】【認知工学】【感性工学】【人間工学】
１４回目：ワークプレイスのデザイン【エスノグラフィ】【エリアの生態系】【ディスパッチシステム】
１５回目：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業に対する積極的な取り組み・・・50%、レポート・・・40%、授業中に実施する課題・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。
授業終了後には、授業内容を反復すること。
チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかり行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。
「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

情報メディアと人間、コミュニケーション、情報メディアの送受信、情報メディアの活用、メディアデザイン

情報メディア演習 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報メディア演習	INF330F

授業の概要　/Course Description

この授業では，プログラミング初心者でもコンピュータを能動的に使いこなし，プログラミングの基礎能力を獲得することを目指す。具体的には以下のような項目を身につける：

- 同じ処理を何度もくり返さなくても済むように，処理を自動化するテクニック
- 状況に応じて異なる処理をおこなう条件分岐テクニック
- グラフィックスを思い通りに制御するテクニック

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータのしくみの理解 【ガイダンス】
２回　プログラムを書いてみる 【エディタ】【エラーとバグ】
３回　プログラムで図形を描く 【キャンバス】【点と線】【円】
４回　プログラムで色を制御する【RGB】【HSB】【アルファチャンネル】
５回　計算と変数 【データ型】
６回　くり返し処理 【ループ】【乱数】
７回　座標の概念
８回　条件分岐
９回　作品制作１
１０回　作品中間発表
１１回　プログラミングにおける関数
１２回　変数についてより詳しく【ローカル変数】【グローバル変数】【配列】
１３回　インタラクティブな操作性【イベント処理】
１４回　作品制作２
１５回　作品発表とまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に実施する課題提出… 90％ 、積極的な授業参加 … 10％

情報メディア演習 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考情報をはじめ，授業の資料等はe-Learningサイト「北方Moodle」に掲載する予定である。事前学習・事後学習に利用してもらいたい。また，プログラミング作品制作は授業外での作業が中心になる。

履修上の注意 /Remarks

プログラミングに関する知識は一切前提としないが，コンピュータ操作にある程度慣れておくと受講しやすいだろう。また，授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業の性格上，受講者数に制限を設けるため，受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業で，プログラミングに関する一通りの知識を習得すれば，さまざまなプログラミング言語への応用も可能になるだろう。

キーワード /Keywords

プログラミング，マルチメディア

英語I（比１-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　吉田　禎子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅰ	ENG101F

授業の概要　/Course Description

TOEIC(Test of English for International Communication)は、「世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を測定するテスト」です。2016年5月から試験形式と内容が改訂されましたので、本授業では新形式のTOEICに対応した内容を学習します。そのために英語コミュニケーション能力の基盤となる、英単語・英文法・リスニング・リーディング等の英語力の基礎を身につけることを目標とします。

教科書　/Textbooks

All-powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test
「TOEIC Listening and Reading Test オールパワフル演習」　CD付

SEIBIDO　￥2200

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、プリントを配布する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　テキスト、授業の目的、学習法の説明
２回　Unit 1 Airport 空港　(WH疑問文・基礎)　【フライトの予約】　【旅客のマナー】
３回　Unit 1 Airport　(動詞の形)　【ビジネスEメール】　【フライトの案内表示】
４回　Unit 2 Train Station　鉄道の駅(WH疑問文・応用)【道を尋ねる】　【鉄道博物館案内】
５回　Unit 2 Train Station　(準動詞)　【乗客の安全対策】　【ツアーのスケジュール表】
６回　Unit 3 Department Store　デパート(一般動詞)【客と店員の会話】　【ネット通販】
７回　Unit 3 Department Store(５文型)　【セールのチラシ】　【デパートのセール案内】
８回　Unit 4 Restaurant　(選択疑問文)　【食生活に関する話】　【料理の歴史の話】
９回　Unit 4 Restaurant　(関係詞と接続詞)　【顧客へのお知らせ】　【レストランのメニュー】
１０回　Unit 5 Hotel　ホテル　(否定疑問文)　【フロントでの会話】　【ホテルの紹介】
１１回　Unit 5 Hotel　(助動詞と仮定法)　【改装のお知らせ】　【ホテルの予約依頼の携帯メール】
１２回　Unit 6 Hospital　病院(付加疑問文)　【予定の変更】　【医師のアドバイス】
１３回　Unit 6 Hospital　(前置詞と冠詞)　【外来受付時間変更】　【病院での昇進に関するチャット】
１４回　Unit 7 Bank　銀行　(間接疑問文)　【客と行員の会話】　【ネットバンキングI】
１５回　Unit 7 Bank　(否定と比較)　【ネットバンキングII】　【新商品の案内】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・５０点　小テスト・・４０点　日常の授業への取り組み・・１０％
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の終了前に必ず次回の授業内容を知らせますので、次回の授業にはそれに沿って予習してきましょう。
授業内容の復習を行うこと。

英語I（比1-A）【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を必ず携帯

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

語学学習は予習科目であることを認識して欲しい。辞書を駆使して予習し、授業中に予習の段階で分からなかったことを解決すると各自の習熟度が高くなります。

キーワード　/Keywords

英語I (比 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor　下條　かおり / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

【授業の到達目標及びテーマ】
TOEICの新しい出題形式に対応した学習を通じて、限られた時間の中で最大限のスコアアップを目指します。自然な英語表現を用いたTOEIC LISTENING AND READING TESTに即した問題を解く中で、英語力を伸ばしてもらいたいと思います。
【授業の概要】
TOEIC LISTENING AND READING TESTのスコアアップのために知っておくべきことを講師が説明します。各回の授業内容に沿って、学習者は、教科書の問題に解答します。解答後、講師が解説を行います。受講に際しては、教科書と辞書を必ず持参してください。

教科書　/Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2
北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert 編著 朝日出版社 1,700円+税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

進度は学習者のペースによって変更される可能性があります。
第1回　講義概要・ TOEIC テストについて
第2回　Unit 1　Eating Out　文法：動詞(1)
第3回　Unit 2　Travel　文法：動詞(2)
第4回　Unit 3　Amusement　文法：品詞
第5回　Unit 4　Meetings　文法：分詞
第6回　Unit 5　Personnel　文法：不定詞と動名詞(1)
第7回　Unit 6　Shopping　文法：不定詞と動名詞(2)
第8回　Unit 7　Advertisement　文法：仮定法
第9回　Unit 8　Daily Life　文法：受動態
第10回　Unit 9　Office Work　文法：代名詞
第11回　Unit 10　Business　文法：数量詞・ 比較
第12回　Unit 11　Traffic　文法：接続詞
第13回　Unit 12　Finance and Banking　文法：前置詞
第14回　Unit 13　Media　文法：語彙
第15回　Unit 14　Health and Welfare

英語I（比1-B）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

学習態度 10%、小テスト 40%、 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配布資料を復習に利用してください。
教科書の音声は無料でストリーミング配信されていますので、予習・復習に利用してください。

履修上の注意　/Remarks

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書（病院の領収書など）を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。
初回講義時に必ずテキストを買って持ってきてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I（比１-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　十時　康 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅰ	ENG101F

授業の概要　/Course Description

このコースではTOEIC Listening & Reading Test（以下TOEICと略します）対策をします。テキストは2冊使用します。テキスト①で、TOEICの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。またテキスト②を使って、数多くの例文にあたりTOEICに必要な表現と語彙を習得していきます。

数多くの英語に触れることで、必然的に大量の英語をインプットすることになるでしょう。この授業では「解いて終わり」ではありません。その後、テキストや問題集の英語を使って、ディクテーションや音読などのトレーニングを徹底的に行って、語彙、文法事項の定着を目指します。

教科書　/Textbooks

①『公式TOEIC Listening & Reading問題集 1』Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会
②『TOEIC(R) テスト 基本例文700選』基本例文700選製作委員会、アルク

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○）

『一億人の英文法ーすべての日本人に贈る「話すため」の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ著、東進ブックス
○『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~ 6>』国際ビジネスコミュニケーション協会

英語I（比１-Ｃ）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．ガイダンス
２．基礎英語１【品詞の知識】
３．基礎英語２【日英語の語順の違い、スラッシュリーディング】
４．模擬試験１【Listening パート】
５．Part 1
６．Part 2
７．Part 3
８．Part 4
９．Listening パート復習
１０．模擬試験２【Reading パート】
１１．Part 5
１２．Part 6
１３．Part 7
１４．Reading パート復習
１５．まとめ

以上はテキスト①のものです。テキスト②はドリル的に毎回使用しますので、常時持参してください。

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(発言回数、自主学習状況):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%

受講生は学期中にTOEIC の受験が必要で、最終成績にもその結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語テストに備えて、学習した範囲の単語学習をする

履修上の注意　/Remarks

辞書を必ず持参すること。辞書なしでの英語学習など不可能です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語を「勉強する」という意識、また「勉強させられている」という意識を捨て、「英語学習者である」というアイデンティティを持つようにしましょう。

キーワード　/Keywords

英語I（比１-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅰ	ENG101F

授業の概要　/Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書　/Textbooks

"THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST"（早川幸治共著）金星堂　￥1,900＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、語彙演習
2回　Unit 1 Travel：Listening Section
3回　Unit 1 Travel：Listening Section
4回　Unit 1 Travel：Reading Section文法：時制
5回　Unit 2 Dining Out：Listening Section
6回　Unit 2 Dining Out：Reading Section文法：主述の一致
7回　Unit 3 Media：Listening Section
8回　Unit 3 Media：Reading Section文法：能動態・受動態
9回　Unit 4 Entertainment：Listening Section
10回　Unit 4 Entertainment：Reading Section文法：動名詞・不定詞
11回　Unit 5 Purchasing：Listening Section
12回　Unit 5 Purchasing：Reading Section文法：代名詞
13回　Unit 6 Clients：Listening Section
14回　Unit 6 Clients：Reading Section文法：品詞
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%
最終評価にはTOEICを受験したかどうかが反映されるので、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語I（比1-D）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回授業の範囲は宿題として必ずやってくること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II（比１-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書　/Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

Week 1　Orientation
Week 2　Shadow Talking
Week 3　Speed
Week 4　Repeat
Week 5　Conversation Style
Week 6　Speaking on Topics
Week 7　Control Techniques 1
Week 8　Control Techniques 2
Week 9　Workarounds
Week 10　Charting 1
Week 11　Charting 2
Week 12　Group Conversation 1
Week 13　Group Conversation 2
Week 14　Test Practice
Week 15　Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語II（比１-Ａ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意　/Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II (比 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor　下條　かおり / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

【授業の到達目標及びテーマ】
TOEICの新しい出題形式に対応した学習を通じて、限られた時間の中で最大限のスコアアップを目指します。自然な英語表現を用いたTOEIC LISTENING AND READING TESTに即した問題を解く中で、英語力を伸ばしてもらいたいと思います。
【授業の概要】
TOEIC LISTENING AND READING TESTのスコアアップのために知っておくべきことを講師が説明します。各回の授業内容に沿って、学習者は、教科書の問題に解答します。解答後、講師が解説を行います。受講に際しては、教科書と辞書を必ず持参してください。

教科書　/Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3
北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert 編著 朝日出版社 1,700円+税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

進度は学習者のペースによって変更される可能性があります。
第1回　講義概要・ TOEIC テストについて
第2回　Unit 1　Eating Out　文法：動詞(1)
第3回　Unit 2　Travel　文法：動詞(2)
第4回　Unit 3　Amusement　文法：品詞
第5回　Unit 4　Meetings　文法：分詞
第6回　Unit 5　Personnel　文法：不定詞と動名詞(1)
第7回　Unit 6　Shopping　文法：不定詞と動名詞(2)
第8回　Unit 7　Advertisement　文法：仮定法
第9回　Unit 8　Daily Life　文法：受動態
第10回　Unit 9　Office Work　文法：代名詞
第11回　Unit 10　Business　文法：数量詞
第12回　Unit 11　Traffic　文法：接続詞
第13回　Unit 12　Finance and Banking　文法：前置詞
第14回　Unit 13　Media　文法：語彙
第15回　Unit 14　Health and Welfare

成績評価の方法　/Assessment Method

学習態度 10%、小テスト 40%、 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

英語II（比１-Ｂ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配布資料を復習に利用してください。
教科書の音声は無料でストリーミング配信されていますので、予習・復習に利用してください。

履修上の注意　/Remarks

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書（病院の領収書など）を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。
初回講義時に必ずテキストを買って持ってきてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II（比１-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　十時　康 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

このコースではTOEIC Listening & Reading Test（以下TOEICと略します）対策をします。テキストは2冊使用します。テキスト①で、TOEICの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。またテキスト②を使って、数多くの例文にあたりTOEICに必要な表現と語彙を習得していきます。

数多くの英語に触れることで、必然的に大量の英語をインプットすることになるでしょう。この授業では「解いて終わり」ではありません。その後、テキストや問題集の英語を使って、ディクテーションや音読などのトレーニングを徹底的に行って、語彙、文法事項の定着を目指します。

テキストは前期と同じものを使用します。

教科書　/Textbooks

①『公式TOEIC Listening & Reading問題集 1』Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会
②『TOEIC(R) テスト 基本例文700選』基本例文700選製作委員会、アルク

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○）

『一億人の英文法ーすべての日本人に贈る「話すため」の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ著、東進ブックス
○『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~ 6>』国際ビジネスコミュニケーション協会

英語II（比１-Ｃ）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．ガイダンス
２．前期学習範囲の復習【Listening パート】
３．前期学習範囲の復習【Reading パート】
４．模擬試験１【Test２　Listening パート】
５．Part 1
６．Part 2
７．Part 3
８．Part 4
９．Listening パート復習
１０．模擬試験２【Test２　Reading パート】
１１．Part 5
１２．Part 6
１３．Part 7
１４．Reading パート復習
１５．まとめ

以上はテキスト①のものです。テキスト②はドリル的に毎回使用しますので、常時持参してください。

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(発言回数、自主学習状況):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%

受講生は学期中にTOEIC の受験が必要で、最終成績にもその結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語テストに備え準備を怠らないこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II（比１-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書　/Textbooks

"THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST"（早川幸治共著）金星堂　￥1,900＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、Unit 7 Recruiting：Listening Section
2回　Unit 7 Recruiting：Reading Section文法：品詞
3回　Unit 8　Personnel：Listening Section
4回　Unit 8　Personnel：Reading Section文法：品詞
5回　Unit 9 Advertising：Listening Section
6回　Unit 9 Advertising : Reading Section文法：比較
7回　Unit 10 Meeting : Listening Section
8回　Unit 10 Meeting：Reading Section文法：前置詞
9回　Unit 11 Finance：Listening Section
10回　Unit 11 Finance：Reading Section文法：接続詞
11回　Unit 12 Offices：Listening Section
12回　Unit 12 Offices：Reading Section文法：接続詞・前置詞
13回　Unit 13 Daily Life : Listening Section
14回　Unit 13 Daily Life : Reading Section文法：関係代名詞
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語II（比１-Ｄ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回授業の範囲は宿題として必ずやってくること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語III（比１-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書　/Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing（アルマ出版）￥2520

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　Explanation of the course
2回　Getting acquainted
3回　Sounding natural 1: silence and conversation
4回　Talking about daily life
5回　Sounding natural 2: dynamic conversations
6回　Giving longer answers and answering implicit questions
7回　Talking about university life
8回　Talking about skills
9回　Talking about family
10回　Talking about travel
11回　Talking about free time
12回　Talking about money
13回　Talking about our hometowns
14回　Talking about our futures
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

なし

英語III（比１-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語III（比１-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書　/Textbooks

First Class Service 2: :Student Text with Audio CD, ISBN 9789814319947

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

First Class Service 2: :Student Text with Audio CD, ISBN 9789814319947

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Orientation
Week 2: Answering the phone
Week 3: Where are you from?
W4: Saying sorry
W5: Suggesting alternatives
W6: Choosing options
W7: Directions
W8: Recommendations
W9: Ordering in restaurants
W10: Transportation
W11: Reading manuals
W12: Repeating information
W13: Apologizing
W14: Explaining rules
W15: Thanking customers/final review

成績評価の方法　/Assessment Method

Attendance - 20%
Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

none

英語III（比１-Ｂ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

tourism

英語III（比１-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

This course will improve fluency. Students will use the four language skills (writing, reading, listening, speaking) to improve their confidence and take the next step in their English education. The tasks aim to review previously learnt material as well as challenging students to improve their communicative skills freely with their friends.

教科書　/Textbooks

World Link 2, by S. Stempleski, N. Douglas, J. Morgan.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：　Introduction: Explanation of the course aims, grading, expectations, and general advice about how to study effectively.
第２回：Unit 1 - Title: All about me. Lesson A
第３回：Unit 1, Lesson B
第４回：Unit 2 - Title: Let's eat! Lesson A
第５回：Unit 2, Lesson B
第６回：Unit 3 - Title: Unsolved Mysteries. Lesson A
第７回：Unit 3, Lesson B
第８回：Unit 4 - Title: Today's Trends. Lesson A
第９回：Unit 4, Lesson B
第１０回：Unit 5 - Title: Out and About. Lesson A
第１１回：Unit 5, Lesson B
第１２回：Unit 6 - Title: Student Life. Lesson A
第１３回：Unit 6, Lesson B
第１４回：All outstanding work to be completed, exam explanation.
第１５回：まとめ
In addition, students will be given 10 questions and 90 seconds per question to have mini conversations with 10 different people at the end of the lesson.

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam: 70%, Class participation: 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

To prepare for the lesson, please read ahead of time the contents of the book for the next lesson. In addition, some practice questions for the final exam will be given (in the final class) to give students confidence and peace of mind.

履修上の注意　/Remarks

英語III（比１-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Please check the textbook ahead of time.
Sleep well and keep regular hours.
Don't use phones in the class.

キーワード　/Keywords

Education is the key to a better future.

英語III（比１-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書　/Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

Week 1　Orientation
Week 2　Shadow Talking
Week 3　Speaking for Speed
Week 4　Repeating for Communication
Week 5　Conversation Style
Week 6　Expand and Recycle
Week 7　Speaking on Topics
Week 8　Workarounds
Week 9　Speaking on Topics
Week 10　Disagreement
Week 11　Reason Articulation
Week 12　Group Conversation 1
Week 13　Group Conversation 2
Week 14　Test Practice
Week 15　Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語III（比１-Ｄ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意　/Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.
Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語IV（比１-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書　/Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing（アルマ出版）￥2520

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　Introduction to the course and online resources
2回　Registering in the online course
3回　Talking about breaks and vacations
4回　Talking about free time activities
5回　Talking about hobbies
6回　Talking about music
7回　Talking about movies
8回　Talking about TV, reading, and games
9回　Talking about eating
10回　Likes and dislikes
11回　Exotic foods and eating out
12回　Imagining life in five years
13回　Discussing life issues
14回　Dream jobs
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

なし

履修上の注意　/Remarks

英語IV（比１-Ａ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語IV (比 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・ クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書　/Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

Week 1　Orientation
Week 2　Shadow Talking
Week 3　Speed
Week 4　Repeat
Week 5　Conversation Style
Week 6　Speaking on Topics
Week 7　Control Techniquesn (Level1)
Week 8　Control Techniques (Level2)
Week 9　Workarounds
Week 10　Chartingn (Level1)
Week 11　Charting (Level2)
Week 12　Group Conversation (Level1)
Week 13　Group Conversation (Level2)
Week 14　Test Practice
Week 15　Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語IV（比1-B）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意　/Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語IV（比１-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

This course will improve fluency. Students will use the four language skills (writing, reading, listening, speaking) to improve their confidence and take the next step in their English education. The tasks aim to review previously learnt material as well as challenging students to improve their communicative skills freely with their friends.

教科書　/Textbooks

World Link 2, by S. Stempleski, N. Douglas, J. Morgan.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：Welcome back! Let's talk about the summer vacation.
第２回：Unit 7 - Title: Let's Celebrate! Lesson A.
第３回：Unit 7, Lesson B.
第４回：Unit 8 - Title: Storytelling. Lesson A.
第５回：Unit 8, Lesson B.
第６回：Unit 9 - Title: The World of Work. Lesson A.
第７回：Unit 9, Lesson B.
第８回：Unit 10 - Title: Telecommunications. Lesson A.
第９回：Unit 10, Lesson B.
第１０回：Unit 11 - Title: Technology Today. Lesson A.
第１１回：Christmas quiz.
第１２回：Unit 11, lesson B.
第１３回：Unit 12 - Title: Let's Go Somewhere!
第１４回：Unit 12, Lesson B. まとめ
第１５回：All outstanding work to be completed, exam explanation.
If time permits, we may do some extra speaking practice.

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam: 70%, Class participation: 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

履修上の注意　/Remarks

英語IV（比1-C）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Please check the textbook ahead of time.
Don't use phones in the class.

キーワード　/Keywords

Education is the key to a better future.

英語Ⅳ（比１-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　永末　康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１－Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要　/Course Description

基礎的な英語運用能力定着のため、コミュニケーション力の基盤作りを目的とする授業を行う。自国の文化との比較をしながら、英語圏の文化理解を深めることも目指したい。

教科書　/Textbooks

特になし。
適宜プリントなどを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜授業時や北方Moodleにて紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション、授業テーマについて(1)
２回　授業テーマについて(2)
３回　Daily Life (１)
４回　Daily Life (２)
５回　英語とのつきあい方(1)
６回　Time Expression
７回　Place Expression (１)
８回　Place Expression (２)
９回　On the Telephone
１０回　Student Housing
１１回　Student Activities (１)
１２回　Student Activities (２)
１３回　Complaining
１４回　英語とのつきあい方(2)
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験あるいは期末課題…30%、平常の学習状況…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、その指示に従うこと。

履修上の注意　/Remarks

初回授業に必ず出席すること。

英語IV（比1-D）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（比２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　ダンカン・ウォトリィ / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｖ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

This course has been designed to help students develop their English skills in way that is reflected through progress to higher levels of achievement in the TOEIC test. Additional aims include helping students identify and better manage their own learning as well as giving students an opportunity to write about their own lives in a short English journal. Activities include homework completed before and checked in each lesson, listening and speaking, group discussion of example problems as well as the completion of many TOEIC practice examples provided with the core text.

教科書　/Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 Goal 700 4th edition
Atsushi Mizumoto, Mark D. Stafford
Kirihara Shoten

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Introduction
Week 2　Unit 1
Week 3　Unit 2
Week 4　Unit 3
Week 5　Unit 4/5
Week 6　Unit 5/6
Week 7　Unit 6/7
Week 8　Unit 8
Week 9　Unit 9
Week 10 Unit 10/11
Week 11　Unit 11/12
Week 12　Unit 12/13
Week 13　Unit 14
Week 14　Unit 15
Week 15　Journal Review and Test Preparation

英語V（比２-Ａ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

Journal 20%
End of Semester Test 40%
In-class Task Participation 20%
Homework 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will be asked to buy a A4 or B5 notebook and keep a simple weekly diary in English. They should be prepared to share this diary with they classmates or use some of the contents for class discussion.

履修上の注意　/Remarks

Journal Writing
Completion of assigned homework exercises

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Everybody can benefit from this course. Let's enjoy improving our English skills together!

キーワード　/Keywords

英語V（比２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　比２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語V	ENG201F

授業の概要　/Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　リスニング　プレテスト
2回　リスニング　ユニット1、リーディング　ユニット1
3回　リスニング　ユニット2、リーディング　ユニット2
4回　リスニング　ユニット3、リーディング　ユニット3
5回　リスニング　ユニット4、リーディング　ユニット4
6回　リスニング　ユニット5、リーディング　ユニット5
7回　リスニング　ユニット6、リーディング　ユニット6
8回　リスニング　ユニット７、リーディング　ユニット7
9回　リスニング　ユニット8、リーディング　ユニット8
10回　リスニング　ユニット9、リーディング　ユニット9
11回　リスニング　ユニット10、リーディング　ユニット10
12回　リスニング　ユニット11、リーディング　ユニット11
13回　リスニング　ユニット12、リーディング　ユニット12
14回　リスニング　ポストテスト
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・小テスト　80%
課題　20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語V（比２-Ｂ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（比２-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｖ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書　/Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 1 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Daily Life
２回 Places
３回 People
４回 Travel
５回 Business
６回 Office
７回 Technology
８回 Personnel
９回 Management
１０回 Purchasing
１１回 Finances
１２回 Media
１３回 Entertainment
１４回 Health
１５回 Restaurants

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　…　90%　　日常の授業への取組み　…　10%
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

英語V（比２-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（比２-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　比２ - Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語V	ENG201F

授業の概要　/Course Description

Theme: Japanese culture viewd from different cultures
Aim: 1. Contemplate on multiculturalism and muti-culture communication through the reading material.
2. Enhance students' Engish proficiency through the TOEIC-based textbook.

教科書　/Textbooks

Yoshizuka, Hiroshi et al. 2017. Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test - Revised Edition(TOEIC LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ –改訂新版–). Tokyo: Seibido.

Gordenker, Alice et al. 2017. Surprising Japan! 2 (『ニッポンの不思議2』). Tokyo: Shohakusha.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　Introduction・TOEIC Unit 1　Surprising Japan! 2 Chapter 1
第2回　TOEIC Unit 2　Surprising Japan! 2 Chapter 2
第3回　TOEIC Unit 3　Surprising Japan! 2 Chapter 3
第4回　TOEIC Unit 4 Surprising Japan! 2 Chapter 4
第5回　TOEIC Unit 5　Surprising Japan! 2 Chapter 5
第6回　TOEIC Unit 6　Surprising Japan! 2 Chapter 6
第7回　TOEIC Unit 7　Surprising Japan! 2 Chapter 7
第8回　TOEIC Unit 8　Surprising Japan! 2 Chapter 8
第9回　TOEIC Unit 9　Surprising Japan! 2 Chapter 9
第10回　TOEIC Unit 10　Surprising Japan! 2 Chapter 10
第11回　TOEIC Unit 11　Surprising Japan! 2 Chapter 11
第12回　TOEIC Unit 12　Surprising Japan! 2 Chapter 12
第13回　TOEIC Unit 13　Surprising Japan! 2 Chapter 13
第14回　TOEIC Unit 14　Surprising Japan! 2 Chapter 14
第15回　Surprising Japan! 2 Chapter 15　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Participation in class…20%　Final exam…80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語V（比２-Ｄ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Preparation
1. Look up any words or expressions that you do not know or have forgotten.
   Not having done so may result in deduction from the assessment in participation.
2. Work on the exercises in the TOEIC textbook.
3. Grasp the content of the reading material.

Review
1. Review the exercieses in the TOEIC textbook, forcussing on the questions that you did not get right.
2. Review the reading material and make sure that you understand its content., vocabulary and grammar.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（比２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　安丸　雅子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書　/Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test　「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」　安丸雅子・ 砂川典子 他著　金星堂　￥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義概要・ガイダンス
2回　Unit1　Daily Life　[基本5文型]
3回　Unit1　Daily Life　[基本5文型]
4回　Unit2　Eating Out & Leisure Activities　[品詞]
5回　Unit2　Eating Out & Leisure Activities　[品詞]
6回　Unit3　Cooking & Purchasing　[名詞・主語と動詞の一致]
7回　Unit3　Cooking & Purchasing　[名詞・主語と動詞の一致]
8回　Unit4　Traffic & Travel　[形容詞・副詞]
9回　Unit4　Traffic & Travel　[形容詞・副詞]
10回　Unit5　Advertising & ICT　[時制]
11回　Unit5　Advertising & ICT　[時制]
12回　Unit6　Production & Logistics　[接続詞・前置詞]
13回　Unit6　Production & Logistics　[接続詞・前置詞]
14回　Review Test 1 (Unit1～6)
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

英語VI（比２-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（比２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書　/Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 2 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Daily Life
２回 Places
３回 People
４回 Travel
５回 Business
６回 Office
７回 Technology
８回 Personnel
９回 Management
１０回 Purchasing
１１回 Finances
１２回 Media
１３回 Entertainment
１４回 Health
１５回 Restaurants

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　…　90%　　日常の授業への取組み　…　10%
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

英語VI（比２-Ｂ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（比２-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　リスニング　プレテスト
2回　リスニング　ユニット１、リーディング　ユニット1
3回　リスニング　ユニット2、リーディング　ユニット2
4回　リスニング　ユニット3、リーディング　ユニット3
5回　リスニング　ユニット4、リーディング　ユニット4
6回　リスニング　ユニット5、リーディング　ユニット5
7回　リスニング　ユニット6、リーディング　ユニット6
8回　リスニング　ユニット７、リーディング　ユニット7
9回　リスニング　ユニット8、リーディング　ユニット8
10回　リスニング　ユニット9、リーディング　ユニット9
11回　リスニング　ユニット10、リーディング　ユニット10
12回　リスニング　ユニット11、リーディング　ユニット11
13回　リスニング　ユニット12、リーディング　ユニット12
14回　リスニング　ポストテスト
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・小テスト　80%
課題　20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語VI（比２-Ｃ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（比２-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　比２ - Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

Theme: Japanese culture viewd from different cultures
Aim: 1. Contemplate on multiculturalism and muti-culture communication through the reading material.
2. Enhance students' English proficiency through the TOEIC-based textbook.

教科書　/Textbooks

Tsuruoka, Tomoyuki et al. 2017. The TOEIC Listening & Reading Test CIRCUIT（語彙から始めるTOEIC L & R総合演習）. Tokyo: Shohakusha.

Gordenker, Alice et al. 2017. Surprising Japan! 2（『ニッポンの不思議2』）. Tokyo: Shohakusha.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

授業時に紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　TOEIC Unit 1 Tranceculture Unit 1 The Concept of Beauty
第2回　TOEIC Unit 2 Tranceculture Unit 2 Greek Mythology
第3回　TOEIC Unit 3 Tranceculture Unit 3 The Bible
第4回　TOEIC Unit 4 Tranceculture Unit 4 Renaissance
第5回　TOEIC Unit 5 Tranceculture Unit 5 The Structure of Fictional Literature
第6回　TOEIC Unit 6 Tranceculture Unit 6 The Theater and Acting
第7回　TOEIC Unit 7 Tranceculture Unit 7 The English Language
第8回　TOEIC Unit 8 Tranceculture Unit 8 The Rise of Cities
第9回　TOEIC Unit 9 Tranceculture Unit 9 Trusting in Recorded History
第10回　TOEIC Unit 10 Tranceculture Unit 10 Battles on Board Games
第11回　TOEIC Unit 11 Tranceculture Unit 11 How Democracy Works
第12回　TOEIC Unit 12 Tranceculture Unit 12 Marriage and the State
第13回　TOEIC Unit 13 Tranceculture Unit 13 The Meaning of Prayers
第14回　TOEIC Unit 14 Tranceculture Unit 14 Mankind and Laughter
第15回　TOEIC Unit 15 Tranceculture Unit 15 The Importance of Discipline

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…20%　期末試験…80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語VI（比２-Ｄ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Preparation
1. Look up any words or expressions that you do not know or have forgotten.
   Not having done so may result in deduction from the assessment in participation.
2. Work on the exercises in the TOEIC textbook.
3. Grasp the content of the reading material.

Review
1. Review the exercieses in the TOEIC textbook, forcussing on the questions that you did not get right.
2. Review the reading material and make sure that you understand its content., vocabulary and grammar.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII（比２-Ａ）【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor　シェーン・ドイル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　比２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

This course will teach students how to formulate their ideas and express those ideas in clear English. Students will be able to practice their English communication skills in small groups and each week a different topic will be presented to the class for discussion. Students are expected to increase their vocabulary throughout the course and by the end of the course feel confident about giving their own ideas and presenting those ideas to their peers in English.

教科書　/Textbooks

Inspire 2 By Pamela Hartmann, Nancy Douglas, Andrew Boon

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

In Consultation with the instructor

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Food
Week 3: Food
Week 4: Cities
Week 5: Cities
Week 6: Jobs
Week 7: Jobs
Week 8: Music
Week 9: Music
Week 10: Journeys
Week 11: Journeys
Week 12: Family
Week 13: Family
Week 14: Presentation Preparation
Week 15: Presentation

成績評価の方法　/Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Presentation and Discussion 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will need to complete all homework prior to coming to class and listen to assigned material.

履修上の注意　/Remarks

英語VII（比２-Ａ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII（比２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書　/Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

Week 1　Orientation
Week 2　Shadow Talking
Week 3　Speaking for Speed
Week 4　Repeating for Communication
Week 5　Conversation Style
Week 6　Expand and Recycle
Week 7　Speaking on Topics
Week 8　Workarounds
Week 9　Speaking on Topics
Week 10　Disagreement
Week 11　Reason Articulation
Week 12　Group Conversation 1
Week 13　Group Conversation 2
Week 14　Test Practice
Week 15　Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語VII（比２-Ｂ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意　/Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.
Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII（比２-Ｃ）【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　比２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

教科書　/Textbooks

Language to go, Intermediate. Pearson Crace and Wileman

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

-Please use a dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　It's absolutely true, adjectives and intensifiers
2回　Are you a morning person, asking about and describing routines
3回　What's in a name, making decisions and giving reasons
4回　Career paths, education
5回　On the other hand, describing abilities
6回　Corporate spying, describing reasons for actions
7回　Teamwork, talking about your experience
8回　Nice to meet you, what to say in social situations
9回　Australia, making suggestions
10回　Take it easy, expressions with take
11回　Determination, comparing past and present habits
12回　Money matters, talking about money
13回　The river, phrasal verbs
14回　Radio wedding, talking about relationships
15回　Exam

成績評価の方法　/Assessment Method

80% exam and 20% peer journal

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will be expected to write a peer journal every week about what they have done and exchange it with another student. They will also be expected to do textbook assigned exercises.

履修上の注意　/Remarks

英語VII（比２-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII（比２-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書　/Textbooks

"Welcome to the TOEIC Test" 『TOEICテストへようこそ』（北原良夫著）朝日出版社　￥1,800+税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、語彙演習
2回　Unit 1、文法：動詞と時制(1)
3回　Unit 2、文法：動詞と時制(2)、Unit 1語彙小テスト
4回　Unit 3、文法：動詞と時制(3)、Unit 2語彙小テスト
5回　Unit 4、文法：仮定法、Unit 3語彙小テスト
6回　Unit 5、文法：準動詞(1)、Unit 4語彙小テスト
7回　Unit 6、文法：準動詞(2)、Unit 5語彙小テスト
8回　復習
9回　Unit 7、文法：準動詞(3)、Unit 6語彙小テスト
10回　Unit 8、文法：準動詞(4)、Unit 7語彙小テスト
11回　Unit 9、文法：形容詞・副詞と比較、Unit 8語彙小テスト
12回　Unit 10、文法：不定代名詞、Unit 9語彙小テスト
13回　Unit 11、文法：関係詞(1)、Unit 10語彙小テスト
14回　Unit 12、文法：関係詞(2)、Unit 11語彙小テスト
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：60%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

英語VII（比２-Ｄ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（比２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　シェーン・ドイル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VIII	ENG212F

授業の概要　/Course Description

This course focuses on developing discussion and listening skills. Students will listen to short listenings on different topics each week. Students will discuss these topics in relation to their own experiences. Students will become familiar with the vocabulary and expressions associated with the individual topics.

教科書　/Textbooks

The instructor will provide the material.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the course
Week 2: Cinema Etiquette
Week 3: Cinema Etiquette
Week 4: Discussion tedt #1
Week 5: Young, British , Sober
Week 6: Young, British , Sober
Week 7: Discussion test #2
Week 8: Going where the work is
Week 9: Going where the work is
Week 10: Discussion test #3
Week 11: Showrooming
Week 12: Showrooming
Week 13:Poject preparation
Week 14: Project preparation
Week 15: Present project

成績評価の方法　/Assessment Method

Listening Tests 30%
Discussion Tests 30%
Homework 20%
Final Presentation 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students must listen to the required listenings before coming to class.

英語VIII（比２-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（比２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書　/Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

Week 1　Orientation
Week 2　Shadow Talking
Week 3　Speed
Week 4　Repeat
Week 5　Conversation Style
Week 6　Speaking on Topics
Week 7　Control Techniques 1
Week 8　Control Techniques 2
Week 9　Workarounds
Week 10　Charting 1
Week 11　Charting 2
Week 12　Group Conversation 1
Week 13　Group Conversation 2
Week 14　Test Practice
Week 15　Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語VIII（比２-Ｂ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意　/Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（比２-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. the underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

教科書　/Textbooks

Language to go, Intermediate. Pearson Crace and Wileman

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

-Please use a dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　Looks good, Defining people, things, time and place
2回　Changes, describing recent changes
3回　How polite are you, making and responding to requests
4回　Going alone, Talking about hypothetical situations
5回　What's in the fridge, talking about food and cooking
6回　Airport, recounting events in your life
7回　A star is born, describing a process
8回　The future of toys, making predictions about the future
9回　I'll call you, telephoning expressions
10回　Do the right thing, describing rules in the present
11回　Six and half hours, comparing attitudes
12回　Achievement, discussing personal achievements
13回　Long walk to freedom, discussing freedom
14回　Shaking hands, talking about likely and unlikely situations
15回　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

80% exam 20% peer journal

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will be expected to write a peer journal every week about what they have done and exchange it with another student. They will also be expected to do textbook assigned exercises.

履修上の注意　/Remarks

英語VIII（比２-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（比２-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　マーニー・セイディ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２ - Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書　/Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTION & ANSWER PRACTICE
2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
4 回 CRITICAL THINKING – POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
5 回 DEBATE TOPIC 1 – MATCHING PRO AND CON ARGUMENTS/NUANCED DISAGREEING
6 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 1
7 回 DEBATE TOPIC 2 – MATCHING IDEAS AND PERSUADING
8 回 DEBATE TOPIC 2 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 2
9 回 DEBATE TOPIC 3 – STARTING A DISCUSSION / ENDING A DISAGREEMENT
1 0 回 DEBATE TOPIC 3 – WRITING AN ORIGINAL DEBATE
1 1 回 DEBATE TOPIC 3 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 1
1 2 回 DEBATE TOPIC 4 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE　2
1 3 回 REVIEW
1 4 回 FINAL TEST PREPARATION I
1 5 回 FINAL TEST PREPARATION II

成績評価の方法　/Assessment Method

Class Participation 40%　Presentations & Quizzes 30%　Homework & Assignments 10 %　Final Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

none

履修上の注意　/Remarks

Japanese / English Dictionary required

英語VIII（比２-Ｄ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語IX（比人３年）【昼】

担当者名 /Instructor　渡邉　嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IX	ENG301F

授業の概要　/Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書　/Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　政治
３回　ビジネス
４回　外交
５回　司法
６回　災害
７回　スポーツ
８回　まとめ (1)
９回　海外事情
１０回　科学
１１回　文化 (1)
１２回　文化 (2)
１３回　環境 (1)
１４回　環境 (2)
１５回　まとめ (2)

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況 …35%　課題・小テスト … 35%　期末試験 … 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：　毎週配布するプリントの英文をニュース映像も参考にし、予習する
事後：　重要語句・表現を再確認する

履修上の注意　/Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

英語IX（比人３年）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語X（比人３年）【昼】

担当者名 /Instructor　渡邉　嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語X	ENG311F

授業の概要　/Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書　/Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　政治
３回 ビジネス
４回 外交
５回 司法
６回 災害
７回 スポーツ
８回 まとめ (1)
９回 海外事情
１０回 科学
１１回 文化 (1)
１２回 文化 (2)
１３回 環境 (1)
１４回 環境 (2)
１５回 まとめ (2)

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況 …35%　課題・小テスト … 35%　期末試験 … 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：　毎週配布するプリントの英文をニュース映像も参考にし、予習する
事後：　重要語句・表現を再確認する

履修上の注意　/Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語X（比人３年）【昼】

キーワード　/Keywords

英語XI（比人３年）【昼】

担当者名 /Instructor　ダンカン・ウォトリィ / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸＩ	ENG302F

授業の概要　/Course Description

The course should help you communicate in English. Each class aims to provide an atmosphere where you can activate and exchange the knowledge of English you have already built up after several years of study. Activities such as listening, reading, writing, presenting ideas and doing special individual or pair-work projects will be used. In addition, all students will keep an English dairy which should help them express their experiences and personalize their English development.

教科書　/Textbooks

Lonely Planet, Season 2 - Traveling the World on DVD
Takuya Akida, Jeffrey M. Bruce
Student Book with Audio CD and DVD
9784863121119 (10-digit ISBN: 4863121113)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Access to computer and internet
Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week One Introduction
Week Two Unit One (Part A)
Week Three Unit One (Part B)
Week Four Unit Two (Part A)
Week Five Unit Two (Part B)
Week Six Unit Three (Part A)
Week Seven Three (Part B)
Week Eight Four (Part A)
Week Nine Four (Part B)
Week Ten Five (Part A)
Week Eleven Five (Part B)
Week Twelve Six (Parts A & B)
Week Thirteen Special Activity 1
Week Fourteen Special Activity 2
Week Fifteen Review

成績評価の方法　/Assessment Method

20 % Diary and Diary Discussion
40% Folio - Diary, Written assignments, scripted dialogs, other assigned tasks, class notes
20% Presentations
20% Final Test

英語XI（比人３年）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Every week, students will be asked to write about one or two events in their daily lives. Students should be prepared to read or share details of their diary with other class members or as a primer for a topic of class discussion.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語XII（比人３年）【昼】

担当者名 /Instructor　デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸⅡ	ENG312F

授業の概要　/Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書　/Textbooks

In Focus 2 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回:　Orientation
第２回:　English as an International Language I
第３回:　English as an International Language II
第４回:　Demographic Change I
第５回:　Demographic Change II
第６回:　Class Presentations I
第７回:　Ethics in Sport I
第８回:　Ethics in Sport II
第９回:　Global Warming I
第１０回:　Global Warming II
第１１回:　Class Presentations II
第１２回:　Beauty and Self Image I
第１３回:　Beauty and Self Image II
第１４回:　Animals as Food I
第１５回:　Class Presentations III

成績評価の方法　/Assessment Method

Class projects and homework assignments

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意　/Remarks

必要科目

Please check Moodle resource

英語XII（比人３年）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let’s have fun discussing in English together

キーワード　/Keywords

Communicate / make friends / have fun

中国語I 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　板谷　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年（学籍番号偶数）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ｉ	CHN101Ｆ

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】
２回　第二課　発音【子音】
３回　第二課　発音【複合母音】【鼻母音】
４回　第三課　総合知識
５回　第三課　総合練習
６回　第四課　私達はみんな友達です　【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
７回　第四課　これは一枚の地図です（本文）　練習
８回　第五課　私は最近忙しい　【形容詞の文】【動詞の文】など
９回　第五課　あなたはいつ北京へ行きますか(本文）　練習
１０回　第六課　私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
１１回　第六課　私は松本葉子です(本文）　練習
１２回　第七課　私達の学校は九州にあります　【在】【方位詞】【了】など
１３回　第七課　大学の生活(本文）　練習
１４回　第八課　あなたは長城に行ったことがありますか【動詞＋过】【是……的】など
１５回　第八課　全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文）　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語I 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　小椋　吾郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年（学籍番号奇数）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ｉ	CHN101Ｆ

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】
２回　第二課　発音【子音】
３回　第二課　発音【複合母音】【鼻母音】
４回　第三課　総合知識
５回　第三課　総合練習
６回　第四課　私達はみんな友達です　【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
７回　第四課　これは一枚の地図です（本文）　練習
８回　第五課　私は最近忙しい　【形容詞の文】【動詞の文】など
９回　第五課　あなたはいつ北京へ行きますか(本文）　練習
１０回　第六課　私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
１１回　第六課　私は松本葉子です(本文）　練習
１２回　第七課　私達の学校は九州にあります　【在】【方位詞】【了】など
１３回　第七課　大学の生活(本文）　練習
１４回　第八課　あなたは長城に行ったことがありますか【動詞＋过】【是……的】など
１５回　第八課　全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文）　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年（学籍番号偶数）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
２回　第九課　田中さんが病気になりました(本文）　練習
３回　第十課　私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
４回　第十課　雪中に炭を送る(本文）　練習
５回第十一課　彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
６回第十一課　電話を掛ける(本文）　練習
７回第十二課　私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくれますか【要】【"把"構文】など
８回第十二課　ウィンドウショッピング(本文）　練習
９回第十三課　陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
１０回第十三課　"福"字を貼る(本文）　練習　【存現文】【因为……所以　】など
１１回第十四課　私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【"被"の文】
１２回第十四課　円明園(本文）　練習　【不但……而且】など
１３回第十五課　あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
１４回第十五課　日本概況(本文）　練習　【虽然……但是】など
１５回総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　小椋　吾郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年（学籍番号奇数）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
２回　第九課　田中さんが病気になりました(本文）　練習
３回　第十課　私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
４回　第十課　雪中に炭を送る(本文）　練習
５回第十一課　彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
６回第十一課　電話を掛ける(本文）　練習
７回第十二課　私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくれますか【要】【"把"構文】など
８回第十二課　ウィンドウショッピング(本文）　練習
９回第十三課　陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
１０回第十三課　"福"字を貼る(本文）　練習　【存現文】【因为……所以　】など
１１回第十四課　私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【"被"の文】
１２回第十四課　円明園(本文）　練習　【不但……而且】など
１３回第十五課　あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
１４回第十五課　日本概況(本文）　練習　【虽然……但是】など
１５回総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語III 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　陳　青鳳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年（学籍番号偶数）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語III 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　張　瑾 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年（学籍番号奇数）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　陳　青鳳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年（学籍番号偶数）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　買い物、練習問題
３回　第十課　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　張　瑾 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年（学籍番号奇数）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　買い物、練習問題
３回　第十課　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　小椋　吾郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語V	CHN201F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　ポイント説明　日本紹介（本文）
２回　第二課　ポイント説明
３回　第二課　東京（本文）
４回　第三課　ポイント説明
５回　第三課　横浜（本文）
６回　第四課　ポイント説明
７回　第四課　富士山と東照宮（本文）
８回　第五課　ポイント説明
９回　第五課　静岡と名古屋（本文）
１０回　第六課　ポイント説明
１１回　第六課　京都（本文）
１２回　第七課　ポイント説明
１３回　第七課　奈良（本文）
１４回　第八課　ポイント説明
１５回　第八課　大阪（本文）

中国語V 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　小椋　吾郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VI	CHN211F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　ポイント説明
２回　第九課　宮島と下関（本文）
３回　第十課　ポイント説明
４回　第十課　九州（本文）
５回　第十一課　ポイント説明
６回　第十一課　福岡（本文）
７回　第十二課　ポイント説明
８回　第十二課　佐賀（本文）
９回　第十三課　ポイント説明
１０回　第十三課　長崎（本文）
１１回　第十四課　ポイント説明
１２回　第十四課　四国（本文）
１３回　第十五課　ポイント説明
１４回　第十五課　仙台と北海道（本文）
１５回　総合練習

中国語VI 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　ホウ　ラメイ（彭腊梅）/ ラメイ ホウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　比２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VII	CHN202F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

中国語VII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　日本紹介（会話）　練習
２回　第二課　東京（会話）
３回　第二課　練習
４回　第三課　横浜（会話）
５回　第三課　練習
６回　第四課　富士山と東照宮（会話）
７回　第四課　練習
８回　第五課　静岡と名古屋（会話）
９回　第五課　練習
１０回　第六課　京都（会話）
１１回　第六課　練習
１２回　第七課　奈良と神戸（会話）
１３回　第七課　練習
１４回　第八課　大阪（会話）
１５回　第八課　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　ホウ　ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

中国語VIII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　宮島と下関（会話）
２回　第九課　　練習
３回　第十課　　九州（会話）
４回　第十課　　練習
５回　第十一課　福岡（会話）
６回　第十一課　練習
７回　第十二課　佐賀（会話）
８回　第十二課　練習
９回　第十三課　長崎（会話）
１０回　第十三課　練習
１１回　第十四課　四国（会話）
１２回　第十四課　練習
１３回　第十五課　仙台と北海道（会話）
１４回　第十五課　練習
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英国済営比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級中国語Ｉ	CHN301Ｆ

授業の概要　/Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
　本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
　主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。

世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（ＢＣＴ初級テスト）の内容も同時に指導する。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書　/Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１学期
第 1回　単語練習、聴解練習
第 2回　会話、作文練習
第 3回　場面の体験
第 4回　単語練習、聴解練習
第 5回　会話、作文練習
第 6回　場面の体験
第 7回　単語練習、聴解練習
第 8回　会話、作文練習
第 9回　場面の体験
第10回　単語練習、聴解練習
第11回　会話、作文練習
第12回　場面の体験
第13回　単語練習、聴解練習
第14回　会話、作文練習
第15回　場面の体験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み30%　発表30%　定期試験40%

上級中国語I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意　/Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード　/Keywords

日常生活用語　　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英国済営比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級中国語Ⅱ	CHN311F

授業の概要　/Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
　本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などをすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
　主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
　参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書　/Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第２学期
第 1回　単語、聴解練習
第 2回　会話、作文練習
第 3回　場面の体験
第 4回　単語、聴解練習
第 5回　会話、作文練習
第 6回　場面の体験
第 7回　単語、聴解練習
第 8回　会話、作文練習
第 9回　場面の体験
第10回　単語、聴解練習
第11回　会話、作文練習
第12回　場面の体験
第13回　単語、聴解練習
第14回　会話、作文練習
第15回　場面の体験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み30%　発表30%　定期試験40%

上級中国語II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意　/Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード　/Keywords

日常生活用語　　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

上級中国語III 【昼】

担当者名 /Instructor　王　晨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英国済営比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要　/Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書　/Textbooks

プリント配布　(『中国語口語速成　基礎編』第二版　馬箭飛　主編　李徳君、成文　編著　北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『精彩漢語　遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社
『遊学中国語　東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回目　第1課　「认识一下」新出単語　本文会話1　2
2回目　第2課　「吃点儿什么」新出単語　本文会話1　2
3回目　第1課、第2課会話練習
4回目　第3課「在校园里」新出単語　注釈　本文会話1
5回目　第3課「在校园里」注釈　本文会話2
6回目　第4課「住的麻烦」新出単語　注釈　本文会話1
7回目　第4課「住的麻烦」注釈　本文会話2
8回目　中間復習
9回目　第5課「做客」新出単語　注釈　本文会話1
10回目　第5課「做客」注釈　本文会話2
11回目　第6課「旅行计划」新出単語　注釈　本文会話1
12回目　第6課「旅行计划」注釈　本文会話2
13回目　第7課「生活服务」新出単語　注釈　本文会話1
14回目　第7課「生活服务」注釈　本文会話2
15回目　総復習

成績評価の方法　/Assessment Method

成績評価
平常点60％（授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど）
定期試験40％

上級中国語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意　/Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード　/Keywords

中国語　コミュニケーション　会話　リスニング

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　王　晨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英国済営比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要　/Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書　/Textbooks

プリント配布　(『中国語口語速成　基礎編』第二版　馬箭飛　主編　李徳君、成文　編著北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『精彩漢語　遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社
『遊学中国語　東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

一回目　第11課「购物」新出单語　注釈　本文会話1
二回目　第11課「购物」注釈　本文会話2
三回目　第12課「谈论朋友」新出单語　注釈　本文会話1
四回目　第12課「谈论朋友」注釈　本文会話2
五回目　第14課「体育健身」新出单語　注釈　本文会話1
六回目　第14課「体育健身」注釈　本文会話2
七回目　中間復習
八回目　第15課「各有所爱」新出单語　注釈　本文会話1
九回目　第15課「各有所爱」注釈　本文会話2
十回目　第16課「理想的职业」新出单語　注釈　本文会話1
十一回目第16課「理想的职业」注釈　本文会話2
十二回目第17課「业余爱好」新出单語　注釈　本文会話1
十三回目第17課「业余爱好」注釈　本文会話2
十四回目第18課「中国家庭」新出单語　注釈　本文会話1
十五回目総復習

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点60%（授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど）
定期試験40%

上級中国語IV 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意　/Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード　/Keywords

中国語　コミュニケーション　会話　リスニング

朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅰ	KRN101F

授業の概要　/Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書　/Textbooks

厳基珠　他　『韓国語の初歩　改訂版』、　白水社(2010年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典　『朝鮮語辞典』　小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション　【韓国語入門の予備知識】
2回　基本母音字とその発音　【基本母音】
3回　基本子音字（平音）とその発音　【基本子音】
4回　基本子音字（平音）とその発音　【基本子音】
5回　子音（激音)字とその発音　【派生子音１】
6回　子音（濃音）字とその発音　【派生子音２】
7回　合成母音字とその発音　【派生母音】
8回　終声子音字とその発音　【パッチム】
9回　終声子音字とその発音　【パッチム】
10回　連音化、激音化、濃音化　【音の変化】
11回　連音化、激音化、濃音化　【音の変化】
12回　辞書を引いてみよう　【辞典の引き方】
13回　自己紹介　【指定詞の丁寧形】
14回　自己紹介　【指定詞の丁寧形】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50％ / 平常点50％（小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意　/Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

朝鮮語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要　/Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書　/Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩　改訂版』、白水社（2010年３月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前期の復習
2回　会社員ではありません【体言否定】
3回　どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
4回　どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
5回　暑くありません【用言の否定形】
6回　誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
7回　誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
8回　どこで住んでいますか【動詞の連用形】
9回　どこで住んでいますか【動詞の連用形】
10回　先生、いらっしゃいますか【敬語】
11回　何をしましたか【過去形】
12回　何をしましたか【過去形】
13回　何を召し上がりますか【意志・推量形】
14回　何時に会いましょうか【願望・勧誘形】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50％ / 平常点50％（小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意　/Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

朝鮮語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード　/Keywords

朝鮮語III 【昼】

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要　/Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書　/Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
2回　文字の発音及び書き順１【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
3回　文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
4回　文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
5回　単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
6回　発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
7回　発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
8回　発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
9回　自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
10回　簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
11回　疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
12回　韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
13回　存在詞、場所名、ゼスチュアー位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
14回　指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題…50%　　期末試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていきますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要　/Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書　/Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　朝鮮語IIIの学習内容確認、丁寧形１【自己紹介】【授業で必要な言葉】
2回　助詞１【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字１【【おいくらですか】【買い物】
3回　助詞２、漢数字２【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
4回　時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
5回　丁寧形２【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
6回　丁寧形２【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
7回　「해요体」の不規則、固有数字１【一つ、二つ．．．】
8回　「해요体」のドリル、固有数字２【おいくつですか】
9回　時刻【（固有数字）時（漢数字）分】【何時ですか】
10回　数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
11回　希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
12回　否定及び不可能表現【ペアの質問と応答練習】【못～,～지 못해요】
13回　過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
　　過去形の否定及び不可能表現【～지 않았어요.】【～지 못했어요.】
14回　会話テスト（韓国語でグループ発表）、民族遊び
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題…40%　会話テスト…20%　期末試験…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。期末試験前に会話テストがあるので、履修者は全員受けること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語V 【昼】

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語V	KRN201F

授業の概要　/Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書　/Textbooks

おはよう韓国語２（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語I・II』の復習
第 3回目　第１課　フランスから来ました【文法、単語】
第 4回目　第１課　フランスから来ました【練習問題、スキット】
第 5回目　第２課　家族は何名様ですか【文法、単語】
第 6回目　第２課　家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
第 7回目　第３課　キム・ミンスさんのお宅ですよね【文法、単語】
第 8回目　第３課　キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
第 9回目　【復　習】
第10回目　第４課　野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
第11回目　第４課　野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
第12回目　第５課　夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
第13回目　第５課　夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
第14回目　【復　習】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・課題・小テスト　50%　定期試験　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

朝鮮語V 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要　/Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書　/Textbooks

おはよう韓国語２（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語V』の復習
第 3回目　第６課　どのように行けばいいですか【文法、単語】
第 4回目　第６課　どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
第 5回目　第７課　写真を添付しますよ【文法、単語】
第 6回目　第７課　写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
第 7回目　第８課　みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
第 8回目　第８課　みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
第 9回目　【復　習】
第10回目　第９課　どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
第11回目　第９課　どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
第12回目　第10課　何にも聞いていませんが【文法、単語】
第13回目　第10課　何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
第14回目　【復　習】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・課題・小テスト　50%　定期試験　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

朝鮮語VI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 ２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語VII	KRN202 F

授業の概要　/Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書　/Textbooks

ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外２

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション、シラバス紹介
２．インタビューする
３．インタビューする
４．自己紹介する
５．自己紹介する
６．自己紹介する
７．決まりを言う
８．決まりを言う
９．約束をする
１０．約束をする
１１．約束をする
１２．道案内をする
１３．道案内をする
１４．道案内をする
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・課題・小テスト　50%　定期試験　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語VII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 ２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語VIII	KRN212F

授業の概要　/Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書　/Textbooks

ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外２

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　前期の復習
２回　感想を言う
３回　感想を言う
４回　買い物をする
５回　買い物をする
６回　買い物をする
７回　プレゼントをする
８回　プレゼントをする
９回体の具合を言う
１０回体の具合を言う
１１回体の具合を言う
１２回勉強の仕方を話す
１３回勉強の仕方を話す
１４回勉強の仕方を話す
１５回まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・課題・小テスト　40%　定期試験　40%　会話試験　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語VIII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要　/Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。　同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書　/Textbooks

曺喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　自己紹介【講読】
3回　自己紹介【作文】
4回　私の家【講読】
6回　私の家【作文】
7回　私の学校【講読】
8回　私の学校【作文】
9回　病院と薬局【講読】
10回　病院と薬局【作文】
11回　手紙【講読】
12回　手紙【作文】
13回　趣味【講読】
14回　趣味【作文】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50％ / 平常点50％　（作文・小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

上級朝鮮語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語Ⅱ	KRN311F

授業の概要　/Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書　/Textbooks

曺喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　映画【講読】
3回　映画【作文】
4回　地下鉄【講読】
5回　地下鉄【作文】
6回　感想文【講読】
8回　感想文【作文】
9回　日記【講読】
10回　日記【作文】
11回　試験【講読】
12回　試験【作文】
13回　韓国と日本【講読】
14回　韓国と日本【作文】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（作文・小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

上級朝鮮語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語III 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 ３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要　/Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書　/Textbooks

コミュニケーション韓国語　聞いて話そうII (長谷川由起子・張ユンヒャン著、白帝社、978-4-86398-210-9 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)
『朝鮮語辞典』 (小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』 (前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語V/VI』の復習
第 3回目　第１課　韓国到着！【スキットを作ってみよう】
第 4回目　第１課　韓国到着！【文法、練習問題】
第 5回目　第２課　両替【スキットを作ってみよう】
第 6回目　第２課　両替【文法、練習問題】
第 7回目　第３課　道を尋ねる【スキットを作ってみよう】
第 8回目　第３課　道を尋ねる 【文法、練習問題】
第 9回目　第４課　ホテルチェックイン【スキットを作ってみよう】
第10回目　第４課　ホテルチェックイン 【文法、練習問題】
第11回目　第５課　フロントへの問い合わせ【スキットを作ってみよう】
第12回目　第５課　フロントへの問い合わせ【文法、練習問題】
第13回目　第６課　約束【スキットを作ってみよう】
第14回目　第６課　約束【文法、練習問題】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…４０％　　期末試験…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

上級朝鮮語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要　/Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書　/Textbooks

コミュニケーション韓国語　聞いて話そうII (長谷川由起子・張ユンヒャン著、白帝社、978-4-86398-210-9 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)
『朝鮮語辞典』 (小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』 (前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　前期の復習
第 3回目　第 7 課　紹介【スキットを作ってみよう】
第 4回目　第 7 課　紹介【文法、練習問題】
第 5回目　第 8 課　食事の誘い【スキットを作ってみよう】
第 6回目　第 8 課　食事の誘い【文法、練習問題】
第 7回目　第 9 課　食堂で【スキットを作ってみよう】
第 8回目　第 9 課　食堂で【文法、練習問題】
第 9回目　第10 課　カラオケ【スキットを作ってみよう】
第10回目　第10 課　カラオケ【文法、練習問題】
第11回目　第11課　買い物　【スキットを作ってみよう】
第12回目　第11課　買い物　【文法、練習問題】
第13回目　第12課　見通し【スキットを作ってみよう】
第14回目　第12課　見通し【文法、練習問題】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…４０％　　期末試験…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

上級朝鮮語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語I 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語 I	RUS101F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲　ナウカ出版　2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語概論、アルファベット
２回　文字と発音1：母音（１）（２）、子音(１)(２)、アクセント、母音の発音規則（１）
３回　文字と発音2：子音（３）（４）、硬子音と軟子音、母音の発音規則（２）、硬音記号と軟音記号
４回　文字と発音3：有声子音と無声子音、子音の発音規則、正書法の規則
５回　文字と発音4：数詞・月名などの発音練習、筆記体の書き方、かな音の転写法
６回　一課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
７回　一課後半　存在表現、場所の尋ね方、ロシア人の人名について、名前の尋ね方、練習問題
８回　二課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
９回　二課後半　人称代名詞、動詞の現在変化（１）、否定文、疑問文、名と愛称、練習問題
１０回　三課前半　テキストの読み、内容解説、 単語・語句の発音と解説
１１回　三課後半　名詞の性、所有代名詞、形容詞の変化（１）、指示代名詞、練習問題
１２回　四課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１３回　四課後半　名詞の複数形、形容詞の変化（２）、名詞類の格変化、前置格、場所表現、練習問題
１４回　五課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１５回　五課後半　動詞の現在変化（２）、対格、形容詞の変化（３）、不規則変化動詞、語順、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　　小テスト・ 課題… 20%　　授業参加の積極性 … 20%
（欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後、授業前に、これまで学習した重要な文法事項、語彙などの復習をすること。
小テスト、課題も課すので準備を怠らぬこと。

ロシア語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、このスタート時期の欠席は好ましくない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅱ	RUS111F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲　ナウカ出版　2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　一学期に習ったことの復習
２回　六課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
３回　六課後半　生格、所有表現、疑問文、定代名詞、形容詞の名詞化、練習問題
４回　七課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
５回　七課後半　再帰動詞、動詞過去形、形容詞短語尾形、特殊変化動詞、練習問題
６回　八課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
７回　八課後半　与格、不定代名詞、可能性・必要性表現、第二前置格、不規則変化動詞、練習問題
８回　九課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
９回　九課後半　動詞の未来形、無人称文、不定法構文、複文、数量生格、不規則変化動詞、練習問題
１０回　十課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１１回　十課後半　命令形、「・・が痛む」表現、否定生格、「何も・・ない」表現、練習問題
１２回　十一課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１３回　十一課後半　造格、無変化名詞、行く先・起点を表す前置詞句、定動詞・不定動詞、練習問題
１４回　十二課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　小テスト・和文露訳課題 … 20%　授業への参加度 … 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後、および授業前に、数回前まで遡って習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。
小テスト、課題も課すのでその準備も怠らぬこと。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語III 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅲ	RUS102F

授業の概要　/Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲　ナウカ出版　2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
２回　ロシア語のアルファベット【交際】
３回　短文のイントネーション　【これは誰ですか】、【これは何ですか】
４回　簡単な問いと答え　【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
５回　数詞・月名などの発音練習、【自分の名前をロシア語で書く】
６回　第１課①　【ロシア人の名前】、【私の名前は。。。です】
７回　第１課②　会話の練習
８回　第２課①　【私は手紙を読んでいます】、【動詞現在変化】
９回　第２課②　【私はロシア語を勉強しています】
１０回　第２課③　会話の練習
１１回　第３課①　【家族の紹介】、【名詞の性】
１２回　第３課②　【これは私たちの両親です】、【形容詞の性数変化①】
１３回　第４課①　【私の鉛筆はどこにありますか？】、【名詞の前置格】
１４回　第４課②　【名詞の複数形】、【形容詞の性数変化②】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…８０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語III 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要　/Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜、アンナ・パーニナ校閲、ナウカ出版、2016年改訂版
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第5課①　【私は英語で話す】、【名詞の対格】
２回　第5課②　【私はスペイン語を勉強したいと思います】、【形容詞の性数変化③】
３回　第5課③　会話の練習
４回　第6課①　【私は質問があります】、【名詞の生格①】
５回　第6課②　【名詞の生格②】
６回　第6課③　会話の練習
７回　第7課①　【日常生活】、【-СЯ 動詞】
８回　第7課②　【動詞の過去形】
９回　第7課③　会話の練習
１０回　第8課①　【父が私のところに電話してきました】、【与格】
１１回　第8課②　【。。。できる】、【。。。しなければならない、。。。する必要がある】
１２回　第8課③　会話の練習
１３回　第9課①　【動詞の未来形】、【無人称文】
１４回　第9課②　【 夏休みの計画】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…８０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題 …１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語Ⅳ 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語V	RUS201F

授業の概要　/Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書　/Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 ＜СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ＞名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
２回 ＜МАМА И ФУТБОЛ＞多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
３回 ＜МАТЬ＞　関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
４回 ＜САЛЮТ＞　複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
５回 ＜ГИПНО'З＞　不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
６回 ＜ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР＞　願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
７回 ＜ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН＞　動詞の格支配、複文、否定生格
８回 ＜ДОМ ОТДЫХА＞　時の表現、動詞の体
９回 ＜БАБУШКА И ВОВКА＞　動詞の格支配、不規則変化動詞
１０回 ＜ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ＞　複文、動詞の体
１１回 ＜О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ＞　年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
１２回 ＜КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД＞　不定法構文、無人称文
１３回 ＜ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК＞　個数詞＋形容詞＋名詞の語結合、所有形容詞
１４回 ＜ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ＞「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
１５回 まとめと復習：構文

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 50%　　授業参加の積極性 … 50 %
（欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課すので授業前準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

ロシア語V 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語VI	RUS211F

授業の概要　/Course Description

ロシア文化領域のテキストの読解、および会話テキストを読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書　/Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ГОСТИНИЦА　その1　読み、訳、練習問題　ロシアのことわざ「自己抑制について」
２回　ГОСТИНИЦА　その2　読み、訳、練習問題　ロシアの白樺
３回　СТОЛОВАЯ　その1　読み、訳、練習問題　ロシア人メンタリティ特徴（１）
４回　СТОЛОВАЯ　その2　読み、訳、練習問題　ロシア人メンタリティ特徴（２）
５回　ГАСТРОНОМ　読み、訳、練習問題　フィンランドへの旅
６回　УНИВЕРМАГ　読み、訳、練習問題　異民族間婚姻（１）
７回　ТРАНСПОРТ　読み、訳、練習問題　異民族間婚姻（２）
８回　ПОЧТА　読み、訳、練習問題　パブロフ「若者への書簡」
９回　ТЕЛЕФОН　読み、訳、練習問題　若いジャーナリストとの出会い
１０回　ВОКЗАЛ　読み、訳、練習問題　「花束」
１１回　ПОЛИКЛИНИКА　読み、訳、練習問題　「イワン・ペトロ-ビッチとの対話」
１２回　ПАРИКМАХЕРСКАЯ　読み、訳、練習問題　チェーホフ短編「別荘で」
１３回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その1　読み、訳、練習問題
１４回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その2　読み、訳、練習問題
１５回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その3　読み、訳、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験５０％、授業での発表　５０％
（全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ロシア語VI 【昼】

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要　/Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り･会話」と「作文」に重点を置く。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社　￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第５課の復習
2回　第６課①　【交通】、【運動の動詞】
3回　第６課②　【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
4回　第６課③　【電話】、【出発と倒着の表現】
5回　第７課①　【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
6回　第７課②　【気温】、【雨が降る】
7回　第７課③　【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
8回　ビデオ学習①【В ГОСТИНИЦЕ】
9回　ビデオ学習②　会話練習
10回　第８課①　【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
11回　第８課②　【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
12回　第８課③　【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
13回　ビデオ学習③【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
14回　ビデオ学習④　会話練習、　作文【Я И СПОРТ】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…６０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語 彙、表現などの復習をすること。

ロシア語VII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する合は、「ロシア語III」「ロシア語IV」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語VIII	RUS212F

授業の概要　/Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第９課①　【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】
2回　第９課②　【買い物】、【値段】
3回　第９課③　会話練習
4回　ビデオ学習①　【В ГОСТЯХ】
5回　ビデオ学習②　会話練習【В ГОСТЯХ】
6回　ビデオ学習③　作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ 】
7回　第１０課①【モスクワの町】
8回　第１０課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
9回　第１０課③【モスクワの町】、【単文と複文】
10回　第１０課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
11回　読み物①
12回　読み物②
13回　読み物③
14回　練習
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…６０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語 彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語III」「ロシア語IV」を履修してくこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語I 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書　/Textbooks

CD付き『独検５級・4級・3級対応　ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】（５級対応）
２回　自己紹介。【動詞の現在人称変化】
３回　ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
４回　その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
５回　その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
６回　フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】（4級対応）
７回　その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
８回　ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
９回　私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
１０回　その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
１１回　私達は今日、ケンとその学食に行きます。【３・４格支配の前置詞】
１２回　彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
１３回　私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
１４回　私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
１５回　彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun（発音：ツァウン、「垣根」）とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書　/Textbooks

CD付き『独検５級・ 4級・ 3級対応　ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】（3級対応）
２回　私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
３回　君達は何をしましたか。【完了形】
４回　私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
５回　アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
６回　私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
７回　ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
８回　彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
９回　フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
１０回　もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
１１回　私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
１２回　その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
１３回　あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
１４回　それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
１５回　彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト(５０％)　　学期末試験（５０％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun（発音：ツァウン、「垣根」）とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語III 【昼】

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅲ	GRM102F

授業の概要　/Course Description

この授業では、ドイツ語表現の基礎を習得する。休暇中にミュンヘンを訪問したベルリンの大学生クラウディアの体験を通して、ドイツ語での日常表現や文法規則などを学ぼう。

この授業の主な到達目標は以下の通りである。
①ドイツ語の4技能（聴く、読む、話す、書く）の基礎力を身につける。
②ドイツ語での初歩的コミュニケーションができるようになる。

教科書　/Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」（関口 一郎、白水社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ドイツ語の綴りと発音
２回　コミュニケーションの第一歩
３回　ドイツ語での自己紹介
４回　ホテルに泊まる
５回　名詞の「性」と冠詞
６回　ミュンヘンの名所へ行く
７回　知人を訪ねる
８回　友達同士の話し方
９回　買い物をする
１０回　分離動詞の使い方
１１回　列車に乗る
１２回　前置詞の使い方
１３回　大学での１日
１４回　助動詞の人称変化と意味
１５回　助動詞の使い方

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度 … 20%　　期末試験 … 80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキスト付属のCDを聴いて、ドイツ語の音に耳を慣らしておくこと。また、キーセンテンスは繰り返し暗唱と筆記の練習をして、完全に覚えること。

ドイツ語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要　/Course Description

ドイツ語IIIの続き。やや高度な文法規則を用いたドイツ語表現を習得しよう。

この授業の主な到達目標は以下の通りである。
①ドイツ語の4技能（聴く、読む、話す、書く）の基礎を身につける。
②ドイツ語での基本的コミュニケーションができるようになる。

教科書　/Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」（関口 一郎、白水社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　形容詞の使い方
２回　色の表現
３回　過去表現は現在完了形で
４回　昨日何をしましたか?
５回　過去形
６回　ドイツの歴史を過去形で説明
７回　再帰動詞と再帰代名詞
８回　１日の行動を再帰動詞で表現
９回　副文と接続詞
１０回　関係代名詞
１１回　関係代名詞を使った表現
１２回　接続法の種類
１３回　接続法第二式
１４回　非現実話法の練習
１５回　全体の復習

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度 … 20%　　期末試験 … 80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキスト付属のCDを聴いて、ドイツ語の音に耳を慣らしておくこと。また、キーセンテンスは繰り返し暗唱と筆記の練習をして、完全に覚えること。

ドイツ語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語V	GRM201F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
２回　駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
３回　私達は注文したいのですが。【レストランで】
４回　部屋は空いていますか？【ホテルで】
５回　郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
６回　円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
７回　フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
８回　ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
９回　どこが悪いのですか？【病気】
１０回　頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
１１回　君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
１２回　ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
１３回　ドイツ語でクロスワード遊び。
１４回　一日の活動を日記に書く。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VI 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　パーティーに何を着ますか？【服装】
２回　このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
３回　家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
４回　ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
５回　ここで犬を放してはいけません。【禁止】
６回　何歳になったら何ができますか？【選挙権】
７回　ドイツの学校制度。【教育】
８回　パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
９回　あなたは何に興味がありますか？【職業】
１０回　イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
１１回　イースターのウサギが語ります【祭り】
１２回　君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
１３回　君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
１４回　クリスマスクッキーの作り方。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語VI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語Ⅶ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅶ	GRM202F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
２回　人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
３回　軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
６回　相手の言うことが聞き取れないとき
７回　理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くとき
８回　綴りを聞くとき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　場所を聞くとき、道順・方向を聞くとき、距離を聞くとき
１１回　時刻を聞くとき、時間を聞くとき、曜日を聞くとき、日付を聞くとき
１２回　値段を聞くとき、数量を聞くとき、方法を聞くとき、理由を聞くとき
１３回　目的を聞くとき、住所を聞くとき、出身地を聞くとき、生年月日を聞くとき
１４回　ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VIII	GRM212F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
２回　両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
３回　服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
６回　自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
７回　相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
８回　予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
１１回　会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
１２回　自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
１３回　贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
１４回　ドイツビデオ、１０回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語I 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅰ	FRN101F

授業の概要　/Course Description

最初の一歩として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。また、初歩的なフランス語の文章も書けるようになります。

教科書　/Textbooks

『マ・グラメール（Ma grammaire）』（白水社、2,300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

仏和辞書（紙媒体・電子辞書）
『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　フランス語の文字、音、つづり字の読み方
３回　名詞の性と数、冠詞、Voici, Voilà、基数（1-10)
４回　主語人称代名詞、être, avoir, C'est, ce sont, il y a、基数（11-20)
５回　第1、2群規則動詞、形容詞の性と数・位置
６回　Civilisation I：フランスを知る
７回　基本文型、否定文、attendre, partir
８回　指示形容詞、名詞と形容詞の女性形・複数形の特殊な形、acheter, préférer
９回　aller, venirの直説法現在
１０回　近接未来・過去、冠詞の縮約、vouloir, pouvoir
１１回　Civilisation II：世界の中のフランス
１２回　疑問代名詞、疑問副詞、connaître, savoir
１３回　疑問形容詞、形容詞と副詞の比較級、形容詞と副詞の最上級、commencer, voir
１４回　命令法、非人称構文、dire, manger
１５回　1学期のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（授業での積極性、宿題、小テスト等）…50%　学期末試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習（宿題と自習）を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

仏和辞書（電子でも紙でもよい）必携のこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

仏検５級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

フランス語I 【昼】

キーワード　/Keywords
フランス　パリ

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor　福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要　/Course Description

フランス語の初級文法を一通り学んでいきます。フランス語IIIとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語の文章を読み解けるようになります。また、簡単なフランス語の文章も書けるようになります。

教科書　/Textbooks

『マ・グラメール（Ma grammaire）』（白水社、2,300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

仏和辞書（紙媒体・電子辞書）
『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　過去分詞、直説法複合過去
３回　Civilisation III：フランスと日本の歴史、フランスとフランス語の成り立ち
４回　人称代名詞の目的補語形・強勢形
５回　複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致（まとめ）
６回　関係代名詞、強調構文、指示代名詞
７回　代名動詞の活用・用法、s'appeler
８回　直説法単純未来、中性代名詞le, en ,y、devoir
９回　Civilisation IV：さまざまな言葉
１０回　直説法半過去の活用・用法
１１回　受動態、現在分詞、ジェロンディフ
１２回　条件法現在の活用・用法
１３回　接続法現在の活用・用法、vivre
１４回　Appendice（補遺）
１５回　２学期のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（授業での積極性、宿題、小テスト等）…50%　学期末試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習（宿題と自習）を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

仏和辞書（電子でも紙でもよい）必携のこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

仏検４級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

フランス語II 【昼】

キーワード　/Keywords
フランス　パリ

フランス語III 【昼】

担当者名 /Instructor　コモン　ティエリ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅲ	FRN102F

授業の概要　/Course Description

この授業では，フランス語の理解に不可欠な基礎知識を一年間でほぼフォローすることを目指します。平易な文章を読みこなせるようになることだけでなく，基本的な聞き取り能力や会話能力を身につけることによって，生きたフランス語の世界に触れ，同時にフランスの豊かな文化や歴史，そしてフランスの社会の現在の姿を知ってもらうことがこの授業の目的です。

教科書　/Textbooks

なし (プリント配付)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『マ・グラメール (Ma grammaire) 』(白水社、2,300円 + 税)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1- 初対面 / 自己紹介
2- 自己紹介(2) / 子音と母音 / 子音の役割 / 音節とは
3- フランス語の成り立ち / アルファベット / "w" と "y"
4- アルファベットの書き方 / フランス語の母音 / 挨拶
5- フランスという国 / フランス語の子音 / 数字：0～20
6- 名詞の性 / 文章の基本構成 / プリント(動詞/単語) / AVOIR / 指示形容詞
7- ETRE / ALLER / ～から～まで / VENIR
8- ここ、そこ、あそこ / 否定形
9- 中間試験(20分) / FAIRE / 天気の表現
10- 形容詞：位置と変化
11- SAVOIR / CONNAITRE / COMPRENDRE / とても / たくさん
12- 冠詞 (不定/定/部分) / VOULOIR / POUVOIR
13- ETRE と IL Y A / 数字：21以上
14- 所有形容詞 / 現在形 (-er 動詞 [1])
15- まとめ / 試験準備

成績評価の方法　/Assessment Method

前期の中間・期末試験の合計60％以上を合格とする。前期中間試験・前期末試験の比率は30% / 70%とする。
ただし、授業への積極的な態度に欠ける場合、減点の可能性あり。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の内容を元にした仏作文をワードファイルにして，担当講師に送ることをお勧めします。必ず確認，訂正等して，返信します。

履修上の注意　/Remarks

予習は特に必要ありませんが，復習は必ず行ってください。

フランス語III 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　コモン　ティエリ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要　/Course Description

この授業では，フランス語の理解に不可欠な基礎知識を一年間でほぼフォローすることを目指します。平易な文章を読みこなせるようになることだけでなく，基本的な聞き取り能力や会話能力を身につけることによって，生きたフランス語の世界に触れ，同時にフランスの豊かな文化や歴史，そしてフランスの社会の現在の姿を知ってもらうことがこの授業の目的です。

教科書　/Textbooks

なし (プリント配付)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『マ・グラメール (Ma grammaire) 』 (白水社、2,300円 + 税)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1- 前学期の復習 / 前学期定期試験の内容について
2- 現在形 (-er 動詞 [2]) / フランス語特殊文字の入力 (パソコン)
3- 現在形 (-er 動詞以外) [1]
4- 現在形 (-er 動詞以外) [2]
5- 日付けの言い方 / 色の形容詞
6- 現在形 (代名動詞) / 疑問文 [1] / 疑問詞
7- 疑問文 [2]
8- 否定形と直接目的語の冠詞 / 直接目的語の代名詞化
9- 強調形 / 近接過去 / 近接未来
10- 中間試験(20分) / 代名詞 CEとCA / 前置詞 EN
11- 複合過去：AVOIR助動詞の場合 / 男性と女性の名前
12- 複合過去：ETRE助動詞の場合 / 過去分詞の変化 [1]
13- 過去分詞の変化 [2] / 命令形
14- 現在分詞 / ジェロンディフ
15- 後学期定期試験準備

成績評価の方法　/Assessment Method

後期の中間・期末試験の合計60％以上を合格とする。後期中間試験・後期末試験の比率は30% / 70%とする。
ただし、授業への積極的な態度に欠ける場合、減点の可能性あり。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の内容を元にした仏作文をワードファイルにして，担当講師に送ることをお勧めします。必ず確認，訂正等して，返信します。

履修上の注意　/Remarks

予習は特に必要ありませんが，復習は必ず行ってください。

フランス語IV 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	1単位	1学期	講義	英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語V	FRN201F

授業の概要　/Course Description

会話文と日記文を通して初級で学んだ文法を復習し、より複雑な表現を口頭練習や作文練習を通して定着させます。

教科書　/Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ　フランスの世界遺産と食文化を巡る旅２』藤田裕二著（朝日出版　２０１７年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　受動態
２回目　なぜ？ーなぜなら、の表現　（１課終了）
３回目　形容詞の最上級
４回目　関係代名詞１　（２課終了）
５回目　関係代名詞２
６回目　勧誘と応答の表現　（３課終了）
７回目　疑問代名詞
８回目　不定代名詞 on（４課終了）
９回目　条件法現在
１０回目　条件法過去　（５課終了）
１１回目　代名動詞の複合過去
１２回目　複合過去復習　過去分詞の性数一致　（６課終了）
１３回目　半過去
１４回目　指示代名詞　ce　（７課終了）
１５回目　まとめと復習

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点：２０％　小テスト：２０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にはテキスト準拠ホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳、例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

辞書（紙でも電子でもよい）を必携すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語V 【昼】

キーワード　/Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語VI	FRN211F

授業の概要　/Course Description

１学期に引き続き、中級レベルの会話文や日記文を参考にして、より正確にまたニュアンスのある表現力を身に着けます。

教科書　/Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ　フランスの世界遺産と食を巡る旅２』藤田裕二著　（朝日出版社　２０１７年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　接続法現在
２回目　「～のように見える」の表現　（８課終了）
３回目　位置を表す前置詞
４回目　勧誘・提案の表現３　（９課終了）
５回目　現在分詞
６回目　ジェロンディフ　（１０課終了）
７回目　副詞について
８回目　時と場所の副詞　（１１課終了）
９回目　所有代名詞
１０回目　お礼の表現　（１２課終了）
１１回目　間接話法
１２回目　時制の一致　（１３課終了）
１３回目　強調構文
１４回目　時を表す前置詞句　（１４課終了）
１５回目　まとめと復習

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点：２０％　小テスト：２０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には文法を項目ごとにまとめ、単語帳と例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を必携すること。

フランス語VI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅶ	FRN202F

授業の概要　/Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書　/Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１) unité 1 : 自己紹介 (前半)
２) unité 1 : 自己紹介 (後半)
３) unité 1 : 自己紹介 (復習)、読解
４) unité 2 : 質問する (前半)
５) unité 2 : 質問する (後半)
６) unité 2 : 質問する (復習)、小テスト
７) unité 3 : 買い物をする (前半)
８) unité 3 : 買い物をする (後半)
９) unité 3 : 買い物をする (復習)、聞き取り
１０) unité 4 : いつ (前半)
１１) unité 4 : いつ (後半)
１２) unité 4 : いつ (復習)、小テスト
１３) unité 5 : どこ (前半)
１４) unité 5 : どこ (後半)
１５) 前期の復習、小テスト

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の取り組み・・・ ２０％
小テスト・・・ ６０％
期末テスト・・・ ２０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

フランス語VII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要　/Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書　/Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１）前期の復習、unité 6：誰（前半）
２）unité 6：誰（後半）
３）unité 6：誰（復習）、リスニング
４）unité 7：何（前半）
５）unité 7：何（後半）
６）unité 7：何（復習）、小テスト
７）unité 8：どのように（前半）
８）unité 8：どのように（後半）
９）unité 8：どのように（復習）、読解
１０）unité 9：過去について（前半）
１１）unité 9：過去について（後半）
１２）unité 9：過去について（復習）、小テスト
１３）unité 10：仮定、条件（前半）
１４）unité 10：仮定、条件（後半）
１５）後期の復習、プレゼンテーション

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の取り組み・・・ ２０％
小テスト・・・ ４０％
プレゼンテーション、レポート・・・ ４０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

フランス語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スペイン語I 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ｉ	SPN101Ｆ

授業の概要　/Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなった特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずです。どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書　/Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL 版』（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『西和中辞典』（小学館）
○『現代スペイン語辞典』（白水社）
○『クラウン西和辞典』（三省堂）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション、授業運営と成績評価について
第２回　発音
第３回　音節の分け方、アクセント、数
第４回　名詞の性と数
第５回　冠詞と形容詞
第６回　直説法現在形（規則活用）
第７回　目的語
第８回　動詞serとestar
第９回　hayの表現
第１０回　直説法現在形（不規則活用）１【語根母音変化】
第１１回　感嘆文と序数詞
第１２回　直説法現在形（不規則活用）２【一人称単数が不規則なもの】
第１３回　所有詞と接続詞
第１４回　直説法現在形（不規則活用）３【完全な不規則】
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト３０％　日常の授業への取り組み３０％　定期試験４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビュを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

スペイン語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書（スペイン語→日本語）を持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード　/Keywords

スペイン語　文法

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要　/Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなった特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずです。どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書　/Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL 版』（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『西和中辞典』（小学館）
○『現代スペイン語辞典』（白水社）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション、授業運営と成績評価について
第２回　目的格人称代名詞
第３回　前置詞と前置詞格人称代名詞
第４回　gustar型動詞
第５回　再帰動詞
第６回　無人称表現
第７回　命令法と不定詞
第８回　過去分詞と現在分詞
第９回　直説法点過去形（規則活用）
第１０回　受動文と直説法現在完了形
第１１回　直説法点過去形（不規則活用）
第１２回　知覚、使役の動詞
第１３回　直説法線過去形
第１４回　直説法過去完了形
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト３０％　日常の授業への取り組み３０％　定期試験４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビュを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

スペイン語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書（スペイン語→日本語）を持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード　/Keywords

スペイン語　文法

スペイン語III 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　ミヨコ・ フジヨシ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅲ	SPN102F

授業の概要　/Course Description

この授業は、アルファベットと発音の対応から始め、スペイン語の基礎的文法の確実な習得を目指す。　また、現在形を用いながら基本的な会話(自己紹介、など)、を修得するとともに、スペイン語圏の文化習慣等も併せて学習する。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの19カ国の人々やアメリカ合衆国に在住のヒスパニックの人々等を含む4億人以上の人々が母語として使っている言語である。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに出会うきっかけになることを期待している。

教科書　/Textbooks

山道佳子、 Jesús M.Martínez Astudillo　「¡En español, por favor!　(スペイン語でお願いします) 」
同学社、 ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（直接法現在形）

第1回　ガイダンス
授業の目標と進め方。基本的な挨拶。
第2回　発音
アルファベット・発音・アクセントの位置。
第3回　名詞の作り方
男性名詞、女性名詞、単数名詞、複数名詞。
冠詞＋名詞＋形容詞
第4回　名詞　（２）
指示・所有、形容詞・代名詞
第5回　つなぎのSER動詞　、
自己紹介、国籍、職業等。物や人物の描写
第6回　つなぎのESTAR動詞
健康状態、場所の説明。0～15の基数。
第7回　HAY動詞、
SER/ESTAR/HAY動詞の使い分け
第8回　規則活用動詞
～AR, ～ER, ～IR動詞の活用、重要な表現。
第9回　前置詞、疑問詞
前置詞の意味、使い方。
第10回　不規則動詞変化形 1 (e⇒ie)
～したい、～する予定、～し始める。
16～100の基数。
第11回　不規則動詞変化形 2 (o⇒ue)
～できる、～かもしれない。
時刻の表現。予定を言う。
第12回　不規則動詞変化形 3 (e⇒i)
頼み方,依頼するための表現、
101～億の基数。曜日,月日,季節。
第13回　不規則動詞変化形 4 (1人称単数だけ)
～しなければならない。～できる。
第14回　不規則動詞変化形 5
近い未来の表現。
第15回　まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意　/Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　ミヨコ・ フジヨシ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　比１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要　/Course Description

スペイン語IIIに引き続き、直接法現在形の基礎文法、過去形や未来形などの時制も学びます。　現在形の動詞を用いた基本的な会話を基礎として、さらにスペイン語圏でサバイバルできる程度の会話能力を身につけることを目指します。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの人々やアメリカ合衆国在住のヒスパニックの人々等をなど4億人以上の人々が母語として使っている言語であり、第2言語や第1外国語として使う人も入れるとさらに多くの人々が使っている。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに出会うきっかけになることを期待している。

また授業終了後も、サッカーなどスポーツのスペイン語中継や様々な分野のスペイン語でのインタビューなどへの興味を維持し、、自主的にスペイン語学習を継続してスペイン語を使う国々や人々の理解へつながることを期待している。

教科書　/Textbooks

山道佳子、 Jesús M.Martínez Astudillo　「¡En español, por favor!　（スペイン語でお願いします）」
同学社、 ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語IV 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
スペイン語IIIの復習。
第2回　直接目的格人称代名詞
[～を]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
第3回　間接目的格人称代名詞
[～に]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
第4回　GUSTAR形 動詞
～が好きだ、～と思う、～が痛い。
第5回　再帰動詞
他動詞の自動詞化、～し合う。
無人称･受身の表現
第6回　時刻表現と天候の表現。
第7回　比較級、絶対最上級
第8回　点過去形
過去の出来事を説明する。
第9回　線過去形
過去の習慣、祭り、など。
第10回　点過去形と線過去形比較対照
第11回　現在完了形
完了、経験、継続を表す。
第12回　現在進行形
～している。～してきた。～し続ける。
第13回　命令形
～してください。～しなさい。
第14回　未来形
～しようと思う。未来の計画について話す。
第15回　まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)､定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語V	SPN201F

授業の概要　/Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書　/Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。旧版なので生協では販売していません。もし所有していない場合は担当教員に相談して、直接購入して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語V 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 １年の復習（代名詞を中心に）
2 １年の復習（代名詞を中心に）
3 再帰動詞、無人称文など
4 再帰動詞、無人称文など
5 動詞の派生形とその用法（進行形、完了形、命令形など）
6 同上
7 ここまでの復習
8 点過去、現在完了の用法
9 同上
10 同上
11 線過去の用法
12 同上
13 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
14 視聴覚教材を使って
15 同上
授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材（プリント配布）を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意　/Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語VI	SPN211F

授業の概要　/Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Ｖに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書　/Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。旧版なので生協では販売していません。もし所有していない場合は担当教員に相談して、直接購入して下さい。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントも文書管理に残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 未来形とその関連時制の用法
2 同上
3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
4 同上
5 過去完了と時制の一致
6 受け身文、無人称文
7 同上
8 接続法の活用全般について
9 接続法の用法
10 接続法の用法
11 スペイン語版トトロを理解する
12 スペイン語版トトロを理解する
13 スペイン語版トトロを理解する
14 スペイン語版トトロを理解する
15 まとめ
授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意　/Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅶ	SPN202F

授業の概要　/Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書　/Textbooks

プリント配布　（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前年度スペイン語の復習、自己紹介
2回　他人の紹介、人についての表現
3回　一日のスケジュール
4回　日常の紹介（１）
5回　日常の紹介（２）
6回　買い物（１）
7回　買い物（２）
8回　好きなこと
9回　食事について（１）パエージャの作り方
10回　食事について（２）
11回　旅行
12回　休暇の過ごし方　どこへ？
13回　スペイン語圏について
14回　町の紹介
15回　まとめ

＊上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、日常の授業への取り組み　50%

スペイン語VII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくること。また、指定されたＷｅｂ上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてくること。
事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級（I・II・III･IV）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと思っています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。
また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://los40.com/　（スペイン語圏に広がる音楽ＦＭ放送）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭ放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード　/Keywords

スペイン語　スペイン語圏　中南米　ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要　/Course Description

前期のスペイン語VIIをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や 音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。 会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書　/Textbooks

プリント配布
（テキスト購入不要）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・ 和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1回　前期表現の復習、休暇中のこと
2回　さあ食べよう！ 今日の定食
3回　趣味の事（１）
4回　趣味のこと（２）
5回　仕事の紹介
6回　企業について
7回　旅行（１）
8回　旅行（２）
9回　過去の出来事（１）
10回　小さかった時
11回　過去の出来事（２）
12回　現在の推測
13回　スペイン語のDVDを理解する（１）
14回　スペイン語のDVDを理解する（２）
15回　まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

＊上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくること。また、指定されたＷｅｂ上のビデオを見て、字幕を読み予習をしてくること。
事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。
スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見ていきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか 推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることがで きるはずです。 また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/ など

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本語I 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語Iでは、特に「大学生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。並行して「読み」では、輪読形式で一冊の本を読み進め、日本語の本を最後まで読み通したという自信を持ってもらう。さらに、学期最後の一カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための２５のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan　Times)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　大学生生(1)【自己紹介から始めよう】
3回　大学生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】　読み(1)輪読
4回　大学生活(3)【キャンパスツアー】　読み(2)輪読
5回　大学生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】　読み(3)輪読
6回　大学生活(5)【図書館ツアー】　読み(4)輪読
7回　大学生活(6)【大学生活のデザイン】　読み(5)輪読
8回　大学生活(7)【講義の上手な受け方】　読み(6)輪読
9回　大学生活(8)【演習に参加するコツ】　読み(7)輪読
10回　大学生活(9)【大学の定期試験】　読み(8)輪読
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…　30　%
ポートフォリオ評価　…　70%(学習者評価　30%　　ピア評価　20%　実習生評価　20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活日本語　大学生活日本語　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　精読　チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション（書く）の能力を伸ばす。「対人性」と「場面生」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書　/Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』（由井紀久子他、凡人社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』（簗晶子他、The Japan Times）
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』（笠井淳子他、アスク）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
2回　アポイントをとる【PCメール】
3回　問い合わせる【PCメール】
4回　授業についてのコメントを書く【コメントシート】
5回　伝言する【メモ】
6回　誘う・誘われる【携帯メール】
7回　依頼する・依頼される【携帯メール】
8回　謝る【PCメール】
9回　お礼を言う【PCメール】
10回　報告する【PCメール】
11回　なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
12回　経験についての感想を書く【原稿用紙】
13回　募集する【チラシ】【掲示】
14回　アドバイスを求める【PCメール】
15回　評価【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%　日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をメールで送ること。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生（文学部比較文化学科日本語教師養成課程）が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

プロフィシエンシー　書く　対人性　場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor　徐　暁輝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体の感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書　/Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション
　　ＴＡＥ「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
2回　「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
3回　「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
4回　「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
5回　「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
6回　「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
7回　「初級編」【励ます言葉のワーク】
8回　「初級編」【マイセンテンス】
9回　「中級編」【パターンを見つける】
10回　「中級編」【パターンを交差させる】
11回　「中級編」【自己PR文を作ろう】
12回　「中級編」【資料を使って論じよう】
13回　「中級編」【経験から論じよう】
14回　「中級編」【感想文を書こう】
15回　評価【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み・・・30%　発表・課題・・・30%　自己評価…20%　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っていてください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

TAE　身体の感じ　日本語の私　母語の私

日本語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IVでは、特に「プレゼンテーション」に焦点を当てる。自己表現の手段としてのプレゼンテーション能力について「説明」と「説得」の二つの側面を考えながら育成する。さらに、日本語I同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『プラクティカル・プレゼンテーション(改訂版)』(上村和美他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『アカデミックプレゼンテーション入門』(三浦香苗他、ひつじ書房)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　セルフチェックしよう【発表・評価】
3回　国際空港の中を説明しよう【サンドイッチ構成】
4回　レシートのコンテンツを発表しよう【マトリックス思考】
5回　国際会議場の使用プランを立てよう【問題点と解決策】
6回　レジュメを作ろう【要点】
7回　パワーポイントを作成しよう【デジタル・プレゼンテーション】
8回　発表しよう・コメント/質問しよう【質疑応答】
9回　発表についてセルフチェックしよう【自己評価】
10回　同窓会の幹事をしよう【企画・進行】
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…30%
ポートフォリオ評価　…70%(自己評価　30%　ピア評価　20%　実習生評価　20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語IVと日本語V、日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

デジタル・プレゼンテーション　Contents(内容)　Techniques(技術)　Tools(道具)

日本語V 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書　/Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)チームで力を発揮する	論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
3回	スタディスキル(2)テーマを決めよう①	論理的思考力(2)イラスト・文章・表の内容を読み取る
4回	スタディスキル(3)テーマを決めよう②	論理的思考力(3)マッピングをして読む
5回	スタディスキル(4)資料を探そう	論理的思考力(4)登場人物になったつもりで読む
6回	スタディスキル(5)インターネットで情報を探す	論理的思考力(5)どちらがいいか考えながら読む
7回	スタディスキル(6)図解で考える	論理的思考力(6)理由を考えながら読む
8回	スタディスキル(7)表・グラフを描いてみる	論理的思考力(7)意味を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの特徴	論理的思考力(8)順序を考えて書いてみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成する	論理的思考力(9)理由を考えて書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本	論理的思考力(10)論理的に考えて書いてみる
12回	スタディスキル(11)パソコンを使ったプレゼン①	
13回	スタディスキル(12)パソコンを使ったプレゼン②	
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン③	
15回	総括	

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%　　授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

論理的思考　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　ピア・リーディング　スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　徐　暁輝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　自己PR(1)【自分を伝える】
３回　自己PR(2) 【情報を整理する】
４回　自己PR(3)【スピーチの準備をする】
５回　自己PR(4)【スピーチをする】
６回　自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
７回　ブック・トーク(1)【情報を探す】
８回　ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
９回　ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
10回　ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回　ブック・トーク(5)【発表する】
12回　ブック・レポート(1)【書く】
13回　ブック・レポート(2)【内容を検討する】
14回　ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
15回　総括【全体を振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…40%
ポートフォリオ評価　…60%(自己評価　30%　ピア評価　30%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　ピア・ラーニング　相互リソース化　批判的思考の獲得　社会的関係の構築

日本語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『協働で学ぶクリティカル・リーディング』（舘岡洋子他、ひつじ書房）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○『ひとりで読むことからピア･リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（舘岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
2回　私と外国語学習(1)【日本語が上手になるには】
3回　私と外国語学習(2)【外国語上達法】
4回　私と外国語学習(3)【外国語学】
5回　私と国(1)【さまよえる老婆】
6回　私と国(2)【越えてきた者の記録】
7回　私と異文化(1)【文化と理解I】
8回　私と異文化(2)【文化と理解II】
9回　私と異文化(3)【世界中がハンバーガー】
10回　私と学校【なぜ子どもは学校に行かねばならないのか】
11回　私と他者(1)【情けは人のためならず】
12回　私と他者(2)-1【自分だけのつぶやきを人に話してもいいの】
13回　私と他者(2)-2【「他人に嫌われること」をきにしてはいけないの】
14回　私と他者(3)【あなたなしでは生きてゆけない】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　課題…40%　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各ユニットの予習シートを事前学習として行います。また、同様に各ユニットのまとめ提出シートを事後学習として行います。

履修上の注意　/Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
授業は、課題の予習を全体として進めます。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

クリティカル・リーディングは、あらゆる分野において、大学における勉学の基本になります。

キーワード　/Keywords

クリティカル・リーディング　ピア・ラーニング　対話による思考のサイクル

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』（大島弥生他、ひつじ書房）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○『レポートの組み立て方』（木下是雄、筑摩書房）
○『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回　授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
2回　レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
3回　レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
4回　情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
5回　目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
6回　アウトラインを作る【序論・本論・結論】
7回　パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
8回　パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
9回　文章を点検する【校正/表現の点検】
10回　文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
11回　レポートの完成【体裁】
12回　発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
13回　発表する【話し手/聴き手/司会】
14回　発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
15回　学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　　レポート・発表…40%　　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

論証型レポート　ピア・ラーニング　論理的思考

日本事情（人文）A 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。
具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。
授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書　/Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
○『「お茶」の学びと人間教育』(梶田叡一、淡交社)
○『表千家茶道十二か月』(千宗左、日本放送出版協会)
○『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
○『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
2回　茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
3回　茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
4回　茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
5回　茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
6回　歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
7回　歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
8回　歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
9回　歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
10回　歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
11回　歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
12回　歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
13回　伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
14回　伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート　…　60%　　自己評価　…　20%　　ピア評価　…　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

学期の途中、6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業開始前まえに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には授業内容を復習すること。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
伝統文化と和服(考え方・着こなし)は切り離せない。受講者数にもよるが、着付けも授業で練習する。

キーワード　/Keywords

茶道　歌舞伎　日本文化　自文化　異文化　伝統文化　現代生活　サブカルチャー　文化の伝承

日本事情（人文）B 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情ー異文化を超えるー』明石書店

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　「境目」を読む
３回　「境目」について話し合う
４回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
５回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
６回　「ことばと文化を結ぶために」を読む
７回　「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
８回　文化観を比較する
９回　レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
10回　ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
11回　レポートの作成(2)修正する
12回　ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
13回　レポートの作成(3)修正する
14回　完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…50%　テスト…30%　授業への取り組み（発表や課題を含む）…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。

履修上の注意　/Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

文化　比較　交換

日本事情（社会）A 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

ビジネスケースメソッドを用いて、実在する企業のビジネスケースを題材とするグローバリゼーションやローカライゼーションを考えて生きます。具体的には、ディスカッションを通して分析能力や批判力を養うと同時にコミュニケーションスキルも伸ばして生きます。つまり、内容と言語を統合した学習を行うことにより、より高度な日本語能力の育成も図っているのです。
実在する企業を題材とすることで学習内容がテキストに限定されずに、具体的かつリアリティのあるものになり、また最新の情報を授業の中に取り入れることも可能になります。そして、多国に展開するグローバル企業の日本における戦略を考察することで、日本の社会や文化に対する理解を新たにすることが期待されます。

教科書　/Textbooks

『ビジネスケースで学ぶ日本語』(筒井通雄監修・高見智子著、TheJapanTimes)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『ケース･スタディ　日本企業事例集』(ハーバード･ビジネス･スクール著、ダイヤモンド社)
○『日本型企業文化論-水平的集団主義の理論と実証』(佐藤和著、慶應義塾大学出版会)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業オリエンテーション
２回　「1.日本コカ・コーラ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
３回　「1.日本コカ・コーラ」②読み物：内容理解
４回　「1.日本コカ・コーラ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
５回　「2．任天堂」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
６回　「2．任天堂」②読み物：内容理解
７回　「2．任天堂」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
８回　「3.コーチ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
９回　「3.コーチ」②読み物：内容理解
１０回　「3.コーチ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
１１回　「4.ウォルマート」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
１２回　「4.ウォルマート」②読み物：内容理解
１３回　「4.ウォルマート」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
１４回　「5.トヨタ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
１５回　「5.トヨタ」②読み物：内容理解

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…30%　　ポートフォリオ評価…70%(自己評価30%　ピア評価20%　教員評価20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業では、予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
各企業に対する理解を深めた後で、学びの統合を行います。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
この授業ではポートフォリオを作成します。必ず、この授業専用のファイルを１つ用意してください。
（ポートフォリオの内容については１回目の授業オリエンテーションで詳しく説明します。）
日本語の文法・語彙などは、チューター学生とともに予習・復習をしてください。

日本事情（社会）A 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ビジネスについて専門的に学ぶ授業ではありませんが、誰もが知っている実際の企業について、情報を収集し、日本語で読み、日本語で考え、日本語で話す合うことによって、知識(内容)と言語の両方を伸ばすことのできる授業です。皆さんの、主体的かつ協同的な学習姿勢を期待しています。

キーワード　/Keywords

内容言語統合学習　ケースメソッド　日本語運用能力　インプットからアウトプットへ　グローバル企業

日本事情（社会）B 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋げられるように、クリティカル･リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○岡益巳･ 深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
○坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
○葛文綺『中国人留学生･ 研修生の異文化適応』溪水社
　吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
○榎本博明（2002）『＜ほんとうの自分＞のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
○高松里（2015）『ライフストーリー･レビュー入門』創元社

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業オリエンテーション
第２回　「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル･リーディングの復習
第３回　クリティカル･リーディングの実践：研究論文を読む
第４回　留学生や元留学生にまつわる言説（１）日本社会の中の外国人という視点から
第５回　言説の考察（１）
第６回　留学生や元留学生にまつわる言説（２）留学の意義と留学に対する評価の視点から
第７回　言説の考察（２）
第８回　自己物語とアイデンティティ
第９回　自己物語を書こう（１）自己物語の実際
第１０回　自己物語を書こう（２）自己物語の書き方
第１１回　自己物語を読もう（１）論理実証モードと物語モード
第１２回　自己物語を読もう（２）共感から共鳴へ
第１３回　自己物語を語り直そう
第１４回　留学生のキャリア発達
第１５回　「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…30%　　課題…30%　　レポート40%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日本事情（社会）B 【昼】

キーワード /Keywords
言説　留学生のキャリア発達　自己物語

比較民族学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　成末　繁郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民族学に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	民族学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民族学に関連する課題を見い出し、自らの視点に基いて解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	民族学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較民族学	ANT213M

授業の概要　/Course Description

民族学や文化人類学がこれまで開発してきた「異文化理解」の戦略を、相対主義的な(対象地域の人々に寄り添った)解釈と普遍主義的な(近代合理主義的)解釈との対立を軸に、基本的で定評ある民族誌に依拠しながら解説していく。講師は文化相対主義且つ象徴人類学の立場に立つが、普遍主義的な解釈を完全に否定することはしない。時には相対主義的解釈よりもはるかに説得力を持つ場合もあることも認識しており、その点もあわせて解説するつもりである。また、理論的且つある意味で古典的な文化人類学の学説をトピックごとに解説する方式をとるので(往々にして、「今でもそのようなことが行なわれているのですか」という質問をうけてしまうことが多い)、「グローバル化」とか「ポスト･コロニアル」等の用語で言及されている状況(まさに現在の世界の実情)が手薄になるが、「グローバル化を考える」の表題のもとに関連する映像を見ることで、現在の世界を実感してもらうことでその部分を補足したい。ここで言う「映像」とは現在も伝統的な生活を守り続ける民族の記録及び世界各地でまさに今流行している音楽のビデオである。これらの映像をとおして「グローバル化」の実態への理解を深めることを目指したい。この映像中心の講義をトピックの区切りごとに3回ほど予定している。

今このときの世界に対する理解も含めて、出来るだけ相対主義的に考えていくdispositionを身につけることがこの講義の狙いである。尚、今回は宗教･呪術に関するトピックを中心に進める。

教科書　/Textbooks

テキストは特にない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press..
Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago.
Roy Wagner, 2010, Coyote Anthropology University of Nebraska Press.
Tambiah, S. J. 1985 Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
Amiria Henare, Martin Holbraad and Sari Wastell (ed) 2007 THINKING THROUGH THINGS Theorising artefacts ethnographically. Routledge.

比較民族学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 比較民族学とは何か　他者理解を目指す他の諸分野、例えば社会学や心理学との違いから特色を解説する。
2回 象徴論からみた「文化」の概念　記号論的な視点から「文化」の概念を分析する。
3回 「シンボル」の概念をめぐって　理解の道具として記号論の基礎を概説する。
4回 グローバル化を考えるI　宗教現象にかかわるできるだけ最新の映像を鑑賞する。
5回 宗教(1)欧米の宗教研究の批判的検討：欧米の宗教研究の基礎を方向付ける近代科学の思考枠組みを歴史化する。
6回 宗教(2)19世紀以降の欧米の宗教研究の批判的検討　①進化論の影響と科学への信仰
7回 宗教(3) 20世紀以降の欧米の宗教研究の批判的検討　②機能主義の台頭とフィールドワークの始まり
8回 グローバル化を考えるII　世界各地の最新の情報の紹介
9回 宗教(4)エスノセントリズムからの脱却と相対主義的な解釈の確立
10回 呪術(1)呪術解釈における欧米の研究の問題点：表現的行為と技術的行為：アフリカの憑依霊研究の錯誤
11回 呪術(2)合理主義の罠　「イカサマ」の概念と現地の人々のリアリティ
12回　グローバル化を考えるIII　世界各地の最新の情報の紹介
13回 呪術の効果をめぐって(1)　呪術の効果を科学的に説明する試み：構造主義と予言の自己成就説
14回 呪術の効果をめぐって(2)　呪術の効果をオルタナティブな観点から説明する試み　パフォーマティブ・アクト説
15回 呪術の効果をめぐって(3)　事物と概念の分断を超える試み：物を通して考えること

成績評価の方法　/Assessment Method

筆記試験の点数で判定する。基本的に出席はとらない(取る時は前もって告知する)。
試験の際には以下のものを持ち込み可とする。詳細は最初の講義の時に解説する。
①自筆のノート(ノートのコピーの持ち込みは厳禁)　②配布プリント(コピー可)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義で紹介する民族誌的な事例の大半は、Youtube等で映像で見ることができる。百聞は一見にしかずで、映像であれ実際に見ると事象をより立体的に把握することができるので、検索して視聴することをお勧めする。

履修上の注意　/Remarks

私語は謹んでほしいが、異論や反論や質問は大歓迎する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

呪術、妖術、パフォーマティブ・アクト、

人類学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor	竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人類学に関する専門的な知識の獲得。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	文化相対主義と人類の生物的普遍性について理解する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人類学概論	ANT100M

授業の概要 /Course Description

今までに「自己」と「他者」について深く考えてみたことはあるだろうか。他人とともに生きていくため人間関係を理解には、なにが必要だろうか。たとえ「心」や「社会」の仕組みがわかっても、人間関係は理解できない。人間関係はつねに変わっていく「なまもの」だからだ。時代や地域や育った環境によって異なる価値観をもとに、それぞれの人は他人と交渉し合意をはかり意思決定をする。そうした倫理や判断基準の背景になっているのが「文化」である。
自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感したり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。口では「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生きられるのは、考えてみればとても不思議なことだ。
人類学では、理解できるはずのない他人にフィールドワークという手法をつかって近づいていく。内容はちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうしたたくさんの経験を通して、「他人を知ることは自分を知ることである」という、もっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。
人間と自然と社会の相互作用に関する専門的な知識を身につけると同時に、主体的に学ぶ方法論を実践することがこの講義の達成目標となる。

教科書 /Textbooks

講義中にたくさんの本と映画を紹介する。
そのうちで最低でも５つくらいは最終講義までに読み終えておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「人間らしさとはなにか？　人間のユニ - クさを明かす科学の最前線」マイケル・S・ガザニガ
○「共感の時代へ　動物行動学が教えてくれること」フランス・ドゥ・ヴァール
以下はほんの一部である
○「完全な人間を目指さなくてもよい理由　遺伝子操作とエンハンスメントの倫理」マイケル・J・サンデル
○「日常人類学宣言！　生活世界の深層へ / から」松田 素二
○「熊から王へ」中沢新一
○「人類大図鑑」ロバ - ト・ウィンストン 小笠原景子
○「フィ - ルドワ - クへの挑戦 〈実践〉人類学入門」菅原和孝
○「身体の零度」三浦雅士
○「自由を耐え忍ぶ」テッサ・モリス・スズキ 辛島理人

人類学概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１講 文化とはなにか
第２講 近代とはなにか
第３講 共感とはなにか
第４講 他者とはなにか
第５講 交換とはなにか 入門編
第６講 交換とはなにか 応用編
第７講 社会とはなにか
第８講 国家とはなにか
第９講 信じるとはなにか 入門編
第10講 信じるとはなにか 応用編
第11講 自然とはなにか 入門編
第12講 自然とはなにか 応用編
第13講 わかるとはなにか 入門編
第14講 わかるとはなにか 応用編
第15講 すべてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義で紹介するさまざまな活動に参加する … ２０％
講義で紹介するさまざまな本を読み考える … ２０％
講義に関連して提示されるさまざまな議論に参加する… ２０％
講義の内容と上記の活動を踏まえた上で小論を提出 … ４０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専用のウェブ掲示板を設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこなう。インタラクティブな学びを意識すること。

履修上の注意 /Remarks

「人間ってなんだろう」「生きるってなんだろう」みたいなことについて、ふだんからよく考えており、すでに大人の心の準備ができている人が受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の講義は教えられることよりも、自分で考える事が大切です。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

比較宗教・ 思想 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及び欧米の宗教、思想の特徴について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本と欧米の双方に軸足を置きながら、宗教、思想を比較する研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本と欧米文化の宗教、思想に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文化と欧米文化の宗教、思想に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較宗教・思想	PHR211M

授業の概要　/Course Description

日本の宗教の特徴は、古代からの我が国固有の神への信仰【神道】と、インドから中国または朝鮮半島を経て我が国に渡来した【仏教】への信仰とを融合させた【神仏習合】である。仏教は紀元前5世紀頃に誕生し、紀元前後に中国に伝わったといわれるが、中国には紀元前6世紀頃より【儒教】があり、紀元前2世紀には漢が儒教を国教として以来、儒教は東アジアの宗教思想の中核となった。さらに西洋に目を向ければ、紀元前後にはギリシャとローマで、アポロ神など神々への信仰がある一方では、中東ではさらに古くからペルシャやユダヤの特異な宗教であるゾロアスター教や【ユダヤ教】のような一神教があった。ユダヤ教は紀元前4年頃誕生したイエスによって【キリスト教】へと発展して、紀元4世紀初期にローマ帝国が国教として以降、西洋で大きな勢力をもった。さらに又、紀元6世紀にムハンマドが誕生し、【イスラム教】を布教するようになると、イスラム教は中東のみならず世界的な宗教へと発展した。これら世界の主要な宗教である仏教、キリスト教、儒教、イスラム教そして日本古来の神道の宗教・思想を比較しながら、日本人の生き方と中国人の生き方、中東の人々の生き方、そして西洋人の生き方を学んでいきたい。そして、できたらそれぞれの国々の異なる文化を学ぶ一助になれることを願う。

教科書　/Textbooks

テキスト　資料はプリント教材を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

（参考書）
鎌田東二　：『神道とは何か』　（PHP新書）
松前 健　：『日本の神々』　（中公新書）
三枝 みつよし：『仏教入門』　（岩波新書）
ウィリアム・M・ギャロット　：『新約聖書』（角川文庫）
加地 伸行　：『儒教とは何か』　（中公新書）
桑原武夫　：『論語』　（ちくま文庫）
小杉 泰　：『イスラームとは何か』　（講談社現代新書）

比較宗教・思想 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　日米宗教比較––「日本人は無宗教か？信仰心が篤いのか！」
第2回　中東の宗教思想––ユダヤ教とキリスト教【一神教】
第3回　ユダヤ・キリスト教と西洋民主主義思想【民主主義と人権思想】
第4回　仏教誕生前夜【キリスト教と古代インド宗教哲学（ウパニシャッド）】
第5回　仏教伝来【インドの仏教⇒中国の仏教⇒日本への仏教伝来】
第6回　仏教【日本における展開（神道との衝突・習合）】
第7回　縄文人の古代信仰【アニミズムとシャーマニズム】
第8回　神道の形成【禊ぎと祓え】
第9回　アイヌや沖縄などの縄文信仰＋弥生信仰⇒神道成立⇒明治期の復古神道（伊勢神宮・靖国神社）
第10回　イスラム教【ムハンマド誕生】
第11回　イスラム教【ユダヤ教とキリスト教 vs. イスラム教】
第12回　儒教【孔子誕生・道教】
第13回　儒教【古い価値感からの脱皮】
第14回　儒教【現代的意味】
第15回　比較宗教・思想　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

リポート（70％）と期末試験（全体のリポート、30％）によって評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

世界の５大宗教に関する参考書を読み、さらに講義の後図書館で調べる。

履修上の注意　/Remarks

授業前に、指示された神道・仏教・キリスト教・イスラム教・儒教に関する参考書等を読んでおくこと。授業後には、配付資料やノートを見直し復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

【日米宗教比較】【日本：神道（神仏習合）】【中東：ユダヤ教・キリスト教・イスラム教】【インド：ヒンズー教・仏教】【東アジア：儒教文化圏】【中東・アフリカ・東南アジア：イスラーム】

比較歴史・文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	欧米を中心とした社会の歴史・文化に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	欧米を中心とした社会の歴史・文化の比較的理解に関わる資料を活用した研究能力を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	欧米を中心とした社会の歴史・文化に関する諸問題について、発見・分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	欧米を中心とした社会の歴史・文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較歴史・文化	HIS200M

授業の概要　/Course Description

近藤和彦の言葉を借りると、歴史学とは、「過去という異文化を考察し、甦らせる営み」である。あるいはE・H・カーに言わせれば、歴史とは、「現在と過去の間の尽きることをしらぬ対話」である。本講義では、主として18世紀以降の大西洋を挟んだふたつの国、イギリスとアメリカ合衆国における民衆の広い意味での「抗議行動」をとりあげ、何が人びとに制裁や抗議という行動を選択させたのか、またその行動は彼らが生きた社会の中でどのような意味をもっていたのかを考える。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。資料等は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)
１回　ガイダンス：【比較の手法】【歴史とは何か】
２回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代イギリスにおける女房売り
３回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代イギリスにおけるスキミントン
４回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代ヨーロッパにおける魔女狩り（１）【宗教改革・ルネサンス】
５回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代ヨーロッパにおける魔女狩り（２）【共同体解体の危機】
６回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代アメリカ合衆国における魔女狩り（１）【ピューリタニズム】
７回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代アメリカ合衆国における魔女狩り（２）【ジェンダー】
８回 【異議申立て】とコミュニティ：近代イギリスにおける食糧暴動（１）【18世紀英国社会】
９回 【異議申立て】とコミュニティ：近代イギリスにおける食糧暴動（２）【民衆による価格設定】
１０回 【異議申立て】とコミュニティ：アメリカ合衆国における食糧暴動（１）【20世紀初頭の米国】
１１回 【異議申立て】とコミュニティ：アメリカ合衆国における食糧暴動（２）【コウシャー肉暴動】
１２回 【異議申立て】とコミュニティ：【モラル・エコノミー】とは何か
１３回 【異議申立て】とコミュニティ：サッチャー政権下イギリスにおける労働運動
１４回 【異議申立て】とコミュニティ：レーガン政権下アメリカ合衆国における労働運動
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

比較歴史・ 文化 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日米文化比較 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　十時　康 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化とアメリカ文化の差異に関する専門的理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化とアメリカ文化の差異を分析する際の研究方法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本文化とアメリカ文化の差異について、自らの視点に基いて発見・分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文化とアメリカ文化の差異について関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日米文化比較	ARE260M

授業の概要　/Course Description

ジェンダー、宗教、若者文化など、多角的な視点から日米文化を比較します。

その過程で日米文化のそれぞれが保持する価値観の違いと両者の共通点にも目を配りながら検討していきます。

教科書　/Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『族の系譜学」（難波功士）、青弓社
○『Making America : the society and culture of the United States』（Luedtke, Luther S.）, U.S. Information Agency, Division for the Study of the United States, 1987

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. イントロダクション: 授業の進め方、成績判定方法などの詳細
2. 比較文化の基礎知識の確認：比較文化
3. 日米のジェンダーその1　【日本映画を分析：夫婦の視点】
4. 日米のジェンダーその2　【日本映画を分析：家族の視点】
5. 日米のジェンダーその3　【米国映画を分析：夫婦の視点】
6. 日米のジェンダーその４　【米国映画を分析：家族の視点】
7. 日米における「多様性」【ダイバーシティマネージメント】
8. 日米の記録文化【日記、ジャーナル】
9. 日米の宗教文化 その1【日本の宗教観、宗教行動】
10. 日米の宗教文化 その2【アメリカの宗教観、宗教行動】
11. 日米の若者文化その１【カウンターカルチャー】
12. 日米の若者文化その２【カウンターカルチャー以降の世代論】
13. 日米の若者文化その３【消費社会と日本の若者】
14. 日米の若者文化その４【ミニマリズム】
15. 授業全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

ミニレポート提出:50%
期末試験: 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業後は講義内容を復習しておくこと。また返却されたミニレポートを読み返しておくこと。

日米文化比較 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

比較。それは己を見つめる作業です。

キーワード　/Keywords

日英文化比較 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日英双方の文化について、比較文化的な観点から見た際の知識を深める。
技能	専門分野のスキル	●	文化を比較するにあたっての基本的な方法を習得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日英双方の文化について、それぞれ比較文化的な観点から問題点を発見する能力を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本との比較を通じてイギリス文化に対する理解を深める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英文化比較	ARE261M

授業の概要　/Course Description

この講義では、「若者」を主要なテーマにして、イギリスと日本の比較を行います。いわゆる「若者文化」の比較だけではなく、「社会」問題としての「若者」をそれぞれの国がどのように取り扱っているのか、つまりそれぞれの社会において「若者」というものがどのように位置づけられているのか、について比較することをも通じて、両国の「社会」の構造全体を比較したいと思います。個々の事象の比較というよりは、日本社会とイギリス社会全体の比較という形になるため、わかりにくい点もあるかもしれませんが、これも「文化」、さらには「社会」を比較するための一つの方法です。言うなれば、花や枝、そして木々の比較ではなく、森の比較です。そうした比較の結果として、日本とイギリスというそれぞれの社会についての新たな理解を得ることを目指しています。

教科書　/Textbooks

特になし（毎回、レジュメを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『イギリス「族」物語」（ジョン・サベージ）、毎日新聞社、2625円
○『族の系譜学」（難波功士）、青弓社、2730円
○『ノンエリート青年の社会空間』（中西新太郎・高山智樹 編）、大月書店、3360円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回 イントロダクション―「若者」って誰のこと？
第二回 イギリスの若者文化・その１～イギリス近代と「若者」の誕生
第三回 イギリスの若者文化・その２～「フーリガン」登場
第四回 イギリスの若者文化・その３～テッズからモッズへ
第五回 イギリスの若者文化・その４～スキンヘッズ・パンク・ポストパンク
第六回 イギリスの若者文化・その５～サッチャリズムからブリットポップへ
第七回 イギリスの若者文化・その６～若者文化の現状
第八回 イギリスの若者文化～映像で見る若者文化
第九回 日本の若者文化・その１～「青年」と「壮士」
第十回 日本の若者文化・その２～「皇国」の失われた「青春」
第十一回 日本の若者文化・その３～「アプレゲール」と「太陽族」
第十二回 日本の若者文化・その４～ 反抗する「若者」たち
第十三回 日本の若者文化・その５～ 文化としての「ヤンキー」
第十四回 日本の若者文化・その６～平坦な戦場を生きる私たち
第十五回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小レポート 40%、期末レポート 60%

日英文化比較 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習用の教材を配布することがあるので、配布されたものは次回授業までに必ず読んできてください。また、それ以外の授業で配布するプリントも、当該授業の復習として、また次回授業の予習として何度も読み返してください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「若者」を見ていく際の一つの手がかりとして、本講義では「音楽」を扱っています。「若者」の「音楽」に興味がある人もぜひ受講してみてください。

キーワード　/Keywords

若者文化、ロックンロール、階級、多文化主義、ニート、社会的排除

日仏文化比較 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及びフランスの文化について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本と欧米の双方に軸足を置きながら、文化の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本及びフランスの文化に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文化とフランスの文化に関する差異と類似、相互の影響関係について関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日仏文化比較	ARE262M

授業の概要　/Course Description

今年度も、記憶をテーマとして、現代美術、映画、写真、思想、文学、歴史といった領域を横断しながら、日本文化に投錨しつつ、フランスを中心にヨーロッパ文化圏に属する作品を比較検討していく。

教科書　/Textbooks

毎回、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ロラン・バルト著『明るい部屋』花輪光訳、みすず書房
○ヴァルター・ベンヤミン『図説　写真小史』久保哲司編訳、ちくま学芸文庫
○ポール・リクール『記憶・歴史・忘却』久米博訳、新曜社、等

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　序説：ざわめく記憶を眠らせる / 眠る記憶をざわめかせる
第２回　失われた時を求めて：プルーストとマドレーヌ
第３回　記憶と意識
第４回　忘却と意識
第５回　回想と意識
第６回　第一部のまとめ（コメントシートへの要約）
第７回　現代美術とざわめく記憶：日本の場合（Chim↑Pom、大竹伸朗、他）
第８回　現代美術とざわめく記憶：フランスの場合（ボルタンスキー、JR、他）
第９回　モニュメントとざわめく / 眠る記憶（日本の場合）
第10回　モニュメントとざわめく / 眠る記憶（フランスの場合）
第11回　第二部のまとめ（コメントシートへの要約）
第12回　映像と記憶I（日本）
第13回　映像と記憶II（フランス）
第14回　写真と記憶
第15回　まとめ：記憶の彼方に（コメントシートへの要約）

成績評価の方法　/Assessment Method

コメントシート（不定期）...50%
期末レポートもしくは期末試験...50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習が必要な場合は、その都度、指示する。また、定期的にコメントシートの記入を求めるので、既習事項はつねに復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業計画はあくまで目安であり、学生の理解度を見ながら進めていく。

日仏文化比較 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

芸術作品（美術、建築物、文学、音楽、舞踊等）を単なる美的創作物（＝装飾品）とは違った観点から眺めてみましょう。

キーワード　/Keywords

記憶　美術　映画　文学　思想　モニュメント

日中文化比較 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本と中国の文化の特色および共通点と差異について理解する。
技能	専門分野のスキル	●	日中の文化を比較する方法論を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日中文化の比較から課題を見出し、自ら分析・解決することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国文化への認識を深め、学びを継続する能力を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日中文化比較	ARE264M

授業の概要　/Course Description

日中比較の視角から、中国文化の基本知識、日中文化交流の歴史、実在の日中文化の共通点と相違点との三方面から、中国文化の基本知識を学ぶ。

教科書　/Textbooks

授業ごとに配る。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『東方栄養新書–体質別の食生活実践マニュアル』梁 晨千鶴　著
京都 : メディカルユーコン 2005年出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　中国文化とは何か
３回　中国の思想
４回　中国の宗教
５回　中国の科挙制度と現代教育
６回　漢字と書
７回　中国の世界文化遺産と自然遺産
８回　文化交流史ー古代篇
９回　文化交流史–中古篇
１０回　文化交流史–近世
１１回　東洋医学の考え方（１）【陰陽・五行について】
１２回　東洋医学の考え方（２）医食同源（東洋医学から考える食べ物と身体）
１３回　食文化
１４回　健康法
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況･･･60%　　テスト･･･40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、指示されたキーワードをよく調べること。授業後にはノートを見直し復習すること。

履修上の注意　/Remarks

好好学習、天天向上。

日中文化比較 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較、思想、宗教、漢字、喫、喝、

比較中国思想 【昼】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国思想の比較的理解に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国思想の比較的理解に関わり、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国思想の比較的理解に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国思想の比較的理解に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較中国思想	ARE310M

授業の概要　/Course Description

中国思想史の流れを勉強したうえで、日本における儒学の発展軌跡を勉強する。中、日両国の思想の特徴を解明するに努める。

教科書　/Textbooks

授業ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『中国文化叢書』、大修館書店1980年。○
『从汉学到中国学』（中華書局２００７年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回　中国思想史概論
第二回　先秦・諸子の思想
第三回　中国古代国家のイデオロギ
第四回　秦漢時代の思想
第五回　六朝の思想
第六回　唐代の思想
第七回　宋代の思想
第八回　日本古代の思想と儒教
第九回　江戸時代の思想史
第十回　日本の朱子学と古学派
第十一回　日本の陽明学
第十二回　日本における儒学の終焉と近代学校
第十三回　中國の儒教の終結
第十四回　新文化運動
第十五回　新中国の思想傾向、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に臨む態度３０％、演習あるいはレポート７０％。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

受講者は、授業前に前回提示したキーワードを調べ、授業後にノート確認する
こと。授業中に出された課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

本授業は、外国語学部中国学科と文学部比較文化学科の共通授業。
授業は日本語で行う。

比較中国思想 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

外国語が、普通の学生にとってはこれからの人生の武器に過ぎざるも、外国語学部の学生にとってはすべてである。

キーワード　/Keywords

比較東洋美術 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　五月女　晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	絵画を中心とする日本美術と中国美術の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	●	中国絵画等との比較の視点から日本絵画を考察している代表的な先行研究を理解する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	比較の視点から日本絵画を考察する研究方法を理解する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本美術と中国美術に対する興味関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較東洋美術	PHR212M

授業の概要　/Course Description

2008年、美術雑誌『国華』創刊120周年を記念して、東京国立博物館で「対決 巨匠たちの日本美術」という展覧会が開催された。本講義では、同展覧会において対決という名目で比較展示された巨匠たちの作品を改めて比較することを通して、日本近世絵画史の名品を概観し、それによって、日本の近世という時代に、いかに多様な表現が花開いていたかを確認したいと思う。さらには、それらの多様な表現を見せる様々な絵師たちは、日本の前時代の絵画や彫刻、さらには中国絵画などの学習を経て、自身の画風を確立していったことも確認したいと思う。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　「対決 巨匠たちの日本美術」展について
２回　狩野永徳と長谷川等伯【南宋山水画】
３回　狩野永徳と長谷川等伯【智積院】
４回　狩野永徳と長谷川等伯【牧谿】
５回　俵屋宗達と尾形光琳【風神雷神図】
６回　俵屋宗達と尾形光琳【古絵巻の学習】
７回　俵屋宗達と尾形光琳【燕子花図】
８回　尾形光琳と酒井抱一【夏秋草図】
９回　円山応挙と長澤蘆雪【透視図法】
10回　円山応挙と長澤蘆雪【元明清花鳥画・北宋山水画】
11回　円山応挙と長澤蘆雪【黒白屏風】
12回　伊藤若冲と曾我蕭白【枡目描】
13回　伊藤若冲と曾我蕭白【元明清花鳥画・動植綵絵】
14回　伊藤若冲と曾我蕭白【古典学習】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート（場合によっては学期末試験）・・・ 70%
コメントカード・・・ 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、充分に理解できていない箇所については、レジュメに挙げた参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

比較東洋美術 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較映像・ 文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	映像文化の比較を行う際に必要となる専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	映像文化の比較を行う際に必要な基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	映像文化の比較に関する課題を見い出し、自らの視点に基いて解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	映像文化の比較研究に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較映像・文化	MCC211M

授業の概要 /Course Description

題材たる映像として、本講義では、誰しもがなじみの深いハリウッド映画を用いる。比較は、映画と映画、また、映画と小説の組み合わせの形態で、編集した映画の一場面を鑑賞しつつ行う。このような形で映像の比較作業を行なうことによって、今まで見えていなかった、どのような、日米文化の一端が明らかになるのかを分析したい。同時に、比較という作業が、文化を研究するにあたって、有効な研究手段であることを理解してもらいたい。併せて、アメリカと日本、アメリカとイギリスの文化の違いに関する理解も深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメ等の資料を配布する。参考図書も、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

入門・ 現代ハリウッド映画講義　藤井仁子　人文書院
時計じかけのハリウッド映画　芦刈いずみ　角川ＳＣＣ新書
大人のための『ローマの休日』講義　北野圭介　平凡社新書
カーチェイス映画の文化論　長谷川功一　リム出版新社
映画の構造分析　内田樹　晶文社
「戦争映画」が教えてくれる現代史の読み方　福井次郎　彩流社
シネマの宗教美学　フィルムアート社
家族の幻影　伊藤淑子　大正大学出版会
ハリウッド100年のアラブ　村上由見子　朝日選書
映画で読む２１世紀　長坂寿久　明石書店
イエローフェイス　村上由見子　朝日選書
映画の中のアメリカ　藤原帰一　朝日選書
（大半が図書館蔵書です。）

比較映像・文化 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の進め方の説明、参考図書の紹介
２回　アメリカ版ゴジラ（1998年）の分析
３回　日本版ゴジラ（1954年）の分析
４回　日米のゴジラの比較分析
５回　ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているかの考察
６回　日米の映画タイトルの比較
７回　『シンドラーのリスト』と『ライフ・イズ・ビューティフル』を比較
８回　上記二作品の映画製作者の意図の差異を分析
９回　ユダヤ人と非ユダヤ人の感性の比較
１０回　日米の映画に見られる語りのあり方の違いを分析
１１回　日米の映画に見られる語りのあり方の違いと、文化との関係を分析
１２回　映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーの活躍の度合いの違い
１３回　映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーのキャラクターの違い
１４回　『ハリー・ポッター賢者』の原作と映画との比較によって明らかになる、英米の文化の違い
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…100%　配布プリント持ち込み可（ただし、書き込みがなされたプリントのコピーは持ち込みは不可）、自筆ノート持込可（ただし、コピーノートは持ち込みは不可）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、指定されたテーマの視点から、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。
授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較表象文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	表象を論じるための専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	表象を比較して論じるための専門的な方法を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	表象の比較を通して文化を見つめなおそうとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較表象文化	MCC210M

授業の概要　/Course Description

本講義では声・身体を人間の最も身近なメディアとして位置づけプロフェッショナルな表現行為の分析を講義する。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　働きかける声①【言語行為】【語りかける歌】【演説】
第３回　働きかける声②【ニュース】
第４回　働きかける声③【深夜ラジオ】
第５回　発語の重層性①【カタル】【落語】
第６回　発語の重層性②【声の身振り】【身体の一部としての声】
第７回　発語の重層性③【まくら】
第８回　発語の重層性④【ウタウ】【声と人格】
第９回　発語の重層性⑤【語り物】
第10回　発語の重層性⑥【浪曲】
第11回　発語の歴史性①【浪曲（明治・大正）】
第12回　発語の歴史性③【浪曲（昭和戦前・戦中）】
第13回　発語の歴史性③【浪曲（戦後）】
第14回　発語の歴史性③【漫才】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（コメントカード、課題、授業態度など）…約25%　学期末レポート約75%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：告知した事例について調べておく
事後：授業内容でわからないところがないか復習しておく。とりあげられた比較の視点がどのように応用できるか考えてみる。

履修上の注意　/Remarks

授業時間外においては、毎回授業内容についてのノートを確認し、コメントカード執筆にそなえること。

比較表象文化 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較日本文学（近現代）【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の近現代文学について、多様な比較の方法および考え方について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の近現代文学に軸足を置きながら、文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の近現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の近現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較日本文学(近現代)	LIT225M

授業の概要　/Course Description

本講義は、多様な〈比較〉の視点とその方法の獲得を目的とする。
具体的には、日本の近現代文学作品を〈比較〉という観点から分析することによって、一作品と向き合うだけでは成しえない〈読み〉の深化を試みる。
あらゆるモノは、その他のモノとの関係性の中で初めて明確にその力タチを現す。そうした関係論的世界において、〈比較〉は欠かせない視点である。

教科書　/Textbooks

入手困難なテキストについては、事前にプリント配布する（著作権切れものに限る）。また、入手が比較的容易なものについては、刊行状況や図書館での所蔵状況など、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　近世文学と近代文学の比較【近世文学概観】
第３回　明治開化期の文学と新聞記事との比較【文学の種としての新聞記事】
第４回　前近代の詩歌と近代の詩歌との比較（１）【前近代の詩歌を読む】
第５回　前近代の詩歌と近代の詩歌との比較（２）【近代の詩歌を読む】
第６回　映画との比較（１）【映画を鑑賞する】
第７回　映画との比較（２）【小説の細部を読む】
第８回　映画との比較（３）【映画と小説の比較】
第９回　「読み」の比較（１）【明治20年代の小説を読む】
第10回　「読み」の比較（２）【文学論争に発展した小説を読む】
第11回　「読み」の比較（３）【文学論争を読む】
第12回　作家論・作品論とテクスト論の比較（１）【作家論・作品論から小説を読む】
第13回　作家論・作品論とテクスト論の比較（２）【テクスト論から小説を読む】
第14回　国語教材の比較【定番教材とは何か】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

筆記試験…80%　リアクション・ペーパーの評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

取り上げる作品については事前に紹介するので、読んだ上で講義に参加すること。講義後は、講義内容の復習を行うこと。

比較日本文学（近現代）【昼】

履修上の注意　/Remarks

私語など、講義を妨げる行為は慎むように。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

主に短編小説を取り上げる予定です。小説を読んでから講義に参加してください。学びは俄然深まるはずです。

キーワード　/Keywords

日本近代文学、日本現代文学

比較日本文学（古典）【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　渡瀬　淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の古典文学を中心に、それに関わる多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の古典文学を軸として、時代や地域を横断する多様な文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本古典文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の古典文学を中心として、それに関わる異文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較日本文学(古典)	LIT226M

授業の概要　/Course Description

日本文学が、どのように外国文化を学び受け入れてきたかを、漢文との関わりを通して学ぶ。
漢文学の受容を通して日本文学の特質を考える。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメ、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　羽衣と白鳥処女伝説
３回　異界訪問譚と時間【仙界と時間の流れ】
４回　異界訪問譚と時間【浦島太郎】
５回　眉間尺【孝子伝と捜神記】
６回　眉間尺【日本における眉間尺譚】
７回　楊貴妃【長恨歌と長恨歌伝】
８回　楊貴妃【「長恨歌」と『源氏物語』】
９回　楊貴妃【日本の楊貴妃伝説】
１０回　原典と翻案【中国小説の受容：白話小説の流行】
１１回　原典と翻案【中国小説の受容：近世前期の文学と白話小説】
１２回　原典と翻案【中国小説の受容：雨月物語①序盤】
１３回　原典と翻案【中国小説の受容：雨月物語②中盤】
１４回　原典と翻案【中国小説の受容：雨月物語③終盤】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験９０％
平常の学習状況１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で取り扱う作品については、事前に読んでおくこと。
授業で指示された参考文献には、事前に目を通して授業に臨むこと。

比較日本文学（古典）【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講人数、受講者の興味関心によって、扱う作品を一部変更することがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較広域文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及び欧米をはじめとする広域文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	広域文学を比較する研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	広域文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用し、複眼的視野に立って考察し、解決することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本及び欧米をはじめとする広域文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較広域文学	LIT200M

授業の概要　/Course Description

幻想文学とは、人間の自由奔放な想像力が最も発揮される分野である。しかし、各国の幻想文学を比較してみると、類似のテーマを用いた文学が多いことに驚かされることがある。この講義では類似のテーマを扱った各国の幻想文学を比較することで、そこに現れた文化の違い、人類としての共通点などについて考える。

この授業の到達目標は以下の通り。
・ 日本及びヨーロッパ、中国など各国の幻想文学について理解している。
・ 広域文学を比較する研究方法を身につけている。
・ 広域文学に関する課題を設定し、複眼的視野に立って考察・ 解決できる。
・ 日本及び欧米など広域文学に対する関心を深める。

教科書　/Textbooks

授業中にプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の中で随時紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　幻想文学の比較について
２回　人間と人形の恋
３回　江戸川乱歩の『人でなしの恋』
４回　井原西鶴の『男色大鏡』
５回　中国・ 志怪に見る人形
６回　ホフマンの『砂男』
７回　『砂男』の人形の役割
８回　人間と人形の恋についてのまとめ
９回　鏡と自我
１０回　日本古典文学での鏡の意味
１１回　日本近現代文学での鏡の意味
１２回　ホフマンの『大晦日の夜の冒険』
１３回　エーヴェルスの『プラハの大学生』
１４回　西洋文学での鏡の意味
１５回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験で100%評価するが、出席状況が悪い場合は最高10%の減点措置がある。

比較広域文学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で配布するプリントの内容をよく読み、授業中に示した重要ポイントと照らし合わせて復習しておくこと。また、授業で紹介した文学作品等は、積極的に読むこと。

履修上の注意　/Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較ジェンダー論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　力武　由美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及び欧米をはじめとする地域のジェンダーの問題について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本と欧米のいずれかに軸足を置きながら、ジェンダーの領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本及び欧米におけるジェンダーに関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本と欧米をはじめとする異文化のジェンダーの領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較ジェンダー論	GEN210M

授業の概要　/Course Description

グローバル化が進展するなか、ナショナルとグローバルのせめぎあいのなかで変容する表象文化に焦点を当て、そこに潜むジェンダー・ポリティクスを、国際比較というツールを用いて、歴史的 / 地域横断的に読み解く視点と理論を身につける。

教科書　/Textbooks

事前にレジュメと資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『象徴としての女性像–ジェンダー史から見た家父長制社会における女性表象』（若桑　みどり著）筑摩書房　4,500円
『視線と差異–フェミニズムで読む美術史』（グリゼルダ・ポロック　著）新水社　4,515円
『女性・ネイティブ・他者–ポストコロニアリズムとフェミニズム』（トリンティ・ミンハ著）岩波書店　3,675円
『岩波女性学辞典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店　4,830円

比較ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　絵画のなかの家族・子ども
２回　絵画のなかの妻・娼婦
３回　絵画のなかのオリエンタリズム
４回　モダンガール・東アジア・植民地的近代
５回　対ソ戦略韓国 - 沖縄 - 台湾 - フィリピン防衛ラインにおける米軍基地文化と暴力
６回　小説・戯曲・宝塚にみる異装性
７回　広告・映画のなかのジェンダー、人種 / エスニシティ、階級とポストコロニアリズム
８回　広告・映画のなかのマッチョ文化
９回　ディズニー映画と帝国主義
１０回　映画のなかの「レイディーズ・ファースト」
１１回　絵画・映画・小説のなかの美女と死
１２回　ファッション雑誌がつくる「美」と美容整形
１３回　越境する日本のマンガ・アニメ、コスプレ、ライトノベル
１４回　アメリカ大統領家族と日本天皇家家族の肖像とナショナリズム
１５回　セックス / ジェンダー / セクシュアリティの境界を侵犯する表象文化とその展望

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン…30％、レポート…30％、期末試験…40％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、事前に配布される授業の資料を授業開始前までに読んで、内容に類似した作品が他にないか情報検索をしてみること。
事後学習として、また期末課題の準備作業として、日頃から表象文化に関心を向け、授業の各回の主題に関連した表象文化の認識・分析に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバリ化が進展する状況下でのメディア表象に日頃から関心を向け、ジェンダーの視点で問い直す作業を行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

オリエンタリズム、階級、グローバリゼーション、コロニアリズム、セックス / ジェンダー / セクシュアリティ、人種 / 民族、多文化主義、ナショナリズム、表象文化、ポストコロニアリズム、ポリティクス、眼差し

比較社会意識 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　古賀　琢磨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の意識の変容を、社会変動から理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身と社会の関係性について、客観的に捉え直し、その成立の背景を資料を用いて考察する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会変動に伴い、自身の思考のあり方がどのように変容した（する）のかを適切に把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（人関）社会意識論	SOC210M
（比文）比較社会意識	SOC210M

授業の概要　/Course Description

私たちの行動は、現在の状況を整理し、将来を予測する中で目的を自由に設定し、合理的に達成しようとする個人によって行われているように語られ、あるいは逆に、人間は与えられた状況の単なる関数であるかのように語られることもある。しかし、周囲を見渡してみれば、人間はどこまでも自由に行動しているわけでもなく、かといって、個々の属性に従って単に現在のみに生きるわけでもない。行動するその人の生活史や将来への期待、社会的な慣習や歴史といったものとの葛藤とともに内面化された「意識」に基づいて行動しているとも言える。このとき、私たちは個人的なものと捉えられがちな記憶や言語を再度、捉え直さなければならなくなる。同時に、歴史やマス・コミュニケーションといったどこかから、誰かから送られてくるだけに見えるものも検討していく必要があるだろう。本講義では、前半で社会意識に関する諸議論について検討し、後半では戦後日本を事例としつつ社会意識の変動を解説していく。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.【意識】についていかに語るか
2.【記憶】、【歴史】と意識
3.【言語】と意識
4.【まなざし】と意識
5.規範・法・モノ
6.【近代化】と意識
7.【マス・コミュニケーション】と意識
8.【情報社会化】と意識
9.【消費社会化】と意識
10.生産・消費・環境
11.日本における社会意識の歴史（戦後～60年代）
12.日本における社会意識の歴史（60年代～70年代）
13.日本における社会意識の歴史（70年代半ば～90年代）
14.日本における社会意識の歴史（90年代以降）
15.まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験のみ

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後課題を共有フォルダに挙げるので、講義の前に課題文をよく読み、講義の後に要約すること。
学習の進め方、学習時間の取り方に関して分からない点がある場合、講義の後に質問を受け付ける。

履修上の注意　/Remarks

比較社会意識 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較社会文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　古賀　琢磨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における文化について、多角的な視点から理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	興味関心のある文化事象を、経済や政治といった社会的な側面から分析し、その問題点を批判的に捉える。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自分自身が文化生産者としてどのような活動ができるのかを把握し、さらにそのことが社会に与える影響について学ぶことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（人関）文化社会学	SOC211M
（比文）比較社会文化	SOC211M

授業の概要　/Course Description

「文化」という言葉が何を指すか、それ自体がそもそも問題とされるべき事柄である。他から独立して対象とされるべきものであるのか、それとも他に従属的なものとして捉えるべきものなのか。人格を涵養する高級なものと見なされることもあれば、生活様式という広範なものを指すこともある。本講義では、文化がどのように語られてきたのかを解説しつつ、現代文化の分析、現代文化についての諸理論を用いた地域社会や福祉、観光といった領域への応用を俎上に載せる。
なお、本講義ではサブカルチャーを対象として議論が進められることがある。極力解説を加えるが、馴染みがない対象については積極的に質問することを推奨する。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1.【文化】についてどのように語るか
2.近代と文化
3.【フランクフルト学派】と文化1
4.【フランクフルト学派】と文化2
5.【文化資本】と【再生産】
6.労働者階級の文化
7.物語、テクスト、読者
8.【ポストモダニティ】と文化
9.【カルチュラル・ スタディーズ】と現代文化
10.【現代文化】　絵画・ 写真
11.【現代文化】　音楽
12.【現代文化】　映像
13.地域社会、都市と文化
14.福祉と文化
15.まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験のみ

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・ 事後課題を共有フォルダに挙げるので、講義の前に課題文をよく読み、講義の後に要約すること。
学習の進め方、学習時間の取り方に関して分からない点がある場合、講義の後に質問を受け付ける。

履修上の注意　/Remarks

比較社会文化 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

近現代美術 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　真武　真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	近現代美術の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	●	近現代美術の研究方法を理解する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	近現代美術を考察する力を身に付ける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	近現代美術に対する興味関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

近現代美術	PHR213M

授業の概要　/Course Description

20世紀美術は、ダダ・シュルレアリスムに始まり、数々の集団的な運動として表れた冒険と実験、変革の時代が続いた。そして「芸術の終焉」とも囁かれた20世紀末を経て21世紀の今を迎えている。20世紀の画期的な芸術事象を捉え、その現代における意味、現代の表現にまで投げかける課題を探る。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「コンセプチュアル・アート」　著・トニー・ゴドフリー　岩波書店 2001
「アート：”芸術”が終わった後の”アート”（カルチャー・スタディーズ）」著・松井みどり　朝日出版社 2002
「現代アート事典　モダンからコンテンポラリーまで…世界と日本の現代美術用語集」　美術手帖編集部　美術出版社 2009

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. マルセル・デュシャン「泉」から100年、デュシャンは21世紀までも抜群の影響力
2.ヨーロッパ起源のダダ運動
3. シュルレアリスムの魔力
4. アメリカ大陸のシュルレアリスト
5. アメリカ大陸でのダダ継承 1950年代からのネオ・ダダ
6. 身体・環境・日常
7. そこから生まれたポップ・アート
8. ポップ・アートのクールな兄弟姉妹 less is more
9. アートとは何か？、コンセプチュアル・アートの探求
10. 写真が重要なメディアに
11. 限定のない展示空間、野外へ
12. 空間全体が作品となるインスタレーション
13. シミュレーショニスムは何を模倣するか？
14. ジェンダー、エコノミー、ポリティクス　コンセプチュアル・アートからの展開
15. グローバリズムと多民族主義のアート

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト(2回)・・ 50%
日常の授業への取り組み・・ 10%
レポート・・ 40%

近現代美術 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
(2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード　/Keywords

情報社会論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　明間　肇 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会におけるメディアの重要性について理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代に固有のメディアが、社会や個人意識の変化にもたらす影響を、具体的な事例を使いながら分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	メディアと社会の関わりについて、批判的な視点を持つことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報社会論	SOC213M

授業の概要　/Course Description

アメリカ大統領選挙でトランプ氏の勝利を可能にしたのは社会の中心的なメディアがマスメディアからネットワークメディアへと移行したことが最大の要因であるように思われます。トランプ氏の勝利は情報社会の変容の波頭であり、大きな変化の予兆でもあるのではないでしょうか。そこで、ポスト近代（情報社会・高度消費社会）が大きな近代化の流れの中でいかに成立してきたのか、また、社会意識がいかに変容してきたのかを考えていきます。近代化と近代的主体の構築過程を追いながら、現代における主体の変容の必然とその先に予想される新たな連帯の可能性について考えてみたいと思います。また、メディアとしての身体がいかに環境-社会に埋め込まれ、それによって変容を蒙るのか、さらにはそのような状況における能動性の起点としての意味（sense：感覚）についても考えてみたいと思います。
また、グローバル化により引き起こされた諸問題について、ジョン・アーリのoffshoringという視角から検討してみようと考えています。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）、田中義久編『関係の社会学』弘文堂（1996年2月）、宇野常寛『リトル・ピープルの時代』幻冬舎（2011年7月）、丸山圭三郎『ソシュールの思想』岩波書店（1981年7月）、大黒岳彦「情報社会の＜哲学＞」勁草書房（2016年8月）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　講義概要の説明：問題提起および問題意識の所在
２回　【市民社会】における【情報社会】の位置づけ：市民社会の歴史的な規定性の貫徹
３回　【脱魔術化】の過程としての【近代化】：【近代市民社会】の意識のあり方および【高度消費社会・情報社会】の位置づけ
４回　社会学の成立と近代の関係および補足：【資本制社会】の成立過程における個人と社会のあり方の変容
５回　補足・討論
６回　【メディア】について：【身体-主体】の変容をもたらすものとしての【メディア】
７回　【身体-主体】の基本的構制：【近代的主体】と【メディア】との関係性
８回　【メディア】からみた現代：社会意識の変容
９回　【ポスト近代】について：【多様化】する【身体】と【メディア】
１０回　補足・討論
１１回　近代権力とは何か：近代化と【生-権力】の成立の関係
１２回　グローバル化とoffshoring
１３回　現代社会の諸相を考える＋補足：新たな【連帯】のエートスへ向けて
１４回　補足・討論
１５回　まとめ
上記予定は、講義日程や講義の理解度に応じて適宜順序を変更する可能性があります。また、補足として映画等を観て、あるいは一定の課題のもとでレポートを書いていただく予定です。

成績評価の方法　/Assessment Method

学習状況…40%　レポート…20%　試験…40%

出欠は毎回確認しますので、出欠状況も評価の対象となります。

情報社会論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ビッグデータや人工知能など現代に特徴的な現象についての記事や報道などに関心を向けておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的に質問する姿勢で講義に臨んでください。

キーワード　/Keywords

消費社会論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　阪井　俊文 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の消費行動と社会の関わりについて理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	消費行動を、経済行動に加えた社会的な行動として捉え、具体的な事例をもとに分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	消費行動について、批判的な視点を獲得し、行動できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

消費社会論	SOC214M

授業の概要　/Course Description

現代社会における個人と消費行動についての社会学的な理論や分析視点を解説する。そこから、近代社会の共通の問題と、現代社会の特徴について理解するための視点を獲得する。消費行動を多面的な視点からとらえ、現在進行形の社会事象に対して批判的な思考ができるようになる。

教科書　/Textbooks

使用しない。必要に応じて適時資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　社会の変遷：「生産」と「消費」
２回　生産様式の変容：「フォーディズム」から「ポスト・フォーディズム」へ
３回　記号消費：使用価値と交換価値
４回　消費文化とアイデンティティ：消費実践と自己再帰性
５回　流行現象に関する諸理論
６回　「マクドナルド化」論：消費社会の象徴
７回　消費社会と「感情労働」
８回　消費社会とグローバリゼーション
９回　消費社会と「健康」
10回　消費社会における「リスク」
11回　消費社会における人間関係
12回　消費社会と「恋愛」
13回　消費社会と「ジェンダー」
14回　消費社会と「格差」
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義の中で行う小レポート20%。期末レポート80%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

社会現象に対する社会学的な理解を要求するので、同時に開講されている社会学専門科目と併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

理論社会学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　鈴木　健之 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　集中
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会学における理論史の基礎を学ぶ。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における適切な理論的枠組を用いて、現代事象を分析できるようになる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	常に変動する現代社会を多面的かつ客観的に見るための理論的視野を身につける。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

理論社会学	SOC212M

授業の概要　/Course Description

概要：アメリカの主要な社会学理論を取り上げ、講義する。第1部「パーソンズ以前の社会学理論」、第2部「パーソンズ派の社会学理論」、第3部「アンチ・パーソンズ派の社会学理論」、第4部「ポスト・パーソンズ派の社会学理論」という構成で、下記の理論を取り上げていく。

目的・目標：アメリカ社会学の使命は、アメリカにおける＜自由で平等な市民の連帯＞の「可能性」（同時にその困難さ）を解き明かすことにある。アメリカの社会学理論は、自由で平等な市民の連帯について、原理的な考察を行ってきた。授業では、アメリカの諸社会学理論に学びつつ、21世紀における市民の連帯について、皆さんと一緒に考えていきたい。

教科書　/Textbooks

鈴木健之『社会学者のアメリカ--機能主義からネオ機能主義へ--』恒星社厚生閣1997年（○）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ジェフリー・C・アレクサンダー『ネオ機能主義と市民社会』（鈴木健之編訳）恒星社厚生閣1996年（○）
新睦人編『新しい社会学のあゆみ』有斐閣2006年（○）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：アメリカ社会学理論の構造
第1部：パーソンズ以前の社会学理論
第2回　シカゴ社会学の成立と展開(1)　【シカゴ第一世代】
第3回　シカゴ社会学の成立と展開(2)　【シカゴ第二世代】
第4回　シカゴ社会学の成立と展開(3)　【シカゴ第三世代】
第2部：パーソンズ派の社会学理論
第5回　ハーバード社会学の成立と展開(1)　【パーソンズ派】
第6回　ハーバード社会学の成立と展開(2)　【マートン・ユーザー】
第7回　ハーバード社会学の成立と展開(3)　【パーソンズ・マートン・ダイアローグ】
第3部：アンチ・パーソンズ派の社会学理論
第8回　シカゴ社会学ルネッサンス　【アメリカ社会学の中心】
第9回　コロンビア社会学の成立と展開　【マートン派】
第10回　バークレー社会学の成立と展開　【スメルサーとベラー】
第4部：ポスト・パーソンズ派の社会学理論
第11回　歴史・比較社会学の成立と展開　【スコッチポル】
第12回　ネオ機能主義社会学の成立と展開　【アレクサンダー】
第13回　ミクロ-マクロ・リンク　【ガーフィンケル】
第14回　「ポストモダン」以後の社会学理論　【サイドマン】
第15回　社会学理論の未来

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト・・・30%、レポート・・・70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本講義は集中講義で行われる。事前に教科書（拙著『社会学者のアメリカ』）を読んでおくこと。レポート作成に当たっては、事後の文献購読が肝要である。指定された文献を精読すること。

理論社会学 【昼】

履修上の注意　/Remarks

適宜、課題を出すので、課題を終えてから、授業に臨むこと。
集中講義であるので、毎回の出席は言うまででもない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

シカゴ社会学、シカゴ第一世代、シカゴ第二世代、シカゴ第三世代、ハーバード社会学、タルコット・パーソンズ、エスノメソドロジー、ハロルド・ガーフィンケル

フィールドワーク論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　門馬　一平 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	フィールドワークに関する、さまざまな技能を学習する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	対人的な質的調査にもとづく事例の分析から問題点を抽出し、考察を行う。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	フィールドワークの技法を社会的なさまざまな実践に応用する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フィールドワーク論	ANT212M

授業の概要　/Course Description

本講義では、さまざまなフィールドからの具体的な報告を紹介しながら、フィールドワークについてのエッセンスを学びます。また、講義の中で受講生と議論しながら「フィールドワークとは何か」についてともに考えたいと思っています。講義をできるだけ双方向性のあるものにするため、常識にとらわれない積極的な発言を推奨します。また、受講生の意見を授業に反映させるため、成績評価に関係しない質問用紙やレポート用紙を配布します。

インターネットであらゆる情報が手にはいる現代において、自分の足で歩き、自分の目で見て、自分の耳で聞く、その意味とは何か。実際、フィールドワークをおこなうと、インターネットや本とは違い五感で生きた情報に触れることができます。講義では、フィールドワークにおいて得られるこうしたデータの質的な特徴についても考察します。また、内と外、自己と他者、他者と異者、自然と文化など、その「間に立って考える」、ということの可能性を模索します。

フィールドワークを通じて自分自身の身体感覚や身体技能、社会技能が変化するということにも注目します。ひととの関わりは、社会的な実践とつながり、翻って調査者の暮らし方や生き方を変えます。大学でおこなう調査・研究と社会的な実践・連帯との関連性を、フィールドワークという手法の応用として考えることを達成目標とします。

教科書　/Textbooks

適宜講義中に紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『フィールドワークの絶望と愉悦　山野や村を歩く』2015　篠原徹
『フィールドワークへの挑戦–"実践"人類学入門』2006　菅原和孝○
『調査されるという迷惑–フィールドに出る前に読んでおく本』2008　宮本常一・安渓遊地○
『ヤシガラ椀の外へ』2009　ベネディクト・アンダーソン○
『右利きのヘビ仮説』2012　細将貴○
その他講義中に適宜紹介します。

フィールドワーク論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１講　イントロダクション～フィールドワークとは
第２講　人はなぜフィールドワークするのか（前編）
第３講　人はなぜフィールドワークするのか（後編）
第４講　フィールドワークに手法はあるのか（前編）
第５講　フィールドワークに手法はあるのか（後編）
第６講　さまざまなフィールド–自然・どうぶつ
第７講　さまざまなフィールド–ひと
第８講　さまざまなフィールド–文化と普遍特性
第９講　未知のフィールドに行く
第１０講　他者を知ること–調査・参与観察
第１１講　他者を知ること–身体感覚・技法
第１２講　他者を知ること–分析・比較
第１３講　フィールドワークの可能性ー社会的な実践
第１４講　フィールドワークの可能性ー暮らし方・生き方
第１５講　まとめ

題目や内容は、理解度にあわせて変わることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義で紹介する社会活動に参加、本を読んで考える・・・５０％
講義と実践をふまえてレポートを書く・・・５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に紹介するイベントに参加することを推奨します。
授業中に紹介する本を読むことを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人類学　フィールドワーク　他者理解

人間性の進化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor　木下　靖子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	進化論的な視点から人間性の獲得に至るプロセスを理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	進化論的な視点から現代社会との相関を考える。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	生物学的な特性に視野をひろげ、人間とはなにかを探究する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間性の進化	ANT211M

授業の概要　/Course Description

本授業では、ヒトの「人間性」について進化人類学の視点から学習し、進化論的な視点から現代社会の出来事について考察する能力を身に着けることを目指します。

人間性やモラルは、時代や地域、文化や環境によって、さまざまに変化します。しかし、ヒトという種を多様な生物のバリエーションのひとつとして見たとき、長い進化の過程で身に着けた、共通する「人間性」があることがわかります。文化や教育を超えた共通する「人間性」を客観的に明らかにすることは簡単なことではありませんが、他の動物との比較、特に類人猿と呼ばれる遺伝子的にヒトと近いサルたちの観察によって、これまで大きな発見がもたらされてきました。

授業の前半では、進化論の概論と、類人猿たちを中心とする動物行動学のデータを取り上げ、進化論からみた「人間性」について概論を講義します。後半では進化論を背景として、社会学や人類学における協力や葛藤、正義についてのデータを取り上げ、人間が持つ普遍的な正義や道徳について講義します。

教科書　/Textbooks

指定の教科書はありません。当日に使用するレジュメを配布します。
必要に応じて、理解を深めるために動物行動学や進化に関する映像を用います。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○マイケル.S.ガザニカ（著）　2010『人間らしさとはなにか？』インターシフト
・ 西田正規（他編）　2003『人間性の起源と進化』昭和堂

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1：　イントロダクション
2：　人間の脳
3：　人間とチンパンジー
4：　人間と社会
5：　人間の道徳1
6：　人間の道徳2
7：　人間の情動
8：　人間の芸術
9：　人間の意識
10：　人間の肉体
11：　人間と動物
12：　人間の男女
13：　人間と葛藤
14：　人間と葛藤解決
15：　学期末試験

成績評価の方法　/Assessment Method

中間レポート（20%）
学期末試験（80%）

人間性の進化 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回キーワードや疑問を紹介するので、自分なりの答えや新たな疑問を考えておいてください。
興味のある、または関連する項目について、授業の前後で自分なりに調べ、理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

人間性、道徳、協力、心の理論、普遍性

日本の宗教文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の宗教文化に関する知識・理解を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	日本の宗教文化に関する資料の読解力や研究方法を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の宗教文化について適切な研究方法にもとづき考察できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の宗教文化への認識を深め、学びを継続する能力を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の宗教文化	PHR214M

授業の概要　/Course Description

テーマ：神道の成立と展開

初詣やお祭りやお祓いなど、日本人の宗教生活に密着した宗教である神道については、義務教育や高校教育では詳しく触れられることがない。学界においても、戦前戦後を通じて本格的に考究されることがなかった。近年になってようやく研究が進展しはじめた。最近はパワースポット詣でやスピリチュアルブームでもてはやされているところがあるが、そうした関連書籍に目を通しても、ずいぶん誤解されているところが見受けられる。
神道という宗教は日本の民族宗教として原始時代から成立していたと考えられがちである。また民俗宗教として社会の中で自然発生的に形をなしてきた宗教という見方もなされることもある。あるいは、神道は土俗的信仰が仏教に取り込まれる中で、仏教の一つの部門・形態として形成されてきたとする議論もある。しかしながら本当にそうであろうか。
神道という宗教は、稲作漁労文化を基盤としているが、それが自然に発展を遂げて今日に至ったものではなく、古代東アジアの国際関係・文化交流・宗教交流の中の様々な力学によって形作られていったと考えられる。
神道は奈良時代に仏教との関係を深めていく。律令国家が神道と仏教を国家の宗教の二本柱と位置付ける中で、神を仏との関係をどう位置付けるか、その思想は政治的要因も絡んで大きく揺らいでいく。今日に続く神道と仏教という二つの宗教の共存のあり方は平安時代まで試行錯誤が続いていくのである。こうした古代の宗教史は今日の日本人の宗教生活や文化のありかたとも密接に関わってくる問題だろう。　古代のみならず中世から現代までの日本宗教の流れにも触れながら講義を進めていきたい。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○岡田荘司編『日本神道史』（吉川弘文館）
○井上光貞『日本古代の王権と祭祀』（東京大学出版会）
○高取正男『神道の成立』（平凡社）
○村山修一『本地垂迹』（吉川弘文館）
○吉田孝『日本の誕生』（岩波新書）

日本の宗教文化 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の進め方
２回　「神道」の成立をめぐる諸学説
３回　律令制以前の「神道」
４回　神社の成立と古代の神信仰
５回　神祇令の成立
６回　中国の皇帝祭祀と神道（１）皇帝祭祀とは
７回　中国の皇帝祭祀と神道（２）その共通点と相違点
８回　儒教・道教の受容をめぐって
９回　神仏習合思想の発生
１０回　神仏習合と東アジア宗教
１１回　奈良時代の神仏隔離
１２回　平安時代の神仏隔離
１３回　本地垂迹説の形成と展開
１４回　神仏習合と近代の神仏分離
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　７０％
授業への取り組み　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書はよく読んでおくと授業への理解が深まります。
授業で分からない点があったら、授業終了後に時間を設けるので質問をコメントカードに記入すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校レベルの日本古代史（飛鳥時代～平安初期）について高校時代の教科書や図書館の日本史概説書で復習しておいてください。

キーワード　/Keywords

神道、神社、神祇令、皇帝祭祀、律令制、神仏習合、本地垂迹説、神仏隔離

日本の近代思想 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　赤司　友徳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	明治期の民権運動から大正期のデモクラシー運動に至る日本近代の社会思想の流れとその意味を正しく理解する。
技能	専門分野のスキル	●	研究史における論点を理解し、史料から事実を読み取ることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	近代国家の構造・運用・機能などから、その背後にある思想を読み解くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の近代思想	PHR217M

授業の概要　/Course Description

近代日本の政治や社会の歴史について、その背景となる思想も関連づけて理解することで、歴史学的なものの見方・考え方を身につけることを目的とする。本講義では、近代国家形成期に、立憲制の構築をめぐって起こった様々な対立が、明治立憲制にどのように影響したかを見ていく。

教科書　/Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

鳥海靖『日本近代史講義』(東京大学出版会、1988年)
瀧井一博『文明史のなかの明治憲法』(講談社、2003年)
この他は講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　明治立憲制の理解と評価をめぐって
第3回　幕末における立憲政治論
第4回　明治初年の立憲政治の理念と構想
第5回　民撰議院設立の建白と民撰議院論争
第6回　国会開設運動
第7回　「藩閥政府」と元老院の国憲案
第8回　諸参議の憲法意見と政府部内の対立
第9回　大隈の憲法意見と明治十四年政変
第10回　自由党と立憲改進党
第11回　岩倉意見書と私擬憲法における立憲政体構想
第12回　伊藤博文の憲法調査
第13回　宮中改革と家族制度・内閣制度の確立
第14回　明治憲法における君権主義と立憲主義
第15回　まとめ—明治立憲制の運用をめぐって

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（80%）と平常点（授業への参加態度、コメント等で20%）で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の中で参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用すること。

日本の近代思想 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本の生活文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke　/ 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	衣食住における伝統的な生活文化の基礎的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	文献資料から生活文化の歴史を読み取ることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身の回りの生活習慣の歴史的意味を理解することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の生活文化	JPS211M

授業の概要　/Course Description

前半は日本人の生活の中心である衣食住の歴史を食を中心に先史時代にさかのぼるとともに、日本文化の確立期である江戸時代を中心に見ていきます。また地域の食や暮らしの文化を研究している第一人者を外部講師としてお招きし、貴重なお話をお伺いします。

主に後半は菓子の歴史の背景にある社会の歴史を見ていきたいと思います。

教科書　/Textbooks

前半・・・プリントを配布する
後半・・・八百啓介『砂糖の通った道–菓子からみた社会史–』（弦書房2011年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○永原慶二『苧麻・絹・木綿の歴史』（吉川弘文館2004年）
○柳田國男『木綿以前の事』（岩波文庫1979年）
○丸田薫『江戸の卵は１個４００円』（中公新書2011年）
○原田信男『江戸の料理史–料理本と料理文化–』（中公新書1989年）
○原田信男編『江戸の料理と食生活』（小学館2004年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】内はキーワード）
１回　ガイダンス
２回　江戸時代における衣食住の成立
３回　生活文化の東日本と西日本
４回　日本の食文化
５回　菓子から見た社会史①食文化史と社会史
６回　菓子から見た社会史②北部九州の古代・中世の菓子文化
７回　菓子から見た社会史③菓子文化の政治的背景（１）長崎警備と南蛮菓子
８回　特別授業「小倉織の歴史」
９回　木綿の歴史…特別授業の補足
１０回　菓子から見た社会史④江戸時代の南蛮菓子
１１回　菓子から見た社会史⑤江戸時代の和菓子
１２回　菓子から見た社会史⑥菓子文化の政治的背景（２）藩政改革と菓子
１３回　菓子から見た社会史⑦封建領主と菓子文化
１４回　菓子から見た社会史⑧近代社会と菓子文化
１５回　まとめ

日本の生活文化 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業レポート…50％　筆記試験…50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード　/Keywords

日本の歴史と社会 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke　/ 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教科書の限界を踏まえて新しい視点から江戸時代という時代を見ることができる。
技能	専門分野のスキル	●	研究史の論点を理解する技能を育て、史料の主観性を批判する「規範」と「実態」という複眼的視野から歴史的事実を認識できる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	与えられた文章の表面的な理解にとどまらず「行間」を読むことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の歴史と社会	HIS210M

授業の概要　/Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。
江戸時代は２６０年間続きましたが、その間変化がなかったわけではありません。１８世紀の中頃の社会の変化によって、その前半と後半では一つの時代とはいえないほど大きく社会と経済が変化をしています。
また同じ時代でも武士と町人や農民の庶民では身分が違えば社会や言葉も違っています。それはまだ「日本」や「日本人」という近代の概念が成立する以前の社会なのです。
ここでは女性の地位や農村の社会を中心に「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○脇田晴子編『日本女性史３　近世』（吉川弘文館１９８２年）
○近世女性史研究会編『論集近世女性史』（吉川弘文館１９８６年）
○脇田晴子編『ジェンダーの日本史　下』（東京大学出版会１９９５年）
○高木侃『三下り半–江戸時代の離婚と女性たち—』（平凡社１９８７年）
○高木侃『三下り半と縁切寺』（講談社現代新書１９９２年）
○網野善彦『無縁・公界・楽』（平凡社１９７８年）
山本英二『慶安の触書は出されたか』（山川出版社日本史リブレット）他

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】内はキーワード）
１回　ガイダンス
２回　【近世】という時代
３回　【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
４回　【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
５回　【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
６回　『【女大学】』と『和俗童子訓』①作者と成立時期
７回　『【女大学】』と『和俗童子訓』②貝原益軒と女子教育
８回　【好色物】と女性の社会進出
９回　【縁切寺】の歴史
１０回　【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
１１回　【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
１２回　【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
１３回　【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
１４回　【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
１５回　まとめ

日本の歴史と社会 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業レポート…50％　筆記試験…50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートの整理をしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第１回の授業で受講上の注意を行うので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード　/Keywords

日本文学史（古典）【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　渡瀬　淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	前近代における日本の文学を中心に、多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	前近代の日本文化に軸足を置きながら、関連する文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	古典文学に関わる課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の古典文学とそれに関わる文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文学史（古典）	LIT223M

授業の概要　/Course Description

古典文学の生成、発展という大まかな流れを理解する。
現在、「古典」として扱われている作品は、いかにして「古典」となったのか、「古典」とはどのようなカテゴリーなのかを追求することを通して、「古典」の意味を考える。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　「古典」とは何か
２回　神話
３回　和歌と権威
４回　物語の誕生
５回　物語の展開
６回　古典と学問【漢籍】
７回　古典と学問【和歌・物語】
８回　古典と注釈
９回　古典となった芸能、なれなかった芸能
１０回　近世の出版と古典【古活字版と「準古典」】
１１回　近世の出版と古典【物語と作者】
１２回　近世の出版と古典【江戸の思想史と古典形成】
１３回　明治維新と古典【国家のアイデンティティと古典形成】
１４回　明治維新と古典【演劇の近代化と歌舞伎】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験８０％
平常の学習状況２０％

日本文学史（古典）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習は特に必要としないが、授業後に授業内容を整理し理解しておくこと。
参考文献などの指示があった場合は目を通しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

文学史年表を暗記するのではなく、自分なりに文学史の流れを組み立てられるよう、自ら考える姿勢で臨むこと。
受講者数や参加者の希望に応じて、一部内容を変更することがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本文学史（近現代）【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の近現代文学の歴史について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の近現代文学に軸足を置きながら、文学を歴史的に研究する視点を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の近現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の近現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文学史（近現代）	LIT224M

授業の概要　/Course Description

この授業は教職科目です。ですから、まずは高校で現代文・文学史を教える上で必要な、基礎的な知識の習得を目標とします。その上で、文学研究に関わる専門的な話もしていきます。
文学作品は、それ以前に書かれた作品とのつながり、同時代における様々な関心事や文化との関わりの中から生まれます。表現や思想を流れとして把握し、同時に、各作家とその作品を取りまく状況（コンテクスト）を学ぶことで、作品の理解・解釈は、これまでとは違ったものになります。
高校までとは一味違う、文学を研究する魅力を、知っていただければと思います。

教科書　/Textbooks

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　矢野龍渓（政治小説）
３回　坪内逍遥・二葉亭四迷
４回　尾崎紅葉・幸田露伴
５回　島崎藤村（自然主義・前夜）
６回　田山花袋（自然主義）
７回　夏目漱石
８回　森鷗外
９回　ここまでのまとめと小テスト
１０回　谷崎潤一郎（耽美派）
１１回　芥川龍之介（新思潮派）
１２回　横光利一（新感覚派）
１３回　太宰治（無頼派）
１４回　三島由紀夫（戦後派）
１５回　講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（４０％）、レポート（６０％）により評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に講義で扱う作家について文学史の本等で学習しておいてください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

日本文学史（近現代）【昼】

履修上の注意　/Remarks

私語や教室の出入りなど、講義の邪魔になるようなことは慎んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

文学史は、高校では手薄になりがちでしょうから、なるべく基本的な話を心がけます。

キーワード　/Keywords

日本近・現代文学史

日本語学概論I 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　堀尾　香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本語学の諸領域における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本語における諸現象の背後に潜む原理を理解する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの言語現象への認識と関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語学概論Ⅰ	LIN220M

授業の概要　/Course Description

我々が普段何気なく使用している日本語を、音声・音韻・文字などの観点より観察することを通して、日本語の特色について考える。その中で、日本語学の基礎理論を学ぶとともに、過去の日本語と現代日本語とのかかわりについても、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　日本語学と国語学
第２回　音声学と音韻論
第３回　音韻論と文字・五十音図とのかかわり
第４回　音節と単音・音素表記
第５回　シラブルと撥音・促音・拗音・長音　特殊音と表記の関連
第６回　音声器官の構造と役割
第７回　有声音と無声音
第８回　国際音声記号　母音の無声化
第９回　調音点と調音法
第10回　硬口蓋化現象と拗音との関連
第11回　ガ行鼻濁音にみる地域差と年齢差　連濁現象
第12回　四つ仮名の混同
第13回　ハ行子音の歴史的変遷とハ行転呼音
第14回　ラ行音と自由異音　撥音と促音にみる逆行同化現象と条件異音
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…25%　　期末試験…75%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の事後には、ノートをもとに内容を整理し、復習を行うとともに、授業中に指示された課題にも取り組んでください。

履修上の注意　/Remarks

この科目履修後に「日本語学概論II」を受講すれば、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。

日本語学概論I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本語学概論II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　堀尾　香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本語学の諸領域における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本語における諸現象の背後に潜む原理を理解する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ことばと文化的歴史的背景との関わりへの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語学概論Ⅱ	LIN221M

授業の概要　/Course Description

普段何気なく使用している日本語を語彙・文字・文法・方言などの観点から観察することを通して、日本語の特色について考える。そのなかで日本語学の各分野における基礎理論について、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。とくに、知識の習得に終始するのではなく、各分野における様々な問題点について自ら考える力を養っていく。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　日本語学と日本語史
第２回　標準語と共通語と方言と俚言　方言を生む作用
第３回　方言周圏論と方言区画論
第４回　アクセントの類型
第５回　語彙の分類と体系　基本語と基礎語
第６回　語彙の量的考察　理解語彙と使用語彙
第７回　日本語の語種　語構成　敬語の種々相
第８回　語種と品詞の関連　単語の文法的な性質
第９回　漢語の伝来と受容　日本の漢字音
第10回　翻訳漢語と疑似漢語
第11回　外来語の受容と定着
第12回　表意文字と表音文字　漢字の成り立ち
第13回　万葉仮名と上代特殊仮名遣い
第14回　草仮名と片仮名の成立　異体字と変体仮名　現代日本語の表記
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…25%　　期末試験…75%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の事後には、ノートをもとに内容を整理し、復習を行うとともに、授業中に指示された課題に取り組んでください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日本語学概論II 【昼】

キーワード　/Keywords

日本の古典文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　渡瀬　淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の古典文学に関わる多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本に軸足を置きながら、古典文学を中心とした文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の古典文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の古典文学を中心に、それに関わる文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の古典文学	LIT220M

授業の概要　/Course Description

中世の文学作品を取り上げ、読解を通して、内容を鑑賞するとともに、現代にも通じるテーマを探し出す。
関連する作品との比較対照を通して古典文学の思考法、特徴などを理解する。

教科書　/Textbooks

大津雄一・ 平藤幸『平家物語　覚一本　全 改訂版』武蔵野書院　2014年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○市古貞次訳注『平家物語』新編日本古典文学全集　小学館
○『平家物語』一～四　完訳日本の古典　小学館
○『平家物語』角川ソフィア文庫ビギナーズクラシック
○大津雄一『『平家物語』の再誕』NHKブックス
○佐伯真一『戦場の精神史–武士道という幻影』NHKブックス

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション–平家物語とは？–
２回　平家物語の享受史と諸本
３回　祇園精舎・ 殿上の闇討【平家の栄華】
４回　西光被斬【鹿の谷事件とその後】
５回　橋合戦【高倉宮の謀反】
６回　入道逝去【清盛の死】
７回　実盛
８回　宇治川【板東の武士団】
９回　木曽最期
１０回　敦盛最期
１１回　小宰相【中世的女性像】
１２回　那須与一
１３回　先帝御入水
１４回　能登殿最期
１５回　大原御幸【平家の鎮魂と建礼門院】

成績評価の方法　/Assessment Method

試験９０％
平常の学習状況１０％

日本の古典文学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で扱いきれない部分についても現代語訳などを読み、内容を理解して参加することが望ましい。
授業で扱った章段については、登場人物の関係や物語の流れについて、物語の内容を整理し理解しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

受講人数、受講者の興味関心によって、取り扱う章段を変更する場合がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本の近代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の近代文学に関する基礎的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の近代文学研究に必要な、調査方法や分析方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の近代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の近代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の近代文学	LIT221M

授業の概要　/Course Description

本講義は、文学研究の多彩なアプローチの方法を学び、日本近代文学研究に必要な分析方法を学ぶことを目的とする。
具体的には、芥川龍之介「羅生門」を論じた良質で優れた先行論文を取り上げ、多様な分析方法とその問題点を詳説する。
効果的な学びのため、芥川龍之介「羅生門」の一作品に絞った。

教科書　/Textbooks

芥川龍之介「羅生門」（教員が準備して配布します）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○志村有弘編『芥川龍之介『羅生門』作品論集』（クレス出版）
○浅野洋編『羅生門：今昔物語の世界』（翰林書房）
○関口安義『「羅生門」を読む』（小沢書店）など

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　読むという行為について
第３回　作家論–吉田精一『芥川龍之介』
第４回　作品論–三好行雄「無名の闇」
第５回　作家論と作品論
第６回　三好行雄「無名の闇」への反論空間に着目して読む
第７回　「羅生門」世界の表象色彩に着目して読む
第８回　典拠から「羅生門」を読む
第９回　テクスト論①【実体論について】
第10回　テクスト論②【関係論について】
第11回　「羅生門」を〈空間〉に着目して読む
第12回　「羅生門」を〈色〉に着目して読む
第13回　国語定番教材としての「羅生門」①【教材「羅生門」の出現】
第14回　国語定番教材としての「羅生門」②【死者と生者の物語】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…80%　リアクション・ペーパーの評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「羅生門」と関連深い他の小説を事前に紹介する場合がある。「羅生門」を含め、それらの小説を事前に読んでおくこと。講義後は、講義内容の復習を行うこと。

日本の近代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

履修上の注意　/Remarks

私語など、講義を妨げる行為は慎むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校国語の定番教材でもある「羅生門」を１学期をかけてじっくり読みます。国語教員志望の学生もぜひ本講義に足を運んでください。

キーワード　/Keywords

日本近代文学、芥川龍之介、国語

日本の現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の現代文学に関する基礎的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の現代文学研究に必要な、調査方法や分析方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の現代文学	LIT222M

授業の概要　/Course Description

この講義では、第二次大戦以後（1945～　）の文学作品を扱います。
戦後の文学作品を複数とりあげ、文学研究の手つきを示すとともに、戦後文学が抱え込んだ問題等について話します。文学研究の方法を学び、戦後文学に関する幅広い知識を習得することが、講義のねらいです。

教科書　/Textbooks

使用しません。授業中に扱う作品のコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　坂口安吾「白痴」（１）作家・坂口安吾について
３回　坂口安吾「白痴」（２）先行研究および作品の特徴概観
４回　坂口安吾「白痴」（３）解釈　主人公の山賊の男について
５回　坂口安吾「白痴」（４）解釈　都の女の設定について
６回　坂口安吾「白痴」（５）解釈　満開の花の下について
７回　坂口安吾「白痴」（６）小テスト
８回　三島由紀夫「月澹荘綺譚」（１）作家・三島由紀夫について
９回　三島由紀夫「月澹荘綺譚」（２）作品の中心テーマについて
１０回　三島由紀夫「月澹荘綺譚」（３）解釈　「白痴」の君江について
１１回　三島由紀夫「月澹荘綺譚」（４）解釈　勝造について
１２回　三島由紀夫「月澹荘綺譚」（５）解釈　照茂について
１３回　三島由紀夫「月澹荘綺譚」（６）解釈　見るという行為について
１４回　三島由紀夫「月澹荘綺譚」（７）小テスト
１５回　講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（３０％）、レポート（７０％）により評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に講義で扱う作家の作品を読んでおいてください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

日本の現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

履修上の注意　/Remarks

私語や教室の出入りなど、講義の邪魔になるようなことは慎んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

扱う作品数は少ないですが、講義中にそれぞれの作家の他の作品についても話します。
1つ1つの作品をじっくり、丁寧に解釈していきたいと思います。

キーワード　/Keywords

日本現代文学、坂口安吾、「桜の森の満開の下」（作品）、三島由紀夫、「月澹荘綺譚」

日本の芸能文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の芸能文化に関する正しい知識・理解を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	芸能文化に関する資料を扱うスキルを身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸能文化に課する課題を自ら設定し、考察したことを的確に表現できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	芸能文化の学習を通じて日本文化を理解し、持続的な関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の芸能文化	JPS210M

授業の概要　/Course Description

テーマ：日本芸能史　古代から中世への展開

日本の芸能の古代から中世にかけての歴史的な流れを講義する。
日本古代において芸能と宗教は密接不可分の関係にあった。芸能は神や人霊や稲霊などの霊魂に働きかけ、コントロールする技法であった。
中国隋唐の文化を積極的に受容する段階になって、世俗的芸能である雅楽が貴族社会に定着することとなる。実は中国と日本では「雅楽」と称される芸能の中身が異なっている。中国において「雅楽」とは儒教の祭典楽であった。それに対して日本に「雅楽」として受容された芸能は、宮廷の饗宴の場で演じられる世俗的芸能であった。なぜ中国の雅楽は日本に受容されなかったのか。そこには日中の宗教文化の差異が背景にあった。
古代芸能の持つ宗教的性格はそのまま日本社会に引き継がれていき、雅楽などの渡来芸能を基盤に中世に新たな展開をとげる。今日能楽と呼ばれる猿楽の形成もその一つであった。
今日の我々は芸能を娯楽や芸術として理解しているが、実は本来宗教的な性格を持つものであったことを理解してもらいたい。現代に続く能や歌舞伎といった古典芸能もそうした芸能の源流をたどることでより一層理解が深まるものと思う。
日常あまり接する機会のない伝統芸能をテーマとして取り上げるため、ビデオを上映など視聴覚教材を使って芸能に対する理解を深めることに努めるが、古典芸能や民間芸能にじかに触れる機会を持ってもらいたい。そのため伝統芸能の鑑賞･見学レポートを提出してもらう。
授業は必ずしも芸能というジャンル･ 通念にとらわれず、古代中世の文化のあり方を講義していくつもりである。

教科書　/Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○藝能史研究會編『日本芸能史』（法政大学出版）
○藝能史研究會編『日本の古典芸能』全１０巻（平凡社）

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の概要とレポートについて
２回　「芸能」とはなにか（１）「芸能」の語義
３回　「芸能」とはなにか（２）中国との比較
４回　先史時代の芸能–琴･ 笛･ 銅鐸
５回　霊魂と芸能–神楽･ 歌垣･ 田植踊り
６回　神祭りと芸能--記紀･ 風土記に見る芸能
７回　政治と芸能–国魂と服属儀礼
８回　大陸芸能の伝来–伎楽と雅楽
９回　雅楽とは何か
１０回　中国の雅楽と日本の雅楽
１１回　雅楽の受容と展開
１２回　散楽と猿楽–【能】【狂言】の源流
１３回　仏教と芸能–修正会
１４回　猿楽能の形成
１５回　まとめ

日本の芸能文化 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況　７０％
伝統芸能見学・鑑賞レポート　３０％　（ただしレポートを提出しない場合は、単位を認めません。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に配布するプリントを読んでおくこと。
なるべく生の伝統芸能に触れる機会を持つこと。
授業内容でわからない点があったら事後に積極的に質問すること。

履修上の注意　/Remarks

初回の授業で、成績評価についての説明やレポートに関する諸注意をお話します。よく聞いておいてください。
レポートの提出期限は厳守すること。遅延は一切認めません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

芸能はビデオや画像で見ても本当の面白さがわかりません。
伝統芸能を生で見てもらいたいので見学レポートを課しています。

キーワード　/Keywords

神楽・霊魂・祭り・雅楽・能・狂言

日本の美術 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　五月女　晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	絵巻を中心とした日本美術の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	●	絵巻を中心とした日本美術の代表的な先行研究を理解する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	絵巻を中心とした日本美術の研究方法を理解する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本美術に対する興味関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の美術	PHR215M

授業の概要　/Course Description

辻惟雄・著『岩波 日本美術の流れ 7 日本美術の見方』に基づきながら、日本美術を概観する。日本美術の概説書と言うと時代順に美術作品が列記されているものを想像する人が多いかと思うが、本書の章立ては「美しい自然」「飾る喜び」「飾らない美意識」「遊戯する心」「聖なるもの、縄文的なるもの」となっている。つまり、特質毎にまとめられており、日本美術の様々な側面を的確に把握することが可能となっていると言えよう。また、本書では、日本美術ならではの特質をわかりやすく紹介するために、適宜、中国美術との比較が行われている。

本講義では、日本美術史の多様性を理解することを目指したい。尚、時代順の概説も学習したい者は、本書と合わせて、『岩波 日本美術の流れ』の１～６に目を通すと良いであろう。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　辻惟雄『岩波 日本美術の流れ 7 日本美術の見方』について
２回　美しい自然–「源氏物語絵巻」、酒井抱一「夏秋草図屏風」
３回　美しい自然–「喬松平遠図」、梁楷「出山釈迦図」
４回　美しい自然–久隅守景「夕顔棚納涼図」、智積院襖絵
５回　飾る喜び–正倉院の宝物、料紙装飾、蒔絵
６回　飾る喜び–座敷飾り、「日月花鳥図屏風」
７回　飾る喜び–変わり兜、尾形光琳「紅白梅図屏風」
８回　飾らない美意識–長谷川等伯「松林図屏風」、岩佐又兵衛「浄瑠璃絵巻」
９回　遊戯する心–雪村「竜虎図屏風」、正倉院文書落書き
１０回　遊戯する心–「をこ絵」「地獄草紙」「鳥獣人物戯画」
１１回　遊戯する心–「蝦蟇・鉄拐図」「枯木猿猴図」
１２回　遊戯する心–「百鬼夜行絵巻」、伊藤若冲「野菜涅槃図」
１３回　聖なるもの–童形仏、興福寺「無著像・世親像」
１４回　聖なるもの–興福寺「竜灯鬼像」、聖衆来迎寺「六道絵」内「人道不浄相幅」
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート（場合によっては学期末テスト）・・・ 60%
コメントカード・・・ 40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、充分に理解できていない箇所については、レジュメに挙げた参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

日本の美術 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本の宗教と美術 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　五月女　晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	仏画を中心とした日本の宗教美術の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	●	仏画を中心とした日本の宗教美術の代表的な先行研究を理解する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	仏画を中心とした日本の宗教美術の研究方法を理解する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の宗教美術に対する興味関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の宗教と美術	PHR216M

授業の概要　/Course Description

平安時代は、美術品制作に関して技術・美意識ともに一つの頂点を迎えた時期とも言われ、数多の仏画の名品が生み出された時代としても知られる。本講義では、平安時代から鎌倉時代前半までの仏画の名品を取り上げながら、仏画の基本（尊像名・描法・修法など）を概観したいと思う。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　仏画概説（如来・菩薩）
２回　仏画概説（明王・天部）
３回　金剛峯寺所蔵「仏涅槃図（応徳涅槃）」をめぐって【鉄線描・肥痩線】
４回　金剛峯寺所蔵「仏涅槃図（応徳涅槃）」をめぐって【絵仏師・宮廷絵師】
５回　東京国立博物館所蔵「孔雀明王像」をめぐって【具色・截金】
６回　京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって【後七日御修法・疎荒】
７回　京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって【十天形像図像・十二天図屏風】
８回　東京国立博物館所蔵「普賢菩薩像」をめぐって【法華経・影向】
９回　東京国立博物館所蔵「普賢菩薩像」をめぐって【銀泥・銀截金】
１０回　平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【四方四季・皆金色】
１１回　平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【迎講・四天王寺西門信仰】
１２回　平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【重源・臨終儀礼】
１３回　聖衆来迎寺「六道絵」をめぐって
１４回　「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」をめぐって
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート（場合によっては学期末試験）・・・ 70%
コメントカード・・・ 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、充分に理解できていない箇所については、レジュメに挙げた参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意　/Remarks

日本の宗教と美術 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本の大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の大衆文化についての専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	日本の大衆文化についての専門的な研究方法を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の大衆文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の大衆文化について知識を得て考察しようとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の大衆文化	JPS212M

授業の概要　/Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。現在の大衆文化のトピックをとりあげながら、問題意識を共有し、歴史的事象の紹介や事例分析をおこなっていく。とりあげる素材は、人間が生み出す物語あるいは芸が中心となる。現在を照らし返すきっかけを提供するという目的のもとに、近世・近代・現代に目配せをして事象の紹介をしていく。
本講義の目標のひとつは、物語・場・受け手という焦点のあて方を知るなかで大衆文化研究のテーマを学ぶことにある。受講者は、そのテーマに基づき自らの問題意識を醸成していくことを求められる。ふたつには、日本の大衆文化史についての歴史的な知識をできるだけ増やしていくことにある。つまり、どの事象を扱ううえでも、必ず歴史的・社会的なコンテクストへの関心を深めていくことが求められる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス　講義のデザイン
第２回　問題発見の焦点①物語論への招待
第３回　物語へのアプローチ【ヒットドラマ】
第４回　物語へのアプローチ【異人】【構造】
第５回　物語へのアプローチ【共同体】
第６回　受容へのアプローチ【意味の生産】
第７回　受容へのアプローチ【メディア】
第８回　問題発見の焦点②上演空間への招待
第９回　上演空間へのアプローチ【祝祭性】
第１０回　上演空間へのアプローチ【演者 / 客の関係性】
第１１回　上演空間へのアプローチ【歌舞伎】
第１２回　受容へのアプローチ【客という役割】【仮設小屋】【寄席】【劇場】
第１３回　受容へのアプローチ【メディア】
第１４回特別講義
第１５回総括

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（コメントカード、課題など）…約25％
学期末レポート…約75％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：告知された内容については各自調べておく
事後：コメントシート記述のために講義内容を復習しておく

日本の大衆文化 【昼】

履修上の注意　/Remarks

準備は特に必要ないが、各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直し、なおかつ情報収集をまめに心がけていく必要がある。見直す中でコメントカードへの記述内容の工夫を繰り返し、意識してほしい。本講義の主眼は、歴史的な事象をとりあげるなかで現在を捉え返すことにある。したがって現代的な事象が中心的にとりあげられるわけではないので、受講者はそれを理解したうえで受講すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大衆文化というテーマは、誰にでも親しみやすいものである一方で意識をとぎすまさないと、問題が見えてこないということもまた確かです。コメントカードにも自分が授業を聞いて考えたことを積極的に記述することを求める。

キーワード　/Keywords

メディア、物語、芸、歴史

日本の都市文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　赤司　友徳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	明治・大正期の都市の文化に関する基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	明治・大正期の近代社会をモダニズムという視点から捉えることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自動車・写真・映画といった「もの」からモダニズムを説明することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の都市文化	JPS213M

授業の概要　/Course Description

明治30年代、銀座に三越が本格的な百貨店として歩み始めて以来、百貨店は長らく都市生活を代表する空間であった。近代の都市文化・空間の歴史を考える上で、百貨店（デパート）は非常に興味深いテーマである。建築、流通、広告やマーケティング、デザインなどから消費とジェンダー、近代性といった様々な都市文化・空間をめぐる問題系を集約している。
本講義では、このような視点から、近代日本における百貨店を題材に、都市文化について理解を深め、歴史的なものの見方・考え方を身につけることを目的とする。講義では、近代における百貨店の歴史、百貨店を含む繁華街という都市空間、百貨店を利用する人々や彼ら / 彼女らの趣味、百貨店をめぐるライフスタイルの変化等を見ていく。

教科書　/Textbooks

なし。講義中に適宜レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

初田亨『百貨店の誕生—都市文化の近代』筑摩書房、1999年
初田亨『繁華街の近代—都市・東京の消費空間』東京大学出版会、2004年
神野由紀『百貨店で〈趣味〉を買う　大衆消費文化の近代』吉川弘文館、2015年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　勧工場の設立
第3回　繁華街に出た勧工場
第4回　呉服店から百貨店へ
第5回　新しい顧客の開拓
第6回　遊覧場になった百貨店
第7回　家庭生活の演出
第8回　新中間層と都市文化
第9回　勧工場と百貨店の時代
第10回　近代日本の消費と趣味の諸相
第11回　百貨店と消費革命
第12回　近代日本における百貨店
第13回　百貨店と新しいライフスタイル
第14回　百貨店イメージの演出
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（80％）と平常点（授業への参加態度、コメント等で20％）で総合的に評価する。

日本の都市文化 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の中で適宜参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用することが期待される。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本文学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor
生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科
渡瀬　淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文学についての基礎的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文学研究に必要な基礎的な調査方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文学概論	LIT213M

授業の概要　/Course Description

本講義は、受講生が培ってきた読書慣習や教科「国語」を通じての知識を、日本文学研究のための専門知識へと、レベルアップすることを目的とする。
具体的には、今、日本文学を学ぶ者として知っておくべき基礎知識や概念について概説し、同時に代表的な作家や作品、文学史的な事象について講義する。これにより、人や時代の動的な営みのなかで文学を捉えることの可能性を考えていく。
最終的には、日本文学とは何か、日本文学を「今」学ぶとは何か、についてぜひ受講者それぞれに考えてもらいたい。

教科書　/Textbooks

授業時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○各種、日本文学史。
他は授業内で指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　ガイダンス　- 日本文学のイメージ -
第　２回　近代文学における「作者」
第　３回　近代文学における「作品」
第　４回　近代文学における「読者」
第　５回　近代文学における「メディア」
第　６回　現代文学における「作者」
第　７回　現代文学における「作品」
第　８回　現代文学における「読者」
第　９回　現代文学における「メディア」
第１０回　古典文学における「作者」
第１１回　古典文学における「作品」
第１２回　古典文学における「読者」
第１３回　古典文学における「メディア」
第１４回　日本文学特論
第１５回　おわりに　- まとめと課題 -

成績評価の方法　/Assessment Method

担当者ごとの課題（レポートもしくはテスト）による・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に作品を指定、もしくは複写資料を配布する場合があるので、その予習・復習を行うこと。

日本文学概論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

履修等についての質問は今年度コーディネーターの生住まで。
講義内容については、各担当教員に問い合わせてください。

キーワード　/Keywords

日本文学･ 日本古典文学･ 日本近代文学･ 日本現代文学

現代日本語学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　岡田　美穂 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代日本語学における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本語を文法的に分析する力を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本語における諸現象を複眼的視野に立って分析・考察できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	言語現象と思考方法との関わりへの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本語学	LIN222M

授業の概要　/Course Description

身近でふしぎな現象・日本語非母語話者による誤りの表現などについて共に考えることで、文法研究のおもしろさを味わい、文法的な分析力・応用力を養う。

教科書　/Textbooks

『ふしぎ発見！日本語文法』（名古屋大学日本語研究会ＧＡ６著、三弥井書店刊）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『ここからはじまる日本語文法』（森山卓郎著、ひつじ書房刊）
○『日本語相談一～八』（大野晋・丸谷才一・大岡信・井上ひさし、朝日新聞社）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション。文法とは何か。
２回　文法とは何か。
３回　日本語の語順。
４回　造語法。
５回　品詞性。一語とは。
６回　述語と項。自動詞・他動詞。
７回　動詞分類とテンス・アスペクト。
８回　受け身。ら抜き・レタス・さ入れ。
９回　補語と名詞修飾。話し手の認識に関わる表現。
１０回　命令・禁止と疑問の表現。つなぐ言葉と条件表現。
１１回　副詞のさまざま・連用修飾。語用論。
１２回　あいづち・いいよどみと談話の理解。敬語からポライトネスへ。
１３回　さまざまな視点と制限。コソア・ダイクシス。
１４回　数量詞。「は」と「が」にまつわる話。
１５回　いろいろな「タ」。名詞の意味特性。

・但し、授業内容は授業の進行状況により変わることがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の小テスト８０％、日常の授業への取り組み２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には指示に従って課題を行っておくこと。授業後には授業中に配布した資料を読み返すこと。

履修上の注意　/Remarks

現代日本語学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本語表現法 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　岡田　美穂 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	言語表現についての知識と認識を深める。
技能	専門分野のスキル	●	ことばを適切に運用する言語表現技術を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	言語表現をめぐる今日的問題を発見し、その背景を考察できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ことばによる表現力と社会生活との関わりへの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語表現法	LIN223M

授業の概要　/Course Description

本授業は自分の考えや思うところを相手に分かってもらえるように表現する力をつけることを目的としている。具体的には、ねじれのない文を書くこと、日本語としておかしい表現に気がつくこと、要約すること、単語を的確に使うことなどの練習をする。

教科書　/Textbooks

資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

オリエンテーションのときに知らせる。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション。日本語テスト
２回　基本構文力・単語に敏感になろう
３回　要約力・単語に敏感になろう
４回　要約力・単語に敏感になろう
５回　言葉の時間感覚・単語に敏感になろう
６回　言葉の時間感覚・単語に敏感になろう
７回　図化・文章化の往復運動・文法
８回　図化・文章化の往復運動・文法
９回　モードチェンジ力・文法
１０回　順接の論理・文法
１１回　逆接の論理・要約
１２回　議論の構造・要約
１３回　文章の骨格・敬語の基本
１４回　文章の骨格・敬語の基本
１５回　日本語の理解と表現力。

・授業の内容は進度によって変わることがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の小テスト80%・授業への取り組み20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業後には授業中に配布した資料を読み返すこと。

日本語表現法 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本語音声学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　矢野　準 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本語の音声・音韻に関する基礎的専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本語の音声・音韻の諸特徴について共時的・通時的観点から考察できる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本語の音声・音韻上の諸特徴を発見し、歴史的推移との関連を分析する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	音声言語への認識と関心を深める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語音声学	LIN224M

授業の概要　/Course Description

①　学習の理解を助けるために、適宜、音声教材を取り入れながら、国語教育的な観点を意識しつつ日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。
②　共時的観点から、日本語の音(含アクセント)について、聴き取りを含め、母音や子音などの現代日本語の有り様を講ずる。また、通時的観点から音韻やアクセントの歴史についても、簡単に触れる。
③　音と表記との関連も踏まえ、国語教育に反映させる得るような知識の修得を支援する。
④　日本語の音の面から、日本語教育に有用な基礎知識の修得を支援する。

教科書　/Textbooks

教科書は使用せず、ハンドアウト(レジュメ)を事前に配布して、講ずる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

窪薗晴夫『現代言語学入門②日本語の音声』岩波書店刊(1999.4)など種々有るが、ハンドアウト(レジュメ)に記載するなどして、講義時間中に提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　あらまし 【学習指導要領】【日本語教育能力検定試験】【音声器官】【声道】
２回　音声と音韻 【パロール】【単音】【音節】【異音】【相補分布】【ラング】【音素】【最小対】
３回　母音と子音【基本母音】【有声音】【無声音】【調音点】【調音法】【音声字母表】
４回　日本語の音１【音節数】【五十音】【拍(モーラ)】【モーラ音素(特殊拍)】【日本語の母音】
５回　日本語の音２【鼻音】【鼻濁音】【破裂音(閉鎖音)】
６回　日本語の音３【摩擦音】【破擦音】【流音】【接近音】
７回　日本語の音４【同化】【口蓋化】【無声化】【異化】
８回　音韻史 【上代特殊仮名遣い】【ハ行転呼現象】【オ段長音の開合】【四つ仮名】【音価】
９回　日本語のアクセント１【ストレスアクセント】【ピッチアクセント】【アクセント核】【アクセントの滝】
１０回　日本語のアクセント２【共通語アクセント】【アクセント規則】【アクセント型と式】【名詞のアクセント】【アクセントの機能】
１１回　日本語のアクセント３【東京式】【京阪式】【二型式】【一型式】【平板化】【動詞のアクセント】【形容詞のアクセント】
１２回　イントネーション 【複合語のアクセント】【アクセント句(ヤマ)】【プロミネンス】【フォーカス】
１３回　アクセント史 【金田一法則】【方言国語史】【倒叙国語史】【声点】【節ハカセ】
１４回　音と表記【仮名遣い】
１５回　まとめ

（【　】はキーワード）

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…７５％　　日常の授業への取り組み…２５％
(５回以上欠席した者は、学期末試験を受けることができない。)

日本語音声学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業前に、ハンドアウトの該当部分に目を通しておくこと。
授業後には、講義内容を要約すること。
時に、課題を課すことがあるので、その場合には次の授業前までにその課題を行っておくこと。

履修上の注意　/Remarks

遅刻厳禁。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

科目の性格上、声を出して確認してもらいたい場合もあるので、積極的な参加を期待します。
アクセントの聴き取りには、人により得手不得手があるので、不得手な人は音声ＣＤ(たとえば、松崎寛・河野俊之『日本語教育能力検定試験に合格するための音声23』アルク2010.1刊に付属のCDなど)を入手して聴き取り練習をねばり強く行って欲しい。

キーワード　/Keywords

日本語の音　母音　子音　五十音図　アクセント

漢文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　　楢崎　洋一郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　　単位 /Credits　2単位　　学期 /Semester　1学期　　授業形態 /Class Format　講義　　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国を中心とした地域の文学、言語、歴史といった多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化に軸足を置きながら、中国の古典を中心とした文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	漢文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文化と中国文化をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

漢文学	LIT250M

授業の概要　/Course Description

「漢文」は、中国古代の「文語文」で書かれた、あらゆる文章を指すものである。二十世紀まで、中国では正式の文章語として、ほぼ二千年間にわたって使用されており、日本・朝鮮半島・ベトナムにおいても、知識人の共通言語として広く普及していた。日本人が最初に接触し、かつ使用した文字は漢字なので、最初に目に触れた「文章」も、当然「漢文」である。それゆえ「漢文」を学ぶことは、中国の歴史や文化への理解を深めるだけではなく、日本人にとっては、自国の文化形成の原初的プロセスを「追体験」することにもなる。この授業では「日本人にとっての漢文」という視点から、まず日本にもたらされ、かつての日本人によって広く読まれ、血肉と化していた文章を取り上げる。日本における「訓点」の発明や、仮名と漢字の関係、日本文学に対して、それぞれの時期において、漢文学がどのような影響をあたえたか、などについても理解を深める。さらに、日本人によって書かれた「漢文」作品をも読んでいく。こうした作業によって、日本と中国をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高め、また相互の比較研究によって、自国の文化に対してさらに理解を深めていくことをねらいとする。

教科書　/Textbooks

適宜プリント等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

金文京著『漢文と東アジア–訓読の文化圏–』（岩波書店、岩波新書）○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション【日本人にとって「漢文」とは】【現代において「漢文」を学ぶことの意味】
２回　儒教（１）【孔子の生涯】【論語】【現代中国映画の中の孔子像】
３回　儒教（２）【孔子の生涯】【論語】【現代中国映画の中の孔子像】
４回　儒教（３）【孔子の生涯】【論語】【孔子と儒学・儒教】
５回　諸子百家【百家争鳴】【道家】【法家】
６回　仏教漢文【インド思想と中国人】【中国の仏教徒にとっての釈迦・孔子・老子】
７回　中国漢文の中の日本・日本人【魏志倭人伝】【日本刀歌】
８回　漢字・漢文の伝来【訓点】【日本語と漢文】
９回　日本漢文（１）【奈良～室町】【懐風藻】【菅原道真】
１０回　日本漢文（２）【江戸前期～中期】【荻生徂徠】
１１回　日本漢文（３）【江戸後期】【菅茶山】【頼山陽】【広瀬淡窓】
１２回　中国小説と日本小説（１）【三国志】【水滸伝】【雨月物語】【南総里見八犬伝】
１３回　中国小説と日本小説（２）【三国志】【水滸伝】【雨月物語】【南総里見八犬伝】
１４回　近代日本と漢文【夏目漱石】【森鴎外】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（レポートなど）…４０％　　期末試験…　６０　％

漢文学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

漢和辞典を準備して授業に臨むこと。
授業前には、あらかじめ指示もしくは配布された参考資料などを読んでおくこと。
授業後には、配布プリントやノートを再読し、内容を各自まとめておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

漢文　儒教　孔子　四書五経　諸子百家　日本漢文　訓点　万葉仮名

日本語教育学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本語教育学の基礎的な知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	外国語教育学として日本語教育学を研究する視点を持つ。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本語教育学の課題を自らの外国語学習経験から設定し、複眼的視野に立って考察し、自らの解決策を提案する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本語教育学を出発点として、外国語教育及び学校教育、そして地域社会や国際社会について幅広く関心を持つ。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語教育学概論	LIN240M

授業の概要　/Course Description

日本語教育とは何か？

日本語教育に限らず、広く第２言語(外国語)教育における複雑で多様な要素に気づくことを第一のねらいとすします。「教師」「学習者」「授業」「教えること」「学ぶこと」等の意味を問い直しながら、自らの経験を振り返ることを通して、日本語教育の現状を知ります。そのことについて自分自身がどのように関わるかを考え、行動できるようになることを期待します。
そのため、授業では、クラス内の人間関係作り(構成的グループエンカウンター)や他者との互恵的な学習方法(協同学習)について、体験学習を行います。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

①日本語教育が複合的な領域であることを理解する。
②日本語教育について知るための方法を身につける。
③日本語教育の課題と暫定的なコースデザインの関係を考えることができる。
④日本語教育がグローバル化した社会の人々にとって共通課題であることに関心が持てる。

教科書　/Textbooks

『日本語教育の理論と実際 - 学習支援システムの開発』(田中望・ 齊藤里美、大修館書店)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『日本語教育学を学ぶ人のために』(青木直子他、世界思想社)
○『自律を目指すことばの学習 - さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)
○『構成的ブループエンカウンター事典』(國分康孝他編、図書文化)
○『先生のためのアイディアブック - 協同学習の基本原則とテクニック - 』(ジョージ・ ジェイコブズ他、日本協同教育学会)
○『LTD話し合い学習法』(安永悟他、ナカニシヤ出版)

日本語教育学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　授業オリエンテーション【日本語教育】【日本語教育学】
２回　日本語教育の課題【多様性】【パラダイムシフト】【学習者オートノミー】
３回　暫定的なコースデザイン【コースデザイン】【ニーズ分析】【レディネス分析】【シラバス】
４回　学習者による学習目標の意識化【ニーズ】【日本語のレディネス】
５回　学習者による学習過程の意識化(１)【学習環境】【リソース】
６回　学習者による学習過程の意識化(２)【学習ストラテジー】
７回　学習の評価とそのフィードバック(１)【評価の目的】【評価の方法】【学習過程の分析】
８回　学習の評価とそのフィードバック(２)【内省】【学習記録】
９回　学習者の個人カリキュラム【コースカリキュラム】【個人カリキュラム】
10回　チュートリアル【個人カリキュラム】
11回　学習の評価とそのフィードバック(３)【個人カリキュラムの評価】【総括的評価】
12回　自律学習に適した学習【セルフアクセス･センター】【CALL】【ピア学習】【プロジェクトワーク】
13回　自律学習に適した学習について学ぶ【相互学習】【タンデム学習】
14回　学習者の自律的なカリキュラム・デザインとその運営
15回　総括【リフレクション】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度　…　50　%　　課題　…　30　%　　自己評価　…　20　%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、課題の予習を前提として行います。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存して、復習に繋げましょう。
ポートフォリオをもとにして、学期末に自己評価を行います。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育に関する予備知識は必要ありませんが、世の中の動きを知る努力をしましょう。
日本語教師養成課程の履修希望者は、必ず履修してください。
授業は、課題の予習を前提として行います。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本語教育は、異文化が接触する場面の連続です。
日本語教育は、「教育」です。皆さんのこれまでの経験が生きてきます。

キーワード /Keywords

コースデザイン　パラダイムシフト　学習者オートノミー　個人カリキュラム　自己評価

異文化間コミュニケーション概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　山﨑　和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション概論	MCC212M

授業の概要　/Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション（非言語も含む）の衝突、摩擦の事例を考察し、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら解明していく。その中で異文化コミュニケーションの関する実践的方法論などにも触れる。

教科書　/Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に知らせる。また必要な資料は授業において適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

チャールズ・プリブル『科学としての異文化コミュニケーション』ナカニシア出版
ヘレン・スペンサー＝オーティー編著『異文化理解の語用論』
古田暁（監修）『異文化コミュニケーション』有斐閣選書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　コースワークの説明
第２回　文化とは何か、コミュニケーションとは何か
第３回　異文化コミュニケーションの諸相
第４回　ことばと文化とコミュニケーション（言語相対性論仮説を含む）
第５回　日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
第６回　事例観察　各事例とその基となる日米文化の差異（直感的な観察）
第７回　ハイコンテキスト、ローコンテキストに基づく分析
第８回　日本人の謝罪文化
第９回　事例研究　『欧米人が沈黙するとき』聞き取り調査に基づく分析
　　『日米コミュニケーション / ギャップ』　統計的処理の実例
第１０回　事例研究　実践方法（バーンランド）の手順（「私的自己、公的自己」「防御の方策」）
第１１回　非言語コミュニケーション（Proxemics, Kinesics ）
第１２回　広告、翻訳に見る異文化コミュニケーション
第１３回　異文化適応、カルチュラル・アシミレーター
第１４回 研究領域、日韓行動の差異
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業での活動４０％　期末試験６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前）「文化とコミュニケーション」に関する総括的な文献に目を通しておくこと。
（事後）グローバル社会におけるコミュニケーションのあり方を各自確認すること。

異文化間コミュニケーション概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

履修上の注意　/Remarks

コミュニケーション論であり、スキルの問題を扱う訳ではない。中心課題は、日本語話者と英語話者との文化的要因に基づくコミュニケーション・ギャップを扱うが、それに付随する様々な現象を幅広く扱っていく。
授業では、取り上げた様々な事例に対して各自の意見を求める、また英語の文献も多用するのでその準備も必要である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカの社会と文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会・文化の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会・文化の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの社会・文化に関する課題を見い出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカの社会・文化の特質に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの社会と文化	ARE222M

授業の概要 /Course Description

私達、誰しもがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、アメリカ社会の特質や文化が、いかなる形で映画に投映されているかを考察する。具体的には、編集したハリウッド映画の重要な箇所をビデオで見ながら、映画の全体的構造を背後で支配しているアメリカ人特有の感覚について考察する。その過程を通して、映画とアメリカの社会、文化との相互関連性に対する理解を深めてもらう。アメリカの社会と文化のイメージを、映画を通して可能な限り具体的に把握してもらえるよう工夫したい。その結果として、アメリカ人の国民性の独自性、アメリカ文化の特質に対する理解も深めてもらうことができればと思っている。さらに、ハリウッド映画を文化的な文脈の下で分析的に鑑賞する視点を講義を通して体得してもらえたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座・アメリカの文化（全6巻、別巻2）　南雲堂
総合研究アメリカ（全7巻）　研究社
文明としてのアメリカ（全5巻）　日本経済新聞社
アメリカ古典文庫 （全23巻）　研究社
アメリカンヒーローの系譜　亀井俊介　研究社
荒野のアメリカ　亀井俊介　南雲堂
サーカスが来た　亀井俊介　東京大学出版会
読んで旅する世界の歴史と文化 アメリカ　新潮社
物語 アメリカの歴史　猿谷要　中公新書
資料が語るアメリカ　木下尚一　有斐閣
アメリカとは何か　斎藤真　平凡社
エスニックアメリカ　明石紀雄　有斐閣選書
新書アメリカ合衆国史 大陸国家の夢　講談社現代新書
アメリカの20世（上・下）　有賀夏紀　中公新書
（大半が図書館蔵書です。）

アメリカの社会と文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の進め方、参考文献の説明
２回　Forrest Gamp、Daylightとアメリカ人にとってのキリスト教
３回　Titanic とアメリカ人にとってのキリスト教
４回　Green Mile とキリスト教の関係の分析
５回　Monster’s Inc とアメリカの多様性の関係
６回　Star Wars とアメリカの多様性の関係
７回　The Lord of the Ring s とアメリカの多様性の関係
８回　Independence Dayとアメリカのほら話
９回　Star Wars EpIII とアメリカのほら話
１０回　Devil Wears Prada とアメリカ人の個人観
１１回　Titanic とアメリカ人の個人観
１２回　A.I.とアメリカ人の機械観
１３回　Terminator II とアメリカ人の機械観
１４回　Terminator III とアメリカ人の機械観
１５回　全体の総括、補足説明

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験100%　配布プリント持ち込み可（ただし、書き込みがなされたプリントのコピーは持ち込みは不可）、自筆ノート持込可（ただし、コピーノートは持ち込みは不可）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、指定されたテーマの視点から、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。
授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカ文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってアメリカ文化を理解することができる。
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカと関連する問題を正しく分析し、解決することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	学生が興味をもつゆえ、生涯にわたりアメリカに対して関心を示すこと。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（英米）アメリカ研究	MCC218M
（比文）アメリカ文化論	ARE223M

授業の概要　/Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿って来た道、そして現代における意義を検証していきます。この講義を通して、学生はアメリカに対する専門的知識を得る上で、アメリカ社会の動向に対して分析する力を身につけます。

教科書　/Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Course Introduction
２回　The New World
３回　The Original Colonies
４回　British Influence
５回　Early Expansion to the Mississippi
６回　The Moving Frontier
７回　【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
８回　The US System of【Government】
９回　The Second World War
１０回　The 1960s Counterculture
１１回　Economic Values
１２回　Lifestyle
１３回　Popular Culture
１４回　Continuing 【Immigration】
１５回　Course Review

成績評価の方法　/Assessment Method

授業参加：30%　小テスト：0%　期末試験：60%　課題：0%　態度：10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Preview: Please familiarize yourself with the topics and vocabulary by reading through assigned textbook chapters before class and answering the questions assigned.
Review: Be careful to review English vocabulary relating to each chapter.

アメリカ文化論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

The course will be taught primarily in English with Japanese notes used to further student understanding of difficult content. Lecture notes will be provided to aid student review. The examination will be administered bilingually in both Japanese and English but will emphasize English language vocabulary relating to American culture. Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic before class to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカ文学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文学を概括的に理解する上で必要な基礎的な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカ文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文学概論	LIT230M

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学全体を時代を越えて貫いている複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を理解してもらう。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実も実際に映像を見ることによって明らかにする。次いで、そのような文学と映画との共通性が何ゆえに生じたのかを、アメリカの社会、歴史、文化の特質に目を向けることにより理解してもらう。文学と映画という、一見すると全く異質に見える存在が、実は、共に特定の社会の下に誕生した以上、同根の存在とならざるを得ない事実を理解してもらえたら幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてアメリカ文学作品からの抜粋（日本語の翻訳）をプリントの形で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『アメリカ文学思潮史』　福田陸太郎　中教出版
○『アメリカ文学史１、２、３』　亀井俊介　南雲堂
○『アメリカ文学必須用語辞典』　スティーブン・マタソン　松柏社
○『アメリカ文学案内』　寺門泰彦/渡辺信二　朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　授業の進め方、参考文献の説明
２回　アメリカ文学に関する基礎知識
３回　アメリカ文学におけるアメリカ人としての自意識のあり方について
４回　ハリウッド映画にみるアメリカ人としての自意識のあり方と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
５回　アメリカ文学における暴力描写について
６回　ハリウッド映画における暴力描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
７回　アメリカ文学における移動描写について
８回　ハリウッド映画における移動描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
９回　アメリカ文学における恋愛・結婚描写について
１０回　ハリウッド映画における恋愛・結婚描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
１１回　アメリカ文学における超常現象描写について
１２回　ハリウッド映画における超常現象描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
１３回　アメリカ文学における社会意識について
１４回　ハリウッド映画における社会意識と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
１５回　補足説明、総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%　持ち込みは一切、不可とする。

アメリカ文学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前： 講義で取り上げる作家と作品名は事前に知らせますので、参考書等を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておいてください。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しますので、各自で事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトが収納されています。
授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの現代文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの現代文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの現代文学に関する課題を見い出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカの現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの現代文学	LIT232M

授業の概要　/Course Description

まず、現代の第一次世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代として二ヒリズムの虚無と闘ったE・Hemingway、そして【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、第二次世界大戦後の【ポストモダニズムの文学】を読んで現代アメリカ文学への理解を深めていきたい。

【ロスト・ジェネレーション文学】
Ernest Hemingway: The Sun Also Rises　『日はまた昇る』（集英社文庫）
F・S　Fitzgerald：The Great Gatsby　『グレート・ギャツビー』（中央公論新社）
【難民問題の文学】
John Steinbeck：The Grapes of Wrath　『怒りのぶどう』（講談社文庫）
【ユダヤ系文学】
J.D. Salinger: The Catcher in the Rye　『ライ麦畑でつかまえて』（白水Uブックス）、
【黒人文学】
Richard Wright: Native Son 『アメリカの息子』（ハヤカワＮＶブックス）
【ポストモダニズム文学】
Robert Newton Peck：A Day No Pigs Would Die『豚の死なない日』（白水社Uブックス）
Dennis Johnson：Jesus' Son『ジーザス・サン』

教科書　/Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises　『日はまた昇る』（集英社文庫）
F・S　Fitzgerald：The Great Gatsby　『グレート・ギャツビー』（中央公論新社）
J.D. Salinger: The Catcher in the Rye　『ライ麦畑でつかまえて』（白水Uブックス）
Richard Wright: Native Son 、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】【ポストモダニズム】（絶版なので資料配付）
Robert Newton Peck：A Day No Pigs Would Die『豚の死なない日』（資料配付）
Dennis Johnson：Jesus' Son『ジーザス・サン』（資料配付）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

アメリカの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises【国籍離脱者Exile】【Hard-boiled】
２回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises【ロスト・ジェネレーション】
３回 パリ、スペイン・パンプローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン（映画・ビデオ）で鑑賞。
４回 John Steinbeck：The Grapes of Wrath【難民問題の始まり】
５回 F・S Fitzgerald：The Great Gatsby【The Jazz Age】
６回 F・S Fitzgerald：The Great Gatsby【Gatsby's Dream】
７回 F・S Fitzgerald：The Great Gatsby【American Dream】日本の【成金】との比較
８回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】【Soft-boiled】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
９回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】【Angry Young Men】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
10回 Richard Wright: Native Son【黒人作家】【エリソン】【ボールドウィンら黒人作家】
11回 Richard Wright: Native Son【Black Power】【旧約聖書・ヨブ記】
12回 ポストモダニズムの文学（１）Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest【サイケデリック・カルチャー】
13回 ポストモダニズムの文学（２）Joseph Heller：Catch-22【ギラン・バレー症候群】【Catch-22的状況とは】
14回 ポストモダニズムの文学（３）Robert Newton Peck：A Day No Pigs Would Die『豚の死なない日』（白水社Uブックス）
15回 ポストモダニズムの文学（４）【ブラックユーモア】【シュールリアリズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（20%）、リポート（50%）と学期末試験（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アメリカの現代小説を読みますので、図書館で、どれか読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの１８-１９世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの１８-１９世紀文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの１８-１９世紀文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの１８-１９世紀文学に関する課題を見い出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカの１８-１９世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの18-19世紀文学	LIT233M

授業の概要　/Course Description

アメリカ文学の古典であり、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】と【アメリカの独立】の時代を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義の国アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学の古典への理解を深めていきたい。

教科書　/Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories『ホーソン短編集』（岩波文庫）
Nathaniel Hawthorne：The Scarlet Letter『緋文字』（岩波文庫）
Herman Melville: Moby Dick or the white whale『白鯨』（新潮文庫）
Henry James: Daisy Miller　『デイジー・ミラー』（新潮文庫）
Henry James: The Portraite of a Lady『ある婦人の肖像』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○ Nathaniel Hawthorne: Short Stories『ホーソン短編集』（岩波文庫）
○ Nathaniel Hawthorne：The Scarlet Letter『緋文字』（岩波文庫）
○ Herman Melville: Moby Dick or the white whale『白鯨』（新潮文庫）
○ Henry James: Daisy Miller　『デイジー・ミラー』（新潮文庫）
The Portraite of a Lady『ある婦人の肖像』（岩波文庫）
参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　Nathaniel Hawthorne: Short Stories【大英帝国植民地】【マサチューセッツ・ボストン】映像
2回　Nathaniel Hawthorne: Short Stories【ピューリタニズム】映像
3回　Nathaniel Hawthorne: Short Stories【自由主義思想】【Salem魔女裁判】映像
4回　Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter【ピューリタニズム】【啓蒙主義思想】の文学・映像
5回　Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter【超絶主義】の文学・映像
6回　NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオを観て「緋文字」の現代的意味を探る。
7回　Herman Melville: Moby Dick or the white whale【アメリカ民主主義】【バーバリズム】Powerpointによる解説
8回　Herman Melville: Moby Dick or the white whale【ゾロアスター教】【拝火教】Powerpointによる解説
9回　Herman Melville: Moby Dick or the white whale【白鯨とは何ものか】【ヨブ記】【異端】映像
10回 Henry James: Daisy Miller【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】映像
11回 Henry James: Daisy Miller【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】映像
12回 Henry James: The Portraite of a Lady【民主主義アメリカの新しい女性】【自立した女性】映像
13回 Henry James: The Portraite of a Lady【旧世界の因習】【選択】【人生の苦しみ】映像
14回 Henry James: The Portraite of a Lady【結婚・離婚と自己責任】映像
15回 まとめ・Jamesの映像『金色の嘘』『鳩の翼』

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（30%）、リポート（40%）と学期末試験（30%）

アメリカの１８-１９世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アメリカの18 - 19世紀文学を読みますので、図書館でよく読んでおいてください。

履修上の注意　/Remarks

講義の準備として、テキストを読むこと、授業中に指示した参考書等を読むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

【大英帝国植民地】【マサチューセッツ・ボストン】Nathaniel Hawthorne【ピューリタニズム】【自由主義思想】【Salem魔女裁判】【ピューリタニズム】【啓蒙主義思想】【超絶主義】『緋文字』の現代的意味【アメリカ民主主義】【バーバリズム】【ゾロアスター教】【拝火教】【白鯨とは何ものか】【ヨブ記】【異端】【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】【民主主義アメリカの新しい女性】【自立した女性】【旧世界の因習】【選択】【人生の苦しみ】【結婚・離婚と自己責任】

アメリカの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの大衆文化の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの大衆文化の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの大衆文化に関する課題を見い出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカの大衆文化の特質に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの大衆文化	ARE221M

授業の概要 /Course Description

誰しもがなじみの深いハリウッド映画を大衆文化の題材として取りあげ、映画の中にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。そのような分析を行うことを通して、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深めてもらう。講義では、アメリカ文化の特性を､映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。このプロセスを通して、アメリカ人の価値観や美意識の特殊性への理解も深めてもらいたい。最終的には、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらうことができたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『映画で学ぶアメリカ文化』、スクリーンプレイ出版 （映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から）
○『映画で楽しむアメリカ文学』、金星堂、（アメリカ文学と映画の比較の視点から）
○『映画で楽しむアメリカの歴史』、金星堂 （映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から）
○『サーカスが来た！』、亀井俊介先生、岩波書店、（指定図書コーナー）（サーカス、オペラハウス、ターザン、ハリウッド）
○『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介先生、研究社、クリーム色、（ランボー、ロッキー）
『アメリカの大衆文化』、明石書店、清水知久 （映画、音楽、スポーツ、広告）
○『アメリカの大衆文化』、研究社、亀井俊介、（テレビ、漫画、音楽、映画など）
『アメリカが見えてくる』、サイマル出版会、越智道雄 （アメリカ社会の諸現象と映画の関連性）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　授業の進め方、参考文献の説明
２回　『ビッグ』をビデオで鑑賞
３回　『ビッグ』の子供描写の特徴
４回　『A.I』、『ターミネーター２』、『バック・ツゥ・ザ・フューチャー』の子供の描き方の概観
５回　アメリカ映画の子供の描き方の特徴とアメリカ史との関係
６回　『フェイス / オフ』、『ターミネーター２、３』、『マスク』、『ミッション・インポッシブル』の中の変身描写の特徴
７回　アメリカ映画に登場する変装描写の全体的特徴
８回　アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
９回　『プラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
１０回　『フォレスト・ガンプ』、『チャーリーとチョコレート工場』に読み取れる金銭感覚
１１回　映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
１２回　『スタンド・バイ・ミー』、『スター・ウォーズ：シスの復讐』、『ダーティハリー２』の銃の描写の特徴
１３回　映画の銃の描き方と、アメリカ史との関係
１４回　『アナと雪の女王』、『モンスターズ・インク』、『タイタニック』、『魔法にかけられて』に見る平等の概念
１５回　補足説明、総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%　持ち込みは一切、不可とする。

アメリカの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前： 講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、指定されたテーマの視点から、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。
授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカの都市文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科（19～）

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ都市文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ都市文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ都市文化に関する諸問題について、発見・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカ都市文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの都市文化	ARE224M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生み出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000)；竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年)；リチャード・プランツ『ニューヨーク　都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．　はじめに(寺田)
２．　シカゴの近代建築１：スカイスクレーパーの誕生　(福田)
３．　シカゴの近代建築２：世界の都市に影響を与えたシカゴの超高層建築(福田)
４．　ニューヨークの近代建築１：ネオゴシックからアールデコ超高層へ(福田)
５．　ニューヨークの近代建築２：モダニズムからポストモダニズム超高層へ(福田)
６．　アメリカの巨匠建築家：フランク・ロイド・ライト(福田)
７．　歩き回れる都市の変容１：20世紀初頭アメリカにおける産業化・都市化(寺田)
８．　歩き回れる都市の変容２：20世紀初頭アメリカにおける移民の流入（寺田）
９．　メトロポリスの形成１：エスニシティと階級(寺田)
１０．メトロポリスの形成２：人種と階級(寺田)
１１．都市における対立と隔離の発生１：1919年シカゴ人種暴動(寺田)
１２．郊外における中産階級の再生産：オークパーク(寺田)
１３．都市における対立と隔離の発生２：1992年ロサンゼルス暴動（寺田）
１４．都市の変容：デトロイトの衰退と再生（寺田）
１５．学生レポート講評とまとめ(福田 / 寺田)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、レポート(福田)50%、試験(寺田)50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業で紹介された参考文献等を積極的に読んだり見たりする。事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

アメリカの都市文化 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語に関する情報や知識を駆使し、英語学の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学概論	LIN232M

授業の概要 /Course Description

This course gives an overview of many different areas of linguistics, including phonology, morphology, syntax, pragmatics, semantics, sociolinguistics, first and second language acquisition, neurolinguistics, and animal communication. It is meant to give students a taste of the many different areas of study that are contained within the umbrella term "linguistics".

教科書 /Textbooks

No required textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英語学基礎講義　英語学ってどんな学問？』高橋勝忠著　現代図書
○『英語学へのファーストステップ』有村（他）英宝社
○『新英語学概論』2007 八木　克正（単行本
○『英語学入門』　2001　安藤　貞雄　単行本

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1Introduction
Week 2Phonetics & Phonology (sounds)
Week 3Sounds, continued
Week 4Morphology (words)
Week 5Words, continued
Week 6Syntax & structure (sentences)
Week 7Sentences, continued
Week 8Midterm Exam
Week 9 First language acquisition
Week 10Second language acquisition
Week 11Animal communication
Week 12Language variation (sociolinguistics)
Week 13Semantics
Week 14Pragmatics
Week 15Neurolinguistics

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%; Problem Sets (Homework): 45%; Midterm exam 20%

英語学概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should do the homework and turn it in at the next class period. If you are absent, please bring your homework to class the next time you are present. It is your responsibility to give the homework to me, and homework later than 2 weeks after its assigned date will not be accepted.

履修上の注意 /Remarks

There is no required text for this course but notes for review will be posted on Dropbox as a method of providing an outline of the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Linguistics, introduction, language

英語史 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英語の理論構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語に関する情報や知識を駆使し、英語史の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語史	LIN330M

授業の概要　/Course Description

This class focuses on the history of English from the earliest times that we have writings about the language until the present day. It is an introduction to the topic of language change in general, but this topic is illustrated through the examination of specific changes in the English language from Old English to Middle English to contemporary English. In additional, we will discuss various current forms of English such as Black Vernacular English, Spanglish, and other varieties of English spoken around the world. Through this course you will understand how languages may change across time, geography, and culture.

教科書　/Textbooks

Crystal, David and西出　公之『英語の歴史-A History of the English Language』2000. 単行本
This text will be supplemented with additional readings.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ 永野芳郎『英語学要説』英宝社。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1Introduction: The World of Old English
Week 2The sounds (and spelling) of Old English
Week 3Sound change: Major differences from Old to Early Modern
Week 4Sound change 2: The implementation problem
Week 5Morphological change: Analogy and Old English nominal and verbal inflection
Week 6Syntactic Change: Transparency
Week 7Grammaticalization, the Emergence of New Categories
Week 8Midterm exam
Week 9Reanalysis and word order change in English
Week 10Sources of new vocabulary in Old and Middle English
Week 11Language contact (Spanglish)
Week 12Dialects of English: Black Vernacular English
Week 13Dialects of English: All around the world
Week 15Language death
Week 15Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%; Problem Sets (Homework): 45%; Midterm exam 20%

英語史 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Student should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. If a student is absent, they should bring their homework to class the next time they are present. It is the student's responsibility to hand in late homework, and homework later than 2 weeks after its assigned date will not be accepted.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

Linguistics, English language, history of English, historical linguistics

英文法I 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　廣田　恵美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法Ⅰ	LIN230M

授業の概要　/Course Description

英語の仕組みを平易な切り口で説明し、実践的な英文法の知識の習得を目標とする。この授業では、特に動詞句の用法について、具体例を多用しながら考察を進める。

教科書　/Textbooks

『Rediscover Grammar』（David Crystal著　Longman）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー＆アフター』（豊永　彰著　南雲堂　１，４００円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Introduction
２回　Types of sentences
３回　Clause types
４回　The verb element, The subject element
５回　The object element, The complement element
６回　The adverbial element
７回　Verb phrase structure
８回　Auxiliary verbs
９回　Modal meanings
１０回　The moods of the verb phrase
１１回　Verb tenses
１２回　Future time
１３回　Verb aspects
１４回　Active and passive
１５回　学習内容の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…80％　授業への取り組み（小テストなど含む）…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業時に辞書を使用するので、辞書（紙または電子）を必ず持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認めない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合には単位の取得が難しくなることがあるので、留意するように。

英文法I 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

キーワード　/Keywords
「使える英文法」文の仕組み　動詞句の用法

英文法I 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　廣田　恵美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法Ⅰ	LIN230M

授業の概要　/Course Description

英語の仕組みを平易な切り口で説明し、実践的な英文法の知識の習得を目標とする。この授業では、特に動詞句の用法について、具体例を多用しながら考察を進める。

教科書　/Textbooks

『Rediscover Grammar』（David Crystal著　Longman）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー＆アフター』（豊永　彰著　南雲堂　１，４００円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Introduction
２回　Types of sentences
３回　Clause types
４回　The verb element, The subject element
５回　The object element, The complement element
６回　The adverbial element
７回　Verb phrase structure
８回　Auxiliary verbs
９回　Modal meanings
１０回　The moods of the verb phrase
１１回　Verb tenses
１２回　Future time
１３回　Verb aspects
１４回　Active and passive
１５回　学習内容の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…80％　授業への取り組み（小テストなど含む）…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業時に辞書を使用するので、辞書（紙または電子）を必ず持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認めない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合には単位の取得が難しくなることがあるので、留意するように。

英文法I 【昼】

キーワード　/Keywords
「使える英文法」文の仕組み　動詞句の用法

英文法II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　廣田　恵美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法Ⅱ	LIN231M

授業の概要　/Course Description

この授業では、単なる知識に留まらず、英語を使いこなすための根幹となる項目の習得を図り、主に名詞句・冠詞・形容詞等、特に英語を書く際に重要な項目を学習する。

教科書　/Textbooks

『Rediscover Grammar』David Crystal 著　Longman

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー＆アフター』（豊永　彰著）　南雲堂　￥１，４００

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業内容と成績評価の仕方に関する説明　今後の概説
２回　The noun phrase: outline of NP
３回　The noun phrase: common and proper nouns
４回　The noun phrase: count and noncount nouns
５回　The noun phrase: variable and invariable nouns
６回　The noun phrase: gender and case
７回　Determiners
８回　The articles
９回　Predeterminers, premodification
１０回　Relative clauses
１１回　Pronouns
１２回　Adjectives
１３回　Adverbs
１４回　Prepositions
１５回　授業の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の授業への取り組み…２０％、試験…８０％で総合評価をする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでくること。

履修上の注意　/Remarks

専門基礎教育科目の「英文法I」とあわせて受講すればわかりやすい。また授業時に辞書を使用するので、辞書（紙または電子）を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認めない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合は単位の取得が難しくなることがあるので、留意すること。

英文法II 【昼】

キーワード　/Keywords
名詞句の特徴、冠詞、形容詞･副詞、前置詞

英文法II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　廣田　恵美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法Ⅱ	LIN231M

授業の概要　/Course Description

この授業では、単なる知識に留まらず、英語を使いこなすための根幹となる項目の習得を図り、主に名詞句・冠詞・形容詞等、特に英語を書く際に重要な項目を学習する。

教科書　/Textbooks

『Rediscover Grammar』David Crystal 著　Longman

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー＆アフター』（豊永　彰著）　南雲堂　￥１，４００

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業内容と成績評価の仕方に関する説明　今後の概説
２回　The noun phrase: outline of NP
３回　The noun phrase: common and proper nouns
４回　The noun phrase: count and noncount nouns
５回　The noun phrase: variable and invariable nouns
６回　The noun phrase: gender and case
７回　Determiners
８回　The articles
９回　Predeterminers, premodification
１０回　Relative clauses
１１回　Pronouns
１２回　Adjectives
１３回　Adverbs
１４回　Prepositions
１５回　授業の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の授業への取り組み…２０％、試験…８０％で総合評価をする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでくること。

履修上の注意　/Remarks

専門基礎教育科目の「英文法I」とあわせて受講すればわかりやすい。また授業時に辞書を使用するので、辞書（紙または電子）を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認めない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合は単位の取得が難しくなることがあるので、留意すること。

英文法II 【昼】

キーワード　/Keywords
名詞句の特徴、冠詞、形容詞･副詞、前置詞

英語音声学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な音声学に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	音声学の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（英米）英語学研究Ⅰ（音声学・音韻論）	LIN233M
（比文）英語音声学	LIN233M

授業の概要 /Course Description

This course will have both a theoretical component and a practical component. You will learn in this course what a 'phoneme' is, as compared to a 'phone' or 'allophone'. You will learn more about what kind of sounds are possible to create with the human body, and practice making sounds that you have probably never made before! You will also learn how to read and write a new alphabet (although many of the letters will be familiar to you), the International Phonetic Alphabet (IPA). This skill will help you to understand better the relationship between your tongue, lips and lungs, and the sounds that come out of your mouth. A practical application of this course is looking at the link between English spelling and pronunciation. Most Japanese speakers have never studied how spelling systematically relates to the phones of English, and having a good grasp of this knowledge will allow you to improve your own pronunciation of English.

Put in more compact form, the goals of this course are:
1) To understand how English spelling relates to English sounds (phonemes)
2) To describe sounds (phones) with a formal system (called the International Phonetic Alphabet)
3) Identify the phonemes (sounds) of English
4) To understand allophonic patterns within English, such as the aspiration of voiceless stop consonants in certain positions in a word and not in others

教科書 /Textbooks

Carr, P. & 竹林、滋. (2002). 英語音声学・音韻論入門。単行本。（166 pages)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

O Catford, J. C., 竹林、滋, 等. (2006). 実践音声学入門。大修館書店。(293 pages)

竹林、滋 と 斎藤、弘子 (2008). 英語音声学入門。大修館書店。(230 pages)

英語音声学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. Introduction, Vocal Tract
2. Manners of articulation for consonants
3. Manners of articulation for vowels
4. Review consonants and vowels
5. International Phonetic Alphabet
6. Spelling and pronunciation
7. Vowel pronunciations in American English
8. Midterm test
9. Review of IPA and vowels
10. Acoustic phonetics (how to read sound waves)
11. Acoustic phonetics (how to distinguish consonants)
12. Linking sounds
13. Accents
14. Intonation
15. Phonology & Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%; Problem Sets (Homework): 45%; Midterm exam & Review: 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Student should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. If a student is absent, they should bring their homework to class the next time they are present. It is the student’s responsibility to hand in late homework, and homework later than 2 weeks after its assigned date will not be accepted.

履修上の注意　/Remarks

You will be able to write in the International Phonetic Alphabet and understand the link between pronunciation and spelling in English after you finish this course.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

This linguistics course focuses on language analysis, in this case, of the English sound system. If you like math, you will probably enjoy this class very much. If you don't like math, you will still find the practical application of the course very helpful in your study of the English language.

キーワード　/Keywords

Phonetics, Phonology, English, Linguistics, Spelling, Pronunciation

イギリスの社会と文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの文化と現代社会に関する幅広い知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	文化を社会の中に位置づけて理解するための研究方法を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化というものが抱える様々な矛盾を見出すための能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代イギリス社会と現代日本社会とを比較する視点を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの社会と文化	ARE232M

授業の概要　/Course Description

本講義では、まさしく授業名の通りに、イギリスの「社会」と「文化」についての理解を深めるとともに、「社会」と「文化」との関係についても検討します。「文化」というのは、基本的には「社会」の一部であり、「社会」の中で一定の役割を果たしていますが、そのはたらきは見えるようでなかなかつかみづらいものです。そこで本講義では、それが比較的見えやすいイギリスを材料にして、「文化」というものが、「社会」の他の部分とどのようにかかわってきたのか、そしてその結果として、現代においてはいかなる状態にあるのかを考えていきたいと思います。

具体的には、イギリス人の「アイデンティティ」を中心に講義します。イギリス人はどんな人々で、自分たちをどのような人であると考えていて、そしてどういった場所に住み、そこからどのようにして物事を見てきたのか・・・。そうすることで、様々な時代に生きるイギリス人、様々な「日常」に光をあて、そこに潜んでいる様々な「文化」現象を取り出していきます。

教科書　/Textbooks

特になし（毎回、レジュメを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○『イギリス帝国の歴史』（秋田茂）中公新書
○『近代文化史入門』（高山宏）講談社現代文庫
『田舎と都会』（レイモンド・ウィリアムズ）、晶文社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回　イントロダクション〜イギリスの「社会」と「文化」をめぐって
第二回　「イギリス人」とは誰のことか①〜ゆらぐアイデンティティと崩れゆくイギリス
第三回　「イギリス人」とは誰のことか②〜多文化社会の隘路
第四回　「イギリス人」とは誰のことか③〜階級意識のゆくえ
第五回　「イギリス人」とは誰のことか④〜「女性」の居場所はどこか
第六回　「イギリス人」の住むところ①〜海洋民族としてのイギリス人
第七回　「イギリス人」の住むところ②〜航海者たちの見た夢
第八回　「イギリス人」の住むところ③〜イギリス「帝国」という場所
第九回　「イギリス人」の住むところ④〜「カントリーハウス」殺人事件
第十回　「イギリス人」の住むところ⑤〜 貧困のかたち
第十一回「イギリス人」のまなざし①〜「風景」の発見
第十二回「イギリス人」のまなざし②～都市という欲望
第十三回「イギリス人」のまなざし③〜一望される「世界」
第十四回「イギリス人」のまなざし④〜見えないものを見るために
第十五回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末テスト100%。ただし、授業態度などの平常点により多少の増減あり。

イギリスの社会と文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習用・復習用のテキストを配布することがありますので、配布された際には指示に従ってテキストを自己学習の時間で読むようにしてください。また授業で配布するプリントも、当該授業の復習として、また次回授業の予習として何度も読み返してください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義名に「歴史」は入っていませんが、どんな社会現象・文化現象を語るにも、その歴史を外すことはできませんので、歴史の話にも時間は割きます。ただし、歴史（世界史）は苦手、という人にもぜひ受講してほしいと思っています。

キーワード　/Keywords

アイデンティティ、階級意識、多文化主義、帝国主義、消費社会

イギリス文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってイギリス文化を理解することができる。
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（英米）イギリス研究	MCC217M
（比文）イギリス文化論	ARE234M

授業の概要　/Course Description

This course will be taught in English.

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalism. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, media, ideology, economy, sexuality, science, technology, media, nationalism and religion.

教科書　/Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

We will focus on 13 important era-defining figures that shaped the times, some of which are listed not because they are important in British history but as significant keys to consider each period: William Shakespeare, John Bunyan, Oliver Cromwell, Daniel Defoe, Erasmus Darwin, Mary Shelley, Isambard Kingdom Brunel, Charles Darwin, William Morris, Conan Doyle, D. H. Lawrence, A. A. Milne and John Lennon.

Class 1: Introduction
Class 2 Understanding Media and Culture
Class 3 Understanding Media and Society
Class 4: Shakespeare and the Theatre as the Most Powerful Media in the 16th Century: Historical Background
Class 5: Shakespare and 16th century Mass Culture
Class 6: Analysis of Shakespeare's Drama
Class 7: Understanding Protestantism and Chatholicism
Class 8: The King James Bible and The Puritan Revolution
Class 9: Oliver Cromwell and the 17th Century Puritanism
Class 10: John Bunyan's Pilgrim's Progress as the Fundamental Framework of Protestantism
Class 11: Coffee House and 18th century England
Class 12: Daniel Defoe and Journalism
Class 13: Daniel Defoe's Robinson Crusoe and the Ideology of the British Empire
Class 14: Erasmus Darwin's "Luna Society" and the18th Century Industrial Revolution
Class 15: General Overview

イギリス文化論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

Examination 70%
Class Contribution 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Each student will read the given material before each class.
Each student will review the class.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ドイツ語圏の多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	ドイツ語圏の多様な文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ドイツ語圏文化に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ドイツ語圏文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ドイツ文化論	ARE241M

授業の概要　/Course Description

ドイツという国は、およそ200年前までは300以上の小邦の集合体だった。そのことが現在のドイツの政治・社会のあり方にも、文化の特性にも、多大な影響を及ぼしている。この講義では、歴史の途中でドイツから分離していったオーストリアも含め、ドイツ語圏の四つの都市をテーマとして選び、その地域の歴史とそこに花開いた文化の関係を見ながら、ドイツ語圏文化の多様性を考える。

この授業の到達目標は以下のとおり。
・ドイツ語圏の都市文化と歴史について理解している。
・ドイツ語圏の多様な文化領域の研究方法を身につけている。
・ドイツ語圏文化について問題を設定し、考察・解決できる。
・ドイツ語圏文化に対する関心を深める。

教科書　/Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○坂井榮八郎『ヒストリカル・ガイド　ドイツ・オーストリア』山川出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ドイツ語圏の国々と統一・分裂の歴史
2回　アーヘン①昔はヨーロッパの中心？
3回　アーヘン②大聖堂に見るアーヘンの歴史
4回　アーヘン③現在のアーヘン
5回　ベルリン①辺境の町から首都へ
6回　ベルリン②最盛期のベルリン
7回　ベルリン③激動の時代・「世界首都ゲルマニア」
8回　ベルリン④「ベルリンの壁」と現在のベルリン
9回　ボン①選帝侯の町
10回　ボン②首村と呼ばれた暫定首都
11回　ボン③「連邦都市」ボン
12回　ウィーン①東の辺境から帝国の首都へ
13回　ウィーン②ハプスブルク家の栄光
14回　ウィーン③併合・敗戦・現在へ
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験の成績により100％評価する。ただし、出席状況が悪い場合は最高10％の減点とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で配布するプリントは、授業中に提示した重要ポイントと照合しながらよく読んでおくこと。

ドイツ文化論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

イギリス文学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　村里　好俊 / YOSHITOSHI MURASATO / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリス文学を理解するための基礎的な知識を習得している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリス文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリス文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス文学概論	LIT231M

授業の概要　/Course Description

今日、文学というとどうしてもかたいイメージを持ってしまう人が多いかもしれませんが、「おもしろくなければ文学じゃない」というイギリスの作家W.S.モームの言葉にもあるように、本来、人間の様々な生き様を描いた小説や詩がおもしろくないはずはないのです。敬遠されるようになったのは、ひとつには、読書感想文を書くための読書であったり、画一的な解釈を強要される読書であったり、昨今の「読書」を取り巻く環境が変化してきたためであり、それが私たちから読書の本来の楽しさを奪ってしまっているのです。人間同士のかかわり、絆が希薄になりつつあるといわれる今、多くのすぐれた文学作品に触れることは、今一度、人間に対する、他者に対する関心を呼び起こしてくれることでしょう。

イギリス文学の歴史はそれなりに長く、詩から劇、そして小説へと発展してきたわけですが、本講義では、イギリス文学の最大の特徴とされる詩について学びます。誌には様々なジャンルがありますが、その代表的な叙事詩と、恋愛詩に関して、その始まりから説き起こし､今日に至るまでの流れを追いつつ､さらに具体的に作品の抜粋を読みつつ、それらを生み出した時代背景、文化背景との関わりを探っていきます。

伝統あるイギリス文学の詩作品とその淵源となる古代ギリシャやローマの諸作品、とりわけシェイクスピアの詩集について、様々な文化事項と絡めながら見ていき、そのおもしろさを一緒に味わえればと思います。また同時に、作品との関連で、人間に関する様々なテーマ（生、死、愛、宗教、想像力・・・）についても問題提起をします。一緒に考えていきましょう！！

教科書　/Textbooks

『新訳シェイクスピア詩集』、大塚定徳・村里好俊訳・著、大阪教育図書
適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts (London: Longman社)　（速読ができるほどの、非常に易しい英語で書かれています。）
その他、適宜指示します。

イギリス文学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業①「トロイ戦争の由来について––ギリシャ神話の黄金のリンゴとパリスの審判について資料を基に解説し、トロイ戦争とその後日譚を歌ったホメロスの『イーリアス』と『オデュッセイア』を説明して、叙事詩の由来を理解できるようにします。」
授業②「古英語で書かれた叙事詩『ベーオウルフ』の内容と詩形とを解説し、その特徴を把握できるようにします。そしてより記憶に残るように映画を鑑賞します。」
授業③「16世紀を代表し、三万行を超える大叙事詩スペンサー作『妖精の女王』の粗筋と主題を解説し、その重要性が理解できるようにします。」
授業④「『妖精の女王』と並び称される宗教的叙事詩ミルトン作『失楽園』についてその意義を解説し、ミルトンの壮大な意図を読み取れることを目指します。」
授業⑤「壮大な叙事詩を茶化すようなポープの擬似叙事詩『髪の毛の強奪』を読み、その意図について把握できるようにします。」
授業⑥「ロマン派の詩人ワーズワスの自叙伝的叙事詩『序曲』の一部を読み、これまでの伝統的な叙事詩との相違点を理解できるようにします。」
授業⑦「現代のアメリカ詩人T. S. エリオットの『荒地』を読み、創造よりは破壊を悲観的に歌わざるを得ない現代詩人の苦悩の表現を読み取れるようにします。」
授業⑧「これからは恋愛詩について学びます。まずは、12世紀に登場し、新しい愛の理念「精美の愛」を高らかに歌ったトュルバドールたちの詩を読み、愛する者の倫理・道徳を高める、宗教としての愛の理念について学びます。」
授業⑨「その愛の理念を継承したイタリアの二大詩人ダンテとペトラルカの恋愛詩について解説し、学びます。」
授業⑩「ペトラルカの影響を受けた16世紀イングランドの恋愛詩人たちについて学びます。1590年代には多数の恋愛詩集が次々に出版された経緯を説明し、1609年に出版されたシェイクスピアの『ソネット集』に集約されることを読み取ります。」
授業⑪「その後に現れたジョン・ダンの特異な恋愛詩と初めての女性詩人メアリ・ロウスの女性の視点から書かれた恋愛詩を読み、その理解に努めます。」
授業⑫「ロマン派の恋愛詩の二つの極について、ワーズワスの素朴な詩とキーツの官能的な詩を精読して理解できるようにします。」
授業⑬「19世紀ヴィクトリア時代を代表するアーノルドの「ド–ヴァの岸辺で」を精読し、物質主義に汚染された俗物主義の時代の恋愛詩の特徴について学びます。これは、私たちの時代にも通じるところのある詩です。」
授業⑭「現代には恋愛詩を書くことは不可能であるとの認識の下で書かれたエリオットの「プルーフロックの恋歌」を精読し、それはなぜなのかを検証し、従来の伝統的な恋愛詩との相違点を理解します。この詩は長いので、次の十五回目の授業に続きます。」
授業⑮「プルーフロックの恋歌」の後半部分を解説し、これまで学んだ「叙事詩とは何か」「恋愛詩の系譜」に関して総括します。」

成績評価の方法　/Assessment Method

試験 or レポート（受講者数により決定します）・・・ 80%
平常点（課題、授業への参加度など）・・・ 20%　　（出席重視）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前半は授業の関係のある配布資料に目を通しておいてください。後半、テキストを使用する回では、授業の前にテキストの該当箇所をあらかじめ読んでおいてください。また、授業の後は、配布資料を読むと同時に、ノートをもとに内容を整理し、復習をしておいてください。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席をしないこと。授業の妨害となるような行為を慎むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は、「イギリスの現代文学」の受講もお勧めします。

キーワード　/Keywords

「詩」「劇」「歴史」「伝統」「文学のおもしろさ」「想像力」「風刺」「パロディ」「児童文学」「ファンタジー」「映画」

イギリスの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの現代文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの現代文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリスの現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの現代文学	LIT234M

授業の概要 /Course Description

「幸福」について共に考えよう！！

文学作品の面白さの一つは、主人公を中心とする人物たちの様々な生き様を読むことで、読者がいつのまにかその世界にすっかり引き込まれ、自分自身がまるでactor、actressになったかのように別の人生を生きることができるところにあります。人間はともすると、居心地のよい自分だけの小さな世界の中で安穏と生きることで、井の中の蛙になりがちです。そのような中、独りよがりな独善から解放され、より広く深い人間観を持つためには、文学作品を読むことはうってつけの方法と言えるでしょう。更に、より広い世界観を得るためには、自国の文学だけに満足することなく、様々な国々の文学作品に接することも必要です。

現代文学の始まりがいつなのかについては、研究者の間でも諸説入り混じっていますが、イギリス文学史においては20世紀初頭に大きな変化が見られるため、本講義では便宜上、20世紀以降の作品を主に扱うことにします。

イギリスの20世紀以降は、伝統を重んじる保守派の中から、様々な領域において刷新を望む新しい力が台頭してきた、とても興味深い時代です。そのような変化が如実に反映されている文学作品の中でも、この授業では、主に短篇小説を読むことで、様々な人間についての問題について一緒に考えていきましょう。そうすることで、より広い視野をもつことができればと思います。（本年度の主なテーマは「幸福」です。）

★到達目標
①イギリスの現代文学のいくつかの作品を理解すること。
②イギリスの現代文学の研究方法を身につけること。（一つのテーマで比較検討すること。）
③イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できること。
④イギリスの現代文学に対する関心を更に高めること。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。（原則として翻訳を用いますが、英語で書かれた原作も準備します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

イギリスの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　導入（テーマ、授業の勧め方、評価方法などについての説明）
２回　“The Happy Man” by W. S .Maugham、内容確認
３回　“The Happy Man” by W. S .Maugham、議論 【地位やお金と幸福】
４回　“The Happy Prince” by O. Wilde、 内容確認
５回　“The Happy Prince” by O. Wilde、議論 【自己犠牲と幸福】
６回　“A Little Cloud” by James Joyce、内容確認
７回　“A Little Cloud” by James Joyce、議論【自由や束縛と幸福】
８回　“Miss Brill” by K.Mansfield、内容確認
９回　“Miss Brill” by K.Mansfield、議論【孤独の不幸】
１０回　August Is a Wicked Month by E. O’Brien、内容確認
１１回　August Is a Wicked Month by E. O’Brien、議論【男女の愛の不毛性】
１２回　LadyChatterley’s Lover by D.H.Lawrence、内容確認
１３回　LadyChatterley’s Lover by D.H.Lawrence、議論【自然との関係にみる救い】
１４回　幸福についての議論
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験 orレポート…90％　　平常点（課題など）…10％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に扱う短編については、配布する資料をあらかじめ授業の前に読んでおいてください。授業の理解に有益な読書等も積極的に行なってください。それぞれの作品が終わる度に「幸福と＊＊＊」というテーマで、自分なりの幸福感を更新していってもらう予定です。

原作（英語のオリジナル）のプリントも配布するので、英語を頑張りたい人は積極的にそれを活用して自分で訳す作業をすることをお勧めします。その作業をやった人については、評価に＋αの配点をします。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

普遍的な「幸福」は果たしてあるのでしょうか。もしあるとすれば、それは一体何なのでしょう・・・。みんなで一緒に考えましょう！

キーワード　/Keywords

【地位やお金と幸福】、【自己犠牲と幸福】、【自由や束縛と幸福】、【孤独の不幸】、【男女の愛の不毛性】、【自然との関係にみる救い】

イギリスの１８-１９世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　村里　好俊 / YOSHITOSHI MURASATO / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの１８－１９世紀文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの１８－１９世紀文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの１８－１９世紀文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリスの１８－１９世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの18-19世紀文学	LIT235M

授業の概要　/Course Description

18, 19世紀のイギリス文学に関する文学史としての基礎的知識を提供し、主要な時代思潮に触れ、歴史的事実を紹介し、その時代に生きた主要な作家・作品を紹介する。テキスト理解を含めた内容を提供することで、イギリス文学の流れに関するダイナミズムを理解するだけでなく、重要な作家や文人、及び重要な作品についての興味を持つ切っ掛けを提供したい。

教科書　/Textbooks

授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

①時代背景の説明、王政復古から産業革命の成立と大英帝国まで。
②18世紀の小説について（スウィフト、デフォーを中心に）
③18世紀の小説について（リチャードソン、フィールディングを中心に）
④18世紀の小説について（スモレット、スターンを中心に）
⑤18世紀の散文について（ジョンソン博士など）
⑥18世紀の詩と劇について（ポープ、ジョンソンなど）
⑦18世紀の詩人たち（コリンズ、グレイなど）
⑧19世紀の詩人たち（ワーズワス、コールリッジなど）
⑨19世紀の詩人たち（バイロン、シェリー、キーツなど）
⑩19世紀の詩人たち（テニソン、ブラウニングなど）
⑪19世紀の詩人たち（モリス、スウィンバーン、ロセッティなど）
⑫19世紀の小説について（ブロンテ姉妹、オースティンなど）
⑬19世紀の小説について（ディケンズなど）
⑭19世紀の小説について（エリオット、ハーディなど）
⑮19世紀の散文について（ラスキン、モリス、ペイターなど）

成績評価の方法　/Assessment Method

提出物（小テスト、レポートを含む）40%
定期試験60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配布資料を事前に読んでおいて、授業中の質問に答えられるように準備しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席をしないこと。授業の雰囲気を低下させるような行為を慎むこと（私語、携帯端末の使用、授業内容と関係のない行為、居眠り等を禁じる）。これに反する者は、室外退去、あるいは減点等を行うので、留意すること。

イギリスの１８-１９世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回、興味を持って授業に臨むことを望む。

キーワード　/Keywords

イギリスの歴史、思想、文学

イギリスの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの大衆文化、及びその歴史についての基本的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	大衆文化を理解するための独自の視点・方法論を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	大衆文化の領域においても深い社会的考察が出来ることを認識する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	一つの社会の文化について幅広い関心を持ちうる態度を育成する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの大衆文化	ARE231M

授業の概要　/Course Description

「大衆文化」と聞くと、アニメやマンガ、ポップ音楽などを連想する人は多いかもしれません。しかし、そもそも「大衆文化」というものに学問的な興味が向けられた理由は、偉くもなく、お金も持っていないような、社会の中の普通の人々（民衆）が、どのような独自の「文化」を作ってきたのか / いるのか、について見なければ、「文化」を全体として捉えることはできない、という考えが生まれてきたからです。従って、「大衆文化」とは、普通の人々の日々の営みを幅広く含むものなのです。

本講義では、そのような考え方に基づき、イギリスのスポーツを扱います。フットボールやボクシングなど、イギリス発祥のスポーツは数多くあり、現在でも「大衆文化」として人気を博していますが、もともとは中世以来行われてきた民衆娯楽に端を発するものが殆どです。それがどのようにして、現在のような「スポーツ」として制度化されたのかについて歴史的に検討することで、大衆文化のイギリス社会における位置づけについて確認していきたいと思います。もちろん、それにかかわるイギリスの他の文化についても話をする予定です。

教科書　/Textbooks

特になし（毎回レジュメを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

『フットボールの文化史』（山本浩）、ちくま新書
『空から女が降ってくる』（富山太佳夫）岩波書店
○『英国社会の民衆娯楽』（ロバート・W・マーカムソン）、平凡社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回 イントロダクション～「民衆文化」と「大衆文化」
第二回 「アニマルスポーツ」と近代化（闘鶏）
第三回 「ブラッドスポーツ」と暴力（ボクシング）
第四回　儀礼からスポーツへ（フットボール・１）
第五回　オフサイドはなぜ反則か（フットボール・２）
第六回　ジェントルマンのサラブレッド（競馬）
第七回　これまでのまとめ（スポーツの近代化について）
第八回　ヴィクトリア朝のアルピニスト（登山）
第九回　スポーツとジェンダー（ネットボール、クローケー）
第十回　スポーツと植民地主義（クリケット）
第十一回　映像で観るスポーツ
第十二回　スポーツとナショナリズム（フーリガニズム）
第十三回　「健康」のためのスポーツとアマチュアリズム（オリンピック）
第十四回　スポーツと商業主義（メディア）
第十五回　まとめ（現代スポーツの諸問題）

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト 40%、期末テスト 60%

イギリスの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習用・復習用のテキストを配布することがありますので、配布された際には指示に従ってテキストを自己学習の時間で読むようにしてください。また授業で配布するプリントも、当該授業の復習として、また次回授業の予習として何度も読み返してください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スポーツがメインですが、イギリス文化について幅広く扱います。スポーツに特に興味のない人もどうぞ。

キーワード　/Keywords

スポーツ、共同体、祝祭、サッカー、演芸、格闘技、階級

フランス文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	フランスの多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	フランスに軸足を置きながら、多様な文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	フランス文化に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	フランス文化をはじめとして、自国の文化や世界各国の異文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フランス文化論	ARE240M

授業の概要　/Course Description

フランス文化とは何か。この授業では、フランス共和国の三色旗になぞらえて、この困難な問いに三つの角度からアプローチする。一つは人類の歴史における初めての「革命」が起きた場所として、二つには文学、哲学、芸術、学問という「文化」の中心地として、そして、三つには「映画」発祥の地としてである。

グローバル化が進行する世界の中で、ローカルなフランス文化が、何故いまだに特権化されているのか。日本文化の将来も見据えつつ、フランス文化という文化的複合体と「人間」の歴史との関わりを、芸術、思想、壮大なモニュメント群を紹介しながら学んでいきます。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『フランス文化事典』丸善出版、２０１２年
○田村毅監修 / 鈴木雅生・福島勲編『フランス文化読本』丸善出版、２０１４年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　I. 共和国とは
第２回　自由：ヴェルサイユ宮殿、バスチーユ、人権宣言
第３回　平等：ルーヴル美術館、凱旋門
第４回　友愛：マリアンヌ像
第５回　共和国のまとめ（コメントシート）
第６回　II. 文化とは
第７回　文学：カルチエ・ラタンと文学者
第８回　芸術：オペラ座、オルセー美術館、モンマルトルと芸術家
第９回　科学：エッフェル塔、メトロとパリ万国博覧会
第10回　文化のまとめ：（コメントシート）
第11回　III. 映画とは
第12回　リュミエール兄弟という奇跡
第13回　ヌーヴェル・ヴァーグという奇跡
第14回　ゴダールという奇跡とパリの映画館文化
第15回　映画のまとめ（コメントシート）

（各回の内容は入れ替わることがあります）

成績評価の方法　/Assessment Method

コメントシート（不定期）５０％　期末試験もしくは期末レポート５０％

フランス文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

参考書にあげた、田村毅監修 / 鈴木雅生・福島勲編『フランス文化読本』（丸善出版、２０１４年）は随時参照するので、授業の前に読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

期末レポートをコメントシートに代えることもある。
授業計画はあくまで計画であり、学生の理解度に合わせて柔軟に対応する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「フランス文化」とは何か？を基本に立ち返って考えてみようと思います。

キーワード　/Keywords

パリ　フランス　モニュメント　歴史　記憶　文学　映画　革命　人権

西洋美術史 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　貞包　博幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋美術史の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	●	西洋美術史の研究方法を理解する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋美術を考察する力を身に付ける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	西洋美術に対する興味関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋美術史	PHR218M

授業の概要　/Course Description

19〜20世紀初頭の西洋美術に焦点をあてる。とりわけ産業革命後の近代市民社会の形成や機械文明の発達が芸術活動にどう影響したか、近代美術とはそもそもどのようなものであり、どのようにして形成されたかを見る。そのために絵画・彫刻に留まらず、建築・工芸・産業製品についても映像を多用し、理論的かつ視覚的な理解に努める。目標とするところは造形表現が時代の変化といかに密接に関わり、社会の状況を反映したものであるかを知ることにある。

教科書　/Textbooks

安部公正他著『世界デザイン史』美術出版社、2600円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

千足伸行他『新西洋美術史』西村書店　ニコラス・ペブスナー『モダンデザインの展開』みすず書房
貞包博幸訳『キュービスム』および『バウハウスの実験住宅』中央公論美術出版　他

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	近代市民社会の発展と美術	産業革命、フランス革命、【大衆社会】
２回	美術における二つの価値体系	理想主義的価値観、【実利的価値観】
３回	１９世紀の美学思想	「用」なるもの、【「美」なるもの】
４回	アカデミズムの芸術思潮	アカデミー、【歴史主義】、芸術至上主義
５回	機械文明と新しい造形	万国博覧会、鉄道の発達、【機械化】
６回	19世紀の西洋美術の系譜	アングルの絵画、マネの絵画、【新しい写実性】
７回	印象主義の誕生	モネの絵画、【仮象色】
８回	アーツ・アンド・クラフト運動	ウィリアム・モリス、手工芸、【芸術の大衆化】
９回	アール・ヌーボーの芸術運動	【曲線様式】、鉄の愛用
10回	アール・ヌーボーの時代背景	アカデミズからの離反，【新しい芸術感情】
11回	キュービズムの絵画とその意味	ピカソ、【視点の移動】、時間の導入
12回	ドイツ近代運動の展開	ドレスデン手工芸工房、合理美、【機械様式】
13回	ドイツ工作連盟の活動	連盟の目標、【規格化】、【品質】
14回	バウハウスとモダニズム	【芸術と技術の統一】
15回	まとめ	

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況　…10　%　　課題（レポート提出）　…20　%　　期末テスト　…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

西洋近代の建築や絵画、工芸などの映像作品を見ながら講義を進めるので、可能なかぎり多くの美術展を観賞し、美術に親しむこと。教科書を反復して熟読し授業内容の全体像の把握に努めること。

履修上の注意　/Remarks

毎回資料を配付するので充分に読み理解に努めること。

西洋美術史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義開始時間を守ること。

キーワード　/Keywords

アカデミズム　近代芸術　用と美　規格化　モダニズム

アメリカ文化史 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ文化に見られる諸問題について、発見・分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカ文化史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文化史	ARE227M

授業の概要 /Course Description

21世紀を迎えたアメリカ社会が相変わらず抱える課題のひとつが、人種や民族の問題である。これは、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な問題をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック、日系人を取り上げ、その歴史的背景を踏まえたうえで、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時及び授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
第３回　アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会
第４回　アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立と黒人の抵抗運動
第５回　アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の否定
第６回　アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動の進展
第７回　アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
第８回　日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
第９回　日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
第１０回　日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
第１１回　日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
第１２回　日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
第１３回　ヒスパニック系アメリカ人の歴史：ブラセロ計画
第１４回　ヒスパニック系アメリカ人の歴史：1965年移民法
第１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカ文化史 【昼】

キーワード　/Keywords

イギリスの生活 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　松隈　達也 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの生活文化の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの生活文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの生活文化に関する諸問題について、発見・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリスの生活文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの生活	ARE235M

授業の概要　/Course Description

「イギリスの生活」を知る方法はいくつもありますが、本講義では、歴史学（イギリス史）の立場から生活文化について理解を深めます。「イギリスの生活文化史」と考えてもよいでしょう。
近現代イギリスの歴史が、現在の社会制度や人々の生活様式に大きく影響しているのは言うまでもありません。あるいは、現在の社会問題（人種差別や移民・難民、貧困、性）も、遡れば近現代史に遠因がある場合もあります。歴史をとおして、イギリスの人々の生活、文化、価値観、そして社会状況を理解します。同時に、「イギリスの生活文化史」を学びつつ、現在の私たちの生活文化とも比較する視野を養ってください。
講義では時折、視聴覚資料を使用します。

教科書　/Textbooks

なし。毎回の講義でレジュメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

川北稔『民衆の大英帝国：近世イギリス社会とアメリカ移民』（岩波現代新書、2008年）。（同書、岩波書店、1990年版は図書館○）
井野瀬久美恵編『イギリス文化史』（昭和堂、2010年）。図書館○

その他、講義時に必要に応じて紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．ガイダンス、私のイギリス留学経験、イギリス近現代史について
２．複合国家論：イギリス？イングランド？UK？
３．都市史：ロンドンに行きたい！
４．ファッション史（１）：髪型
５．ファッション史（２）：コルセットと紳士服
６．生活文化史：ジェントルマンは傘をささない！？
７．教育史：言語と階級
８．工業化論（１）：世界で最初の産業革命
９．工業化論（２）：機械か？手仕事か？
１０．工業化論（３）：鉄道と『シャーロック・ホームズ』
１１．女性史（１）：「家庭の天使」になるために
１２．女性史（２）：レディのアフリカ一人旅
１３．女性史（３）：メアリ・キングズリの帝国主義
１４．多文化主義：帝国の逆襲
１５．地域主義：「海賊ラジオ」、まとめ、到達度の確認
（進度により多少変更が生じる場合があります）

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（80％）・・・講義内容を踏まえて、講義の要約や自分の考えを明快に述べることができるか。
講義への取り組み・姿勢など（20％）・・・講義中に出す課題や質問に対して、自分の考えを述べることができるか。
なお、5回以上、無断欠席・遅刻をした者は単位認定の対象外とします。

イギリスの生活 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、前回の授業レジュメや各自の整理ノートを見直してください。
授業後は、整理ノートを作り、授業内容を要約してください。また、授業中に質問した内容や課題に取り組んでください。大学図書館には多くの文献・資料があります。ぜひ利用してください。

履修上の注意　/Remarks

【注意事項】
適当な理由のない欠席、遅刻、途中退室は厳禁。理由がある場合は事前申告してください。
他人の受講を妨げる迷惑行為や私語、携帯電話やスマートフォンの使用は厳禁。
座席指定をします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校世界史を選択していない人でも、イギリスに興味がある人は歓迎します。
また、比較文化に関心がある学生も歓迎します。

キーワード　/Keywords

都市化、工業化、生活文化、帝国、女性史

イギリス文化史 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米文化(主にイギリス)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	英米文化(主にイギリス)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（国関）英米文化概論Ⅰ	ARE130M
（比文）イギリス文化史	ARE233M

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド･映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション
第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ･サクソン】【ノルマン征服】
第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ･カルタ】
第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる 【帝国】【スコットランド】
第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない 【政教分離】【国教会】
第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1) 【アイルランド】【カソリック】
第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2) 【アイルランド】【北アイルランド問題】
第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【国制】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

イギリス文化史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

環大西洋の社会史 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor	寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環大西洋地域の社会史に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	環大西洋地域の社会史に関わる資料を活用した研究能力を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環大西洋地域社会の歴史に見られる諸問題について、発見・分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	環大西洋地域の社会史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環大西洋の社会史	HIS230M

授業の概要 /Course Description

2010年の冬以来、世界各地で民衆による大規模な抗議行動が頻発している。その行動は、ある地域では「革命」であり、ほかの地域では「異議申し立て」にとどまるが、いずれも権力や権威に対する抗議であることにおいては共通する。こうした抗議行動の原因や意義を考えるうえでのひとつの手掛かりとして、本講義では、環大西洋世界で生じた歴史的な「革命」を取り上げ、近代の欧米を中心とした政治的な流れを、経済・社会・文化と絡めて考察する。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　はじめに：授業の狙い・テーマについてのガイダンス
２回　イギリス革命：ピューリタン革命（１）【イギリスの宗教改革】
３回　イギリス革命：ピューリタン革命（２）【ピューリタニズムと共和国】
４回　イギリス革命：名誉革命（１）【王政復古体制】
５回　イギリス革命：名誉革命（２）【権利章典】
６回　アメリカ革命：反英抗争（１）【植民地建設】
７回　アメリカ革命：反英抗争（２）【植民地の発展】
８回　アメリカ革命：独立革命（１）【課税への反対】
９回　アメリカ革命：独立革命（２）【「コモン・センス」と「独立宣言」】
１０回　フランス革命：アンシャン・レジーム（１）【「社団」から「公衆」へ】
１１回　フランス革命：アンシャン・レジーム（２）【政治的危機と経済的危機】
１２回　フランス革命：８９年革命（１）【全国三部会とバスティーユ占領】
１３回　フランス革命：８９年革命（２）【「人権宣言」と「1791年憲法」】
１４回　ハイチ革命：米仏への影響
１５回　総括

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

環大西洋の社会史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スペイン文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スペインの歴史の基礎知識を学んだうえで、その専門的な文化の諸相を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	スペイン文化を理解するための方法論を理解している。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ文化の中のスペインの位置の理解、各国の文化との比較考察ができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	文化的混淆を含め、文化間の差異や共通性などを複眼的に学べる姿勢を維持する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（27年度以降）スペイン語圏文化論	ARE242M
（25・26年度）スペイン文化論	ARE242M

授業の概要　/Course Description

スペインの社会とその文化について、一般的な視座を獲得することを目標とします。ただし、社会も文化も現代に忽然と姿を現したものではなく、歴史の中にその萌芽と背景を有しています。スペインが内包する「多様性」は、まさしくスペインがたどってきたこれまでの来歴に由来しています。歴史を縦糸に、文化や社会のトピックを横糸に、スペインという複雑な織物（そしてまた、テクスト）を解読するための材料を提供することを目指します。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○関哲行・立石博高・中塚次郎編,『スペイン史』山川出版社、2008．（２巻本）
○清水憲男『ドン・キホーテの世紀』岩波書店、2010．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション、授業運営と成績評価について
第２回　旅するスペイン：地理と町の風景（イベリア半島、北と南）
第３回　スペインの言語、その来歴と変遷
第４回　古代史（単数形のスペインなんて存在しなかった）、イスラームスペイン（スペインはかつてイスラム教の国々だった）
第５回　中世のスペイン（レコンキスタの歴史）
第６回　映画『エル・シド』（部分）
第７回　スペインの黄金時代とその芸術（ベラスケス、エル・グレコ）
第８回　スペインの黄金時代とその芸術（セルバンテス『ドン・キホーテ』は傑作か？）
第９回　アメリカ大陸との遭遇、ハプスブルグ帝国の栄華と没落
第１０回　ブルボン朝のスペイン、国家の立て直し、王朝の危機と新大陸の独立運動
第１１回　ロマン主義、国民主義、モデルニスモの芸術（文学、音楽、建築）
第１２回　共和制への歩み、スペイン内戦と学問、芸術
第１３回　映画『サルバドールの朝』
第１４回　映画『サルバドールの朝』（つづき）、独裁の爪痕
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み５０％　定期試験５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、取り扱われる時代について参考書の該当部分に目を通しておくこと。授業後には、講義内容をレジュメを見直して復習すること。

履修上の注意　/Remarks

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

スペイン文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

普段からスペインやスペイン語圏の国々についての情報やニュースに注意を払ってください。スペインを知るためのさまざまなヒントがそこに含まれているかもしれません。

キーワード　/Keywords

スペイン　歴史　文化

イスパニア地域論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スペインを中心にスペイン語圏の地域の成り立ちを理解している。
技能	専門分野のスキル	●	ヨーロッパの中のスペイン、あるいはスペイン語圏の位置を理解している。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	スペインとスペイン語圏の歴史的比較ができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本とスペインあるいはスペイン語圏との関係に関心を維持する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(27年度以降 比文) スペイン語圏地域論	ARE243M
イスパニア地域論	ARE243M

授業の概要　/Course Description

スペインの十八世紀は近代の幕開けというタイミングにおいても、現代まで続くブルボン王朝の始まりというタイミングにおいても、その重要性は疑い得ない。しかしこと文学、文化的側面にかんしては十九世紀からの全盛期に対する否定的な評価を今日なお引きずっている観がなしとはいえない。啓蒙主義は合理を重んじたというが、いっぽうでロマン主義の種子を胚胎した。そのパラドックスをどう理解するか。理性の光と内奥の陰鬱をともに体現した軍人作家ホセ・デ・カダルソの諸作品を出発点に、この時代の諸相に一瞥を与えたい。

教科書　/Textbooks

ホセ・デ・カダルソ『モロッコ人の手紙　鬱夜』現代企画室、2017 .

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ゲーテ『若きウェルテルの悩み』、ヴォルテール『カンディド』、レッシング『賢人ナータン』、モンテスキュー『ペルシア人の手紙』、ルソー『新エロイーズ』、ヴォルテール『哲学書簡』、バーク『フランス革命の省察』、池田理代子『ベルサイユのばら』、筒井康隆『旅のラゴス』、高山宏『奇想天外・英文学講義』、トドロフ『ゴヤ　啓蒙の光の影で』、ジャニーヌ・バティクル『ゴヤ』

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．イントロダクション：カダルソという人がいた！
２．十八世紀はどんな時代か
３．カダルソの生涯と作品
４．『鬱夜』、恋人のせいの曖昧さをめぐって
５．『鬱夜』、フーガの技法、あるいは光の世紀の闇に輝く光
６．『モロッコ人の手紙』、国家の批評を求めて
７．『モロッコ人の手紙』、客観性の獲得
８．『ソラーヤ』、王殺しの正当性（１）
９．『ビティン』、王殺しの正当性（２）
１０．オルメシンダの死、王殺しの変奏
１１．愛国心と疎外感、祖国という関心をめぐって
１２．祖国からネイションへ、象徴体系としての祖国
１３．舞台の上のネイション、終着点 / 出発点としてのカディス憲法
１４．『宮廷画家ゴヤは見た』（１）
１５．『宮廷画家ゴヤは見た』（２）、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点４０％、レポート課題６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、指定された書籍等の該当箇所を参照しておくこと。授業後には配布されるレジュメの内容をレビュすること。また学期中数回のレポート課題を作成するための入念な準備を行うこと。

イスパニア地域論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

履修上の注意　/Remarks

いかなる理由であっても遅刻、欠席が５回に及んだ場合は評価の対象としない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スペイン　文化史　十八世紀

ロシア歴史文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　太田　丈太郎 / OHTA Jotaro / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ロシアの歴史、社会、文化について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	歴史的研究方法、社会学的研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ロシアの社会や文化に関して課題を自ら設定し、適切な研究方法を用いて考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ロシアの歴史・文化をはじめ、幅広い領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ロシア歴史文化論	HIS231M

授業の概要　/Course Description

ロシアは世界最大の国土を誇ります。良い意味でも悪い意味でも世界の注目を集めるロシアを抜きに、いまや世界を語ることはできません。エネルギー資源を切り札としながら、この16年間、ロシアは国際的発言力を高めてきました。近頃では「ユニクロ」や「丸亀うどん」がモスクワで数店舗を開店させたり、日本のウィスキーメーカーがロシアの市場に乗り出したりするなど、ロシアとのビジネス上の関わりも話題にのぼるようになりました。日本の自動車業界がロシアに現地工場を稼働させたのも、もう十年も前のことです。2014年のソチ・オリンピックも感動的でした。しかしながら、多くの日本人は、いまだ大昔の冷戦期の情報から抜けきれず、「プーチンのロシア」「強権国家」などと陳腐化したフレーズを繰り返すばかりです。

日本の、また東アジア全体の〈近代〉（西欧化政策）は、ロシアの介在なしに考えることはできません。『ゴジラ』のテーマ音楽を作曲した伊福部昭、黒澤明『七人の侍』の映画音楽を作曲した早坂文雄の先生は、サンクト・ペテルブルク出身のアレクサンドル・チェレプニンという亡命ロシア人音楽家でしたし、サンクト・ペテルブルクの伝統なしに日本のバレエ・音楽の発展はなかったとしても過言ではありません。日本と同様、ロシアも現在激しい変動のさなかにあります。実際に合わない陳腐化したステレオタイプを他者に当てはめたところで、なんら現状の打開にはつながりません。いったい、どれだけの日本人が「同時代をともに生きる人々」としてのロシアを見ているのだろうか。

そのためにはロシアの文化を知る必要がある。それが日本に多少なりとも及ぼしてきた影響力、「共振力」を知る必要がある。それがまさに、日本の〈近代〉を知ることへとつながります。ヨーロッパ文化という鏡を前にして、ロシアと日本の「自画像」が重なってくるのです。以上述べてきたことに、関心を持っていただけるかたの履修を望みます。

教科書　/Textbooks

講義はKeynoteでおこないます。授業時の資料配付は必要なとき以外はいたしません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

原卓也（監修）『読んで旅する世界の歴史と文化 ロシア』新潮社、1994年
中村健之介『宣教師ニコライと明治日本』岩波新書、1996年
川端香男里『ロシア その民族とこころ』講談社学術文庫、1998年
渡辺雅司『明治日本とロシアの影』ユーラシアブックレット、2003年
小町文雄『サンクト・ペテルブルク』中公新書、2006年
太田丈太郎『「ロシア・モダニズム」を生きる 日本とロシア、コトバとヒトのネットワーク』成文社、2014年

ロシア歴史文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　サンクト・ペテルブルク300年
第２回　日露交渉史について(漂流民と日本語教育 / 国境の画定など；ゴンザの辞書)
第３回　日露交渉史について(漂流民と日本語教育 / 国境の画定など；大黒屋光太夫)
第４回　日露交渉史について(漂流民と日本語教育 / 国境の画定など；光太夫と『北槎聞略』)
第５回　エルミタージュ美術館とロシア絵画の巨匠たち
第６回　山下りんとロシア正教(イコンについて１)
第７回　山下りんとロシア正教(イコンについて２)
第８回　ワルワーラ・ブブノワと大正アヴァンギャルド（１）
第９回　ワルワーラ・ブブノワと大正アヴァンギャルド（２）
第10回　ディアギレフの「バレエ・リュス」（１）
第11回　ディアギレフの「バレエ・リュス」（２）
第12回　エリアナ・パブロワと日本バレエ
第13回　東アジア近代 – ロシア / 中国 / 日本を結ぶ音楽（山田耕筰・ショスタコーヴィチ）
第14回　東アジア近代 – ロシア / 中国 / 日本を結ぶ音楽（チェレプニン・伊福部昭）
第15回　東アジア近代 – ロシア / 中国 / 日本を結ぶ音楽（音楽の都ハルビン）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回出していただく「コミュニケーション・カード」に基づく理解度、課題の提出、レポートまたは学期末試験から成績評定します。平常点40%、課題30%、試験または学期末レポート30%を目安にして下さい。ただし、いずれかが欠けていると、成績評定につながらないおそれがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次回に向けての「お題」を出しますから、講義前に取り組んでください。それから、講義をよりよく理解するために、ぜひ「参考書」欄にあげた書籍を、いくつか読んでいただけると幸いです。講義の目的がいっそう明確になるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

講義は連続ドラマのようなもので一回でも休むと全く話がつながらなくなります。欠席してはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義に興味を持った方は、ぜひロシア語を習ってみてください。

キーワード /Keywords

日露交渉　ロシア　日本　ロシア文化　漂流民　ニコライ大主教　ワルワーラ・ブブノワ　ロシア・バレエ団　チェレプニン　伊福部昭　山田耕筰　ハルビン

ユーラシアの多文化世界 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ロシア、カフカス、中央アジア、バルト地域などの多様な民族社会の存在を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	民族を結びつけている我々意識、言語、文化、宗教についての基本的アプローチ法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を自ら設定し、適切なアプローチ法を用いつつ、複眼的視野に基づいて考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	異なる民族文化の諸領域に対する関心を維持する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ユーラシアの多文化世界	ARE265M

授業の概要　/Course Description

民族を結び付けている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて、特に、文化の喪失と継承・創造の視点から考察する。
事例研究では、主にロシア連邦のボルガ中流地域、北カフカス地域、シベリア地域の民族共和国、さらに中央アジア、ウクライナ、バルト諸国などを取り上げる。
到達目標は、文化の創造・維持についての理解を深め、多民族社会に関する知識を養い、日本の社会を多様な価値観で認識し直すことができるようになること。

教科書　/Textbooks

レジュメ配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○青木保『文化の否定性』中央公論社、1988年
○E.W.サイード『オリエンタリズム』上・下、平凡社、1993年
○新渡戸稲造の著作、教文館
○原・和田ほか編『講座スラブの世界』全8巻、山川出版社、1994 - 1996年
○小泉武夫『食の堕落と日本人』東洋経済新報社、2001年
平田オリザ『わかりあえないことから』講談社現代新書、2012年
○アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店、2000年
○宇山智彦編著『中央アジアを知るための60章』明石書店、2003年
○北川誠一ほか編著『コーカサスを知るための60章』明石書店、2006年
○田中・倉持・和田編『ロシア史』全3巻（世界歴史体系シリーズ）山川出版社、1994 - 1997年
以上の他に指定図書も10冊ほどあります。

ユーラシアの多文化世界 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　民族とは何か：民族籍と国籍、民族アイデンティティ、ナショナリズム
2回　民族社会と文化①文化の定義、人と文化、文化政策
3回　民族社会と文化②文化の創造と維持
4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
5回 言語と社会①【母語とは】、人と言語、民族言語
6回　言語と社会②　近代化と言語政策・言語問題
7回　ボルガ・ウラル地域の民族社会①タタール人
8回 ボルガ・ウラル地域の民族社会②ウドムルト人
9回 北カフカスの諸民族、【ダゲスタンの諸民族】
10回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
11回 中央アジアの民族と社会：①自然風土、草原の民とオアシスの民
12回 中央アジアの民族と社会：②信仰と宗教、歴史・文化、新たな国造り
13回 ウクライナの民族・地域問題：歴史、言語、文化・宗教
14回 バルトの諸民族：エストニア、ラトビアの歴史と民族、文化
15回 旧ソ連の離散民：ロシアの朝鮮人、離散の歴史

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験70%、小レポート30%
（欠席・遅刻が三分の一以上の者は受験資格を失います）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前にシラバス記載の参考書、授業計画・内容に関係した書物（文化論、民族論、社会言語学、さらにロシアの歴史や社会に関するもの）を読み基本的な知識を得ておくこと。また、毎回の授業でも参考文献を示すので、興味のあるテーマを選んで関連文献を読み理解を深めること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民族、ナショナリズム、文化、民族伝統文化維持、宗教、ことばと社会、ロシア、ウクライナ、タタルスタン、ウドムルト、カフカス、ダゲスタン、シベリア、中央アジア、バルト地域、

社会言語学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor　平野　圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会言語学研究に必要な基礎的・専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	社会と言語の関係を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会と言語の諸問題を学際的、複眼的に思考し解決策を探求できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（英米）社会言語学研究	LIN310M
（比文）社会言語学	LIN310M

授業の概要　/Course Description

本講義は社会言語学の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。ことばは様々な要因によって影響を受け、変化やバリエーションが生じます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはことばをどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。ことばと社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。

教科書　/Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回社会言語学とは
２回英語の地域変種
３回標準英語と非標準英語
４回ことばと社会階級
５回ことばと性
６回ことばと年齢
７回ことばと人種・民族
８回特別講演会（未定）
９回ことばとソーシャルネットワーク
１０回ことばとスタイル
１１回ことばの変化
１２回方言接触(1)【アコモデーション】
１３回方言接触(2)【方言習得】
１４回言語接触
１５回まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末テスト…100%（出席重視。欠席・遅刻は減点対象。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業後に講義内容を復習し、関連する言語現象を観察してください。

履修上の注意　/Remarks

社会言語学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英会話・英作文１【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ａ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文１	ENG171M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills.

教科書　/Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Global Connections. Cengage Learning. 2015.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 Course Introduction: Meeting People.
2 回 Writing in the present tense; Family
3 回 Writing in the past; school life
4 回 Writing in the future
5 回 Adventure Activities
6 回 Fun Festivals
7 回 Sounds Good!
8 回 Presentations
9 回 Writing in the continuous tense
１０回 Writing in the perfect tense
１１回 Using modal auxiliaries
１２回 The Big Screen
１３回 Now and Then
１４回 Traveling Around
１５回 Review; Final Presentations

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work and Assignments 70%　　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文１【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Be prepared to participate actively.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード　/Keywords

英会話・英作文１【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｂ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文１	ENG171M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills.

教科書　/Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Global Connections. Cengage Learning. 2015.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 Course Introduction: Meeting People.
2 回 Writing in the present tense; Family
3 回 Writing in the past; school life
4 回 Writing in the future
5 回 Adventure Activities
6 回 Fun Festivals
7 回 Sounds Good!
8 回 Presentations
9 回 Writing in the continuous tense
１０回 Writing in the perfect tense
１１回 Using modal auxiliaries
１２回 The Big Screen
１３回 Now and Then
１４回 Traveling Around
１５回 Review; Final Presentations

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work and Assignments 70%　　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文１【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Be prepared to participate actively.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード　/Keywords

英会話・英作文１ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｃ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文１	ENG171M

授業の概要　/Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. They will do this while studying about different cultures. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書　/Textbooks

Check it out! Book 2　by Milada Broukal　Heinle Centage Learnin

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. Course introduction & filling our student information cards
2. Greetings - must, must not, have to, don't have to
3. Explorers - present perfect tense
4. Inventions - past continuous tense
5. Written Grammar Review Test & Conversation Test
6. Writing Assignment 1 Introduction to outlining "My Life"
7. Writing composition from last week's outline
8. Weather - will and going to
9. Transportation - can & could
10. Places - superlatives
11. Written Grammar Review Test & Conversation Test
12. Writing Assignment 2 Outlining "My Hometown" Write stories from last week's outlines
13. Speech activity - What's in Your Pocket
14. Make-up day
15. Wrap-up

成績評価の方法　/Assessment Method

Marks will be based on an average of speech and writing assignments and tests.
Writing assignments and tests will be averaged to make 70% of the final mark.
The other 30% will be from the final examination.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Various kinds of homework such as making outlines and compositions.

履修上の注意　/Remarks

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.
Every student must do all of the assignments. Absence is not an excuse for not doing class work, homework, or taking tests.

英会話・英作文１【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

communication between you and the teacher and other students is what makes an English course fun rather than just a requirement. When you don't understand something, ask the teacher. Your question may be the difference between a high mark and one that is not so high.

キーワード　/Keywords

英会話・英作文１【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年（１－ｄ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文１	ENG171M

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書　/Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Orientation
２回 Unit 1 Have an opinion
３回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
４回 Unit 2 Explaining your opinion
５回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
６回 Unit 3 Supporting your opinion
７回 Unit 3 Giving supports
８回 Unit 4 Organizing your opinion
９回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
１０回 Unit 5 Refuting explanations
１１回 Unit 5 Tennis debate
１２回 Tennis debate preparation
１３回 Tennis debate
１４回 Exam review
１５回 Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students must prepare a peer journal

履修上の注意　/Remarks

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

英会話・英作文１【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英会話・英作文１ 【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年（１－ｅ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文１	ENG171M

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書　/Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Orientation
２回 Unit 1 Have an opinion
３回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
４回 Unit 2 Explaining your opinion
５回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
６回 Unit 3 Supporting your opinion
７回 Unit 3 Giving supports
８回 Unit 4 Organizing your opinion
９回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
１０回 Unit 5 Refuting explanations
１１回 Unit 5 Tennis debate
１２回 Tennis debate preparation
１３回 Tennis debate
１４回 Exam review
１５回 Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英会話・英作文１【昼】

キーワード　/Keywords

英会話・英作文１【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｆ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文１	ENG171M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills.

教科書　/Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Global Connections. Cengage Learning. 2015.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 Course Introduction: Meeting People.
2 回 Writing in the present tense; Family
3 回 Writing in the past; school life
4 回 Writing in the future
5 回 Adventure Activities
6 回 Fun Festivals
7 回 Sounds Good!
8 回 Presentations
9 回 Writing in the continuous tense
１０回 Writing in the perfect tense
１１回 Using modal auxiliaries
１２回 The Big Screen
１３回 Now and Then
１４回 Traveling Around
１５回 Review; Final Presentations

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work and Assignments 70%　　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文１【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Be prepared to participate actively.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード　/Keywords

英会話・英作文１ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｇ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文１	ENG171M

授業の概要　/Course Description

The class is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書　/Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Course Introduction: Basic writing. Self Introduction
2. Speaking basics: Conjugation
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Sports)
4. Speaking basics: Controlling mean length runs
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Overpopulation)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Education)
8. Speaking basics: Control
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Government)
10. Speaking basics: Communication
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Souvenirs)
12. Speaking basics: Advanced Communication
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Animal captivity)
14. Speaking basics: Conversation
15. Test Practice

成績評価の方法　/Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis. All class content is subject to change.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英会話・英作文１【昼】

キーワード　/Keywords

英会話・英作文１ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｈ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文１	ENG171M

授業の概要　/Course Description

The class is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書　/Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Course Introduction: Basic writing. Self Introduction
2. Speaking basics: Conjugation
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Sports)
4. Speaking basics: Controlling mean length runs
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Overpopulation)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Education)
8. Speaking basics: Control
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Government)
10. Speaking basics: Communication
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Souvenirs)
12. Speaking basics: Advanced Communication
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Animal captivity)
14. Speaking basics: Conversation
15. Test Practice

成績評価の方法　/Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis. All class content is subject to change.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英会話・英作文１【昼】

キーワード　/Keywords

英会話・英作文２ 【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ａ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文２	ENG172M

授業の概要　/Course Description

This course is a continuation of 英会話・英作文1. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills.

教科書　/Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Global Connections. Cengage Learning. 2015.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 Review of the first semester; course introduction
2 回 Writing paragraphs: topic sentences; using conjunctions
3 回 Writing paragraphs: supporting sentences; using more conjunctions
4 回 Writing paragraphs: concluding sentences; relative pronouns & relative adverbs
5 回 Ecotourism
6 回 Markets
7 回 Trash
8 回 Presentations
9 回 Writing essays: supporting paragraphs
１０回 Writing essays: introductory paragraph
１１回 Essay work
１２回 Writing essays: concluding paragraph
１３回 Disappearing Species
１４回 Green Living
１５回 Living Abroad; review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work and Assignments 70%　　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文２ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively in class activities.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード /Keywords

英会話・英作文２ 【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｂ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文２	ENG172M

授業の概要　/Course Description

This course is a continuation of 英会話・英作文1. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills.

教科書　/Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Global Connections. Cengage Learning. 2015.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 Review of the first semester; course introduction
2 回 Writing paragraphs: topic sentences; using conjunctions
3 回 Writing paragraphs: supporting sentences; using more conjunctions
4 回 Writing paragraphs: concluding sentences; relative pronouns & relative adverbs
5 回 Ecotourism
6 回 Markets
7 回 Trash
8 回 Presentations
9 回 Writing essays: supporting paragraphs
１０回 Writing essays: introductory paragraph
１１回 Essay work
１２回 Writing essays: concluding paragraph
１３回 Disappearing Species
１４回 Green Living
１５回 Living Abroad; review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work and Assignments 70%　　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文２ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively in class activities.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード /Keywords

英会話・英作文２ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｃ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文２	ENG172M

授業の概要　/Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書　/Textbooks

Check it out! Book 2　by Milada Broukal　Heinle Centage Learning

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. Discussion & outlining about Vacation Activities
2. Writing story from last week's outline
3. Sports - Must, Must not, have to, etc.
4. Health - Food & Drink, Should & Shouldn't
5. Entertainment - oscars, present perfect tense
6. Grammar Review Quiz & Conversation Test
7. Speech activity - speeches from outlines done in first class
8. Food - verb+ gerund or Infinitive
9. Communication - conditional if - if...will
10. Fashion - passive voice simple present & past
11. Grammar Review Quiz & Conversation Test
12. Outlining about "Food I Like and don't like"
13. Writing composition about last week's outline
14. Speeches from outlines about Food I Like and Don't like
15. Wrap-up

成績評価の方法　/Assessment Method

Marks will be based on an average of speech and writing assignments and tests.
Writing assignments and tests will be averaged to make 70% of the final mark, The other 30% will be from the final examination.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Various kinds of homework such as making outlines and compositions.

履修上の注意　/Remarks

Students willbe told weekly how to prepare for the next class.
Everyone is required to do all of the classwork and homework. Absence is not an excuse from doing this work.

英会話・英作文２ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation between you and the teacher and other students will make the course fun. Never be afraid to ask the teacher questions.

キーワード /Keywords

英会話・英作文２ 【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｄ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文２	ENG172M

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書　/Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Please use a wide variety of textbooks

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Orientation
２回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
３回 Tennis debate & Earning money
４回 Tennis debate & Please let me smoke
５回 Tennis debate & I can't stop
６回 Tennis debate & The shoplifter
７回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
８回 Tennis debate & Who pays
９回 Tennis debate & Cyber love
１０回 Tennis debate & The boyfriend
１１回 Tennis debate & Living together before marriage
１２回 Tennis debate & Housework
１３回 Tennis debate & Confused
１４回 Review
１５回 Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英会話・英作文２ 【昼】

キーワード /Keywords

英会話・英作文２ 【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｅ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文２	ENG172M

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書　/Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students will have to use a variety of sources

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Orientation
２回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
３回 Tennis debate & Earning money
４回 Tennis debate & Please let me smoke
５回 Tennis debate & I can't stop
６回 Tennis debate & The shoplifter
７回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
８回 Tennis debate & Who pays
９回 Tennis debate & Cyber love
１０回 Tennis debate & The boyfriend
１１回 Tennis debate & Living together before marriage
１２回 Tennis debate & Housework
１３回 Tennis debate & Confused
１４回 Review
１５回 Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文２ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文２ 【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年 (1 - f)

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文２	ENG172M

授業の概要 /Course Description

This course is a continuation of 英会話・英作文1. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills.

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Global Connections. Cengage Learning. 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回 Review of the first semester; course introduction
2 回 Writing paragraphs: topic sentences; using conjunctions
3 回 Writing paragraphs: supporting sentences; using more conjunctions
4 回 Writing paragraphs: concluding sentences; relative pronouns & relative adverbs
5 回 Ecotourism
6 回 Markets
7 回 Trash
8 回 Presentations
9 回 Writing essays: supporting paragraphs
1 0 回 Writing essays: introductory paragraph
1 1 回 Essay work
1 2 回 Writing essays: concluding paragraph
1 3 回 Disappearing Species
1 4 回 Green Living
1 5 回 Living Abroad; review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70%　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文２ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively in class activities.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード /Keywords

英会話・英作文２ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｇ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文２	ENG172M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書　/Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

1.Review of the first semester; Course introduction. Writing assignment
2. Speaking basics: Conjugation
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Politics)
4. Speaking basics: Controlling mean length runs
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Economics)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: History)
8. Speaking basics: Communication
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Environment)
10. Speaking basics: Advanced Communication
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Modern Society)
12. Speaking basics: Conversation
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Digital Age)
14. Speaking basics: Point-Counterpoint
15. Test Practice

成績評価の方法　/Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis. Discussion topics are subject to change.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文２ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文２ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年（１－ｈ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文２	ENG172M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書　/Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

1.Review of the first semester; Course introduction. Writing assignment
2. Speaking basics: Conjugation
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Politics)
4. Speaking basics: Controlling mean length runs
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Economics)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: History)
8. Speaking basics: Communication
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Environment)
10. Speaking basics: Advanced Communication
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Modern Society)
12. Speaking basics: Conversation
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Digital Age)
14. Speaking basics: Point-Counterpoint
15. Test Practice

成績評価の方法　/Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis. Discussion topics are subject to change.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文２ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文３ 【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（２－ａ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文３	ENG271M

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書　/Textbooks

What a world 2 Amazing stories from around the globe, Milanda Broukal, Longman(1st semester)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

An English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Orientation
２回 Who is the most important person from history, reading, listening, building a paragraph & statistics
３回 What are fattening rooms, listening, building a paragraph & statistics
４回 Where do people celebrate girls days, listening, building a paragraph & statistics
５回 Environment reading, listening, building a paragraph & statistics
６回 What is the royal flying docotr service reading, listening, building a paragraph & statistics
７回 How did the Egyptians make mummies, listening, building a paragraph & statistics
８回 Why is Louis Pasteur important, listening, building a paragraph & statistics
９回 Why are sumo wrestlers so fat? reading, listening, building a paragraph & statistics
１０回 Who is Stephen King? reading, listening, building a paragraph & statistics
１１回 Where is Timbukiutu? reading, listening, building a paragraph & statistics
１２回 temporary workers reading, listening, building a paragraph & statistics
１３回 Where do most vegetarians live?reading, listening, building a paragraph & statistics
１４回 Review
１５回 Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 80%　Peer journal 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英会話・英作文３ 【昼】

キーワード /Keywords

英会話・英作文３ 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　２年（２－ｂ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文３	ENG271M

授業の概要　/Course Description

Practical English communication skills will be developed through regular practice. The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously leart material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書　/Textbooks

World English Level 2 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回: course introduction, explanation of what to do, and how to prepare.
第2回: unit 1 - Chapter Title: Food from the earth,
第3回: unit 1 - What did we learn last time? Review.
第4回 unit 2 - Chapter Title: Communication,
第5回 unit 2 - Is communication changing because of SNS?
第6回 unit 3 - Chapter Title: Cities,
第7回 unit 3 - Are we better off than our parents?
第8回 unit 4- Chapter Title: The body,
第9回 unit 4 - Does modern medicine cure or prevent illnesses?
第10回 unit 5 - Chapter Title: Challenges,
第11回 unit 5 - What inspires you?
第12回 unit 6 - Chapter Title: Transitions,
第13回 unit 6 - Is growing up more difficult for children today?
第13回 Review and summary, basic.
第14回 Review and summary, advanced.
第15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

To prepare for the lesson, please read ahead of time the contents of the book for the next lesson. In addition, some practice questions for the final exam will be given (in the final class) to give students confidence and peace of mind.

英会話・英作文３ 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.

Please do not use your mobile phone in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

communication, internationalization, development

英会話・英作文３ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（２－ｃ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文３	ENG271M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書　/Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

1. Course Introduction: Basic writing. Self Introduction
2. Speaking basics: Conjugation
3. Writing on current issues. Corrections. Basic essay structure. (topic: Personal Finance)
4. Speaking basics: Conjugation. Essential Grammar.
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: International Issues)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Gender Issues)
8. Speaking basics: Controlling mean length runs
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Environment)
10. Speaking basics: Communication
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Pacific Rim)
12. Speaking basics: Conversation
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Gun Control)
14. Speaking basics: Point-Counterpoint
15. Test Practice

成績評価の方法　/Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis. All class content is subject to change.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文３ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文３ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（２－ｄ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文３	ENG271M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書　/Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

1. Course Introduction: Basic writing. Self Introduction
2. Speaking basics: Conjugation
3. Writing on current issues. Corrections. Basic essay structure. (topic: Personal Finance)
4. Speaking basics: Conjugation. Essential Grammar.
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: International Issues)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Gender Issues)
8. Speaking basics: Controlling mean length runs
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Environment)
10. Speaking basics: Communication
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Pacific Rim)
12. Speaking basics: Conversation
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Gun Control)
14. Speaking basics: Point-Counterpoint
15. Test Practice

成績評価の方法　/Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis. All class content is subject to change.

履修上の注意　/Remarks

Review the materials from the previous week for use in class.

英会話・英作文３ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文３ 【昼】

担当者名 /Instructor　ドローキス　ダニエル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（ＡＥＳ１）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文３	ENG271M

授業の概要　/Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書　/Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,…

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Introductions
２回　Waiting in line
３回　Little White Lies
４回　I quit
５回　Whom should I hire
６回　One-eyed Monster
７回　Speaking Up
８回　They owe it to me
９回　Yes, sir.
１０回　Don't forget to tip
１１回　Smoking
１２回　Who is the winner
１３回　Which Job?
１４回　Who gets the money
１５回　Test preparation and review

成績評価の方法　/Assessment Method

The students will be evaluated on:
1. Class participation and positive attitude40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read material from previous lesson

履修上の注意　/Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

英会話・英作文３ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文３ 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（ＡＥＳ２）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文３	ENG271M

授業の概要　/Course Description

Practical English communication skills will be developed through regular practice. The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously leart material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書　/Textbooks

World English Level 2 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回: course introduction, explanation of what to do, and how to prepare.
第2回: unit 1 - Chapter Title: Food from the earth,
第3回: unit 1 - What did we learn last time? Review.
第4回 unit 2 - Chapter Title: Communication,
第5回 unit 2 - Is communication changing because of SNS?
第6回 unit 3 - Chapter Title: Cities,
第7回 unit 3 - Are we better off than our parents?
第8回 unit 4- Chapter Title: The body,
第9回 unit 4 - Does modern medicine cure or prevent illnesses?
第10回 unit 5 - Chapter Title: Challenges,
第11回 unit 5 - What inspires you?
第12回 unit 6 - Chapter Title: Transitions,
第13回 unit 6 - Is growing up more difficult for children today?
第13回 Review and summary, basic.
第14回 Review and summary, advanced.
第15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

To prepare for the lesson, please read ahead of time the contents of the book for the next lesson. In addition, some practice questions for the final exam will be given (in the final class) to give students confidence and peace of mind.

英会話・英作文３ 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.

Please do not use your mobile phone in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

communication, internationalization, development

英会話・英作文４ 【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（２－ａ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文４	ENG272M

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書　/Textbooks

This is culture Asako Kajiura & Gregory Goodmacher

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Orientation
２回 What does culture mean, reading passage, vocabulary, discussion and writing
３回 Cultural rules for acceptable behaviour, reading passage, vocabulary, discussion and writing
４回 Stereotyping, reading passage, vocabulary, discussion and writing
５回 Media and culture, reading passage, vocabulary, discussion and writing
６回 Non verbal communication, reading passage, vocabulary, discussion and writing
７回 Cultural perepectives of time, reading passage, vocabulary, discussion and writing
８回 Touch and space,reading passage, vocabulary, discussion and writing
９回 Verbal communication norms,reading passage, vocabulary, discussion and writing
１０回 The individual and the group, reading passage, vocabulary, discussion and writing
１１回 Subcultures, reading passage, vocabulary, discussion and writing
１２回 Status, reading passage, vocabulary, discussion and writing
１３回 Status,reading passage, vocabulary, discussion and writing
１４回 Review
１５回 Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英会話・英作文４ 【昼】

キーワード /Keywords

英会話・英作文４ 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（２－ｂ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文４	ENG272M

授業の概要　/Course Description

Practical English communication skills will be developed through regular practice. The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously leart material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書　/Textbooks

World English Series 2 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回: course introduction, explanation of what to do, and how to prepare.
第2回: unit 7 - Chapter Title: Luxuries,
第3回: unit 7 - Are you materialistic?
第4回 unit 8 - Chapter Title: Nature,
第5回 unit 8 - Can we save the planet?
第6回 unit 9 - Chapter Title: Life in the past,
第7回 unit 9 - Does technology make our lifes better?.
第8回 unit 10- Chapter Title: Travel,
第9回 unit 10 - Will the travel industry continue to grow?.
第10回 unit 11 - Chapter Title: Careers,
第11回 unit 11 - Do Japanese people understand the importance of work-life balance?
第12回 unit 12 - Chapter Title: Celebrations,
第13回 unit 12 - Should foreign cultures that celebrate something be adopted in Japan?
第13回 Review and summary, basic.
第14回 Review and summary, advanced.
第15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

英会話・英作文４ 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

To prepare for the lesson, please read ahead of time the contents of the book for the next lesson. In addition, some practice questions for the final exam will be given (in the final class) to give students confidence and peace of mind.

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.

Please do not use your mobile phone in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

communication, understanding, knowledge

英会話・英作文４ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（２－ｃ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文４	ENG272M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書　/Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

1.Review of the first semester; Course introduction
2. Speaking basics: Conjugation
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Neurolinguistics)
4. Speaking basics: Conjugation. Advanced grammar.
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Animal Rights)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Environment)
8. Speaking basics: Controlling mean length runs
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Society and Inequality)
10. Speaking basics: Communication
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Personal health)
12. Speaking basics: Conversation
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Pacific Rim)
14. Speaking basics: Point-Counterpoint
15. Test Practice

成績評価の方法　/Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文４ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文４ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（２－ｄ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文４	ENG272M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書　/Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

1.Review of the first semester; Course introduction
2. Speaking basics: Conjugation
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Neurolinguistics)
4. Speaking basics: Conjugation. Advanced grammar.
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Animal Rights)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Environment)
8. Speaking basics: Controlling mean length runs
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Society and Inequality)
10. Speaking basics: Communication
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Personal health)
12. Speaking basics: Conversation
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Pacific Rim)
14. Speaking basics: Point-Counterpoint
15. Test Practice

成績評価の方法　/Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis. All class content is subject to change.

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文４ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文４ 【昼】

担当者名 /Instructor　ドローキス　ダニエル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（ＡＥＳ１）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文４	ENG272M

授業の概要　/Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書　/Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,…

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Introductions
２回　Life likes
３回　Vocabulary development for likes
４回　Who gets the money
５回　What programs to eliminate
６回　Whcih sports are best
７回　Which place to recommend
８回　How to advise them
９回　Plan a college curriculum
１０回　Which articles do I take
１１回　Who is responsible
１２回　Going to Med School
１３回　Which items represent the US
１４回　Getting Involved
15回　Test preparation and review

成績評価の方法　/Assessment Method

The students will be evaluated on:
1. Class participation and positive attitude40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students should read material from previous lesson

履修上の注意　/Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

英会話・英作文４ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文４ 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（ＡＥＳ２）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文４	ENG272M

授業の概要　/Course Description

Practical English communication skills will be developed through regular practice. The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously leart material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書　/Textbooks

World English Series 2 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回: course introduction, explanation of what to do, and how to prepare.
第2回: unit 7 - Chapter Title: Luxuries,
第3回: unit 7 - Are you materialistic?
第4回 unit 8 - Chapter Title: Nature,
第5回 unit 8 - Can we save the planet?
第6回 unit 9 - Chapter Title: Life in the past,
第7回 unit 9 - Does technology make our lifes better?.
第8回 unit 10- Chapter Title: Travel,
第9回 unit 10 - Will the travel industry continue to grow?.
第10回 unit 11 - Chapter Title: Careers,
第11回 unit 11 - Do Japanese people understand the importance of work-life balance?
第12回 unit 12 - Chapter Title: Celebrations,
第13回 unit 12 - Should foreign cultures that celebrate something be adopted in Japan?
第13回 Review and summary, basic.
第14回 Review and summary, advanced.
第15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

英会話・英作文４ 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

To prepare for the lesson, please read ahead of time the contents of the book for the next lesson. In addition, some practice questions for the final exam will be given (in the final class) to give students confidence and peace of mind.

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.

Please do not use your mobile phone in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

communication, understanding, knowledge

英会話・英作文５ 【昼】

担当者名 /Instructor　ドローキス　ダニエル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（ＡＥＳ１）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文５	ENG273M

授業の概要　/Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書　/Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,…

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Introductions
２回　Waiting in line
３回　Little white lies
４回　I quit
５回　Whom do we hire
６回　One eyed monster
７回　Speaking up
８回　They owe it to me
９回　Yes, sir
１０回　Tipping
１１回　Smoking
１２回　Who is the winner
１３回　Which job
１４回　Which progams get the money
１５回　Test preparation and review

成績評価の方法　/Assessment Method

The students will be evaluated on:
1. Class participation and positive attitude40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students should read material from previous lesson

履修上の注意　/Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

英会話・英作文５ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文５ 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（ＡＥＳ２）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文５	ENG273M

授業の概要　/Course Description

In this course, students will have the opportunity to gain a deeper understanding on contemporary social issues. Issues that have a moral significance and social repercussions are included. It will important to understand that there is no right or wrong opinion when discussing how one sees controversial issues, and differences of opinion are natural and interesting.

教科書　/Textbooks

Pros and Cons by I.Ueda, T.Ueda, C. Taoka, E. Yoneoka

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese / English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：Course introduction, expectations, study skills, preparation advise, and grading procedure.
第２回：Unit 1: Internet safety or freedom of expression?
第３回：Unit 1: Debating the issues. How safe are we using SNS?
第４回：Unit 2: Honor or burden?
第５回：Unit 2: Will an aging society force us to care for others?
第６回：Unit 3: Clean energy or potential threat?
第７回：Unit 3: Can renewable energy be the key to a better future?
第８回：Unit 4: Real risk or great technology?
第９回：Unit 4: How risky is technology when we don't understand something?
第１０回：Unit 5: Legalization or outlawing of gay marriage?
第１１回：Unit 5: Are attitudes changing towards civil partners?
第１２回：Unit 6: Separate smoking area or total ban?
第１３回：Unit 6: Should the government decide what's best for us? Is Japan turning into a nanny state?
第１４回：Unit 7: Right to die or responsibility to live? Discuss the ideas of euthanasia and the value of life.
第１５回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 50%, class participation and a positive attitude 50%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

To prepare for the lesson, please read ahead of time the contents of the book for the next lesson. In addition, some practice questions for the final exam will be given (in the final class) to give students confidence and peace of mind.

履修上の注意　/Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.
Please do NOT use mobile phones in class.

英会話・英作文５ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

Communication, differences, understanding

英会話・英作文６ 【昼】

担当者名 /Instructor　ドローキス　ダニエル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（ＡＥＳ１）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文６	ENG274M

授業の概要　/Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書　/Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,…

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Introductions
２回　Who will be the best teacher
３回　What will happen if
４回　Who gets the money
５回　Which school programs are eliminated
６回　Which sports are best
７回　Where do you recommend
８回　How do I advise them
９回　Plan a college curriculum
１０回　What articles do I take
１１回　Who is responsible
１２回　Who goes to med school
１３回　Which items represent the US
１４回　Getting involved
１５回　Test preparation and review

成績評価の方法　/Assessment Method

The students will be evaluated on:
1. Class participation and positive attitude40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students must review material from previous lesson

履修上の注意　/Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

英会話・英作文６ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文６ 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年（ＡＥＳ２）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する応用的な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文６	ENG274M

授業の概要　/Course Description

In this course, students will have the opportunity to gain a deeper understanding on contemporary social issues. Issues that have a moral significance and social repercussions are included. It will important to understand that there is no right or wrong opinion when discussing how one sees controversial issues, and differences of opinion are natural and interesting.

教科書　/Textbooks

Pros and Cons by I.Ueda, T.Ueda, C. Taoka, E. Yoneoka

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese / English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：Unit 8: Punishment or discipline?
第２回：Unit 8: How should punishments be evaluated?
第３回：Unit 9: To skip or not to skip?
第４回：Unit 9: Is it good to be intelligent, or a disadvantage at school?
第５回：Unit 10: Performance or seniority?
第６回：Unit 10: Can equal pay for equal work ever be realized?
第７回：Unit 11: Free trade or protection?
第８回：Unit 11: Are FTA overrated?
第９回：Unit 12: Animal rights or human profits?
第１０回：Unit 12: Should animals be better protected under the law?
第１１回：Unit 13: Peace constitution or revision?
第１２回：Unit 13: What does peace mean to you?
第１３回：Unit 14: Death penalty or human rights?
第１４回：Unit 14: Does the death penalty actually work? Are human rights abused by governments using the death penalty?
第１５回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 50%, class participation and a positive attitude 50%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

To prepare for the lesson, please read ahead of time the contents of the book for the next lesson. In addition, some practice questions for the final exam will be given (in the final class) to give students confidence and peace of mind.

英会話・英作文６ 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.
Please do NOT use mobile phones in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

Communication, differences, understanding

英会話・英作文７ 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅　啓子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文７	ENG371M

授業の概要　/Course Description

TOEICテストの問題演習を行い、各ユニットのテーマに即した学習を進めていく。また、以下の到達目標を設定し、総合的な英語力を高める。
①語彙を増やす
②リスニング能力の向上
③リーディングの力を高める
④速読のスキルを身につける
⑤基本的文法事項を学習する
⑥パート別の攻略のカギを習得する

教科書　/Textbooks

All-Powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test (SEIBIDO, 2017)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
第２回 Unit 1　Airport / WH 疑問文(基礎) / 動詞の形
第３回 Unit 2　Train Station / WH 疑問文(応用) / 準動詞
第４回 Unit 3　Department Store / 一般疑問文/ ５文型
第５回 Unit 4　Restaurant / 選択疑問文/ 関係詞と接続詞
第６回 Unit 5　Hotel / 否定疑問文/ 助動詞と仮定法
第７回 Unit 6　Hospital / 付加疑問文/ 前置詞と冠詞
第８回 Unit 7　Bank / 関接疑問文/ 否定と比較
第９回 Unit 8　Workplace / 肯定文と否定文
第１０回 Unit 9　Fitness Club / 提案への応答 / 接尾辞
第１１回 Unit 10　Sightseeing / 依頼への応答 / 派生語(複数の品詞)
第１２回 Unit 11　International Conference / 勧誘への応答 / 派生語(形容詞)
第１３回 Unit 12　Computer Society / 感謝・謝罪への応答 / 類似語
第１４回 Unit 13 Employment / 意外な応答１ / 同音異義語
第１５回 Unit 14 Training / 意外な応答 ２ / スペリングが似ている単語

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験 50%,　小テスト 30%, 平常点 (課題含む) 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に授業範囲の問題を解いておく。
小テスト実施前にPRE-TOEIC STUDYを学習する。
単語リスト、同意語リストを作成する。

英会話・英作文７ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英会話・英作文７ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文７	ENG371M

授業の概要 /Course Description

This course will focus on the four main language skills, but mainly on writing and speaking. In addition to the text pages listed below, students will be required to do outlines and compositions, and to give speeches from the outlines they have made.

教科書 /Textbooks

Check it out　Book 3　by Milada Broukai　Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 Getting acquainted and filling out student information cards.
２回 Unit 1 Text 1~12
３回 Unit 2 Text 13~24
４回 Unit 3 Text 25~36
５回 Grammar Review Test Units 1~3 & Conversation Test
６回 Introduction to outlining & making outline about student "Home Prefecture"
７回 Using last weeks outline to create a composition
８回 Unit 4 Text 39~50
９回 Unit 5 Text 51~62
１０回 Unit 6 Text 63~74
１１回 Grammar Review Test Units 4~6 & Conversation Test
１２回 Outlining about student's personal preferences
１３回 Writing story about last week's outline
１４回 Introduction to public speaking from outlines
１５回 Speeches from last Week's outlines

成績評価の方法 /Assessment Method

70% assignments　30% Final Examination

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Various kinds of homework such as making outlines and compositions.

履修上の注意 /Remarks

Instructions on how to prepare for each class will be given weekly by the teacher.
Absence is not an excuse for not doing required classwork or homework. Every student is required to do all of the assignments.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation with other students and listening carefully to the teacher's instructions will make this class fun for you.

英会話・英作文７ 【昼】

キーワード /Keywords

英会話・英作文７ 【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文７	ENG371M

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of different cultures. Each week a different aspect of global culture will be examined through new and updated topics, video and visuals from National Geographic. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 2 Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 Orientation
２回 People from around the world
３回 The Last of the women Drivers
４回 Work, Rest and Play
５回 Going places
６回 Smart Traveler
７回 Beagle Patrol
８回 Food, bugs as food
９回 Sports
１０回 My mind shifting Everest Swim
１１回 Cheese-rolling races
１２回 Destinations around the world
１３回 Communication through animals
１４回 Review
１５回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80 % Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文７ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文７ 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年（ＡＥＳ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文７	ENG371M

授業の概要　/Course Description

In this interesting course, students can learn about presentation skills. In the first semester, students will study about presentation methodology (introduction, body, conclusion), and visual presentation features (posture, voice stress, gestures). Gradually, students will make short presentations, 1 to 1, 1 to 3, and finally to the whole class. Later, using Powerpoint, students will be asked to make presentations about social, cultural, political, and environmental issues that they are concerned about. Students with a strong interest in Japanese culture will be asked to present Japanese culture as though they were teaching it to foreigners.

教科書　/Textbooks

No book

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回(Week 1)　Introduction
第 2回　Introduction to visual message and story message.
第 3回　Posture, eye contact, and voice inflexion.
第 4回　Pairwork activity. Gestures.
第 5回　The introduction, what, why, and overview.
第 6回　Story message, the lay-out and listening activity.
第 7回　Finish the visual message. Explain the need of graphs, charts and directions.
第 8回　Do an introduction, one-on-one speech.
第 9回　Look at transitions, and sequence makers.
第10回　How to make a conclusion.
第11回　Brainstorming and prioritizing your ideas.
第12回　The story message, the body. Making your speech smooth.
第13回　Do a one-to-three speech.
第14回　A look at possible speech topics, Powerpoint presentation, and contents.
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

To prepare for the lesson, please be ready to engage with others.

英会話・英作文７ 【昼】

履修上の注意 /Remarks

For preparation: It would be helpful if students reviewed the previous class, and read the syllabi before class to aid their participation and realize their expectations. Also, if there was anything unclear from the previous class, by all means ask the teacher to review any particular aspects of the lesson. The atmosphere of the class should be open and friendly allowing students to freely ask questions concerning things that they are uneasy about.
Students should be thinking about what topics they wish to present (political, social, economic, environmental), and discuss their interests in class to focus on what is relevant and interesting for others.
Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

communication, gestures, Powerpoint, speaking skills, Japanese culture

英会話・英作文８ 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅　啓子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文８	ENG372M

授業の概要　/Course Description

上級者用テキストを使用し、TOEICテストのスコアアップのための総合的対策を行う。
以下の５項目に目標を設定して授業を行う。
１．語彙を増やす
２．リスニング力を強化する
３．文法、語法の知識を身につける
４．速読の能力を高める
５．出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書　/Textbooks

"Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test (Asahi Press, 2017)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に説明する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回 Introduction 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する。
第２回 Unit 1　Eating Out / 動詞 (1)
第３回 Unit 2　Travel / 動詞 (2)
第４回 Unit 3　Amusement / 品詞
第５回 Unit 4　Meeting / 分詞
第６回 Unit 5　Personnel / 不定詞と動名詞 (1)
第７回 Unit 6　Shopping / 不定詞と動名詞 (2)
第８回 Unit 7　Advertisement / 仮定法
第９回 Unit 8　Daily Life / 受動態
第１０回 Unit 9　Office Work / 代名詞
第１１回 Unit 10　Business / 数量詞
第１２回 Unit 11　Traffic / 接続詞
第１３回 Unit 12　Finance and Banking / 前置詞
第１４回 Unit 13 Media / 語彙
第１５回 Unit 14 Health and Welfare / まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト 30%、課題 20%、期末テスト 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習範囲の問題を解いておく。重要単語や同意語を一覧表にまとめる。

英会話・英作文８ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英会話・英作文８ 【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文８	ENG372M

授業の概要　/Course Description

This course will focus on the four main language skills, but mainly on writing and speaking.　In addition to the text pages listed below, students will be required to do outlines and compositions, and to give speeches from the outlines they have made.

教科書　/Textbooks

Check it out Book 3　by Milada Broukai　Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 Post vacation conversation activity
2 回 Unit 7 Text 77~88
3 回 Unit 8 Text 89~100
4 回 Unit 9 Text 101~112
5 回 Grammar Review Test Units 7~9 & Conversation test
6 回 Outlining about "My Opinion about Japanese politics"
7 回 Using last weeks outline to create a composition
8 回 Unit 10 Text 115~126
9 回 Unit 11 Text 127~138
１０回 Unit 12 Text 139~150
１１回 Grammar Review Test Units 10~12 & Conversation test
１２回 Outlining about final speech & Final speech questionnaire
１３回 Final check of materials for final speech
１４回 Final speeches
１５回 Final speeches continued. & Wrap-up

成績評価の方法　/Assessment Method

70　% assignments　% 30% Final Examination

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Various kinds of homework such as making outlines and compositions.

履修上の注意　/Remarks

Students should prepare for each class as instructed by the teacher. Preparation will depend upon the activity in the next class.
Absence is not an excuse for not doing required classwork or homework. Every student is required to do all of the assignments.

英会話・英作文８ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation with each other is the key to having fun while you study English.

キーワード /Keywords

英会話・英作文８ 【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文８	ENG372M

授業の概要　/Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of global culture and history. Each week a different aspect of global cultures will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書　/Textbooks

Reading Explorer 2 2nd edition Cengage Learning by Macintyre and Bohlke

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Moving Forward with weekend plans
２回 Future energy needs
３回 Types of clothing
４回 Lifestyle with health
５回 The secrets of a long life
６回 Job interviews
７回 Humanitiy's greatest achievements
８回 Consequences
９回 How to buy happiness
１０回 In the news
１１回 On TV and radio
１２回 At the shops
１３回 The missing snows of Kilimanjaro
１４回 Review
１５回 Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意　/Remarks

英会話・英作文８ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文８ 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年（ＡＥＳ）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文８	ENG372M

授業の概要　/Course Description

In this interesting course, students can learn about presentation skills. In the second semester, students will continue to make presentations about social and cultural issues that they are concerned about. Students with a strong interest in Japanese culture will be asked to present Japanese culture as though they were teaching it to foreigners.

教科書　/Textbooks

No book

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回(Week 1)　Introduction and course objectives
第 2回　Looking at social issues in the world
第 3回　Discussion of social issues ideas
第 4回　Make a start to present, what to keep, what to discard?
第 5回　Presentation and Discussion of social issues, review, points for improvement.
第 6回　Looking at cultural issues in the world
第 7回　Discuss what cultural issues interest us, brainstorm ideas
第 8回　Begin to make a presentation, review what to show, look for depth of knowledge
第 9回　Presentation and Discussion: of cultural issues
第10回　Basic feedback
第11回　Advanced feedback
第12回　Discussion of presentation examples, model presentations
第13回　Improving presentations so far, brainstorming, are we satisfied with our final work?
第14回　Final presentations
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

To prepare for the lesson, please be ready to engage with others.

英会話・英作文８ 【昼】

履修上の注意 /Remarks

For preparation: It would be helpful if students reviewed the previous class, and read the syllabi before class to aid their participation and realize their expectations. Also, if there was anything unclear from the previous class, by all means ask the teacher to review any particular aspects of the lesson. The atmosphere of the class should be open and friendly allowing students to freely ask questions concerning things that they are uneasy about.
Students should be thinking about what topics they wish to present (political, social, economic, environmental), and discuss their interests in class to focus on what is relevant and interesting for others.
Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

Japanese cultural topics, Powerpoint, discussion, communication, awareness.

英会話・英作文９ 【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文９	ENG373M

授業の概要　/Course Description

This course is an opportunity for students to further expand their language skills with topics of direct interest and relevance to them. A variety of social and cultural issues will be examined within the context of critical thinking. Discussion, analysis, and presentation of personal research into selected issues will be the focus of course activities.

教科書　/Textbooks

Material will be provided by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Introduction to the course; Selection of topics for the semester
2回 Introduction of first topic
3回 Discussion of first topic
4回 Presentation and analysis of first topic
5回 Introduction of second topic
6回 Discussion of second topic
7回 Presentation and analysis of second topic
8回Introduction of third topic
9回 Discussion of third topic
10回 Presentation and analysis of third topic
11回Introduction of fourth topic
12回 Discussion of fourth topic
13回 Presentation and analysis of fourth topic
14回 Consolidation
15回 Feedback

成績評価の方法　/Assessment Method

70% classwork and assignments
30% final test

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Prepare the necessary materials for the class and be ready to fully participate in English.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let's enjoy active discussion of interesting and meaningful issues of today.

英会話・英作文９ 【昼】

キーワード /Keywords

英会話・英作文１０【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語の会話・作文に関する高度な技能を深める。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文１０	ENG374M

授業の概要　/Course Description

This course is an opportunity for students to further expand their language skills with topics of direct interest and relevance to them. A variety of social and cultural issues will be examined within the context of critical thinking. Discussion, analysis, and presentation of personal research into selected issues will be the focus of course activities.

教科書　/Textbooks

Materials will be provided by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Introduction to the course; Selection of topics for the semester
2回 Introduction of first topic
3回 Discussion of first topic
4回 Presentation and analysis of first topic
5回 Introduction of second topic
6回 Discussion of second topic
7回 Presentation and analysis of second topic
8回Introduction of third topic
9回 Discussion of third topic
10回 Presentation and analysis of third topic
11回Introduction of fourth topic
12回 Discussion of fourth topic
13回 Presentation and analysis of fourth topic
14回 Consolidation
15回 Feedback

成績評価の方法　/Assessment Method

70% classwork and assignments
30% final Test

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Prepare the necessary materials for the class and be ready to fully participate in English.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let's enjoy active discussion of interesting and meaningful issues of today.

英会話･ 英作文１０ 【昼】

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読 【昼】

担当者名 /Instructor　吉津　京平 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　1年（1 - 2・1 - 3）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	アメリカ文化に関して英語で書かれた文献を読みこなせる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカ文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文化講読	ARE220M

授業の概要　/Course Description

ディズニーランドの中に、トム・ソーヤー島や蒸気船マーク・トウェイン号といったアトラクションが設置されていることから分かるように、ウォルト・ディズニーはマーク・トウェインの小説をこよなく愛していた。そのことは、ディズニーが『トム・ソーヤーの冒険』やその続編である『ハックルベリー・フィンの冒険』、さらには『アーサー王宮廷のコネチカットヤンキー』まで、トウェインの作品の映像化を行っていることからも窺える。ディズニーはトウェインの作品世界の中に、彼がディズニーランドという形で作り上げたような、「古き良きアメリカ」へのノスタルジアを感じていたのかもしれない。

『トム・ソーヤー』も『ハック・フィン』も、南北戦争後（奴隷解放後）に書かれながら、南北戦争前のアメリカが舞台となっている。この執筆時期と物語の設定されている時代の間のズレは何を意味するのだろうか。そこには、単にノスタルジアという言葉では括れないものが存在しているように思われる。また、アメリカが南北戦争を経て、意識が南部から西部開拓へ、そして都市化の中心である東部へと移るのと同じ時期に、トウェインは全く同じルートを辿っていることを考えると、19世紀アメリカの様々な問題系が、彼の身体を通して作品へと結実していると言える。

『トム・ソーヤー』、『ハック・フィン』は、単に児童文学というジャンルにとどまらず、アメリカという国そのものを映し出すような、重要な要素を多く内包した作品ではないか。また、それがより前景化された形で後続の『コネチカットヤンキー』に描かれているのではないか。よって、本授業では、トウェインの代表的なこれら3作品を、それらが発表された当時の歴史的コンテクストの中に戻すことで脱神話化・歴史化し、それらが呈示するアメリカ的なもの本質に迫ってみたい。

基本的には、それぞれの小説の一部を原文で味わいながら、その箇所から浮かび上がるテーマについて考えていくが、授業では英文を一文一文日本語に訳していくようなことは行わず、物語のあらすじはしっかりと把握した上で、ディスカッションをしながら深く読み込んでいく。

なお、物語のあらすじ理解をスムーズに行うため、映像化されたもの（映画）を効果的に用いながら授業を進めていく予定である。

教科書　/Textbooks

『マーク・トウェイン ポケットマスターピース06 (集英社文庫ヘリテージシリーズ)』（マーク・トウェイン、柴田元幸訳、2016）

原文は、授業で取り上げる箇所のみプリントを授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『マーク・トウェインと近代国家アメリカ』（中垣恒太郎、音羽書房鶴見書店、2012）
『アメリカン・ロードの物語学』（松本昇・中垣恒太郎・馬場聡編著、金星堂、2015）
『概説　アメリカ文化史』（笹田直人・堀真理子・外岡尚美編著、ミネルヴァ書房、2002）
『アメリカ文化　55のキーワード』（笹田直人・野田研一・山里勝己編著、ミネルヴァ書房、2013）
『アメリカの歴史』（有賀夏紀・油井大三郎編著、有斐閣アルマ、2003）
『英米児童文学の黄金時代–子どもの本の万華鏡』（桂宥子・成瀬俊一・高田賢一著、ミネルヴァ書房、2005）

それ以外の参考図書に関しては、必要に応じて授業中に紹介する。

アメリカ文化講読 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: 解釈とは、作者の意図とは、歴史化とは～EaglesのHotel Californiaの歌詞を分析する
2. マーク・トウェイン原作の映画『ハックルベリー・フィンの冒険』を見る
3. 『ハック・フィン』分析① トム・ソーヤーとは何 / 誰か
4. 『ハック・フィン』分析② 結末の問題
5. 『ハック・フィン』分析③ 父親の存在とヘビの脅威
6. 『ハック・フィン』分析④ 形なき霧（白さ）が描く境界線
7. 『ハック・フィン』分析⑤ ホワイトネスと階級意識
8.マーク・トウェイン原作の映画『トム・ソーヤーの冒険』を見る
9. 『トム・ソーヤー』分析① ペンキ塗りの場面
10. 『トム・ソーヤー』分析② 視覚の問題とインジャン・ジョー
11. 『トム・ソーヤー』分析③ マスキュリニティ
12. 『トム・ソーヤー』分析④ アメリカの領土拡大～帝国主義への助走
13. マーク・トウェイン原作の映画『アーサー王宮廷のコネチカットヤンキー』を見る
14. 『コネチカットヤンキー』分析① 清潔願望
15. 『コネチカットヤンキー』分析② 進化論から社会ダーウィニズム、そして優生学へ

※進度や状況により扱う内容、順番等変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50%（授業への姿勢、毎週の課題、レスポンスシート等）、試験50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本語（訳本）で、授業で取り扱う前に、小説を読み通し、全体のあらすじを把握しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

・最初の授業で、授業の進め方や予習の仕方などについて説明する。
・授業で扱うのは一部の箇所に限定されるので、物語のあらすじは、毎回の授業の前に翻訳等を利用して確認しておく。
・第二回以降、毎回の範囲の予習をしてくること。
・授業には英語の辞書を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業は、講義形式というよりディスカッション中心で行いますので、みなさんの予習に期待しています！

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読 【昼】

担当者名 /Instructor　新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　1年 (1 - 1)

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	アメリカ文化に関して英語で書かれた文献を読みこなせる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカ文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文化講読	ARE220M

授業の概要　/Course Description

Ads Speak American Culture『広告から見たアメリカ文化』はユニークなアメリカ文化論だ。広告に表されるアメリカ人の生き方、考え方や日米文化の違いを平易な英語で書いたものだ。アメリカ研究入門として、比較文化論に関心のある人は是非読んで貰いたい。広告は、PR = Public Relationsというように国民と企業とのコミュニケーション・メディアでありPopular Culture大衆文化である。多人種の国アメリカで大衆の心を掴むにはシンプルでかつユーモアがなければならない。一方、日本の広告は、日本人の心を掴むものでなければならない。あけすけな非難や中傷は嫌われる。異文化間コミュニケーションを効果的に行うには、相手とのgapを知らねばならない。

広告は雄弁だ。広告コピーは文化を語り時代を告げる。化粧品の広告が語るアメリカのキャリア・ウーマンと成功の代価。車の広告が語るアメリカのpragmatism。スニーカーの広告が語るアメリカの個人主義とmobilityなど23章。著者の豊富な異文化体験に基づいて書かれたユニークなアメリカ広告文化論。日米比較文化の深い洞察とヒューマニズムにあふれている。

教科書　/Textbooks

Ads Speak American Culture『広告から見たアメリカ文化』　(成美堂)
ラクトリン　井上　久美 著

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

コウビルド英英辞典
ロングマン現代英英辞典 4訂増補版 CD-ROM2枚付
オックスフォード現代英英辞典 第7版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　You've Come a Long Way, Baby 女性の今まで歩んできた辛い歴史とフェミニズム
第2回　The Art of Eye Contact　「目は口ほどにものを言う」
第3回　Basic Jeans, Nothing Superficial Added.　ジーンズの歴史とアメリカ文化
第4回　The Price of Success　キャリア・ウーマン　"Super Woman"誕生
第5回　Be Wicked For a Week　快楽主義「旅の恥はかき捨て」
第6回　To 27 Million Americans, This Scene is a Fairy Tales　読み書きのできない人が2,700万人！？
第7回　If You Stick with the Herd　日：「みんなー緒」　vs．米：「みんなと違う」
第8回　Beauty is in the Eye of the Beholder　「蓼食う虫も好き好き」
第9回　Colt Fierearms　「市民の抵抗権」vs．「銃規制」
第10回　Meet the Just in His Jodkey Underwear Contest Winner　下着と日米交渉
第11回　Depend Fitted Briefs　老人用下着　介護
第12回　Would You Buy a Condom for This Man?　避妊・エイズ・性感染症
第13回　Champion Sportswear　貧民街が生んだ不屈のヒロイン　金メダリストバスケット選手
第14回　Good as Gold　金・宝石・美術品の価値
第15回　Lunchables　アメリカの学校給食 ｖｓ．日本の給食

アメリカ文化講読 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表（３０％）、課題リポート（２０％）、学期末試験（５０％）などで総合評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、１章ずつ英文を読み、分からない語彙を調べ、図書館でさらに調べる。

履修上の注意 /Remarks

1～２章ずつ予習して、図書館で調べて、授業で発表・質疑・応答する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【アメリカ広告文化】【日米文化比較】

日本文化文献講読Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化に関する文献の基礎的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化に関する文献の基礎的な読解能力を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化文献講読A	LIT210M

授業の概要　/Course Description

本講義は、近代の日本文化に関する同時代文献や、その文献を扱うための基礎的知識や読解能力を身につけることを目的とする。
具体的には、明治開化期の種々の刊行物をテキストとして、文献読解の基礎となる「くずし字」（板本や活版本に記されたものに限定し、写本は取り扱わない）読解能力の修得を目指しながら、明治10年頃までの出版文化を学ぶ。この時期は、近世と近代との端境期にあたり、日本の印刷・出版文化の変容を捉えるための重要な時期である。
講義前半は、明治開化期の新聞、浮世絵、草双紙などをテキストとして、「くずし字」の読解能力を身につける。講義後半には、培った「くずし字」読解能力をもとに、明治10年代までに書かれた文学テキストを講読しながら、明治維新を期に大量に流れ込んできた西欧文化と日本文化の接点を見る。自国文化の理解を深め、異文化理解の足がかりとする。

教科書　/Textbooks

適宜資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○山田俊治『大衆新聞がつくる明治の〈日本〉』（ＮＨＫブックス）
○『明治文学全集１　明治開化期文学集（１）』（筑摩書房）
奈倉哲三『諷刺眼維新変革』（校倉書房）など

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　明治開化期の新聞を知る
第３回　明治開化期の新聞を読む / 異種百人一首を知る
第４回　異種百人一首を読む
第５回　浮世絵の歴史を知る
第６回　浮世絵（戦争絵）を読む
第７回　浮世絵（風刺絵・判じ絵）を読む
第８回　小テスト
第９回　明治開化期の文学を知る
第10回　『安愚楽鍋』の時代背景を知る
第11回　『安愚楽鍋』を読む
第12回　『胡瓜遣』を読む
第13回　『かたわ娘』を読む
第14回　『学問のすすめ』を読む
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験＝40%　小テスト＝40%　リアクション・ペーパーの評価＝20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

学習支援フォルダ内の事前課題に取り組み、「くずし字」読解能力を培うこと。授業後はテキストの再読にチャレンジし、読めない文字は辞書で調べて読めるようにしておくこと。

日本文化文献講読Ａ 【昼】

履修上の注意 /Remarks

単位修得のためには、「小テスト」と「定期試験」の両方を必ず受ける必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国語の教科書に載ることはないけれど、当時の人々には盛んに読まれた新聞や戯作や浮世絵を、原文（くずし字）で読んでみましょう。教科書の記述では説明不十分な明治初期の世界が、そこには広がっています。

キーワード /Keywords

くずし字、明治開化期、文化、文学

日本文化文献講読Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　堀尾　香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化（主に言語）に関する文献の基礎的専門的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化（主に言語）に関する文献の専門的な読解能力を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化文献講読B	LIT211M

授業の概要　/Course Description

広く古代から現代までの日本語やことばについて書かれた文献を受講者が１つずつ担当し、読解した内容をレジュメを用いて解説しながら、ことばと文化に対する理解を深めていきます。

主な到達目標は、次の通りです。
①ことばと文化の関わりを理解する。
②日本語やことばについて書かれた文献を読解する能力を養う。

＊＊＊授業は、受講者による文献内容の解説（レジュメ作成）とディスカッションにより構成されます。＊＊＊

教科書　/Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『日本語学論説資料』（1964年版～毎年刊行、論説資料保存会、旧称『国語学論説資料』）』○
この他は、図書館の「堀尾の指定図書コーナー」に設置。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ことばと文化の関わり（担当文献の決定）
第２回　日本語に関する文献の諸相
第３回　レトリックの文献を読む
第４回　語彙の文献を読む
第５回　語用論の文献を読む
第６回　コミュニケーションの文献を読む
第７回　比喩表現の文献を読む
第８回　配慮表現の文献を読む
第９回　言語意識の文献を読む
第10回　文字・表記の文献を読む
第11回　文体の文献を読む
第12回　文法の文献を読む
第13回　方言の文献を読む
第14回　社会言語学の文献を読む
第15回　日本語史の文献を読む

日本文化文献講読Ｂ 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメを用いての担当文献の内容解説（授業中での担当者以外はレポート）…70%　　日常の授業への取り組み…30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を読んで予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当する文献は、初回授業で決めますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化講読 【昼】

担当者名 /Instructor　松隈　達也 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　1年（1 - 1・1 - 3）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	イギリス文化に関する英語の文献を読みこなし、また的確なコミュニケーションができる英語力を身につけている。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリス文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス文化講読	ARE230M

授業の概要　/Course Description

本講義は「読む力」と「コミュニケーション力」に重点を置いて進めます。
学生が主体となって、英文を丁寧に読み（音読し）、自然な日本語に訳出し、そして各自が理解したことを他人に分かりやすくプレゼンテーションします。
テキストはKriegel, Lara, Grand Desings: Labor, Empire, and the Museum in Victorian Culture.(2008）です。
内容は19世紀、ヴィクトリア朝時代のイギリス。産業革命で工業化が進展した時期、製品のデザイン（意匠・模様）はどのように発展したのか、という問いが出発点となっています。製品は大量生産されるが、製品デザインはどうだったか、と。
結論から言うと、イギリスの工業デザインは、当時、非常に評判が悪く、芸術性が欠けていると酷評されていました。モノは作れるが、オシャレではない、と酷評されました。そこで、イギリスの製造業者、芸術家、国会議員らは一丸となって「デザイン改良」を目標に運動を展開しました。
こうした内容は、現代の日本の文化政策「クール・ジャパン」ともどこか重なりそうです。（芸術）文化をどのように育て、つくり上げ、売り、海外へアピールするのか。現代社会と比較しながらテキストを読むと、よりいっそう理解が深まるかもしれません。

教科書　/Textbooks

なし。レジュメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

Kriegel, Lara, Grand Desings: Labor, Empire, and the Museum in Victorian Culture.(2008）。

その他、必要に応じて紹介。

イギリス文化講読 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．ガイダンス、テキストの説明
２．19世紀イギリスの産業革命：服飾、おしゃれ、買い物
３．イギリスの芸術文化政策：デザインも、ブラスバンドも
４．講読、テキストpp. 19-21.「イントロダクション」
５．講読、テキストpp. 22-24.「デザイン学校の取り組み」
６．講読、テキストpp. 25-27.「画家ヘイドンのデザイン」
７．講読、テキストpp. 28-30.「画家ヘイドンとデザイン教育」
８．講読、テキストpp. 31-33.「工業デザイナーのダイス」
９．講読、テキストpp. 34-36.「ダイスのデザイン実例」
１０．講読、テキストpp. 37-39.「技術と芸術の結合、人体素描」
１１．講読、テキストpp. 40-42.「アンティーク趣味とデザイン学校生徒の暴動」
１２．講読、テキストpp. 43-45.「デザインへの熱意と抑圧」
１３．講読、テキストpp. 46-48.「デザインとメディア」
１４．講読、テキストpp. 49-51.「結論」
１５．まとめ、到達度の確認
（進度によって多少変更があるかもしれません）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（60％）・・・ 英文の読解力、日本語力から判断します。
講義への取り組み・姿勢・予習など（40％）・・・ 講義中のプレゼンや質疑応答などから判断します。
なお、5回以上、無断欠席・遅刻をした者は単位認定の対象外とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所を必ず予習してきてください。英語を読んできてください。分からない英単語などは各自調べてきてください。
授業後は、要約ノートを作ってください。読んだ内容の重要箇所、おおまかな日本語訳を各自ノートに整理してください。

履修上の注意 /Remarks

【注意事項】
適当な理由のない欠席、遅刻、途中退室は厳禁。理由がある場合は事前申告をお願いします。
他人の受講を妨げる迷惑行為や私語、携帯電話やスマートフォンの使用は厳禁。
座席指定をします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文読解に際して、できるだけサポートします。また関連する情報もできる限り提供して、英文の内容をイメージしやすく工夫します。
イギリスに興味がある人、芸術文化（アート、デザイン、ファッション）に関心がある人を歓迎します。
英語の読解力を磨きたい、という積極的な学生も歓迎します。

キーワード /Keywords

芸術文化政策、デザイン、産業革命

イギリス文化講読 【昼】

担当者名 /Instructor　吉津　京平 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　1年（１－２）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	イギリス文化に関する英語の文献を読みこなし、また的確なコミュニケーションができる英語力を身につけている。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリス文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス文化講読	ARE230M

授業の概要　/Course Description

ホラーとして普遍的・神話的地位を確立している『フランケンシュタイン』は、本当に単なるホラー作品として片づけてしまえるのか。もしホラーであるとするなら、どの辺りがホラーなのか。どういった恐怖をこの小説は呈示しているのか。フランケンシュタインときいてすぐにイメージされるあのモンスターは、本当に私たちがとらえているような完全な悪者なのか。むしろモンスターがモンスターたりえているのは、モンスター自体よりもむしろ、モンスターを見る私たちの眼差しの方にその起源があるのではないか。もっと言うなら、モンスターをモンスターにしているのは実は、私たちではないかという問題について、『フランケンシュタイン』というテクストが生み出された当時のイギリスという歴史的コンテクストの中で、小説を脱神話化・歴史化しながら捉えていく。さらには、このモンスターを、現代を生きる私たちが抱える問題としても引き受けながら考えていく。

本授業では、ホラー映画として有名な『フランケンシュタイン』の原作であるメアリー・シェリー（Mary Shelly）のFrankenstein; The Modern Prometheus (1818)を原文で深く読み込んでいくことで、あらすじよりももっと深いところで、この物語に織り込まれている様々な問題系に耳を澄ませ、それらを当時の社会的文脈と重ね合わせながら明らかにしていく。それは当然、なぜ19歳のイギリス人女性がこのような怪物の物語を作り出したのかという核心的な問題に連絡している。『フランケンシュタイン』というテクストを通して、メアリー・シェリーという身体を通して、イギリスというものの姿が浮かび上がってくる。

まずは手始めとして、似たような問題を抱える『ドラキュラ』について、様々な観点からの読解を試みて準備を整えた後、『フランケンシュタイン』という一冊の本の中から、特に注目すべき箇所を取り上げて、細かく読み込んでいくことで、英語で書かれた物語を精読するための基礎力を身に付けるとともに、イギリス文化への理解を深める。

教科書　/Textbooks

Shelly, Mary. Frankenstein; The Modern Prometheus. Modern Library Paperback Edition, 1999.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『イギリス文化　55のキーワード』（木下卓・窪田憲子・久守和子編著、ミネルヴァ書房、2009）
『イギリス文化史、佐久間康夫・中野葉子・太田雅孝編著、ミネルヴァ書房、2002）
『フランケンシュタイン（シリーズもっと知りたい名作の世界）』（久守和子・中川遼子著、ミネルヴァ書房、2006）
『批評理論入門　『フランケンシュタイン』解剖講義』（廣野由美子、中公新書、2005）

上記以外の参考書に関しては、必要に応じて授業中に紹介する。

日本語翻訳版は、小林章夫訳（光文社古典新訳文庫、2010）、森下弓子訳（創元推理文庫、1984）、芹澤恵訳（新潮文庫、2014）がある。

イギリス文化講読 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: フランケンシュタインの怪物やドラキュラが生まれる背景～なぜイギリスで生まれたのか
2. Frankensteinへの助走：Dracula読解① 帝国主義、ユダヤ人（移民）と映画『吸血鬼ドラキュラ』（前半）を見る
3. Frankensteinへの助走：Dracula読解② フェミニズム、ジェンダーと映画『吸血鬼ドラキュラ』（後半）を見る
4. Frankensteinへの助走：Dracula読解③ 万国博覧会、細菌（コレラ菌）の発見
5. Frankenstein, Letter IV ①P18-23 ウォルトンの語りと帝国主義
6. Frankenstein, Letter IV ②P23-28 ウォルトンの語りとフランケンシュタインの語りの比較
7. Frankenstein, Chapter IV P57-63 フランケンシュタインの語り～欲望を読む①
8. Frankenstein, Chapter IV P63-65 フランケンシュタインの語り～欲望を読む②
9. Frankenstein, Chapter V P66-68 「怪物」の誕生～「怪物」を作り上げるのは誰か、「怪物」は本当に「怪物」だったのか
10. Frankenstein, Chapter VIII P106-112 ジャスティーヌの裁判～視覚の問題①
11. 映画『フランケンシュタイン』を見る
12. Frankenstein, Chapter X~XI P126-131 フランケンシュタインと「怪物」が出会う～「怪物」の観点からの読み直し
13. Frankenstein, Chapter 133-137 「怪物」の偏見のなさ～視覚の問題②
14. Frankenstein, Chapter P174-178 ド・ラセー家でのエピソード～視覚の問題③
15. まとめ、The Beautiful, The Picturesque, The Sublime的観点～視覚の問題④

進度や状況により扱う内容、順番等変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50％（授業への姿勢、毎週の課題、レスポンスシート等）、試験50％で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習等に関しては最初の授業で説明する。授業で扱える範囲は限られているので、どの場面か分からなくならないように、あらかじめ日本語訳で『フランケンシュタイン』のあらすじを把握しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

・最初の授業で、授業の進め方や予習の仕方などについて説明する。
・第二回以降、毎回の範囲の予習をしてくること。
・授業には英語の辞書を持ってくること。
・授業で扱う範囲は一部の箇所に限定されるので、物語のあらすじは、毎回の授業の前に翻訳等を利用して確認しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業は、講義形式というよりディスカッション中心で行いますので、みなさんの予習に期待しています！

キーワード /Keywords

日本文化英文講読 【昼】

担当者名 /Instructor　吉津　京平 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　1年（1 - 1・1 - 2）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	日本文化に関する英語の文献を読みこなし、また的確なコミュニケーションができる英語力を身につけている。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会において、日本文化の発信と異文化の理解を深める能力を持つ世界的な視野に立った人間として行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化英文講読	JPS290M

授業の概要　/Course Description

川端康成の『雪国』のあまりにも有名すぎる冒頭「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。」とその英訳"The train came out the long tunnel into the snow country. The earth lay white under the night sky."は同じなのか。宮沢賢治の『風の又三郎』の冒頭の「どっどどどどうど　どどうど　どどう」は英語に翻訳するとどうなるのか。翻訳できるのか。村上春樹の短編「かえるくん、東京を救う」の英語版タイトルはなぜ"Super-Frog Saves Tokyo"なのか。「かえるくん」はSuper-Frogなのか、Mr. Frogなのか、ただ単にFrogなのか、あるいはFroggyなのか。そもそも英語で「かえるくん」と言えるのか。

本授業では、こういった日本語を英語に翻訳する際に生じる様々な問題点を切り口として、そこから見えてくる翻訳しにくい日本特有の文化的事象について見ていく。具体的には、村上春樹が2000年に発表した短編小説集『神の子どもたちはみな踊る』のJay Rubinによる英訳版After the Quakeをテキストとして、英語版と日本語原文を見比べることで、表現の違う箇所を探し、なぜ異なっているのかについて考えていく。日本語版だけでは見落としてしまうさまざまな日本文化が、英訳版を経由することで炙り出される。授業ではまた、小説の背景となっている1995年に起きた阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件を、村上春樹がどのように捉えているのかという物語のテーマについても読解していく。

同時に、授業で取り上げる内容を考える上で参考になりそうな補足資料（身体表現、ことわざ、和製英語、漫画 etc...）についても紹介していく予定である。

授業では各回様々な文化的事象を扱うが、受講者自らが問題点を発見することを目標としているので、授業計画・内容には細かい内容については記していない。

教科書　/Textbooks

Haruki Murakami, After the Quake, Vintage Books, 2003.
村上春樹、『神の子どもたちはみな踊る』、新潮社、2002（新潮文庫）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○）

『ことばと文化』（鈴木孝夫、岩波新書、1973）

それ以外の参考書に関しては必要に応じて授業中に紹介する。

日本文化英文講読 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Indroduction: 翻訳は可能か、エピグラフとは何か
1. UFO in Kushiro ① P2-5　小村はあきらめて、声をかけることさえやめてしまった
2. UFO in Kushiro ② P5-8 せっかくだから、のんびり旅行でもしてくればいいじゃないですか？
3. UFO in Kushiro ③ P8-10　小村はその後ろ姿をしばらくのあいだ目で追っていた
4. UFO in Kushiro ④ P10-13　シマオさん
5. UFO in Kushiro ⑤ P13-17　ビニールシート、ちりんちりん
6. UFO in Kushiro ⑥ P17-19　小村は自分が圧倒的な暴力の瀬戸際に立っていることに思い当たった
7. Landscape with Flatiron ① P22-28　「また三宅のおっさんかよ」
8. Landscape with Flatiron ② P28-33　嫌いなものはしょうがないやないか
9. Landscape with Flatiron ③ P33-39　気のせいかもしれないが、波の音が少し大きくなってきたようだった
10. Super-Frog Saves Tokyo ① P82-86　紙袋を床に置き、鞄を抱えたまま靴を脱いだ
11. Super-Frog Saves Tokyo ② P86-88　ラッシュアワー、職員、就職
12. Super-Frog Saves Tokyo ③ P89-91　あなたの世話になったことなんてちっとも感謝していません
13. Super-Frog Saves Tokyo ④ P91-95　だからもうかえるくんをうちによこさないでほしいということでした
14. Super-Frog Saves Tokyo ⑤ P95-98　外回り、スナック
15. Super-Frog Saves Tokyo ⑥ P98-102　片桐さんのおかげです

※進度や状況により扱う内容、順番等変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50％（授業への姿勢、毎週の課題、レスポンスシート等）、試験50％で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習や宿題等に関しては授業で説明する。予習の範囲については毎回の授業で示す。

履修上の注意 /Remarks

・最初の授業で、授業の進め方や予習の仕方などについて説明する。
・第二回以降、毎回の範囲の予習をしてくること。
・授業には英語の辞書を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業は、講義形式というよりディスカッション中心で行いますので、みなさんの予習に期待しています！

キーワード /Keywords

日本文化英文講読 【昼】

担当者名 /Instructor　田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　1年（１－３）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	日本文化に関する英語の文献を読みこなし、また的確なコミュニケーションができる英語力を身につけている。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会において、日本文化の発信と異文化の理解を深める能力を持つ世界的な視野に立った人間として行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化英文講読	JPS290M

授業の概要 /Course Description

私たちは日本に生まれ日本で育ったにもかかわらず、「日本文化とは」と尋ねられて、どれほどのことが語れるでしょうか。それはむしろ仕方のないことなのかもしれません。というのも、それを意識化するには、他文化のことを学んだり、自分が他文化圏と接触することにより両者の比較をしたり自己分析をしたり、といった努力が必要だからです。そこでこの授業では、英米圏あるいは台湾の人たちの日本での経験談を集めたテキストを扱うことで、日本文化の独自性を再認識したいと思います。

テキストの英語は非常にこなれたやさしいもので、全部で１５のユニットに分かれています。できるだけ多くのユニットを読破し、内容理解につとめます。ユニット毎に理解度等のチェックもできるように、問いが設けられているので、それらも利用していきます。

また、それぞれのユニットの内容についてお互いに意見交換ができればと思っています。さらに余裕があれば（受講者数次第ですが）、英語の発音練習もしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

Surprises and Discoveries about Japan（朝日出版）
（コピーを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

日本文化英文講読 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　導入、　英語の学習の仕方について
２回　ユニット１　Eye-openers in the Station 訳読、解説
３回　ユニット１　Exercises
４回　ユニット２　Private Matters　訳読、解説
５回　ユニット２　Exercises
６回　ユニット３　Sea of Black　訳読、解説
７回　ユニット３　Exercises
８回　ユニット４　Are These Sounds Really Obnoxious or Beautiful?　訳読、解説
９回　ユニット４　Exercises
１０回　ユニット５　Affection in an Emotionless Society 訳読、解説
１１回　ユニット５　Exercises
１２回　ユニット６　Toilet Story　訳読、解説
１３回　ユニット６　Exercises
１４回　ユニット１０　Once a Child, Always a Child?　訳読、解説、Exercises
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の英語の訳の担当など平常点…２０％　　試験…８０％
（出席重視）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当ユニットを予習しておいてください。また、授業の後は、ノートをもとに内容を整理し、復讐をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語力をのばしたい人、発音に関心がある人、議論好きな人を歓迎します！

『菊と刀』、『甘えの構造』など、有名な日本文化関係の書物も是非積極的に読んでください。

キーワード /Keywords

「英語の習熟」「議論」「文化比較」「自己分析」「日本文化の独自性」

日本文化文献講読Ｃ 【昼】

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化に関する文献の基礎的専門的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化に関する文献の専門的な読解能力を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化文献講読Ｃ	LIT212M

授業の概要 /Course Description

この授業ではくずし字の読解力を養うためのトレーニングを行う。
くずし字の読解は日本文学、日本史、宗教史、美術史など、近代を含む日本文化を専門的に学ぶ上に必須の能力である。
日本文化を学ぶことを希望する学生は、基礎的な読解力を身につけてもらいたい。
授業では筆写本のコピーを用いる。

教科書 /Textbooks

笠間影印叢刊刊行会編『字典かな―出典明記―　改訂版』（笠間書院）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○児玉幸多編『くずし字解読辞典』（近藤出版社）
○児玉幸多編『くずし字解読辞典　机上版』（東京堂出版）
○児玉幸多編『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）
○東京手紙の会編『くずし字辞典』（思文閣出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　授業の概要・成績評価について
２回　くずし字の読み方（仮名）
３回　くずし字の読み方（漢字）
４回　くずし字の読解（諸国一見聖物語p.5〈京都大学国語国文資料叢書29〉）
５回　くずし字の読解（諸国一見聖物語p.6）
６回　くずし字の読解（諸国一見聖物語p.7）
７回　くずし字の読解（諸国一見聖物語p.8）
８回　くずし字の読解（樹下乃御法1丁表〈早稲田大学教林文庫蔵本〉）
９回　くずし字の読解（樹下乃御法1丁裏）
１０回　くずし字の読解（樹下乃御法2丁表）
１１回　くずし字の読解（樹下乃御法2丁裏）
１２回　くずし字の読解（樹下乃御法3丁表）
１３回　くずし字の読解（樹下乃御法3丁裏）
１４回　くずし字の読解（樹下乃御法4丁表）
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験　７０％　　授業への取り組み　３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回授業で読解する範囲の文章を事前に下調べしておくこと。
読めなかった字については復習して身につけておくこと。
予習・復習の繰り返しが大切な科目です。

日本文化文献講読Ｃ 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業では室町時代に著された『諸国一見聖物語』の江戸時代元禄年間の筆写本、および江戸時代の覚深著『樹下乃御法』をテキストとして取り上げる。いずれも比叡山延暦寺の僧の作である。授業の趣旨として内容については重点を置かないが、適宜説明を加えながら読んでいきたい。

キーワード /Keywords

くずし字

フランス文化講読 【昼】

担当者名 /Instructor　福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	フランス文化に軸足を置きながら、多様な文化領域の研究方法を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語の文献を必要に応じて読みこなすことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	フランス文化を出発点として、西欧の諸文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フランス文化講読	ARE340M

授業の概要　/Course Description

フランス語で書かれた文章を、作者がそれをそこに記した通り、原文のまま、一行一行読み解いていくことで、希釈されることない、フランス文化・文学・思想の精髄に触れていきます。１、２年生でフランス語を履修済みの人だけが受講できる授業となります。

教科書　/Textbooks

必要な箇所をプリントで配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

開講時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　はじめに：エクリチュール、生の痕跡として
第２回　ロラン・バルト『テクストの快楽』（人と作品）
第３回　ロラン・バルト『テクストの快楽』（輪読）
第４回　アントワーヌ・サン＝テグジュペリ『星の王子様』（人と作品）
第５回　アントワーヌ・サン＝テグジュペリ『星の王子様』（輪読）
第６回　ブレーズ・パスカル『パンセ』（人と作品）
第７回　ブレーズ・パスカル『パンセ』（輪読）
第８回　マルグリット・デュラス『太平洋の防波堤』（人と作品）
第９回　マルグリット・デュラス『太平洋の防波堤』（輪読）
第１０回　アルベール・カミュ『異邦人』（人と作品）
第１１回　アルベール・カミュ『異邦人』（輪読）
第１２回　ジャン＝ポール・サルトル『嘔吐』（人と作品）
第１３回　ジャン＝ポール・サルトル『嘔吐』（輪読）
第１４回　マルセル・プルースト『失われた時を求めて』（人と作品）
第１５回　マルセル・プルースト『失われた時を求めて』（輪読）

＊授業進度は目安であり、実際には、参加学生の興味と能力にあわせて進みます。

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（発表、読解）５０％　期末試験（もしくはレポート）５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「人と作品」の回では担当者が作家と作品について調べたことを発表します。「輪読」の回では、フランス語原文を読み下していきます。いずれも事前学習が必要です。

フランス文化講読 【昼】

履修上の注意 /Remarks

フランス語を１年以上学んでいる学生限定の授業です。
フランス語文法の基礎を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、フランス語を学びつつ、フランスの文化（文学、芸術、思想）に親しんでもらいます。フランス語学習の仕上げにもなります。

キーワード /Keywords

フランス　文学、美術　芸術　死　写真　肖像

ドイツ文化講読 【昼】

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語の文献を必要に応じて読みこなすことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ドイツ文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	●	日独の文化の違いを踏まえたコミュニケーション能力を発揮できる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ドイツ文化講読	ARE341M

授業の概要　/Course Description

ドイツの社会事情や文化的背景に関するドイツ語テキストを読むことで、ドイツ文化理解を深めると共に、ドイツ語読解力を高める。また、各課ごとに提示される状況別重要フレーズを応用することで、ドイツ語会話・ドイツ語作文の訓練をする。

教科書　/Textbooks

授業中にコピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　助言を与える
２回　ドイツの食文化について
３回　相手の発言をさえぎる
４回　ドイツの歴史について
５回　道を尋ねる
６回　ドイツの思想家について
７回　訪問の際の会話
８回　ドイツ流礼儀作法
９回　自己紹介の仕方
１０回　人の紹介の仕方
１１回　お祝いの表現
１２回　両替の仕方
１３回　ヨーロッパの通貨に関する話題
１４回　切符の購入方法
１５回　ドイツの娯楽

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストと単語リストを配布するので、単語は事前に調べておくこと。授業後は重要フレーズを暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語読解能力があることが前提。必ず独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

ドイツ文化講読 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン文化講読 【昼】

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	比較史の視点からスペイン文化の様々な側面を理解している。
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語で文献をある程度読みこなせる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	スペイン語圏の文化・社会への関心を持ち続ける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（27年度以降）スペイン語圏文化講読	HIS330M
（25・26年度）スペイン文化講読	HIS330M

授業の概要　/Course Description

日本でも紹介がなされているスペインの哲学者ミゲル・デ・ウナムーノの長編小説『アベル・サンチェス』を読みます。旧約聖書のカインとアベルの故事以来、人間に古くから宿る嫉妬の感情を、現代にも通ずる形で消華させた作品。本授業では理詰めで文の意味が分かることを目指します。スペイン語のテクストを使用するので、スペイン語既習者に受講を限定します。

教科書　/Textbooks

授業担当者がプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『西和中辞典』（小学館）
○『現代スペイン語辞典』（白水社）
○『クラウン西和辞典』（三省堂）
○バイロン『カイン』（岩波文庫）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション、授業運営と成績評価について
第２回　序文（第二版の序文とともに）
第３回　第一章（出会い）
第４回　第二章（エレナの登場）
第５回　第三章（ホアキンの憎悪の誕生）
第６回　第四章（アベルとエレナの結婚）
第７回　第五章（アベルの病とホアキンの決断）
第８回　第六章（アントニアの登場）
第９回　第七章（現在としての嫉妬）
第１０回　第八章（ホアキンの結婚）
第１１回　第九章（アベリンの誕生）
第１２回　第十章（旧約聖書の題材）
第１３回　第十一章（バイロンの『カイン』）
第１４回　第十二章（ホアキナの誕生）
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み５０％　定期試験５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。スペイン語既習者限定。授業にはかならず予習をして臨んでください。また教室にはかならず辞書（スペイン語→日本語）を持参してください。

スペイン文化講読 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン 小説 文学 ウナムーノ

ロシア文化講読 【昼】

担当者名 /Instructor　太田　丈太郎 / OHTA Jotaro / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・他　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ロシアの諸文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語の文献を読むことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ロシア文化の諸領域に対する関心を深める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ロシア文化講読	ARE350M

授業の概要　/Course Description

ここ数年ドストエフスキーの小説が売れています。テロや「敵探し」の恐怖にさらされた現代を、ドストエフスキーは「予言」していたとすら言われています。このドストエフスキーやトルストイ、またゴーゴリ、チェーホフに代表される十九世紀ロシア文学なくして、日本近代文学は成立しなかったとしても、決して誇張ではありません。

ドストエフスキーがこれほど読まれる国は日本以外になかなかないそうです。日本が先の見えない混迷期に身を置くたびに、ドストエフスキーが熱病のように読者階級を熱狂させてきました。ドストエフスキーばかりでない。日本の読書階級にはロシア文学の「信徒」のような人たちが、かつて存在していました。たとえば二葉亭四迷。高校の国語の時間で日本近代文学における「言文一致体」を確立した人と習ったことがあるかもしれませんが、それ以上に彼はロシア文学の熱心な読者でした。それどころか二葉亭はロシア語のリズムを天才的に身体で直感できた人でした。その天才が生かされたのが「言文一致」の実験でした。

日本と同様、ロシアも現在激しい変動のさなかにあります。実際に合わない陳腐化したステレオタイプを他者に当てはめたところで、なんら現状の打開にはつながりません。いったい、どれだけの日本人が「同時代をともに生きる人々」としてのロシアを見ているのだろうか。そのためにはロシアの文化を知る必要がある。それが日本に多少なりとも及ぼしてきた影響力、「共振力」を知る必要がある。それがまさに、日本の〈近代〉を知ることにつながります。ヨーロッパ文化という鏡を前にして、ロシアと日本の「自画像」が重なってくるのです。以上述べてきたことに、関心を持っていただけるかたの履修を望みます。

教科書　/Textbooks

毎回講義はKeynoteでおこないます。授業時の資料配付は必要なとき以外はいたしません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

原卓也 (監修) 『読んで旅する世界の歴史と文化 ロシア』新潮社、1994年
川端香男里『ロシア その民族とこころ』講談社学術文庫、1998年
柳富子『トルストイと日本』早稲田大学出版部、1998年
栗原成郎『ロシア異界幻想』岩波新書、2002年
浦雅春『チェーホフ』岩波新書、2004年
亀山郁夫『ドストエフスキー 謎とちから』文春文庫、2007年
太田丈太郎『「ロシア・モダニズム」を生きる 日本とロシア、コトバとヒトのネットワーク』成文社、2014年

ロシア文化講読 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　サンクト・ペテルブルク－ロシア近代文学の誕生
第２回　ゴーゴリ『ヴィー』(ロシアの妖怪と柳田民俗学・ロシアのフォークロア）
第３回　ゴーゴリ『ヴィー』(ロシアの妖怪と柳田民俗学・ロシアの妖怪・魔女）
第４回　ゴーゴリと日本近代文学
第５回　二葉亭四迷と十九世紀ロシア文学（１）
第６回　二葉亭四迷と十九世紀ロシア文学（２）
第７回　二葉亭四迷と十九世紀ロシア文学（３）
第８回　トルストイと日本近代文学（１）
第９回　トルストイと日本近代文学（２）
第10回　芥川龍之介と十九世紀ロシア文学
第11回　ドストエフスキー『罪と罰』と日本（１）
第12回　ドストエフスキー『罪と罰』と日本（２）
第13回　チェーホフと日本の新劇運動（１）
第14回　チェーホフと日本の新劇運動（２）
第15回　つながること・ひろがること（総括）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回出していただく「コミュニケーション・カード」に基づく理解度、課題の提出、レポートまたは学期末試験から成績評定します。平常点40％、課題30％、試験または学期末レポート30％を目安にして下さい。ただし、いずれかが欠けていると、成績評定につながらないおそれがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小説をあらすじでなく、じっさいに読んでいただく必要があります。小説は恋や旅のように「身体で参加するプロセス」ですから、ネット検索であらすじを知っていてもただの無意味な知識にすぎず、まったく意味がありません。最低限、次の作家たちの短篇集を自分で読んでおいてください。１）ゴーゴリ、２）芥川龍之介、３）チェーホフ。色々な出版社から短篇集が出ています。トルストイやドストエフスキーの大長篇にも、これを機会に挑戦してみましょう。

履修上の注意 /Remarks

講義は連続ドラマのようなもので一回でも休むと全く話がつながらなくなります。欠席してはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義に興味を持った方は、ぜひロシア語を習ってみてください。それから、小説を読む「快楽」をからだで覚えていただけると幸いです。

キーワード /Keywords

ロシア文学　日本近代文学　ゴーゴリ　トルストイ　ドストエフスキー　チェーホフ　二葉亭四迷　芥川龍之介　小山内薫　スタニスラフスキー　モスクワ芸術座

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor　ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I	ENG353M

授業の概要　/Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書　/Textbooks

Pros and Cons: A Debaters Handbook、Debbie Newman (編集), Trevor Sather (編集), Ben Woolgar (編集)　Routledge; 19版 (2013/9/27)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Supplementary materials to be provided by instructor. Students should use library references and resources to prepare for class debates.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Introduction
2.Philosophy/political theory (Textual/Source Study)
3.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) A
4.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) B
5.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) C
6.International relations (Textual/Source Study)
7.International relations (Argumentation and Debate) A
8.International relations (Argumentation and Debate) B
9.International relations (Argumentation and Debate) C
10.Social, moral, and religious (Textual/Source Study)
11.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) A
12.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) B
13.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) C
14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法　/Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

Advanced English I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.
For review students should apply the results of class discussions to their individual topics. Students should continue to pursue tasks in relation to their own topics for presentation.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor　ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I	ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: A Debaters Handbook、Debbie Newman (編集), Trevor Sather (編集), Ben Woolgar (編集)　Routledge; 19版 (2013/9/27)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Supplementary materials to be provided by instructor. Students should use library references and resources to prepare for class debates.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1.Introduction
2.Philosophy/political theory (Textual/Source Study)
3.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) A
4.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) B
5.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) C
6.International relations (Textual/Source Study)
7.International relations (Argumentation and Debate) A
8.International relations (Argumentation and Debate) B
9.International relations (Argumentation and Debate) C
10.Social, moral, and religious (Textual/Source Study)
11.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) A
12.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) B
13.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) C
14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

Advanced English I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.
For review students should apply the results of class discussions to their individual topics. Students should continue to pursue tasks in relation to their own topics for presentation.

履修上の注意　/Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード　/Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor　ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I	ENG353M

授業の概要　/Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書　/Textbooks

Pros and Cons: A Debaters Handbook、Debbie Newman (編集), Trevor Sather (編集), Ben Woolgar (編集)　Routledge; 19版 (2013/9/27)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Supplementary materials to be provided by instructor. Students should use library references and resources to prepare for class debates.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Introduction
2.Philosophy/political theory (Textual/Source Study)
3.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) A
4.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) B
5.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) C
6.International relations (Textual/Source Study)
7.International relations (Argumentation and Debate) A
8.International relations (Argumentation and Debate) B
9.International relations (Argumentation and Debate) C
10.Social, moral, and religious (Textual/Source Study)
11.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) A
12.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) B
13.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) C
14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法　/Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

Advanced English I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.
For review students should apply the results of class discussions to their individual topics. Students should continue to pursue tasks in relation to their own topics for presentation.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor　ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I	ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: A Debaters Handbook、Debbie Newman (編集), Trevor Sather (編集), Ben Woolgar (編集)　Routledge; 19版 (2013/9/27)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Supplementary materials to be provided by instructor. Students should use library references and resources to prepare for class debates.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1.Introduction
2.Philosophy/political theory (Textual/Source Study)
3.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) A
4.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) B
5.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) C
6.International relations (Textual/Source Study)
7.International relations (Argumentation and Debate) A
8.International relations (Argumentation and Debate) B
9.International relations (Argumentation and Debate) C
10.Social, moral, and religious (Textual/Source Study)
11.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) A
12.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) B
13.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) C
14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

Advanced English I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.
For review students should apply the results of class discussions to their individual topics. Students should continue to pursue tasks in relation to their own topics for presentation.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor　アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English Ⅱ	ENG354M

授業の概要　/Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic-focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section,or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書　/Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15.Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法　/Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor　アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English Ⅱ	ENG354M

授業の概要　/Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic-focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section,or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書　/Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15.Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法　/Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor　アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English Ⅱ	ENG354M

授業の概要　/Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic-focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section,or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書　/Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15.Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法　/Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor　アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English Ⅱ	ENG354M

授業の概要　/Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic-focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section,or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書　/Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15.Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法　/Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor　生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

本演習は、日本近代文学研究の基礎的な方法を学ぶことを目的とする。
具体的には、教員が指定する日本の近代小説（あるいは近代日本を描いた小説）を用いて、文学研究の基礎ともなる注釈の方法を学ぶ。演習担当者は、不明箇所のみならず、何となく読み流してしまうような語、表現、描写等にも丁寧に注を付け、これらに基づいた〈読み〉を発表する。発表後は、全員で議論しながら、作品理解を深めていく。

教科書　/Textbooks

テキストは授業開始時に指示する。
（書籍の購入もしくは複写のための費用がかかります）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○「新日本古典文学大系　明治編」（岩波書店）
○「明治文学全集」（筑摩書房）
○「明治文学大系」（角川書店）など

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　日本近代文学研究の基本【発表用資料の書式と作成】
第３回　日本近代文学研究の基本【基礎調査の手順】
第４回　日本近代文学研究の基本【注釈の方法】
第５回　日本近代文学研究の基本【注釈の実践】
第６回～第１４回　学生による演習発表
第１５回　まとめ【演習A-2にむけて】

成績評価の方法　/Assessment Method

演習内容…５０％　授業への取り組み…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予告された演習内容について事前に予習し、演習内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

演習担当者は責任を持って準備と発表を行うこと。他の学生は、作品を事前に読み込み、本文についての疑問や読解に関する意見を述べるための事前準備をしておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習A-1 【昼】

キーワード /Keywords
日本近代文学

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

ドイツ語圏文化研究に必要な総合的能力を習得することを目標とし、ドイツ語圏文化に関する情報収集などの訓練を行う。

教科書　/Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ドイツ語圏文化の基礎知識・歴史編
2回　ドイツ語圏文化の基礎知識・文化編
3回　映像で見るドイツ語圏文化 (ドイツの都市)
4回　情報収集法・書籍
5回　情報収集法・インターネット
6回　課題研究発表・第一班
7回　課題研究発表・第二班
8回　課題研究発表・第三班
9回　課題研究発表・追加報告
10回　資料の読み方
11回　映像で見るドイツ語圏文化 (スイスなど)
12回　自由研究発表・第一班
13回　自由研究発表・第二班
14回　自由研究発表・第三班
15回　自由研究発表・追加報告

成績評価の方法　/Assessment Method

研究発表と授業への参加度・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時間以外にも、常にドイツ語圏に関する情報を、文献、ニュース、信頼できるインターネットなどを用いて収集すること。

履修上の注意　/Remarks

必ず独和辞書を持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習A-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習Ａ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

この授業は、文学理論（批評理論）について幅広く学びます。
『批評理論入門』で紹介されている文学理論について、自分なりに調べたこと、考えたことを担当者が発表し、発表を基にみんなで議論することで、理論の理解を豊かなものにすることが、授業のねらいです。

教科書　/Textbooks

廣野由美子『批評理論入門』（2005年3月　中央公論新社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

テリー・イーグルトン『文学とは何か』（大橋洋一訳　1985年10月　岩波書店）
その他の参考書については、授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回～14回　各自、『文学部唯野教授』から1つ、文学理論を選択し、担当する理論について調べます。そして、資料等を基に、どういう点がどのように解釈に役立つかなど、考えたことを発表。それを受けて、参加者みんなで自由に議論しましょう。
15回　講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（５０％）、レポート（５０％）により評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習
次回学ぶことになる批評理論について、教科書を読んで予習しておいてください。
事後学習
学んだ批評理論について、教科書以外の本を手に取り読んで、理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

廣野由美子『批評理論入門』（2005年3月　中央公論新社）を読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

テキストでされている理論の解説に、どれだけプラスαをつけることができるかがポイントです。
積極的に、楽しくやっていきましょう。

演習A-1 【昼】

キーワード /Keywords
文学理論（批評理論）、受容理論、構造主義、ポスト構造主義、ジェンダー論、新歴史主義 他

演習Ａ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　佐藤　眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

テーマ：説話を通して日本の宗教文化を学ぶ
古代・中世の説話作品の中には、神道や仏教と関わりの深い宗教説話が含まれている。
この授業ではその中からいくつかの説話を取り上げ、関連説話や説話のもととなった歴史的事件に関する資料などを合わせて読解し、相互比較検討した上で問題点・疑問点を発見し考えてもらう。
演習であるので参加者全員にそれぞれ興味のある説話を担当し発表を行ってもらう。

教科書　/Textbooks

特になし。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

発表内容に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　ガイダンス
２回目　発表の具体的準備手順について
３回目　古代・中世の宗教について
４回目　受講生による研究発表
５回目　同上
６回目　同上
７回目　同上
８回目　同上
９回目　同上
１０回目　同上
１１回目　同上
１２回目　同上
１３回目　同上
１４回目　同上
１５回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況　１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

発表にむけて十分な準備をしておくこと。
次回発表者の担当するテキストを熟読して臨むこと。
発表後も、内容が不充分だった点は補足しておくこと。

演習A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

発表にあたっては事前にレジュメの下書きを提出し、相談を受けててもらうことになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分で問題点を発見できる能力を養って下さい。

キーワード /Keywords

神祇説話、仏教説話

演習Ａ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor　五月女　晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

日本美術史においては、古くから研究され続けている著名な作品でありながら、未だに通説が存在しない考察点を内包している作品が数多く存在する。本演習では、それらの未だに通説が存在しない問題を考察して来た先行研究論文群を輪読する。

今年度は、出光美術館所蔵「伴大納言絵巻」上巻の失われた場面の復元を試みている複数の論文か、ＭＯＡ美術館所蔵「湯女図」の失われた部分の復元を試みている複数の論文のどちらかを読む予定。ひと通り読み終わったら、各自どの説に賛同できるかといったことをディスカッションする。さらには、夏休み期間を利用して、自分の説をレポートにまとめてもらう（レポートの提出期限は、夏休み明けとするので、そのレポートの評価は、演習Ａ－２に加える）。　これによって、美術史学的な研究方法の理解を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。輪読する論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の手順の確認、輪読する論文の決定
２回　大学図書館において美術史学関係書籍の種類・所在を確認
３回　先行研究論文の輪読①
４回　先行研究論文の輪読②
５回　先行研究論文の輪読③
６回　先行研究論文の輪読④
７回　先行研究論文の輪読⑤
８回　先行研究論文の輪読⑥
９回　先行研究論文の輪読⑦
10回　先行研究論文の輪読⑧
11回　先行研究論文の輪読⑨
12回　３～11回を踏まえたディスカッション
13回　博物館あるいは美術館見学
14回　研修旅行の日程説明、研究旅行における解説担当作品の決定
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加態度…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で輪読する論文には、事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べた上で授業に臨むこと。

演習A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor　高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

この演習では、文献講読を中心として、イギリス文化を中心的な対象としながら、文化研究の様々な方法について学んでいきます。「文化」を通じて「社会」全体を把握するという目標を念頭に置きながら、イギリス社会や日本社会の様々な側面についても考察し、議論したいと思っています。

教科書　/Textbooks

履修者と相談の上、演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回　イントロダクション
第二回　文献講読（１）
第三回　文献講読（２）
第四回　文献講読（３）
第五回　文献講読（４）
第六回　文献講読（５）
第七回　文献講読（６）
第八回　文献講読（７）
第九回　文献講読（８）
第十回　文献講読（９）
第十一回 文献講読（１０）
第十二回 文献講読（１１）
第十三回 文献講読（１２）
第十四回 文献講読（１３）
第十五回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

ゼミへの参加 60% ゼミ報告 40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修人数にもよりますが、各人最低一回は、指定されたテキストについて報告を行うことになります。報告者でなくても授業前には必ず指定されたテキストを熟読し、論点を考えてきてください。

演習A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

幅広い興味を持って、討論に積極的に参加することを期待します。

キーワード /Keywords

演習Ａ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor	田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんといっしょに語り合いたいと思います。前期は主に英米文学の中の短編（児童文学を含む）を数多く読み、それぞれの作品における様々な問題点やテーマ (生と死、愛、心の内奥の暗黒、人間の心理の不可思議さ、差別、女性の自由･自立、ピューリタニズム、自然と人間、人間の卑小性、グロテスクさ、機械と人間など) に関する討論を通じて、それぞれの作家の特徴や傾向をつかむと同時に、文学作品の鑑賞と討論の面白さをみんなと共有します。比較の視点も導入します。作品は主に翻訳を利用しようと考えています。

＊ゼミの目的：　１．自己発見　２．議論のコツのマスター　３．仲間作り
＊ゼミ通信や４年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して３、４年生の交流を図ります。
＊ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　自己紹介、今後の流れの説明、その他いろいろ
２回　「蝿」 by K. Mansfield　（英）
３回　「動物農場」by G. Orwell　（英）
４回　「１時間の物語」 by K. Chopin　（米）
５回　「良心ゆえに」by T. Hardy　（英）
６回　「若いｹﾞｯﾄﾞﾏﾝ･ﾌﾞﾗｳﾝ」by N.Hawthorne　（米）
７回　「家族の絆」by 渡邉浩弐　（日本）
８回　「エミリーへのバラ」by W.Faulkner　（米）
９回　「小さな雲」by James Joyce　（英）
１０回　「亡き妻フィービー」by T.Dreiser　（米）
１１回　「善良な田舎者」by F.O'Connor　（米）
１３回　「幸福な王子」by O.Wilde　（英）
１４回　ディベートの説明と実施
１５回　まとめ (合宿に備えて)

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備…３０％　レポート…５０％　平常点(発表、討論の参加など)…２０％　（出席重視）

演習A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者になった場合は、授業前に議論のための資料や参考文献などを読むなど、下準備をしっかりした上で担当当日に臨んでください。配布資料の準備も必要です。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んでください。授業後は扱った作品に関して各自でテーマを決め、コメントを書いてもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の授業の目的（１．自己発見　２．議論のコツのマスター　３．仲間作り）を達成するためにも、授業への皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間つくり」「自己発見」

演習Ａ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　寺田　由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

歴史(政治・社会・文化)を中心としたアメリカ地域研究を行い、学問の方法に触れる。

教科書　/Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

開講時および授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　演習の進め方、テキスト選定などについての話し合い。
２回　レジュメの作り方、発表の仕方についての説明。
３回　受講者による発表・討議。
４回　受講者による発表・討議。
５回　受講者による発表・討議。
６回　受講者による発表・討議。
７回　受講者による発表・討議。
８回　受講者による発表・討議。
９回　受講者による発表・討議。
１０回　受講者による発表・討議。
１１回　受講者による発表・討議。
１２回　受講者による発表・討議。
１３回　受講者による発表・討議。
１４回　受講者による発表・討議。
１５回　まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（授業への貢献度、発表内容）１００％。　ただし出席状況によって減点する場合がある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキストを読み、事後に授業中に興味を持ったことについて自分自身で調べ、知識を深める。

履修上の注意　/Remarks

受講生は全員、毎回テキストを読み込んで授業に出席すること。

演習A-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ａ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

中国思想史入門書の講読・演習によって、中国思想史の流れを把握する。日本思想と文化の比較も比較する。
演習はＰＰＴで行う。

教科書　/Textbooks

演習するたびに、演習者が用意して配る。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業ごとに配る

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　演習の担当順を決定
２回　演習の基本、ＰＰＴの作り方
３回　図書館見学、資料の調べ方を習う
４回　中国思想の基本１
５回　中国思想の基本２
６回　中国思想の基本３
７回　中国神話
８回　先秦諸子
９回　秦漢
10回　六朝、仏教
11回　隋唐の思想
12回　宋代の思想
13回　明清の思想
14回　現代思想
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

発表内容…70%　レポート…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

発表者は、必ずＰＰＴを作って発表すること、そのためにＰＰＴ技術を習得すること。

演習A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前に、指示されたキーワードを調べておくこと。
授業後にはノートを見直し復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

好好学習、天天向上。

キーワード /Keywords

哲学史、思想史、儒学、孔子

演習Ａ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

卒業論文作成にあたっては、自身の関心対象にまつわる知識を深めるだけでは十分ではなく、研究としての方法論が必要となります。本演習では、批評理論の主だったものについて授業参加者がレジュメを準備して報告を行い、それらについての理解を深めます。効果的で説得的な発表形式、資料の作り方を模索してください。

教科書　/Textbooks

○ピーター・バリー『文学理論講義: 新しいスタンダード』ミネルヴァ書房、2014 .
○高山宏『夢十夜を十夜で』羽鳥書店、2011.
○ウンベルト・エコ『論文作法』而立書房、1991 .

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫。
○土田ほか『現代文学理論』新曜社、1996 .
○テリー・イーグルトン『文学とは何か』岩波文庫。
○ラマーン・セルデン『ガイドブック現代文学理論』大修館書店、1989 .

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション、授業運営と成績評価について
第２回　授業参加者による報告とディスカッション
第３回　授業参加者による報告とディスカッション
第４回　授業参加者による報告とディスカッション
第５回　授業参加者による報告とディスカッション
第６回　授業参加者による報告とディスカッション
第７回　授業参加者による報告とディスカッション
第８回　授業参加者による報告とディスカッション
第９回　授業参加者による報告とディスカッション
第１０回　授業参加者による報告とディスカッション
第１１回　授業参加者による報告とディスカッション
第１２回　授業参加者による報告とディスカッション
第１３回　授業参加者による報告とディスカッション
第１４回　授業参加者による報告とディスカッション
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への参加６０％、ゼミでの報告４０％

演習A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表・報告対象となっている章を入念に読むこと。授業後には議論の対象となった問題について、関連する文献を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

自分の意見を述べ、論理的に議論をすすめること。自分の関心領域につねにアンテナを張るとともに、隣接領域や自身の研究の参考になる可能性をもつものを貪欲に吸収すること。たくさん本を読み、色々な意見に耳を傾け、すばらしい作品や研究に数多くふれること。議論への積極的な参加が必須。議論を通じて卒業論文の構想を具体的なものにしていきましょう。合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン　文学　文化　批評

演習Ａ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

このゼミでは、フランス文化を主要な参照先としながら、文学、映画、美術といった人間の営みに迫ります。とくにテーマに限定はありませんが、何よりも大事にしたいのは、各学生が、自分の興味を発見し、その対象について知識、理解を深めながら、言葉を用いて自分の興味を他人に伝える力を養うことです。まずは、提示された作品について、みんなで意見や分析を述べることから始め、後半では自分でテーマや作品を選び、それについて発表をしてもらいます。いろいろな作品を読むこと、観ることが絶対の条件となります。また、研究合宿も行うことがあります。

教科書　/Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

開講時に指示。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回〜４回　作品についての討論
５回〜１４回　個人発表
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・レポート等・・・８０％　平常点・・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自分の発表の前には入念な準備をお願いします。

履修上の注意　/Remarks

発表は複数回まわってくるので、普段からアンテナを立てて自分の興味を探しておくこと。合宿を行うこともある。
授業前に、指示に従って課題に取り組んでおくこと。授業後には、講義内容を要約すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

作者が作品にこめた思い、また、それを作らなければならなかった必然性を受け止め、芸術作品が私たちにとって持つ意味について考えてもらえたらと思います。

キーワード　/Keywords

フランス　文学　記憶　展示　映画　現代美術　モニュメント

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor　堀尾　香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料は、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　演習の運営方針
第２回　国語学・日本語学研究の諸分野
第３回　先行研究の収集方法　文献資料の種類と扱い方
第４回　レジュメの作成要領　模擬発表
第５回　各人の発表（１）
第６回　各人の発表（２）
第７回　各人の発表（３）
第８回　各人の発表（４）
第９回　各人の発表（５）
第10回　各人の発表（６）
第11回　各人の発表（７）
第12回　各人の発表（８）
第13回　各人の発表（９）
第14回　各人の発表（10）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表…50%　討議…20%　レポート…30%
その他、出席を重視します。

演習A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を精読し予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor	前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	1学期	演習	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要 /Course Description

アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究ゼミです。アメリカ映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ（人、文化、社会、歴史）の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

ゼミのやり方としては、毎回、担当者を３名決め、Ｂ４のレジュメを作成してもらった上で、レジュメの解説を行なってもらい、その発表内容をゼミ生全員で検討する形で進めていきます。発表する際の視点、レジュメ作成の要領、作品分析の方法,、発表に必要な書籍については、最初の時間に詳しく説明します。発表に必要な資料の配置場所を知ってもらうため、図書館巡りも2回目のゼミの際に行ないます。

教科書 /Textbooks

取り上げる題材はゼミ生と相談し、できるだけゼミ生の意向が反映されるようにします。過去には、『プラダを着た悪魔』、『モンスターズ・インク』、『魔法にかけられて』、『チャーリーとチョコレート工場』、『トイ・ストーリー』、『アナと雪の女王』などの映画を取り上げ、内容を様々な視点から議論しました。ゼミ生が卒論で取り上げることが決定した作品は最優先で題材として取り上げます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『早わかりアメリカ』 302.53 I32
『そうだったのかアメリカ』 302.53 I33
『読んで旅する世界の歴史と文化』 亀井俊介 290.8 Y82
『異文化社会アメリカ』 示村陽一 302.53
『アメリカ合衆国とは何か』 253. Ta45
『アメリカ人の性格』 ゴーラー 書庫にしかない 361.6 G67
『この一冊でアメリカの歴史がわかる』 253.01 Sa69
『アメリカの大衆文化』 亀井俊介 253.07 H85
『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』 302.53 B89
『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21) 253 A44 1-21
『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』（有賀夏紀） 253 A79
『アメリカ人の思考法』 エドワード･スチュワート 361.42 St5
『文明としてのアメリカ』（全5巻） 日本経済新聞社 302.53
『アメリカの歴史を知るための60章』 富田虎男 253 To58
（すべて図書館の蔵書です。）

演習Ａ-１　【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　作品分析の方法やレジュメの作成要領の説明、参考文献などの紹介
２回　図書館めぐり、文献の検索方法の再確認
３回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論1
４回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論2
５回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論3
６回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論4
７回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論5
８回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論6
９回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論7
１０回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論8
１１回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論9
１２回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論10
１３回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論11
１４回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論12
１５回　まとめ、夏休みの課題レポートに関する説明

成績評価の方法　/Assessment Method

ゼミの参加への積極性…50％　発表内容…50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、発表の担当が当たっている場合はＢ４のレジュメを作成しておいて下さい。発表が当たっていない学生も、題材となる映画を文化的側面に注意しつつ、見ておいて下さい。授業後には、発表レジュメを再度読み直し、可能な限りレジュメのテーマと関連した書物を閲覧し、発表されたテーマに関する知識の拡充を図って下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習Ａ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化を研究するための基礎をかためることが目標となる。
１学期は、文献講読を通して、読む・レジュメをつくる・プレゼンテーションする・コメントする・議論するという一連の過程に自覚的に取り組み、人文学的な知的探求に取り組むための基礎の錬成を目指す。「論文」という文章形式についての理解を深める。また1学期には、観察・聞き書きの入門として野外実習を組み込む予定である。
なお授業では、合宿形式の演習（発表・議論・交流）が含まれることがある。全員参加のなかで、テーマを共有し、各自の問題意識のブラッシュアップを目指す。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　リサーチ入門
３回　文献講読１
４回　文献講読２
５回　文献講読３
６回　文献講読４
７回　文献講読５
８回　文献講読６
９回　文献講読７
１０回　グループ研究１
１１回　グループ研究２
１２回　グループ研究３
１３回　グループ研究４
１４回　グループ研究５
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点…５０％　発表…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：前回の演習内容の確認
事後：発表者は、改善点の確認。それ以外の参加者は、どのような質問、コメントがよかったのかを反省的に振り返る。

演習A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習では、チーム作業・全体討議を重視します。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。授業時間外において、グループ討議などの準備が随時必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的な内容は、ガイダンスで指示する。

キーワード /Keywords

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要 /Course Description

文献講読と課題についての報告を行いながら演習報告の基礎知識を学ぶとともに、韓国仁川広域市立博物館での展示と体験教室実施のための企画つくりを行います。また4年生の個別報告と卒論構想発表を行います。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献リストを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　4月11日　学内でのガイダンス
２回　4月18日　４年生の報告①
３回　4月25日　４年生の報告②
４回　5月9日　４年生の報告③
５回　5月16日　文献講読①
６回　5月23日　文献講読②
７回　5月30日　文献講読③
８回　6月6日　文献講読④
９回　6月13日　４年生の卒論構想発表①
１０回　6月20日　４年生の卒論構想発表②
１１回　6月27日　４年生の卒論構想発表③
１２回　7月4日　課題報告①
１３回　7月11日　課題報告②
１４回　7月18日　課題報告③
１５回　7月25日　課題報告④

成績評価の方法 /Assessment Method

出席時の報告と質疑応答の内容で100％評価する。
欠席の連絡がない場合は減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表のレジュメの準備や史料の下読みをしておくこと、授業後には発表についての指摘を踏まえてレジュメの手直しを行うこと。

演習A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

学外での活動のための交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

東南アジア社会を対象に、主として文献購読に基づきながら、および植民地化や観光化などを契機とする「他者」との相互作用の中で、文化がいかに持続、変容、展開しているのかを考察する。それにより、多民族多言語多宗教社会の現状を日本との関係性も視野に入れた歴史的な視座から理解していく。適宜オーディオビジュアル資料なども援用する。それらの資料を批判的に検討し、ゼミ生同士でディスカッションを重ねる。
学外での見学調査実習も行う予定である。

教科書　/Textbooks

演習内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

演習内で指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　文献講読とディスカッション（１）
第3回　文献講読とディスカッション（２）
第4回　文献講読とディスカッション（３）
第5回　文献講読とディスカッション（４）
第6回　文献講読とディスカッション（５）
第7回　文献講読とディスカッション（６）
第8回　中間討論と小活
第9回　文献講読とディスカッション（７）
第10回　文献講読とディスカッション（８）
第11回　文献講読とディスカッション（９）
第12回　文献講読とディスカッション（10）
第13回　文献講読とディスカッション（11）
第14回　文献講読とディスカッション（12）
第15回　総合討論とまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点40%、発表60%

演習A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回事前学習用の資料を指示するので、目を通してから参加すること。演習内での購読やディスカッションの内容を踏まえて、参考資料を指示するので活用して復習すること。

履修上の注意 /Remarks

演習内での議論への積極的な参加を重視するので、事前にテキストを熟読し、疑問点、議論したい点を考えてくること。
新聞、テレビ、インターネットなどを通して実社会で生起する事象に日ごろからよく目配りし、
演習で学んだことに照らして再考してほしい。扱うテーマを自身の関心にひきつけて主体的に取り組んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近な他者の存在や、ちょっと新しい世界の見方など、小さな発見をともにしたいと思います。

キーワード /Keywords

演習Ａ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　渡瀬　淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

古典研究のための基本的な知識と調査方法を身につけ、古典の多様性に触れることを目標とする。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○片桐洋一『中世古今集注釈書解題』赤尾照文堂
櫛笥節男『書庫渉猟』おうふう　2006年
橋口侯之介『和本入門』平凡社ライブラリー　2011年
○徳田和夫『お伽草子事典』東京堂出版2002年

その他、必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　古典文学と「諸本」
３回　写本と板本の違い
４回　本と形態①
５回　本と形態②
６回　古典文学の特徴【素材・発想・構造】
７回　中世小説を読む
８回　同上【ものぐさ太郎】
９回　同上【ものぐさ太郎】
１０回　同上【鉢かづき】
１１回　同上【鉢かづき】
１２回　同上【梵天国】
１３回　同上【梵天国】
１４回　同上【梵天国】
１５回　1学期のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート５０％
平常の学習状況５０％

演習A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学習に際しては、予習として以下の作業をしておくこと。
・くずし字の翻刻
・本文の現代語訳
・担当箇所に出てくる語句の意味調べ
また、参考文献について指示があった場合は、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

演習形式で授業を進めるため、積極的な態度で授業に臨むこと。
受講人数、受講者の興味・関心により、扱う作品を変更することがある。
場合によっては、通常のゼミの他、課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。
演習A - 1では、日本語教育学の研究について、質的研究の専門書を輪読します。
また、同時に自分がこれまでの人生の中で経験したことを言葉にして表現できるようにするために、自己物語を学びます。自分自身の経験を言語化しようと試みることで、自己理解の度合いを推測することができ、そのことが内面的成長を促すと期待できます。そして、人にとって言葉がどのようなものであるのかの理解が深められます。これは、言語教育を学ぶものにとって必須のことです。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。
①実践的な学問としての日本語教育学について、その研究を知る。
②自らの関心を探求しながら自分の関心に適した研究分野を発見する。
③自分が日本語教育実践分野の何に関心を持っているのか言語化を試みる。
④研究について深く知ることに興味を持つ。

教科書　/Textbooks

舘岡洋子編(2015)『日本語教育のための質的研究入門：学習･教師･ 教室をいかに描くか』ココ出版
榎本博明(2011)『<ほんとうの自分>のつくり方：自己物語の心理学』講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○西條剛央(2009)『研究以前のモンダイ　看護研究で迷わないための超入門講座』医学書院
○秋田喜代美他編著(2005)『教育研究のメソドロジー』東京大学出版会
○秋田喜代美他(2007)『事例から学ぶはじめての質的研究法：教育･ 学習編』東京図書
その他に日本語教育における先行研究例を適宜紹介します。

演習Ａ-１【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション、自己物語を書く
２回　日本語教育における質的研究の可能性と挑戦【日本語教育学】【自律的な発展】
３回　質的研究の認識論【認識論】【信念対立】
４回　「実践研究」から考える質的研究の意義【観の可視化】
５回　実践者による「実践研究」に内在する当事者性の問題【共在者】
６回　「声」を聴くということ【ライフストーリー研究】
７回　なぜ私は学習者のライフストーリーを聞き続けるのか【構えの記述】
８回　語りから得られる方法から人間のライフに関わる研究へ【物語】
９回　複数の当事者の視点から考える日本語学習支援実践の意味【ライフストーリー分析】
１０回　子どもたちの学びを捉える方法をめぐって
１１回　比喩に込められた認識や信念、その変容を探求する【トライアンギュレーション】
１２回　日本語を母語とする現職日本語教師Ａの「いい日本語教師観」【ＰＡＣ分析】
１３回　日本語教室をいかに描くか【相互行為】
１４回　教室という現場を読み解く【観察法】
１５回　言語学習としての対話の分析【対話の分析】

成績評価の方法　/Assessment Method

発表(レジュメを含む)…50％　参加者としての貢献度…30％　レポート…20％
（主に発表を聞く時）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は、テキストの内容理解と批判的考察によって成り立ちます。そのため、該当する章の予習は、必ず行ってください。
そして、授業後には、毎回授業報告を記録として残します。それをもとにして、復習を行います。

履修上の注意　/Remarks

助け合うことができるような人間関係を日頃から構築する努力をしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学習者オートノミーは、同僚性の中でこそ育つ。

キーワード　/Keywords

日本語教育学　質的研究　自己物語　認識論

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor	門田　彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－１	SEM311M

授業の概要　/Course Description

西洋美術史研究における専門的知識と方法論を学ぶ。
美術史研究を行う上で、作品を丹念に観察することはもちろん、専門の研究書や論文を読破することは非常に重要である。そこで本授業では、西洋美術について書かれた日本語のテキスト（文献）を精読する。テキストは受講者の人数と関心にしたがって選び、数人のグループに分かれ、その内容について補足を交えながら発表してもらう。その後、受講者全員で研究史上の意義と問題点についてディスカッションを行い、検討を加える。
このようにして、さまざまな時代や地域の作品を精読することで美術史研究の基本を身に着けるのが本授業の目的である。また、こうした知識・方法論は、学芸員として働く際の基礎体力にもなる。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス（授業の手順の確認と受講者の関心についての調査）
2回　西洋美術史の文献の調べ方について
3回　西洋美術史概論
4回　研究論文（文献）の発表①
5回　発表①についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
6回　研究論文（文献）の発表②
7回　発表②についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
8回　研究論文（文献）の発表③
9回　発表③についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
10回　研究論文（文献）の発表④
11回　発表④についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
12回　研究論文（文献）の発表⑤
13回　発表⑤についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
14回　研究論文（文献）の発表⑥
15回　発表⑤についての整理、研究市上の意義と問題点をめぐるディスカッション

演習A-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱う論文については受講者全員が事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べること。

履修上の注意 /Remarks

西洋美術の中で関心のある作家や作品についていくつか考えておくこと。（1回目の授業でお聞きします。）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術

演習Ａ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習は、自身の興味関心や問題意識に基づきながら、研究対象となる文学作品を選定し、問題提起を行って、独自の見解を述べる能力を培うことを目的とする。
具体的には、日本の近代短篇小説から１作品を選び、先行研究のまとめを行いながら自分の論点を明らかにした上で、その小説を論じ、討論を行う。

教科書 /Textbooks

取り上げる作品を担当者が準備し、受講者全員に事前に配布する。
（複写のための費用がかかります）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス【本演習の目的の確認、演習担当者の決定】
第２回　教員による模擬演習発表
第３回～１４回　受講生による演習発表【近代短篇小説に関する研究発表】
第１５回　まとめ【演習Ｂ－１に向けて】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習発表内容…５０％　授業への取り組み…５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予告された作品を事前に読み、演習で学んだ事項についての復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

演習担当者は責任を持って準備と発表を行うこと。他の学生は、作品を事前に読み込み、本文についての疑問や読解に関する意見を述べるための事前準備をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本近代文学

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

演習A-1の続き。1学期に習得した知識や研究方法を応用して、課題研究発表と自由研究発表を行い、ドイツ語圏文化に関する理解を深める。

教科書　/Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ドイツ語圏文化の知識・応用編
2回　映像で見るドイツ語圏文化 (近世美術)
3回　映像で見るドイツ語圏文化 (近現代美術)
4回　課題研究発表・第一班
5回　課題研究発表・第二班
6回　課題研究発表・第三班
7回　課題研究追加報告
8回　資料の利用法
9回　インターネットの検索方法
10回　インターネットの利用法
11回　自由研究発表・第一班
12回　自由研究発表・第二班
13回　自由研究発表・第三班
14回　自由研究追加報告
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究発表と授業への参加度・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時間以外にも、ドイツ語圏に関する情報を文献、ニュース、インターネットなどから収集すること。

履修上の注意　/Remarks

必ず独和辞書を持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習Ａ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

日本現代文学の研究方法を習得することが、この授業のねらいです。
具体的に近現代の短編小説を一つ取りあげ、その小説における問題点を指摘するなどしてもらいます。

教科書　/Textbooks

ゼミのガイダンス時に、参加者全員で作成します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回～14回　現代日本の短編小説から好きなものを1つ選び、40～50分程度の研究発表をしてもらいます。残りの時間は質疑応答の時間です。
15回　講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（５０％）、レポート（５０％）により評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に演習で扱う小説を読んで予習しておいてください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

自分の扱う作品だけでなく、他のゼミ生の扱う作品もなるべく読んでくるようにしましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

最初の演習発表ですので、高度なことは要求しません。
文学研究の雰囲気を知ってもらえればと思います。

キーワード　/Keywords

日本現代文学

演習Ａ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

テーマ：日本古代・中世文化の諸問題
日本の古代・中世に関する興味を持つテーマを取り上げ各自発表してもらう。
発表にあたってはテーマに関わる特定のテキストを選んでもらう。
なお、９月にゼミ旅行を実施する予定である。これはこの科目の成績評価の対象になる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の場で適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　発表の概要説明
２回　夏休みレポートについて講評
３回　受講生による研究発表
４回　同上
５回　同上
６回　同上
７回　同上
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　同上
１２回　同上
１３回　同上
１４回　同上
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

発表担当者は事前に十分な発表準備をしておくこと。
発表後、不充分な点があった場合は補足しておくこと。

演習A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

夏休み中にレポートを作成し初回の授業時に提出してもらいます。
研究発表にあたっては、事前に発表内容について報告しチェックをうけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は学生が主役です。意欲的に発表に望み、積極的に発言して下さい。

キーワード /Keywords

日本古代文化、日本中世文化、宗教文化

演習Ａ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　五月女　晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本演習の前半は、先行研究論文の輪読を行う。本年度は、形や描写・画風などから制作年代や描き手を考察している論文（仏画・絵巻など）か、絵画の主題を考察している論文（狩野派・風俗画など）のどちらかを読む予定。
本演習の後半は、各自、卒業論文で中心的に取り上げる予定の作品を決めてもらい、絵画の場合には、描法や画面内容・描写表現を、彫刻の場合には、材質・造法や造形を詳細に紹介する発表を行ってもらう。少なくとも発表の一週間前までには、レジュメの下書きを提出し、チェックを受けて、発表当日までには改善したレジュメを準備しておくこと。これによって、卒業論文のテーマ設定に向けての準備と、美術史学においては必須の能力であるディスクリプションの能力の習得を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。輪読する論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の手順の確認、輪読する論文の決定
２回　先行研究論文の輪読①
３回　先行研究論文の輪読②
４回　先行研究論文の輪読③
５回　先行研究論文の輪読④
６回　先行研究論文の輪読⑤
７回　２～６回を踏まえたディスカッション
８回　博物館あるいは美術館見学
９回　発表およびディスカッション①
10回　発表およびディスカッション②
11回　発表およびディスカッション③
12回　発表およびディスカッション④
13回　発表およびディスカッション⑤
14回　発表およびディスカッション⑥
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表内容…40%　レポート…40%　授業への参加態度…20%

演習A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業で輪読する論文には、事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べた上で授業に臨むこと。
発表者は、事前にレジュメのチェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor　高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

この演習では、一学期に身につけた方法論をベースにして、ゼミ生個々人が自分自身の興味関心に基づいた研究報告を行うことが中心となります。必要に応じて、共同での文献講読・作品批評も行います。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回 イントロダクション
第二回 個人研究報告（１）
第三回 個人研究報告（２）
第四回 個人研究報告（３）
第五回 個人研究報告（４）
第六回 個人研究報告（５）
第七回 文献講読・作品批評（１）
第八回 個人研究報告（６）
第九回 個人研究報告（７）
第十回 個人研究報告（８）
第十一回 個人研究報告（９）
第十二回 個人研究報告（１０）
第十三回 個人研究報告（１１）
第十四回 文献講読・作品批評（２）
第十五回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

個人研究報告は、各自最低でも二回は行います。夏休みの間に、研究テーマをある程度絞り、報告に備えておいてください。また、第二回目の報告では、第一回目の報告時の注意点などをふまえた上で準備をしてください。

演習A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身の研究報告に責任を持つのはもちろんですが、他のゼミ生の報告に対しても真摯に耳を傾け、一緒になって考えるような態度を期待します。

キーワード /Keywords

演習Ａ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんといっしょに語り合いたいと思います。後期は、ゼミ生主体で一冊の長編作品を選んでもらい、その作品を、あるときは速読、またあるときは精読することで、十分に満喫します。問題点について討論をすると同時に、文学批評についても様々なアプローチ方法を取り入れることにより、各自、自分にあった方法を早く見出してもらいたいと思っています。最後に卒論についての説明をし、卒論を書くにあたって方向性をつかんでもらう予定です。作品は主に翻訳を利用しようと考えています。

＊ゼミの目的：　１．自己発見　２．議論のコツのマスター　３．仲間作り
＊ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。
＊ゼミ通信や４年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して３、４年生の交流を図ります。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　扱う長編作品の決定、担当者決め、その他、今後の流れの説明
２回　作品の第１パートの内容確認と議論
３回　作品の第２パートの内容確認と議論
４回　作品の第３パートの内容確認と議論
５回　作品の第４パートの内容確認と議論
６回　作品の第５パートの内容確認と議論
７回　作品の第６パートの内容確認と議論
８回　作品の第７パートの内容確認と議論
９回　作品の第８パートの内容確認と議論
１０回　作品の第９パートの内容確認と議論
１１回　作品の第１０パートの内容確認と議論
１２回　作品の第１１パートの内容確認と議論
１３回　作品の第１２パートの内容確認と議論
１４回　論文の書き方、ノート作りについて
１５回　まとめ

演習A-2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備・・・３０％　レポート・・・５０％　平常点 (発表、討論の参加など)・・・２０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者になった場合は、授業前に議論のための資料や参考文献などを読むなど、下準備をしっかりした上で担当当日に臨んでください。配布資料の準備も必要です。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んでください。授業後は扱った作品に関して各自でテーマを決め、コメントを書いてもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の授業の目的（１．自己発見　２．議論のコツのマスター　３．仲間作り）を達成するためにも、授業への皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間つくり」「自己発見」

演習Ａ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国やカナダの諸問題について各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。また、適宜ディベートを行い、批判的な思考力を養う。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　演習の進め方などについての話し合い。
２回　卒論の書き方などについての説明。
３回　受講者による発表・討議。
４回　受講者による発表・討議。
５回　受講者による発表・討議。
６回　受講者による発表・討議。
７回　受講者による発表・討議。
８回　受講者による発表・討議。
９回　受講者による発表・討議。
１０回　受講者による発表・討議。
１１回　受講者による発表・討議。
１２回　受講者による発表・討議。
１３回　受講者による発表・討議。
１４回　受講者による発表・討議。
１５回　まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への貢献度、発表内容）１００％。ただし出席状況によって減点する場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて参考文献を読み込み、事後に指摘されたことやさらに興味を持ったことについて各自で調べる。

履修上の注意 /Remarks

発表者は必ず、レジュメを作って発表にのぞむこと。

演習A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ａ-２　【昼】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

一学期に引き続き、中国思想史の基本問題を勉強したうえで、各自の勉強成果心得を発表する。それを通じて卒業論文につながる。

教科書　/Textbooks

各自で発表内容に応じて用意する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業ごとに指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　演習の順番、内容、方法を説明。
２回　卒論の書き方の説明と質疑。
３回　発表・討議。
４回　発表・討議。
５回　発表・討議。
６回　総括
７回　発表・討議。
８回　発表・討議。
９回　発表・討議。
１０回　発表・討議。
１１回　総括。
１２回　発表・討議。
１３回　発表・討議。
１４回　発表・討議。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表の結果は７０％、論議への参加度３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

よく図書館を利用して、活字を読むこと。

履修上の注意　/Remarks

好好学習、天天向上。

演習A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前に、指示されたキーワードを調べておくこと。
授業後にはノートを見直し復習すること。

キーワード /Keywords

演習Ａ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

卒業論文作成にあたって、自身の設定した研究テーマについてどのようなアプローチが可能か、ということを前期までに検討しています。夏休みを経て、授業参加者それぞれがどのように知識を深め、アイディアを練り、調査に着手したかを発表し、聴衆との議論を行います。演習での議論をもとに研究テーマの修正や変更があってもよいですし、別の立場からの意見に耳を傾けることにより、研究を深めるためのヒントも得られるはずです。発表者も司会進行も聴衆もみな学生によって運営していただきます。活発な議論を期待します。また、テクストに綿密に即しながら、自由闊達な批評をどのように展開することが出来るか、すぐれた批評の実例を題材に学びます。

教科書　/Textbooks

○高山宏『近代文化史入門』講談社学術文庫、2007 .
○高山宏『夢十夜を十夜で』羽鳥書店、2011
○ウンベルト・ エコ『論文作法』而立書房、1991 .

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫。
○土田ほか『現代文学理論』新曜社、1996 .
○テリー・ イーグルトン『文学とは何か』岩波文庫。
○ラマーン・ セルデン『ガイドブック現代文学理論』大修館書店、1989 .

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション、授業運営と成績評価について
第２回　授業参加者による報告とディスカッション
第３回　授業参加者による報告とディスカッション
第４回　授業参加者による報告とディスカッション
第５回　授業参加者による報告とディスカッション
第６回　授業参加者による報告とディスカッション
第７回　授業参加者による報告とディスカッション
第８回　授業参加者による報告とディスカッション
第９回　授業参加者による報告とディスカッション
第１０回　授業参加者による報告とディスカッション
第１１回　授業参加者による報告とディスカッション
第１２回　授業参加者による報告とディスカッション
第１３回　授業参加者による報告とディスカッション
第１４回　授業参加者による報告とディスカッション
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への参加６０％、ゼミでの報告４０％

演習A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表・報告内容について入念な準備を行うこと。授業後には議論となった問題に関連する文献を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

自分の意見を述べ、論理的に議論をすすめること。自分の関心領域につねにアンテナを張るとともに、隣接領域や自身の研究の参考になる可能性をもつものを貪欲に吸収すること。たくさん本を読み、色々な意見に耳を傾け、すばらしい作品や研究に数多くふれること。議論への積極的な参加が必須。議論を通じて卒業論文の構想を具体的なものにしていきましょう。合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン 文学 文化 批評

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor　福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

演習A-1に引き続き、フランス文化を主要な参照先としながら、文学、映画、美術といった人間の営みに迫ります。2学期も重視するのは、各学生が、フランス文化について知識、理解を深めながら、自分の興味を発見し、それを言葉で他人に伝える力を養うことです。まずは、休暇中に書いてもらう自由研究レポートの内容について口頭発表してもらい、それについてみんなで意見や分析を述べることから始めます。作品が持つ「面白さ」とは何か、各人の答えを徐々に形成していってもらいます。また、研究合宿も行うことがあります。

教科書　/Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

開講時に指示。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回〜１４回　個人発表とディスカッション
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・発表等・・・８０％　平常点・・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自分の発表の前には入念な準備をお願いします。

履修上の注意　/Remarks

発表は複数回まわってくるので、普段からアンテナを立てて自分の興味を探しておくこと。合宿を行うこともある。
授業前に、指示に従って課題に取り組んでおくこと。授業後には、講義内容を要約すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

作者が作品にこめた思い、また、それを作らなければならなかった必然性を受け止め、芸術作品が私たちにとって持つ意味について考えてもらえたらと思います。

キーワード　/Keywords

フランス　文学　記憶　展示　映画　現代美術　モニュメント

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor　堀尾　香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料については、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　演習の運営方針
第２回　卒業論文執筆方法
第３回　先行研究の検証
第４回　用例収集の方法
第５回　各人の発表（１）
第６回　各人の発表（２）
第７回　各人の発表（３）
第８回　各人の発表（４）
第９回　各人の発表（５）
第10回　各人の発表（６）
第11回　各人の発表（７）
第12回　各人の発表（８）
第13回　各人の発表（９）
第14回　各人の発表（10）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表…50%　討議…20%　課題…30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を読んで予習をしてください

演習A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor　前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要 /Course Description

アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究ゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ文学･映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ（人、文化、社会、歴史）の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。卒論執筆に向けた指導も織り込みます。

教科書 /Textbooks

ゼミで取り上げる教材は、ゼミ生と相談し、できるだけ、ゼミ生の意向が反映されるようにします。ちなみに、過去において、映画は、『チャーリーとチョコレート工場』、『モンスターズ・インク』、『シュレック』、『プラダを着た悪魔』、『アイ・ロボット』、『ホリディ』などの内容を議論しました。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『早わかりアメリカ』　302.53　I32
『そうだったのかアメリカ』　302.53 I33
『読んで旅する世界の歴史と文化』　亀井俊介　290.8 Y82
『異文化社会アメリカ』　示村陽一　302.53
『アメリカ合衆国とは何か』　253. Ta45
『アメリカ人の性格』　ゴーラー　書庫にしかない　361.6 G67
『この一冊でアメリカの歴史がわかる』　253.01 Sa69
『アメリカの大衆文化』　亀井俊介　253.07 H85
『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』　302.53 B89
『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21)　253 A44 1-21
『アメリカの歴史　テーマで読む多文化社会の夢と現実』（有賀夏紀）　253 A79
『アメリカ人の思考法』　エドワード･スチュワート　361.42 St5
『文明としてのアメリカ』（全5巻）　日本経済新聞社　302.53
『アメリカの歴史を知るための60章』　富田虎男　253 To58
『アメリカの文化』　現代文明を作った人たち　亀井俊介
『アメリカの社会』　変貌する巨人　猿谷要
『アメリカ文化事典』　亀井俊介　研究社
（すべて図書館蔵書です。）

演習Ａ-２　【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　夏休みレポートの内容を各ゼミ生が発表1
２回　夏休みレポートの内容を各ゼミ生が発表2
３回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論1
４回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論2
５回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論3
６回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論4
７回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論5
８回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論6
９回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論7
１０回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論8
１１回　学生が選択した映画作品に関する発表と議論9
１２回　各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表1
１３回　各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表2
１４回　各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表3
１５回　卒論執筆に関する指導

成績評価の方法　/Assessment Method

発表…40％　夏休み明け提出のレポート…30％　ゼミ参加への積極度…30％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、発表の担当が当たっている場合はＢ４のレジュメを作成しておいて下さい。発表が当たっていない学生も、題材となる映画を文化的側面に注意しつつ、見ておいて下さい。授業後には、発表レジュメを再度読み直し、可能な限りレジュメのテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の充実を図って下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化・大衆文化をテーマとした演習をおこなう。前半は演習A-1をふまえて共有テーマの継続議論をおこなう。後半は、独自の研究対象を決めて、発表・コメント・討議に引き続き取り組む。特に資料調査の技術、プレゼンテーションの技術向上を目指す。本演習は、卒業論文執筆にむけての準備期間として位置づけており、４年生の卒論中間発表の積極的な聴講を求める。なお授業では、合宿形式の演習（発表・議論・交流）が含まれることがある。また、演習の内容を補完するために、学外施設の見学を取り入れる予定。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　グループ討議１
３回　グループ討議２
４回　グループ討議３
５回　グループ討議４
６回　グループ討議５
７回　テーマの総括
８回　個人発表１
９回　個人発表２
１０回　個人発表３
１１回　個人発表４
１２回　個人発表５
１３回　個人発表６
１４回　個人発表７
１５回　まとめ（卒論ガイダンス）

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点…25%　発表…75%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：ワークショップ、個人発表のための素材を常時探しておくこと。
事後：プレゼンテーション、論文作成技術向上のために、演習内容を振り返る。

演習A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は個人発表が中心となるが、小グループのなかでの相談や意見交換も重要な要素として取り込む。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎する。授業外時間においてグループ討議などの準備が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ａ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor	八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
履修年次 /Year	3年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要 /Course Description

韓国仁川広域市立博物館での展示と体験教室のための準備作業と報告および各自の自由課題報告を行う。また4年生の卒論の経過報告を行う。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 10月3日 ガイダンス
第２回 10月10日 体験教室企画
第３回 10月17日 展示テーマ報告①
第４回 10月24日 展示テーマ報告②
第５回 10月31日 展示テーマ報告③
第６回 11月7日 展示解説文報告①
第７回 11月14日 展示解説文報告②
第８回 11月21日 展示解説文報告③
第９回 11月28日 4年生卒論経過報告①
第１０回 12月5日 4年生卒論経過報告②
第１１回 12月12日 4年生卒論経過報告③
第１２回 12月19日 自由課題報告①
第１３回 1月9日 自由課題報告②
第１４回 1月16日 自由課題報告③
第１５回 1月23日 自由課題報告④

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答の内容で100％評価する。
欠席の連絡のない場合は減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表のレジュメの準備や史料の下読みをしておくこと、授業後には発表についての指摘を踏まえてレジュメの手直しを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

学外での活動のための交通費は自己負担とします。

演習A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ａ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

前半は演習Ａ－１での実践を踏まえ、東南アジア諸社会および日本との関係を主題に資料を持ち寄って批判的に検討し意見交換をする。卒業論文のテーマ選定を視野に、資料収集の方法を実践的に学ぶ。学外施設への見学などを通して視野を広げ、フィールドワーク体験も行いたい。後半は卒業論文作成に向けて構想を発表し、ゼミ生同士で互いの関心を共有し、助言しあうとともに、プレゼンテーションの練習も行う。

教科書　/Textbooks

演習内に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

演習内に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、資料収集の仕方
第2回　資料の検討とディスカッション（１）
第3回　資料の検討とディスカッション（２）
第4回　資料の検討とディスカッション（３）
第5回　資料の検討とディスカッション（４）
第6回　資料の検討とディスカッション（５）
第7回　資料の検討とディスカッション（６）
第8回　中間討論と卒論作成ガイダンス（１）
第9回　卒論構想発表（１）
第10回　卒論構想発表（２）
第11回　卒論構想発表（３）
第12回　卒論構想発表（４）
第13回　卒論構想発表（５）
第14回　卒論構想発表(6)
第15回　まとめと卒論作成ガイダンス（２）

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点40％、発表60％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前期と同様、各回の前に指示する資料に目をとおし、追加調査を行い、ゼミの仲間と議論したい点を挙げてくる。演習後は授業内で指示された資料を読み込み、ディスカッションの内容などをより深く理解するよう努める。

演習A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

前期と同様、演習内での議論への積極的な参加を重視するので、事前にテキストを熟読し、疑問点、議論したい点を考えてくること。
新聞、テレビ、インターネットなどを通して実社会で生起する事象に日ごろからよく目配りし、
演習で議論し、学んだことに照らして再考してほしい。扱うテーマを自身の関心にひきつけて主体的に取り組んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文作成を視野に、まずは視野広げ、次第に研究の焦点を絞っていきましょう。

キーワード /Keywords

演習Ａ-２　【昼】

担当者名 /Instructor	渡瀬　淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	2学期	演習	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

古典研究のための基本的な知識と調査方法を身につけ、古典の多様性に触れることを目標とする。

教科書　/Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○片桐洋一『中世古今集注釈書解題』赤尾照文堂
○児玉幸多『くずし字用例辞典』東京堂出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　テキスト配布・担当の振り分け
２回　くずし字の読み方
３回　発表の進め方等の解説
４回　発表と質疑応答
５回　同上
６回　同上
７回　同上
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　同上
１２回　同上
１３回　同上
１４回　同上
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート５０％
平常の学習状況５０％

演習A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として以下の作業をしておくこと。
・くずし字の翻刻
・本文の現代語訳
・担当箇所に出てくる語句などの意味調べ
また、参考文献について事前・事後に指示があった場合は、かならず目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

演習形式で授業を進めるため、積極的な態度で授業に臨むこと。
受講人数、受講者の興味関心によって、取り扱う作品を変更することがある。
場合によっては、ゼミの他に課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。
演習A - 2では、日本語教育という枠から離れて広く教育の研究にはどのようなものがあるのか、どんな方法で行われているのかを幅広く知ってもらいたい、学習者オートノミーの専門書を輪読します。
また、同時に自分がこれまでの人生の中で経験したことを言葉にして表現できるようにするために、TAEを学びます。TAEを用いて自分の内側から自己表現を試みることは、内面的成長を促すことが期待できます。そして、人にとって言葉がどのようなものであるのかの理解が深められます。これは、言語教育を学ぶものにとって必須のことです。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。
①日本語教育実践分野の研究を知る。
②自らの関心を探求しながら自分の関心に適した研究分野を発見する。
③自分が日本語教育実践分野の何に関心を持っているのか言語化を試みる。
④研究について深く知ることに興味を持つ。

教科書　/Textbooks

青木直子他(2011)『学習者オートノミー：日本語教育と外国語教育の未来のために』ひつじ書房
『ことばと文字』6号、2016年、くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○青木直子(2013)『外国語学習アドバイジング：プロのアドバイスであなただけの学習をデザインする』Kindle版
○中田賀之(2015)『自分で学んでいける生徒を育てる：学習者オートノミーへの挑戦』ひつじ書房

その他に日本語教育における先行研究例を適宜紹介します。

演習A-2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　学習者オートノミー：初めての人のイントロダクション
３回　言語学習におけるオートノミー
４回　学習者オートノミーの実践
５回　即興の技
６回　セルフアクセス言語学習
７回　言語学習のためのアドバイジング
８回　そもそも誰の物語なのか？
９回　学校文脈における英語教師の同僚性とオートノミー
１０回　教室を越えた言語学習の場の考察
１１回　学習者オートノミーが第二言語ユーザーを裏切る時
１２回　卒論の研究テーマにしたいこと(1)興味のあることが研究テーマとなるかどうか
１３回　卒論の研究テーマにしたいこと(2)興味のあることが研究テーマとなるために
１４回　卒業論文の研究計画を立てよう
１５回　総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)…50%　参加者としての貢献度…30%　レポート…20%
（主に発表を聞く時）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、予習を前提として行います。テキストの内容理解と批判的考察を行ってください。
また、授業終了後には、授業内容をまとめた報告書を交代で作成してもらいます。復習は、それを使って行います。

履修上の注意 /Remarks

助け合うことができるような人間関係を日頃から構築する努力をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習者オートノミーは、同僚性の中でこそ育つ。

キーワード /Keywords

学習者オートノミー　教師オートノミー　TAE　フェルトセンス

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor	門田　彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	2学期	演習	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ａ－２	SEM312M

授業の概要　/Course Description

西洋美術史研究において必須となる英語文献の精読を行い、専門性の基礎的体力を養ったのち、卒業論文制作に向けての準備に取り掛かる。
前半では、受講者の関心にしたがって、英語で書かれたテキスト（文献）を選び、精読する。その際、数人のグループに分かれ、その内容について補足を交えながら発表してもらい、受講者全員で美術史上の意義と問題点についてディスカッションを行い、テキストの理解を深める。
後半では、各自、卒業論文で取り上げる予定の作品を決め、その先行研究について詳細にまとめ、発表を行う。発表者は、少なくとも発表の一週間前までにはレジュメの下書きを提出し、チェックを受けて、発表当日までに改善したレジュメを準備しておくこととする。これにより、卒業論文のテーマ設定に向けての準備を行う。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス（授業の手順の確認と担当する論文の決定）
2回　研究論文（文献）の発表およびディスカッション①
3回　研究論文（文献）の発表およびディスカッション②
4回　研究論文（文献）の発表およびディスカッション③
5回　研究論文（文献）の発表およびディスカッション④
6回　研究論文（文献）の発表およびディスカッション⑤
7回　研究論文（文献）の発表およびディスカッション⑥
8回　卒論に向けての発表①
9回　卒論に向けての発表②
10回　卒論に向けての発表③
11回　卒論に向けての発表④
12回　卒論に向けての発表⑤
13回　卒論に向けての発表⑥
14回　卒論に向けての発表⑦
15回　まとめ

（なお、前半と後半の授業回数の割合は、受講者の人数によって変更する場合がある。）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　発表内容…60%

演習A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・前半…授業で扱う論文については受講者全員が事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べること。
・後半…発表者は少なくとも一週間前にはレジュメの下書きを提出し、チェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「演習Ａ－１」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術

演習Ｂ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor　生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

本演習では、日本近代文学の研究領域で卒業論文に取り組もうとする者が、論文執筆の前に必要な準備を学び、その準備を実際に行うことを目的とする。

扱う作品を決定した後、精読と共に行わなければいけないことは、先行論文の収集とそのまとめ、そして問題提起である。卒業論文の第一章に該当する準備を、本演習では行っていく。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。演習中に適宜資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　先行論文の収集
第3回　論文の表記（引用と注）
第4回　先行論文の整理
第5回　先行研究史のまとめ
第6回　問題点の抽出
第7回　問題提起の方法
第8～14回　卒論構想発表【学生発表】
第15回　まとめ【演習B-2にむけて】

成績評価の方法　/Assessment Method

演習内容…５０％　授業への取り組み…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に与えられた課題に取り組み、演習に参加すること。演習後は、学んだ内容を踏まえて、それぞれの卒業論文準備に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

春休み期間中に卒業論文で取り扱う作品を決めておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

各人がテーマを設定してドイツ語圏文化研究を進め、その成果を論文にまとめる準備をする。

教科書　/Textbooks

授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　論文のテーマ設定方法
2回　論文のルール
3回　論文の組み立て方
4回　論文テーマ発表
5回　論文テーマに関する討論
6回　資料の収集法と利用法
7回　中間報告会
8回　資料の収集法
9回　資料の活用法
10回　引用の方法
11回　経過報告会
12回　序論の書き方
13回　序論提出
14回　序論添削と討論
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・報告・・ 80%、序論提出20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自ら設定したテーマについて自主的に情報を収集すること。集めた情報はこまめにデータ入力し、卒業論文の素材として使えるように準備すること。

履修上の注意　/Remarks

授業前には各自が設定した課題に取り組んでおくこと。授業後には情報交換で新たに得た情報を整理しておくこと。

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ｂ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor　河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

卒業論文を作成する上での第一歩目となる演習です。
扱う作品は何か、その作品における考えるべき問題は何か、問題に答える上で調べるべき資料は何かなどを、みんなで一緒に考えていきましょう。

教科書　/Textbooks

特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回～14回　各自、扱う作品、作品における問題の所在、問題に答えるべく何を調査すべきかなどについて、現段階で考えていることを報告します。それを受けて、参加者みんなで、問いは妥当か、調査対象は妥当かなど、自由に議論しましょう。
15回　講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（５０％）、レポート（５０％）により評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に可能な限り他の参加者の扱う作品を読み、演習に参加してください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

自分の扱う作品だけでなく、他のゼミ生の扱う作品もなるべく読むようにしましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

文学研究は、面白い問いをたてることができれば、８割がた終わったも同然です。
問いが固まれば自ずと作業も決まり、それを受けて結論も決まります。
最初で頭を大いに使って下さい。

キーワード　/Keywords

日本現代文学

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor	佐藤 眞人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
4年次	2単位	1学期	演習	4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　日本の古代・中世文化を学び研究するにあたって
３回　研究発表に関する説明
４回　研究発表と討議
５回　同上
６回　同上
７回　同上
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　同上
１２回　同上
１３回　同上
１４回　同上
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。
発表内容の不充分な点は後日補足しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords
日本文化、神道、仏教

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor　五月女　晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

卒業論文で考察するテーマを明確に設定し、その問題に関する先行研究論文の紹介と批判を発表形式で行ってもらう。一回の発表につき、少なくとも三本以上の先行研究論文の紹介・批判を行い、それを各自に二回ずつ行ってもらう。少なくとも発表の10日前までには、レジュメの下書を提出し、チェックを受けて、発表当日までに改善したレジュメを準備しておくこと。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の手順の確認
2回　発表準備の進展状況の確認
3回　発表およびディスカッション
4回　発表およびディスカッション
5回　発表およびディスカッション
6回　発表およびディスカッション
7回　発表およびディスカッション
8回　発表およびディスカッション
9回　発表およびディスカッション
10回　発表およびディスカッション
11回　発表およびディスカッション
12回　発表およびディスカッション
13回　発表およびディスカッション
14回　発表およびディスカッション
15回　研修旅行の日程説明、研修旅行における解説担当作品の決定

成績評価の方法　/Assessment Method

発表内容…80%　授業への参加態度…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
発表者は、事前にレジュメのチェックを受けること。

履修上の注意　/Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor　高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

前年度の個人報告をベースにして、具体的な卒論構想の報告を行います。論文の執筆方法などについても、詳しく指導をします。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回 オリエンテーション
第二回 個人研究報告（１）
第三回 個人研究報告（２）
第四回 個人研究報告（３）
第五回 個人研究報告（４）
第六回 個人研究報告（５）
第七回 卒論指導（１）
第八回 個人研究報告（６）
第九回 個人研究報告（７）
第十回 個人研究報告（８）
第十一回 個人研究報告（９）
第十二回 個人研究報告（１０）
第十三回 個人研究報告（１１）
第十四回 卒論指導（２）
第十五回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自分がどのような卒論を書きたいと思っているのか、できるだけ具体的なイメージをふくらませた上で、ゼミで発表して下さい。また、各報告に際しては、報告担当者以外のメンバーも、事前に送付する原稿をきちんと読んできて下さい。

履修上の注意　/Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ここでの卒論構想の報告が、夏休み以降の勉強の土台となります。気を入れて取り組んで下さい。

キーワード /Keywords

演習Ｂ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor　田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんといっしょに語り合います。４年次では、大学４年間の総決算ともいうべき卒論の指導をします。１学期には、９月に行う中間発表を目指して、原則として個別（あるいはグループ）指導で、毎回、各自が発表をすることで、最終的に扱いたいテーマ、作品を決定し、おおまかなレポートを提出してもらいます。この学期は、９月の中間発表に備えて議論を煮詰める、卒論作成の予備段階です。

＊ゼミ通信や４年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して３、４年生の交流を図ります。
＊ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　テーマや作家に応じて３～４名程度のグループ分けをし、前期の方針を確認。
（グループ毎に日程を調整して、毎週集合。）
２回　それぞれのグループのメンバー各自がテーマに沿って課題の成果を発表。
３回　前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
４回　前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
５回　前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
６回　前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
７回　グループ毎の活動を通して卒論題目を決定。
８回　各自、400字程度で論じたい内容をまとめる。
９回　各自コンテンションを考え、お互いに議論をしつつ決定。
１０回　論を膨らますために必要な内容の議論。
１１回　前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
１２回　前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
１３回　前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
１４回　夏休み期間の過ごし方について、また中間発表の準備。
１５回　6000字の中間発表用原稿を仕上げる。

演習B-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（発表、討論の参加など）…50%　卒論の予備レポート…40%　活動への参加度…10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、やるべきことを各自、自主的に決めてもらいます。それに従って、授業前にはその準備を、また、授業後には、みんなからもらったコメントを踏まえて内容を整理し、次回の課題、報告につなげていってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

演習A-1、A-2を通して指示した必要文献、資料を読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間つくり」「自己発見」

演習Ｂ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor	寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
4年次	2単位	1学期	演習	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った報告を行う。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　演習の進め方についての話し合い。卒論の書き方などについての確認。
２回　受講者による発表・質疑応答。
３回　受講者による発表・質疑応答。
４回　受講者による発表・質疑応答。
５回　受講者による発表・質疑応答。
６回　受講者による発表・質疑応答。
７回　受講者による発表・質疑応答。
８回　受講者による発表・質疑応答。
９回　受講者による発表・質疑応答。
１０回　受講者による発表・質疑応答。
１１回　受講者による発表・質疑応答。
１２回　受講者による発表・質疑応答。
１３回　受講者による発表・質疑応答。
１４回　受講者による発表・質疑応答。
１５回　まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への貢献度、発表内容）１００％。ただし出席状況によって減点する場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて参考文献を読み込み、事後に指摘されたことやさらに興味を持ったことについて各自で調べる。

履修上の注意 /Remarks

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習Ｂ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

中国思想史、日中文化交流史に関するテーマを受講生各自に配り、勉強と研究に取り組んでもらい、研究成果を発表させる。

教科書　/Textbooks

使用しない。毎回資料を配る。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『日中交渉史』、山口修著、東方書店1996年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　中国思想史、日中交流史の学習にあたって
３回　研究発表に関する説明
４回　研究発表と討議
５回　同上
６回　同上
７回　同上
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　同上
１２回　同上
１３回　同上
１４回　同上
１５回　同上

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況　…40%、研究発表の結果…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

よく資料を調べるて予習する。先生から指定された本を真剣に読むこと。

履修上の注意　/Remarks

好好学習、天天向上。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords
中国思想史、交流、漢字、儒学、道教、

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

四年次までの学習、研究、読書、調査の成果を元に卒業論文のテーマを設定し、執筆してもらいます。

教科書　/Textbooks

○ウンベルト・エコ『論文作法』而立書房、1991 .

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

個別の学生の関心に併せて適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回　ガイダンス、授業運営について
第二回から第十四回　履修者による経過報告
第十五回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業での議論への参加　50%　日常の研究活動　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、調査、執筆状況についての入念な報告準備をすること。授業後には、指摘された箇所の修正や指示された文献の内容を確認すること。

履修上の注意　/Remarks

合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

適宜必要なアドバイスや提案はしますが、あくまで勉強するのは自分です。計画的に調査・研究を進めてください。

キーワード　/Keywords

スペイン　文学　文化　批評

演習Ｂ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor　福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

３年次のゼミでの成果を活かして、フランス文化を主題とした卒業論文作成のための発表と準備を行う。また、研究合宿を行うこともあります。

教科書　/Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回〜１４回　卒論テーマ案についての発表
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・・５０％　平常点・・５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自分の発表の前には入念な準備をお願いします。

履修上の注意　/Remarks

卒論のテーマ案としていくつかのプランを考えておくこと。
４年生以上を対象とする授業である。合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の興味を発見し、それを論文によって他人に伝える練習をします。作文とは違う、論文の書き方についても学んでもらいます。

キーワード　/Keywords

フランス　文学　記憶　展示　映画　現代美術　モニュメント

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor　堀尾　香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料については、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

演習B-1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　演習の運営方針と発表予定について
第２回　研究論文の書き方
第３回　資料編の作成方法
第４回　模擬発表
第５回　各人の発表（１）
第６回　各人の発表（２）
第７回　各人の発表（３）
第８回　各人の発表（４）
第９回　各人の発表（５）
第10回　各人の発表（６）
第11回　各人の発表（７）
第12回　各人の発表（８）
第13回　各人の発表（９）
第14回　各人の発表（10）
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表…50%　　討議…20%　　課題…30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を読んで予習をしてください。
授業の後に、発表の場で出された意見等を踏まえ、研究内容をブラッシュアップしていってください。

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor　前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要 /Course Description

春休み明けに提出してもらう卒論の構想に対する個別指導を十分な時間をかけて行ないます。構想を十分に練った後に卒論の執筆を開始することが、能率的な卒論作成につながります。また、卒論の大まかな下書きを、早い時期から書き始めることにより、無理のない形で余裕をもって卒論を完成させます。4年次は、就職活動で多忙になるので、ゼミ生の都合に合わせて、個別指導を行ないます。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。卒論執筆に関して疑問が生じた際には、いつでも指導を行います。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。必要に応じて資料をコピーの形で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館２階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー（前田譲治のところ）に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　卒論のテーマの決定に関する個別指導1
２回　卒論のテーマの決定に関する個別指導2
３回　卒論のテーマの決定に関する個別指導3
４回　卒論のテーマの決定に関する個別指導4
５回　卒論のテーマの決定に関する個別指導5
６回　卒論のテーマの決定に関する個別指導6
７回　卒論のテーマの決定に関する個別指導7
８回　卒論の全体的構成に関する個別指導1
９回　卒論の全体的構成に関する個別指導2
１０回　卒論の全体的構成に関する個別指導3
１１回　卒論の全体的構成に関する個別指導4
１２回　卒論の全体的構成に関する個別指導5
１３回　卒論の全体的構成に関する個別指導6
１４回　卒論の全体的構成に関する個別指導7
１５回　夏休み中の課題に関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

春休み明けレポート（卒論構想）…50%　卒論指導の受講状況…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、卒論指導の日時に関してメールでアポを取ってください。また、卒論の構想や下書き等を作成し、指定された時間までに、そのファイルをメールで送付して下さい。授業後は、指導に従って関連書籍を閲覧し、卒論の構想や下書き等に加筆改訂を加えてください。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ｂ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。
また１学期の終了時点で卒業論文の構想・進捗状況についてのレポートを提出してもらう。
３年生との研究上の交流にも積極的な参加が求められる。
なお本授業には、合宿形式の演習が含まれる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　卒業論文作成にむけての発表①
３回　卒業論文作成にむけての発表②
４回　卒業論文作成にむけての発表③
５回　卒業論文作成にむけての発表④
６回　卒業論文作成にむけての発表⑤
７回　卒業論文作成にむけての発表⑥
８回　卒業論文作成にむけての発表⑦
９回　卒業論文作成にむけての発表⑧
１０回　卒業論文中間発表①
１１回　卒業論文中間発表②
１２回　卒業論文中間発表③
１３回　卒業論文中間発表④
１４回　卒業論文中間発表⑤
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（参加態度、課題）…20%　発表…50%　レポート…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：発表者、コメンテータ、司会者の打ち合わせ
事後：次のステップ（進捗状況のレポート、構想発表）にむけて得られた課題をこなす

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業外の時間において、発表にむけての情報収集をまめにおこなってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ｂ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke　/ 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

卒論題目提出のための指導、卒論執筆のための文献目録作成のための指導、火曜2限目の演習A-1の時間に行う個別報告、卒論構想発表のプレ報告を行います。
なお毎月第1、第3火曜日は会議のため火曜3限目以外の時間に行います。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

卒論のテーマを決めるのには以下の文献の論文を参考にしてください
○『岩波講座日本歴史』（新旧２種類）（岩波書店）
○『岩波講座日本通史』（岩波書店）
○『日本の近世』全18巻（中央公論社）

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　4月11日　個別報告プレ報告①
第2回　未定　個別報告プレ報告②
第3回　4月25日　個別報告プレ報告③
第4回　未定
第5回　5月17日　卒論題目指導②
第6回　未定　卒論題目指導③
第7回　5月31日　卒論題目指導④
第8回　未定　卒論構想発表プレ報告①
第9回　6月14日　卒論構想発表プレ報告②
第10回　未定　卒論構想発表プレ報告③
第11回　6月28日　卒論構想発表プレ報告④
第12回　未定　卒論研究史整理①
第13回　7月14日　卒論研究史整理②
第14回　未定　卒論研究史整理③
第15回　7月28日　卒論研究史整理④

演習B-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表および質疑応答の内容・・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表のレジュメの準備や史料の下読みをしておくこと、授業後には発表についての指摘を踏まえてレジュメの手直しを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期のまとめとして夏休み中にレポート（4000字以上）を課します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ｂ-１　【昼】

担当者名 /Instructor　山口　裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

卒業論文作成のための研究と発表を行う。
なお本授業には、学外実習形式の演習が含まれる。

教科書　/Textbooks

各自の必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各自の必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　卒業論文作成にむけての発表①
第３回　卒業論文作成にむけての発表②
第４回　卒業論文作成にむけての発表③
第５回　卒業論文作成にむけての発表④
第６回　卒業論文作成にむけての発表⑤
第７回　卒業論文作成にむけての発表⑥
第８回　卒業論文作成にむけての発表⑦
第９回　卒業論文作成にむけての発表⑧
第１０回　卒業論文中間発表①
第１１回　卒業論文中間発表②
第１２回　卒業論文中間発表③
第１３回　卒業論文中間発表④
第１４回　卒業論文中間発表⑤
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点 (参加態度・課題)　40%　　発表内容　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回研究発表に向けて、調査と執筆を進める。演習の仲間の研究内容についてもコメントを用意する。
演習後は演習内で教員や仲間から受けたコメントと、参照資料についての指示などに基づき、研究と論文の改稿を進める。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

自分の卒論作成のみならず、ゼミの仲間と研究関心を共有し、刺激しあいながら卒論作成を進めていきたいので、
演習前には発表者の草稿を熟読し、コメントで相互に助力してほしい。
そのために、専門外の文献や、実社会で生起する出来事にも広く目配りし、
演習で学んだことに照らして思考を重ねていってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの仲間と助け合い、刺激しあいながら卒論を執筆し、「自分史上最も頑張った一年」にしましょう。

キーワード /Keywords

演習Ｂ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor　渡瀬　淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

卒業論文執筆にむけて、受講者自らの興味関心に基づき、古典文学の問題を追及する。
作品に対する自らの解釈、意見などを演習形式で発表する。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　～　14回　受講者による演習
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の参加態度５０％
演習の内容５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

演習には、十分に担当の作品を読み込み、調査したうえで臨むこと。
自らの発表の時だけでなく、他の受講者の発表であっても事前に内容をさらうなどの予習をしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

場合によっては、通常のゼミの他に課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習Ｂ-１ 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－１	SEM313M

授業の概要　/Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習Ｂ－１では、前半に各自の卒業論文のテーマに沿った発表を行います。そして、後半に卒業論文の構想発表会を行います。卒業論文の研究課題と研究方法を決定することが目標になります。

教科書　/Textbooks

西條剛央(2007)『ライブ講義 質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『実践研究計画作成法 - 情報収集からプレゼンテーションまで』(北原保雄、凡人社)
○『ライブ講義 質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』(西條剛央、新曜社)
○『＜ほんとうの自分＞のつくり方 - 自己物語の心理学』(榎本博明、講談社現代新書)
○『ステップ式質的研究法 - TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)
○『日本語教育のための質的研究入門-学習･教師･教室をいかに描くか』(舘岡洋子編、出版)
○『混合研究法入門 - 質と量による統合のアート』(抱井尚子、医学書院)

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション及び、春休みの課題報告
２回　卒論テーマ：発表者(1)
３回　卒論テーマ：発表者(2)
４回　卒論テーマ：発表者(3)
５回　卒論テーマ：発表者(4)
６回　研究デザインとは何か
７回　研究目的の明確化
８回　概念枠組み
９回　研究課題の決定
10回　研究方法
11回　研究の評価
12回　卒論構想発表：発表者(1)
13回　卒論構想発表：発表者(2)
14回　今後の研究計画
15回　総括及び

成績評価の方法　/Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む)　…　70　%　　授業への取り組み　…　30　%

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究方法を学ぶとともに、実際に自分自身の研究課題について、研究を実行していきます。
授業外での学習·研究がなければ、卒業論文は完成しません。

履修上の注意 /Remarks

参考文献は、適宜紹介します。
授業は、予習を前提として行います。授業終了後には、授業内容をまとめた報告書を交代で作成してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究動機 研究デザイン 研究方法 先行研究 レビュー

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

本演習では、日本近代文学の研究領域で卒業論文に取り組もうとする者が、論文執筆の前に必要な準備を学び、その準備を実際に行うことを目的とする。

先行論文のまとめと問題提起を終えた後は、実際に文学作品の検討に移る。教員は具体的検討の際に必要となる文献収集の方法や方法論についての助言や指導を適宜行う。学生は研究の途中成果をゼミ内で発表し、ゼミ生同士の討議を通して、論を研ぎ澄ましていく。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。演習中に適宜資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2～8回　学生発表①【問題点を再検討するための方法と資料の検討】
第9～15回　学生発表②【再解釈の試み】

成績評価の方法　/Assessment Method

演習内容…５０％　授業への取り組み…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に与えられた課題に取り組み、演習に参加すること。演習後は、学んだ内容を踏まえて、それぞれの卒業論文準備に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

夏休み期間中に準備を進めておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　岩本　真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

各人のドイツ語圏文化研究を論文としてまとめる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　執筆状況報告第一期
2回　第一期報告の添削
3回　論の構成について
4回　資料の用い方について
5回　執筆状況報告第二期
6回　第二期報告の添削
7回　文体修正について
8回　論旨の進め方について
9回　執筆状況報告第三期
10回　第三期報告の添削
11回　注のチェックについて
12回　最終稿報告
13回　最終稿添削
14回　最終稿チェック
15回　論文提出

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・・20%、提出論文80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

執筆状況の報告は口頭だけでなく、卒論の書式でデータファイルを作成し、常に加筆修正を行い、なるべく頻繁にファイルを提出すること。

履修上の注意　/Remarks

授業前には各自が設定した課題に取り組んでおくこと。授業後には情報交換で新たに得た情報を整理しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習Ｂ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

卒業論文を作成する上での最終確認をします。
たてた問いに答えるべく、調べるべき資料は何か、考えるべきことは何かなどを、再度みんなで一緒に考えていきましょう。
その上で、どのような結論が予想されるかを考えていきましょう。

教科書　/Textbooks

特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回～14回　各自、扱う作品における問題に答えるべく調査したこと・考えたことについて、現段階での報告します。また、すでに結論をも出している場合は、その結論についても報告してもらいます。それを受けて、参加者みんなで、調査対象は妥当か、調査に不備はないか、論理に矛盾はないか、どのような結論が予想されるかなど、自由に議論しましょう。
15回　講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（５０％）、レポート（５０％）により評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に可能な限り他の参加者の扱う作品を読み、演習に参加してください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

自分の扱う作品だけでなく、他のゼミ生の扱う作品もなるべく読むようにしましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

いよいよ大詰めですね。
卒業論文はぎりぎりに出すのではなく、１２月中には出せるよう、余裕をもって取り組んでください。

キーワード　/Keywords

日本現代文学

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　研究発表と討議
２回　同上
３回　同上
４回　同上
５回　同上
６回　同上
７回　同上
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　同上
１２回　同上
１３回　同上
１４回　同上
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。
発表後、不充分な点について後日補足しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords
日本文化、神道、仏教

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　五月女　晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

各自に卒業論文の構想発表・中間報告を行ってもらう。自分の発表の10日前までにはレジュメの下書を提出し、チェックを受けて、発表当日までに改善したレジュメを準備しておくこと。
また、卒業論文の書けた部分を随時提出し、その添削・コメントを踏まえながら、卒業論文の完成を目指してもらう。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の手順の説明
2回　発表およびディスカッション
3回　発表およびディスカッション
4回　発表およびディスカッション
5回　発表およびディスカッション
6回　発表およびディスカッション
7回　発表およびディスカッション
8回　博物館あるいは美術館見学
9回　卒業論文進展状況の確認
10回　卒業論文進展状況の確認
11回　卒業論文進展状況の確認
12回　卒業論文進展状況の確認
13回　卒業論文進展状況の確認
14回　博物館あるいは美術館見学
15回　卒業論文執筆報告会

成績評価の方法　/Assessment Method

発表内容…40%　添削・コメントを踏まえて論文の内容が改善されているかどうか…40%　授業への参加態度…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
発表者は、事前にレジュメのチェックを受けること。

履修上の注意　/Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

卒論の進行状況について、実際に執筆した原稿も含めて報告してもらいます。報告に対しては細かな指導を加え、仕上げを目指します。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回 オリエンテーション
第二回 個人研究報告（１）
第三回 個人研究報告（２）
第四回 個人研究報告（３）
第五回 個人研究報告（４）
第六回 個人研究報告（５）
第七回 卒論指導（１）
第八回 個人研究報告（６）
第九回 個人研究報告（７）
第十回 個人研究報告（８）
第十一回 個人研究報告（９）
第十二回 個人研究報告（１０）
第十三回 個人研究報告（１１）
第十四回 卒論指導（２）
第十五回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自分が報告者の際に十分な準備をするのはもちろんですが、他のメンバーの報告に際しても、前もって送付する原稿をきちんと読んでおくことが必要です。

履修上の注意　/Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよラストスパートです。お互いに問題点などを指摘しあって、より良い卒論を目指しましょう。

キーワード /Keywords

演習Ｂ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　田部井 世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんといっしょに語り合います。４年次では、大学４年間の総決算ともいうべき卒論の指導をします。９月の中間発表以降も、原則としてグループ活動になります。お互いに切磋琢磨しつつ、各自の論文をより良いものに仕上げていきます。２学期も、原則１学期に分けた各グループ毎に日程を調整して毎週集まり、中間発表の原稿をお互いに読み合い、コメントを出し合うことで、より客観的で論理的な文章、あるいは説得力のある表現方法を習得し、最終的には自分自身の中間発表原稿を、より完成度の高い卒論に仕上げていきます。

＊ゼミ通信や４年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して３、４年生の交流を図ります。
＊ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　後期の方針の確認。
２回　各グループの第１発表者のプレゼンと議論。
３回　各グループの第２発表者のプレゼンと議論。
４回　各グループの第３発表者のプレゼンと議論。
５回　各グループの第４発表者のプレゼンと議論。
６回　各グループの第５発表者のプレゼンと議論。
７回　各グループの第１発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
８回　各グループの第２発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
９回　各グループの第３発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
１０回　各グループの第４発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
１１回　各グループの第５発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
１２回　卒論の内容要約の作成。
１３回　論集作りについての議論（タイトル、内容、その他）。
１４回　論集作りについての議論（具体的な段取り）。
１５回　最終発表会の準備。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（発表、討論の参加など）…50%　卒論の予備レポート…40%　活動への参加度…10%

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、やるべきことを各自、自主的に決めてもらいます。それに従って、授業前にはその準備を、また、授業後には、みんなからもらったコメント等をもとに内容を整理し、次回の課題に繋げていってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

授業中に提示する様々な文献、あるいは各自で調べた資料、文献など、どんどん読み進めて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間つくり」「自己発見」

演習Ｂ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った発表を行う。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　卒論の進捗状況についての確認。
２回　受講者による発表・質疑応答。
３回　受講者による発表・質疑応答。
４回　受講者による発表・質疑応答。
５回　受講者による発表・質疑応答。
６回　受講者による発表・質疑応答。
７回　受講者による発表・質疑応答。
８回　受講者による発表・質疑応答。
９回　受講者による発表・質疑応答。
１０回　受講者による発表・質疑応答。
１１回　受講者による発表・質疑応答。
１２回　受講者による発表・質疑応答。
１３回　受講者による発表・質疑応答。
１４回　受講者による発表・質疑応答。
１５回　まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への貢献度、発表内容）１００％。ただし出席状況によって減点する場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて参考文献を読み込み、事後に指摘されたことなどを反映しつつ各自で卒論の作成を進める。

履修上の注意 /Remarks

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習Ｂ-２　【昼】

キーワード　/Keywords

演習Ｂ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

中国近代思想史・文化史に関するテーマを受講生各自に配り、その研究に取り組んでもらい、研究成果を発表させる。

教科書　/Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

毎回配る。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　研究発表の説明
２回　研究発表と討議
３回　同上
４回　同上
５回　同上
６回　同上
７回　同上
８回　同上
９回　同上
１０回　同上
１１回　同上
１２回　同上
１３回　同上
１４回　同上
１５回　同上

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況　…40%、発表の結果60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、指示されたキーワードを読んでおくこと。授業後にはノートを見直し復習すること。

履修上の注意　/Remarks

好好学習、天天向上。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords
中国近代、留学生、文化交流、

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

四年次までの学習、研究、読書、調査の成果を元に卒業論文のテーマを設定し、執筆してもらいます。

教科書　/Textbooks

○ウンベルト・エコ『論文作法』而立書房、1991 .

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

個別の学生の関心に併せて適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回　ガイダンス、授業運営について
第二回から第十四回　履修者による経過報告
第十五回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業における議論への参加　50%　日常の研究活動　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、調査、執筆状況についての入念な報告準備をすること。授業後には、指摘された箇所の修正や指示された文献の内容を確認すること。

履修上の注意　/Remarks

合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

適宜必要なアドバイスや提案はしますが、あくまで勉強するのは自分です。計画的に執筆しましょう。

キーワード　/Keywords

スペイン　文学　文化　批評

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　福島　勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

卒業論文作成のための中間発表と最終点検を行う。また、研究合宿を行うこともあります。

教科書　/Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回〜７回　卒論中間発表
８回〜１５回　卒論執筆の点検

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・・５０％　平常点・・５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自分の発表の前には入念な準備をお願いします。

履修上の注意　/Remarks

中間発表ができるところまで、卒論の準備をしておくこと。
４年生以上を対象とする授業である。合宿を行うこともある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の興味を発見し、それを論文によって他人に伝える練習をします。作文とは違う、論文の書き方についても学んでもらいます。

キーワード　/Keywords

フランス　文学　記憶　展示　映画　現代美術　モニュメント

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　堀尾　香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料については、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

演習B-2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　演習の運営方針と発表予定について
第２回　研究論文の書き方
第３回　資料編の作成方法
第４回　模擬発表
第５回　各人の発表（１）
第６回　各人の発表（２）
第７回　各人の発表（３）
第８回　各人の発表（４）
第９回　各人の発表（５）
第10回　各人の発表（６）
第11回　各人の発表（７）
第12回　各人の発表（８）
第13回　各人の発表（９）
第14回　各人の発表（10）
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表…50%　　討議…20%　　課題…30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を読んで予習をしてください。
授業の後に、発表の場で出された意見等を踏まえ、研究内容をブラッシュアップしていってください。

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要 /Course Description

4年前期に確定した研究テーマを、卒論の形に結実させるべく、卒論に関する個別指導を、時間をかけて繰り返し行います。具体的には、夏休み明けに提出してもらう卒論の下書きに対して、どこをどのように改訂すべきなのか、どのような加筆をさらに行わなければならないのかといった、詳細な指導を行います。個別指導の日時は、ゼミ生の都合に合わせます。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。指導に沿って卒論の下書きを継続的に改訂することにより、無理なく卒論が完成するよう工夫したいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。必要に応じて資料をコピーの形で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館２階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー（前田譲治のところ）に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。卒論執筆の際に必要と思われる書物に関しては、個別指導の中で各人に教示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　章レベルでの個別指導1
２回　章レベルでの個別指導2
３回　章レベルでの個別指導3
４回　章レベルでの個別指導4
５回　章レベルでの個別指導5
６回　段落レベルでの個別指導1
７回　段落レベルでの個別指導2
８回　段落レベルでの個別指導3
９回　センテンスレベルでの個別指導1
１０回　センテンスレベルでの個別指導2
１１回　センテンスレベルでの個別指導3
１２回　単語レベルでの個別指導1
１３回　単語レベルでの個別指導2
１４回　形式に関する個別指導
１５回　提出前の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

夏休み明けレポート…50%　卒論指導の受講状況…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、卒論指導の日時に関してメールでアポを取ってください。また、卒論の下書きを指導に沿って改訂したのちに、指定された時間までに、そのファイルをメールで送付して下さい。授業後は指導に従って、卒論テーマの関連書籍を閲覧し、卒論の下書きに加筆訂正を加えてください。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。
各自のテーマを引き続き深めて卒業論文の作成のための準備をする。
演習A-2と連動したグループ討議もおこなう。
なお本講義には合宿形式の演習を含む。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　卒業論文作成にむけての発表①
３回　卒業論文作成にむけての発表②
４回　卒業論文作成にむけての発表③
５回　卒業論文作成にむけての発表④
６回　卒業論文作成にむけての発表⑤
７回　卒業論文作成にむけての発表⑥
８回　卒業論文作成にむけての発表⑦
９回　卒業論文作成にむけての発表⑧
１０回　卒業論文中間発表①
１１回　卒業論文中間発表②
１２回　卒業論文中間発表③
１３回　卒業論文中間発表④
１４回　卒業論文中間発表⑤
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点…20%　　レポート・発表…80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：発表者、コメンテーター、司会者の打ち合わせ
事後：卒論作成のために、得られた課題をこなす

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし。授業前には、卒業論文のための資料、レジュメの作成を十分におこない、各自指示された作業をおこなってからのぞむこと。授業後には、討議内容をふまえた課題に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要 /Course Description

１学期に演習Ｂ－１で卒論の題目を決定した人が、卒論執筆の経過報告を行い、指導を受ける時間です。

火曜２限目の３年生の演習A-2とは別に卒論の指導を行います。
12月に３年生の演習A-2の時間に卒論の中間報告をしてもらいます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究史と史料を各自で探して文献目録を作成、提出してもらいます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　未定　ガイダンス
２回　10 月10日　卒論指導①
３回　未定　卒論指導②
４回　10月24日　卒論指導③
５回　10月31日　卒論指導④
６回　未定　卒論指導⑤
７回　11月14日　卒論指導⑥
８回　未定　卒論中間報告プレ報告①
９回　11月28日　卒論中間報告プレ報告②
１０回　未定　卒論中間報告プレ報告③
１１回　12月12日　卒論指導⑦
１２回　未定　卒論指導⑧
１３回　未定　卒論の最終チェック（希望者のみ）
１４回　1月16日　演習A - 2の時間に行う
１５回　1月23日　演習A―2の時間に行う

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告状況で100％評価する。
欠席の連絡が無い場合は減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表のレジュメの準備や史料の下読みをしておくこと、授業後には発表についての指摘を踏まえてレジュメの手直しを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

卒業論文完成に向けて、引き続き研究と発表を行い考察を深めながら執筆を進めていく。
本授業には学外実習形式の演習も含む。

教科書　/Textbooks

各自の必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各自の必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　卒業論文の中間発表①
第３回　卒業論文の中間発表②
第４回　卒業論文の中間発表③
第５回　卒業論文の中間発表④
第６回　卒業論文の中間発表⑤
第７回　卒業論文の中間発表⑥
第８回　卒業論文の中間発表⑦
第９回　卒業論文の中間発表⑧
第１０回　中間討論
第１１回　卒業論文仕上げ①
第１２回　卒業論文仕上げ②
第１３回　卒業論文仕上げ④
第１４回　卒業論文仕上げ⑤
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点 (参加態度、課題) 30%　　発表内容　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回研究発表に向けて、調査と執筆を進める。演習の仲間の研究内容についてもコメントを用意する。
演習後は演習内で教員や仲間から受けたコメントと、参照資料についての指示などに基づき、研究と論文の改稿を進めて仕上げていく。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

前期に引き続き、ゼミの仲間と研究関心を共有し、刺激しあいながら卒論を完成させたいので、
演習前には発表者の草稿を熟読し、コメントで相互に助力してほしい。
そのために、専門外の文献や、実社会で生起する出来事にも広く目配りし、
演習で学んだことに照らして思考を重ね執筆を進めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの仲間と助け合い、刺激しあいながら卒論を完成させ、「自分史上最も頑張った一年」にしましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor　渡瀬　淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

卒業論文執筆にむけて、自らの興味関心に基づいて、古典文学の問題を追及する。
自らの設定した問題について、演習形式で発表する。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　～　14回　演習
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の参加態度　５０％
演習の内容　５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

演習の際には十分に作品を読み込み、調査をしたうえで臨むこと。
自分の発表だけでなく、他の受講者の発表の場合も、事前に内容をさらうなど、予習を欠かさないこと。

履修上の注意　/Remarks

場合によっては、ゼミの他に課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習Ｂ-２ 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ｂ－２	SEM314M

授業の概要　/Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。
　演習Ｂ－２では、前半に卒業論文の中間報告を行います。そして、後半に卒業論文の提出後、研究成果発表会を行います。

教科書　/Textbooks

○西條剛央(2008)『ライブ講義質的研究とは何か：ＳＣＱＲＭアドバンス編』新曜社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○西條剛央(2008)『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社
○二通信子他(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・ 論文表現ハンドブック』東京大学出版会
○舘岡洋子編(2015)『日本語教育のための質的研究入門-学習･教師･教室をいかに描くか』ココ出版
過去の卒業論文

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション及び、夏休みの経過報告
２回　中間発表：発表者(1)
３回　中間発表：発表者(2)
４回　論文の書き方(1)：全体
５回　論文の書き方(2)：序論と結論
６回　論文の書き方(3)：本論
７回　個別研究指導(1)
８回　個別研究指導(2)
９回　個別研究指導(3)
10回　個別研究指導(4)
11回　論文完成前の点検(1)論の展開、構成
12回　論文完成前の点検(2)校正
13回　卒論発表の準備
14回　卒論発表会
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む)　…　70　%　　授業への取り組み　…　30　%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

論文の書き方を学びながら、実際に執筆を行います。
指定された期日までに、原稿を書いてくることが必須の条件になります。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

参考文献は、適宜紹介します。
授業は、予習を前提として行います。授業終了後には、授業内容をまとめた報告書を交代で作成してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究デザイン 研究動機 研究意義 研究課題 研究方法 論文

比較文化入門１（日本）【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
入門科目

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化の諸領域を学ぶ際の前提となる基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化の諸領域に関する研究方法の基礎を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	日本文化の諸領域に関する問題提起を行い、考察結果を小論文形式で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較文化入門1（日本）	SEM111M

授業の概要　/Course Description

講義形式の回と少人数のクラスに分かれたクラスセミナーの回で構成されます。講義形式の回では、日本文化関係の教員が専門領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。クラスセミナーの回では、図書館研修やレポートの書き方の学習などを通 して、大学生としての基礎的な能力を身に付けるとともに、少人数の演習形式の授業の準備をします。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

図書館の「比較文化入門・指定図書コ ーナー」に、各教員の推薦図書を設置し ています。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　比較文化への招待
第　２回　クラスセミナー
第　３回　講義１
第　４回　講義２
第　５回　クラスセミナー
第　６回　講義３
第　７回　講義４
第　８回　クラスセミナー
第　９回　講義５
第１０回　講義６
第１１回　講義７
第１２回　講義８
第１３回　クラスセミナー
第１４回　講義９
第１５回　クラスセミナー（レポート指導・学習指導）

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート１００％。授業の欠席は減点の対象になります。クラスセミナーでの参加態度を加味します。
・ レポートは２つ課されます。２つとも 提出しなければ、評価の対象となりませ ん。
・ 各学期５回以上欠席した場合、もしく はクラスセミナーを２回以上欠席した場 合も、評価の対象となりません。遅刻の 取り扱いなどを含め、詳細は初回の授業 で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に読むべき作品等を指定することがあるので、その予習を行うこと。
クラスセミナーで配布された資料は２学期の授業に必要になるので、授業後もよく読んでおくこと。

比較文化入門１（日本）【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業計画は若干変更になる可能性があります。
初回の授業で詳細なスケジュールや成績 評価の方法をお知らせしますので、必ず 出席してください。
授業前に可能な限り各教員の推薦図書を読み、各領域に関する学習をしておいてください。
また、授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較文化

比較文化入門２（欧米）【昼】

担当者名 /Instructor	高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	欧米文化の諸領域を学ぶ際の前提となる基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	欧米文化の諸領域に関する研究方法の基礎を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	欧米文化の諸領域に関する問題提起を行い、考察結果を小論文形式および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較文化入門２（欧米）	SEM112M

授業の概要　/Course Description

講義形式の回と、少人数のクラスに分かれたクラスセミナーの回で構成されます。

講義形式の回では、欧米・アジア文化関係の教員が専門領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。クラスセミナーの回では、演習形式で全員が発表を行い、意見交換をします。その中で３年次からの演習（ゼミ）や卒業論文作成の基礎を身に付けます。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

使用しない（ただし、図書館には各担当教員の推薦図書が設置してあるので、必要に応じて参考にすること）。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　クラスセミナー　各クラス担当教員
2回　講義1
3回　講義2
4回　講義3
5回　クラスセミナー　各クラス担当教員
6回　講義4
7回　講義5
8回　クラスセミナー　各クラス担当教員
9回　講義6
10回　講義7
11回　クラスセミナー　各クラス担当教員
12回　講義8
13回　講義9
14回　クラスセミナー　各クラス担当教員
15回　まとめ　各クラス担当教員

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%、発表50%。授業の欠席は減点の対象となります。クラスセミナーでの参加態度を加味します。
・レポート提出と発表の両方を満たさなければ、評価の対象となりません。
・各学期5回以上欠席した場合、もしくはクラスセミナーを2回以上欠席した場合も、評価の対象となりません。
遅刻の取り扱いなどを含め、詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

クラスセミナーでは担当教員が進行状況に応じて指示を行うので、それに従うこと。

比較文化入門２（欧米）【昼】

履修上の注意　/Remarks

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。
授業前にスケジュール表と「比較文学科案内」を確認しておくこと。授業後には配布された資料をよく読みなおしておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

欧米文化概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

担当者名 /Instructor
高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科, 田部井　世志子 / Yoshiko TABEI / 比較文化学科
門田　彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	欧米文化を理解するための基礎知識を修得している。
技能	専門分野のスキル	●	欧米の多様な文化領域の研究方法の基本を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	欧米文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

欧米文化概論	ARE161M

授業の概要　/Course Description

英米文化（欧米文化）を理解するのに、避けては通れない「三種の神器」があります。Greek Mythology（ギリシア神話）、Christianity（キリスト教）、そしてMother Goose　(or Nursery Rhymes：マザーグースあるいは伝承童謡、わらべ唄) の３つです。これらは英米（欧米）の様々な文化現象（新聞、雑誌、映画、文学、歌などなど）の中に、誰もが知っていて当然のこととして内在していることがよくあります。

例えば、日本でも人気の《ミロのヴィーナス》や《ヴィーナスの誕生》といった「ヴィーナス」を表した作品は、ギリシア神話に出てくる女神を描いたものです。これらの作品をきちんと理解して味わうためには、ギリシア神話の基礎知識が不可欠です。

また西洋美術の理解には、キリスト教の知識も欠かせません。そもそも、殆どの西洋人が何らかの形で「神」を信じていた19世紀までは、美術に限らずあらゆる文化活動の背後には「神」の影があったのです。もちろん現代にいたるまで、キリスト教信仰は欧米社会に大きな影響力を及ぼしており、知らずにはすまされないことが沢山あります。

さらには伝承童謡についても、例えば『鏡の国のアリス』にハンプティ･ダンプティが登場していますが、伝承童謡でおなじみの卵としてのハンプティ･ダンプティを知らなくては『アリス』の物語の面白さは半減してしまいます。

幼い頃から日々の生活の中にこういった「三種の神器」が沁み込んでいる英（欧）米の文化を本当の意味で理解するのは、これらになじみのない我々日本人にとっては甚だ厄介なことです。そこで、本講義ではこれら３つに焦点を当て、その間隙を少しでも埋めることで、異文化理解の礎を築きます。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。
①欧米文化を理解するための基礎知識を習得する。
②欧米文化の多様な文化領域の研究方法の基本を習得する。
③欧米文化の諸領域に対する関心を深める。

教科書　/Textbooks

プリントを適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

トマス･ ブルフィンチ『「完訳　ギリシア･ ローマ神話(上･ 下)』(角川文庫)
○オウィディウス『変身物語』（岩波文庫）
三浦篤『まなざしのレッスン　①西洋伝統絵画』（東京大学出版会）
○池澤夏樹『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』（小学館文庫）
○The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes　（Oxford）

欧米文化概論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　導入、ギリシア神話について
２回　ギリシア神話由来の言葉
３回　美術から読み解くギリシア神話（ヴィーナスをめぐって）
４回　美術から読み解くギリシア神話（神々の王ゼウスをめぐって）
５回　美術から読み解くギリシア神話（さまざまな神々の表現）
６回　キリストの誕生 / キリスト教の誕生（キリスト教と聖書）
７回　マリア信仰とキリスト教（キリスト教とジェンダー）
８回　科学と宗教の相克（近代とキリスト教）
９回　キリスト教と現代欧米社会（現代における宗教の意義）
１０回　Mother Goose の成り立ちと概略
１１回　Let’s play with Mother Goose　(1)　Humpty Dumpty　他
１２回　Let’s play with Mother Goose　(2)　Mary Had a Little Lamb　他
１３回　Mother Goose の影響（『不思議の国のアリス』や萩尾望都などへの影響）
１４回　Mother Goose と日本の伝承童謡　（アンケート）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・・・ 35％
試験・・・・・・ 65％
（講義に三分の二以上出席していなければ学期末試験を受けることはできません。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で配布する資料は、当該授業の復習、および次回授業の予習として、よく読んでおいてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

「三種の神器」「ギリシア神話」「キリスト教」「ユダヤ教」「宗教紛争」「マザーグース」「伝承童謡」

比較文学概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

担当者名 /Instructor　谷口　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及び欧米をはじめとする地域の文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本と欧米のいずれかに軸足を置きながら、文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文学と欧米文学をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較文学概論	LIT100M

授業の概要　/Course Description

本講義では、比較文学研究の発展の歴史を概観した上で、比較文学に関する基礎的な知識と方法論の導入を行います。その上で、比較文学研究の具体的な例として、いくつかの作品（小説、児童文学、アニメ、マンガなど）を取りあげ、国や時代やジャンルおよびメディアなどの異なる複数の作品に見られる共通のテーマやモチーフ、影響関係、さらには、作品間の共通点や相違点の比較対照、翻訳、異文化接触の問題などについて考察し、比較文学に関する知識と理解を深めます。

教科書　/Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：　比較文学とは何か、比較文学の歴史と現状
第２回：　比較文学の目的と意義
第３回：　比較文学の方法論
第４回：　比較文学の実践---国：概論
第５回：　比較文学の実践---国：具体例の考察
第６回：　比較文学の実践---時代：概論
第７回：　比較文学の実践---時代：具体例の考察
第８回：　比較文学の実践---テーマ・モチーフ：概論
第９回：　比較文学の実践---テーマ・モチーフ：具体例の考察
第１０回：　比較文学の実践---ジャンル：概論
第１１回：　比較文学の実践---ジャンル：具体例の考察
第１２回：　比較文学の実践---翻訳：概論：
第１３回：　比較文学の実践---翻訳：具体例の考察
第１４回：　比較文学の実践の総括、比較文学の意義
第１５回：　試験

☆授業の進行状況などにより変更が生じる可能性もあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

試験：　８０％
授業中の課題など：　２０％

比較文学概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業前に、指示に従って準備を行っておいてください。課題については、授業中にお伝えします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学、比較、対照、影響、差異、共通性、翻訳、テーマ、受容、変容、異文化接触、異文化理解

日本文化概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

担当者名 /Instructor　河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の文化について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本に軸足を置きながら、文化の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化概論	JPS110M

授業の概要　/Course Description

この講義では、日本の現代文化の研究の仕方について話します。
一口に「文化」と言っても、漫画や映画、身体的な所作、考え方や価値観、そして障害や性別といった属性に関するものまで、様々です。それぞれの研究対象の性質や、おかれている状況等を考えた上で、説得力のある研究の仕方を検討するという、文化研究の手つきを学ぶことが、授業のねらいです。

教科書　/Textbooks

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

小谷野敦『日本文化論のインチキ』（2010年5月　幻冬舎）
その他の参考書については、授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　文化人類学における「文化」の考え方
３回　なぜサブカルチャーを研究するのか
４回　サブカルチャー研究概観（現代の欧米を中心に）
５回　現代日本のサブカルチャー研究について
６回　小テスト
７回　日本における電話の文化概観
８回　第二次大戦後の電話による共同体
９回　現在の電話文化
１０回　性別にかかわる文化概観
１１回　ジェンダー、セクシュアリティについて
１２回　男「らしく」、女「らしく」振る舞うこと（問題点の整理）
１３回　「らしく」振る舞うことの問題解決への考え方
１４回　小テスト
１５回　講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（７０％）、レポート（３０％）により評価します。

日本文化概論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に参考書を読むことをお勧めします。
素朴な本質論で文化を考えないという、文化研究の出発点となるかと思います。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

私語や教室の出入りなど、講義の邪魔になるようなことは慎んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１年生向けの授業ですので、できるだけ分かりやすくお話ししたいと思います。

キーワード　/Keywords

文化研究、文化人類学、サブカルチャー、電話、ジェンダー、セクシュアリティ、「らしさ」

文化交流史 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke　/ 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高等学校までに修得した日本史と世界史（ヨーロッパ・イスラム・中国・朝鮮）の知識を確認する。
技能	専門分野のスキル	●	日本史と世界史の知識を連携して運用することができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

文化交流史	HIS100M

授業の概要　/Course Description

１．「文化」と「交流」の意味を考える
２．「日本史」「世界史」の枠を越えて歴史の知識がどのように結びつくのかを見る
３．歴史を時間ではなく空間における変化として捉える
４．「もの」が人間の歴史に果たした役割を理解する
５．味覚・視覚・嗅覚などの感覚から歴史を見る

教科書　/Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○アンドレ・G・フランク『リオリエント』（藤原書店2000年）
○生田滋『大航海時代とモルッカ諸島』（中公新書1998年）
○山田憲太郎『香料の歴史』（紀伊国屋新書1994年）
○村井章介『世界史の中の戦国日本』（ちくま学芸文庫2012年）
○トム・スタンデージ『世界を変えた６つの飲み物』（インターシフト2007年）
○W・シヴェルブシュ『楽園・味覚・理性』（法政大学出版局1988年）
○臼井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』（中公新書1992年）
○武田尚子『チョコレートの世界史』（中公新書2010年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）
１回　ガイダンス　【社会革命】とは
２回　文化交流としての「ルネサンスの三大発明」①・・・火薬・羅針盤
３回　文化交流としての「ルネサンスの三大発明」②・・・活字
４回　【香料革命】①香料とは
５回　【香料革命】②宋代の中国と【香料革命】
６回　【香料革命】③ヨーロッパの【香料革命】
７回　【香料革命】④１４・１５世紀におけるヨーロッパの食文化
８回　大航海時代
９回　【価格革命】と【銀革命】
１０回　大航海時代と【鉄砲革命】①鉄砲伝来
１１回　大航海時代と【鉄砲革命】②火薬の製造
１２回　大航海時代と【鉄砲革命】③塩年貢と在村鉄砲
１３回　ヨーロッパの【嗜好品革命】①コーヒー
１４回　ヨーロッパの【嗜好品革命】②チョコレート
１５回　まとめ

文化交流史 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業レポート…50%　筆記試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の注意を行うので必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード　/Keywords

世界の文化遺産 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

担当者名 /Instructor　山口　裕子 他

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本を含めた多様な世界の文化遺産の価値を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	文化遺産の歴史的意義と、今日的な問いかけを理解している。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	異文化の様々な形態を認識できるように関心を維持する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

世界の文化遺産	ARE190M

授業の概要　/Course Description

人類の誕生以来、この地球上の各地で、人間集団がそれぞれ独自の文明や文化の多様な形態を創造してきました。この授業では主に専任の教員がそれぞれの専門領域の視点から、日本及び世界各地の文化遺産を取り上げます。教室にいながらの「旅」です。旅は「人を考える人間にする」と言いますが、文化遺産を歴史の中に位置づけ、その意義や、それが今日の私たちに伝えるメッセージを読み解くことを目指します。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。それぞれの担当者が資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

図書館のAVルームに世界遺産などのDVDがありますので、テーマによっては事前に、あるいは事後に活用することもできます。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　特別講義：世界遺産のある街　北九州市
3回　アメリカ独立革命の歴史と世界遺産
4回　特別講義：世界文化遺産で見るポルトガルの歴史と風土
5回　多民族社会アメリカの歴史と世界遺産
6回　フランの文化資源
7回　世界のダンス文化
8回　『ドン・キホーテ』の世界を行く
9回　ガウディ建築をめぐって
10回　奈良・興福寺「阿修羅立像」をめぐって
11回　兵庫・浄土寺浄土堂「阿弥陀三尊立像」(快慶・作) をめぐって
12回　不の遺産としての世界遺産ー歴史から何を学ぶのか？
13回　オランダの歴史と世界遺産
14回　東南アジアの歴史と宗教遺跡の文化遺産化
15回　東南アジアの文化の資源化とナショナリズム

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート2本の内容。50点＋50点で評価する。ただし、出席状況により減点することがある。5回以上欠席の場合は、評価の対象とはしない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、それぞれのテーマに関する基本的知識について事典の類やインターネットで事前に調べておくと理解が深まります。また授業後にはノートを整理し、講義内に支持された参考資料を活用して復習しましょう。

履修上の注意　/Remarks

上記のとおり、予習復習をしっかり行い、レポート作成にむけて最善の備えをしてください。比較文化入門と同じく、5回以上欠席すると評価対象になりません。

世界の文化遺産 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較文化概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

担当者名 /Instructor　高山　智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科, 山口　裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	文化比較という方法の歴史、問題点などについて幅広い知識を得る。
技能	専門分野のスキル	●	文化を比較するための基本的な態度・方法論を習得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	文化を比較することを通じて世界の様々な文化に対する理解を深める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較文化概論	ARE160M

授業の概要　/Course Description

「文化」を「比較」するということは、一見するとたやすい作業に思えるかもしれませんが、実のところそれは、極めて複雑で厄介な作業です。まずもって「文化」という言葉そのものが実に多義的であり、「比較」するためにはまず「文化」の意味を確定することから始める必要があります。

もちろん「比較」する作業も様々な問題を抱えています。「比較」するそれぞれの「文化」のどこに、どのように光をあてるのかによって、「比較」を通じて見えるものは、全く異なってくるでしょう。

また、多様な「文化」が、それぞれ固有の価値を持つのはもちろんですが、それらの価値は歴史的・社会的な要因に規定されるため、それぞれを平等に「比較」することは簡単なことではありません。ある「文化」が他の「文化」に優越するといったことが、現実には常に起こっているのです。そうしたことも考えなければ、十分な「比較文化」をすることはできないでしょう。

以上のことをふまえ、この授業では、「文化」や「比較」ということのそもそもの意味を問いつつ、具体的な「比較文化」の方法を、実例を提示しながら検討していきます。さらには、現代世界が抱えている「文化」をめぐる様々な問題にも、「比較文化」という観点からアプローチしていくつもりです。

教科書　/Textbooks

特になし（必要に応じてレジュメを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『文化とは何か』（テリー・イーグルトン）、松柏社
○『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』（ガイ・ドイッチャー）、インターシフト
○『オリエンタリズム 上・下』（エドワード・W・サイード）、平凡社

比較文化概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回：イントロダクション〜「文化」とは何か
第二回：比較文化の前提① 人間は他の動物と何が違うか
第三回：比較文化の前提② 「イヌ」という動物は存在するか
第四回：比較文化の前提③ 「エスニック料理」って何料理？

第五回：比較文化の実践① 違和感や誤解から比較文化へ
第六回：比較文化の実践② 非言語コミュニケーション
第七回：比較文化の実践③ 「食文化」の比較とは？
第八回：比較文化の実践④ シンボルとイメージ

第九回：比較文化の方法① フィールドワークの可能性
第十回：比較文化の方法② 「語り」を聞く
第十一回：比較文化の方法③ 通時的比較と共時的比較
第十二回：比較文化の方法④ 継続する対話としての比較文化

第十三回：比較文化の現代的課題① 日本文化」は存在するか
第十四回：比較文化の現代的課題②「異なる文化」は共存できるか
第十五回：比較文化の現代的課題③「フラット化」する世界、断片化する世界

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：70％ 授業への取り組み：30％
（講義に三分の二以上出席していなければ学期末試験を受けることはできません。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布された資料をよく読み、授業前後によく予習、復習をしてください。特に講義内で指示された参考資料にも積極的に目をとおして、講義の内容をより深く理解するよう努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門的な講義ではありますが、抽象的な事柄も多く含んだ「骨のある」内容となる予定です。心して受講して下さい。

キーワード /Keywords

多文化社会、グローバリゼーション、エスニシティ、フィールドワーク

メディア文化概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	メディアについての基礎的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	メディアを研究するうえでの基礎的な方法を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	生活のなかのメディアに注意をむけて問題意識をもとうとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

メディア文化概論	MCC110M

授業の概要　/Course Description

我々の生活は、様々なモノや表現によって媒介されて成り立っている。この授業では、「メディア」という概念が含み込んでいる視点を、講義するなかでメディア論的な思考を獲得することを目指す。　個人の生活あるいは集団生活がどのようなメディアの仕掛けのもとに成立しているのかを批判的に見直すことが目標となる。以下の予定内容以外に、日常の生活環境を見つめ直すためのトピックを随時挿入する。そのため、スケジュールは便宜的であり、順序の変更もありうる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）
第１回　ガイダンス　メディアは「当たり前」をつくる
第２回　メディア論事始め①メディアは身体の拡張である【M.マクルーハン】
第３回　メディア論事始め②メディアはメッセージである【メディア論】
第４回　メディア論事始め③メディアには「カタチ」がある【物質性】
第５回　メディア史①　メディアには「歴史」がある【文明史】【声】【文字】【印刷】
第６回　メディア史②　メディアの誕生・ 社会化①【初期映画】
第７回　メディア史③　メディアの誕生・ 社会化②【活動写真】【トーキー】
第８回　メディア史④　メディアの誕生・ 社会化③【電話】【家庭】【個人】
第９回　メディア史⑤　メディアの誕生・ 社会化④【携帯電話】
第10回　メディア史⑥　メディアの誕生・ 社会化⑤【レコード】【ラジオ】
第11回　メディア史⑦　メディアの誕生・ 社会化⑥【ウォークマン】
第12回　研究の視点①　メディアは「一体感」をつくる【メディアイベント】
第13回　研究の視点②　メディアは理解 / 誤解を生む①　【エンコーディング・ デコーディング】【S.ホール】
第14回　研究の視点③　メディアは理解 / 誤解を生む②【オーディエンス】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点 (コメントカード、課題など) …25%　学期末レポート75%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：各回の受講準備として、それまでの講義内容のメモ・ ノートを必ず見直しておくこと。
　　次の回の内容予告をするので、身の回りの関連事例について調べておくこと。
事後：授業内容を復習し、それをふまえて事前の調べを振り返る

メディア文化概論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

書道 【昼】

担当者名 /Instructor　大森　アユミ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

授業のねらい：
　中学校の書写指導に携る国語教師として必要な能力を身につけるため、書写教育に関する理論・実技と実践的指導法を中心に学習する。具体的には、国語科書写の教育目標・指導内容を理解し、基本的な見識と実践力を養うこととともに、指導者としての実技力を高めることを目指す。実技での漢字は行書体を中心とする。

授業方法：
　理論は、プリントに記入しながら理解を深めていく。
　実技は、ポイントを確認しながら練習し、技能を高めていく。
　教科指導法は、DVDの視聴を通して授業のあり方を考える。

到達目標：
　①学習指導要領に示された中学校国語科書写の指導内容及び望まれる授業のあり方を正しく理解できる。
　②講義を通して学んだことを踏まえて、授業を構想することができる。

教科書　/Textbooks

「明解　書写教育」 増補新改訂版　萱原書房　　全国大学書写書道教育学会編　1500円＋税
プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

平成二十年度版中学校国語科学習指導要領
「学習指導要領準拠　漢字指導の手引き　第七版」　　久米公編著　　教育出版　　1500円＋税

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

①第　１・　２回　：　受講基礎調査　・　解答と補足説明
②第　３・　４回　：　筆順の原則と指導　・　記念作品を書く
③第　５・　６回　：　学習指導要領の変遷　・　姿勢と用具の扱い方、基本点画
④第　７・　８回　：　基本点画とその筆使い　・　授業研究I【ＤＶＤ「秋風」】
⑤第　９・１０回　：　楷書の学習【許容体】　・　授業研究II【「秋風」指導案おこし】
⑥第１１・１２回　：　行書の学習I【点画の変化・方向の変化】　・　授業研究III【ＤＶＤ「ビル」】
⑦第１３・１４回　：　行書の学習II【点画の連続】　・　指導案の作成①ー導入の工夫ー
⑧第１５・１６回　：　行書の学習III【点画の連続と省略】　・　指導案の作成②ー悪い例の示し方ー
⑨第１７・１８回　：　行書の学習IV【筆順の変化】　・　指導案の作成③ーICT活用ー
⑩第１９・２０回　：　行書の学習V　・　指導案の作成④
⑪第２１・２２回　：　行書の学習VI　・　評価の考え方とその実際
⑫第２３・２４回　：　仮名の学習　・　教材開発I【ＤＶＤ「百人一首カレンダー」】
⑬第２５・２６回　：　行書と仮名の調和　・　教材開発II
⑭第２７・２８回　：　生活に生かすI【お礼状】　・　生活に生かすII
⑮第２９・３０回　：　身のまわりの文字　・　授業全般の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

課題１　：　１０％（「楷書の学習」指導案おこし『秋風』）
課題２　：　３０％（「行書の学習」指導案作成『中秋』）
課題３　：　３０％（ポートフォリオ）
日常の授業の取り組み　：　３０％
授業開始２０分以内に入室した場合を「遅刻」とし、遅刻回数３回を欠席回数１回とみなす。
単位を取得には２/３以上の出席が必要である。課題の提出は締め切り厳守のこと。

書道 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、授業終了後に「学習記録」の記入を課すため、授業内容と成果の振り返りを行い、プリントに記入すること。
毛筆の実技に関しては、経験の無い者・苦手意識の強い者は、授業終了後に復習を行うこと。
授業前に指示された教科書を読んでおくとともに、⑥～⑪は指示に従って課題に取り組んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

書道用具一式は各自で持参【共有は不可】　（筆４号サイズ,筆ペン,硯,文鎮,下敷,半紙,墨液）
指定された履修学年時に履修のこと。４年は再履修者のみとする。
大学が「出席扱い」とする欠席の場合は、「欠席届」及び「出席扱い確認書」を提出のこと。
「実習・課外活動」「病気・就職活動等」は欠席扱いとする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

②・⑤～⑪に内容は、少々難易度の高い授業であり、集中して受講していないと提出課題に支障がでます。

キーワード　/Keywords

書写・書道　　行書

第二言語習得論 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国語 / 第二言語の習得に関しては、とかく俗説や思い込みが多い。
日本語教師（日本語学習支援者）を目指す者がまず知らなければならないのが、どのように言葉が学習されるのかであり、どのように言語学習を支援できるのかである。そこで、自らの外国語学習経験を通して、第二言語習得研究から俗説や思い込みを検証し、科学的な根拠を求められるようになることを目指す。
また、本養成課程では、学習者オートノミーを育成できる日本語教師の養成を目指しているので、チュートリアル(自己主導型言語学習)を通して、自分自身の学習者オートノミーを自己評価し、伸ばして行くことを同時に行う。

教科書 /Textbooks

『自律を目指すことばの学習』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『日本語教育の理論と実際：学習支援システムの開発』（田中望他、大修館書店）
○『英語習得の「常識」「非常識」：第二言語習得研究からの検証』（白畑知彦他、大修館書店）
○『言語はどのように学ばれるか：外国語学習·教育に生かす第二言語習得論』(ライトバウン他、岩波書店)
○『英語学習7つの誤解』（大津由紀雄、生活人新書(ＮＨＫ)）
○『多言語多文化学習のすすめ』（西村淳子、朝日出版社）
○『外国語の効果的な学び方』（ルービン他、大修館書店）
○『「達人」の英語学習法』(竹内理、草思社)
『外国語学習アドバイジング：プロのアドバイスであなただけの学習プランをデザインする』(青木直子、Kindle版)

授業計画· 内容 /Class schedules and Contents

１回授業オリエンテーション～複言語のすすめ【複言語】
２回教育と学習におけるパラダイムシフト【学習者オートノミー】【自律学習】【ポートフォリオ】
３回ＧＤＭの紹介及び、言語学習に対するビリーフス【ＧＤＭ】【ビリーフス】
４回ＧＤＭによる自己主導型学習(1)【ＧＤＭ】【直接法】【協同学習】
５回ＧＤＭによる自己主導型学習(2)【ＧＤＭ】【直接法】【協同学習】【振り返り】
６回ＧＤＭによる自己主導型学習(3)【ＧＤＭ】【直接法】【協同学習】【振り返り】
７回チュートリアルとは何か【学習目標】【学習方法】【評価方法】【リソース】【ポートフォリオ】
８回チュートリアル体験言語学習(1)【学習記録】【振り返り】【ピア·アドバイジング】
９回チュートリアル体験言語学習(2)【学習計画の修正】【学習アドバイジング】
10回チュートリアル体験言語学習(3)【自律学習の問題点】
11回チュートリアル体験言語学習(4)【自律学習に必要なこと】
12回チュートリアルのリフレクション【学習成果】【自己評価】
13回第二言語習得研究と外国語教育· 学習【俗説】【思い込み】【ビリーフス】【研究成果】
14回学習者オートノミーについてさらに考える【教師オートノミー】【自己主導型学習】
15回まとめ：日本語教師になること·私たちにできること

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み　…80　%　　レポート　…20　%

事前· 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、課題の予習を前提として行います。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
それから、チュートリアル体験言語学習を行うので、授業外での自己主導型学習を行ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

チュートリアル体験言語学習では、「未習の外国語を学ぶ」または「既習の外国語を初めての学習方法で学ぶ」ことをするので、そのための学習リソースを用意してもらいます。
日本語教師養成課程の「日本語教育学概論」を履修しておくことで、チュートリアル体験言語学習の意義を理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第二言語習得の理論について実践的に学ぶために、教科書(実践書)に加えて、参考文献の中から理論書を1冊購入してもらう予定です。

第二言語習得論 【昼】

キーワード　/Keywords
学習者主体　学習者オートノミー　チュートリアル　自己主導型学習　協同学習　自己評価能力　第二言語習得研究

日本語教育カリキュラム論 【昼】

担当者名 /Instructor　家根橋　伸子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

日本語教育では、学習者の特質、教育機関の性質、教師側の考え方等により多様なコースデザインとそれに基づく多様な授業が構成される。しかし一方で、現行の学校教育機関でのコースデザインの方法や個々の日本語授業にはベーシックな構成がある。日本語授業に多様性・独自性を生み出せる教師になることの前提として、こうしたベーシックなコースデザインと教授法について理解しておくことも必要である。本授業では、ベーシックなコースデザインと授業の構成について主体的な学習を通して学んでいくとともに、それを批判的に検討し、発展させられる能力を養う。

主要な学習内容
・ コースデザインの構成要素と構成原理
・ 第二言語授業の構成要素と構成原理
※マイクロティーチングを含む。

到達目標
・ 学校教育機関等のベーシックなコースデザインの原理を理解し自分でデザインできる。
・ ベーシックな日本語教授法を理解し実践できる。
・ ベーシックなコースデザイン、教授法を個々の日本語教育の状況に合わせてどう発展させるかを考えることができる。

教科書　/Textbooks

『日本語教育の方法–コース・デザインの実際–』（田中望、大修館書店）
『国際交流基金日本語教授法シリーズ１　日本語教師の役割 / コースデザイン』（国際交流基金、ひつじ書房）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『日本語教育学を学ぶ人のために』（青木直子他、世界思想社』
○『日本語教育の理論と実際 - 学習支援システムの開発 - 』（田中望他、大修館書店）
○ 『アプローチ&メソッド 世界の言語教授・指導法 』（リチャーズ＆ロジャーズ、東京書籍）
『日本語教育のフロンティア』（小川貴士、くろしお出版）
『国際交流基金　日本語教授法シリーズ』（全１４巻）（国際交流基金、ひつじ書房）
『実践研究は何を目指すか　日本語教育における実践研究の意味と可能性』（細川英雄・三代純平、ココ出版）
『Approaches and Methods in Language Teaching Third edition』（Richards & Rodgers、CUP）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション（ブレーンストーミング）
2回　日本語教育の多様性と教師の役割
3回　コースデザインとは何か①：コースデザインの構成要素と原理
4回　コースデザインとは何か②：シラバス、カリキュラム
5回　コースデザインとは何か③：評価
6回　コースデザインとは何か④：コースのデザインと検討
7回　教授法とは何か：教授法の変遷
8回　授業のデザインと教材：基本的な授業構成、４技能、教材分析
9回　初級を教える：マイクロティーチング①：動詞文
10回　初級を教える：マイクロティーチング②：形容詞文
11回　初級を教える：マイクロティーチング③：存在・所在文
12回　初級を教える：マイクロティーチング④：テ形
13回　中・上級を教える：マイクロティーチング⑤：読解
14回　中・上級を教える：マイクロティーチング⑥：会話
15回　総括・リフレクション・自己評価

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み（マイクロティーチング、自己評価を含む）…50%　　期末レポート…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキストの次回授業内容に該当する部分の予習（授業時に講師が指示する）
事後学習：授業内容振り返り課題（授業時に講師が配布する）
※以上に加え，マイクロティーチングを行う回では担当者は担当課の学習及び教案・教材作成を行う。

日本語教育カリキュラム論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 日本語教師養成課程における「日本語教育学I」「日本語教育学II」を履修しておくこと。
・ 事前学習をしていることを前提に授業を進めるので、授業時間外の準備とそれに基づく授業への積極的な参加が必要。
・ マイクロティーチングはグループで行う。授業時間外にグループで集まり、準備をする必要がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

一人一人が自らの課題を持ち、主体的に参加することを求めます。

キーワード　/Keywords

第二言語教育カリキュラム　コースデザイン　教授法　第二言語教室　マイクロティーチング

日本語教授法 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の教授法に依拠して教えることはなくても、各教授法によって推奨される学習活動を応用することは多い。しかし、そのためには、基盤となる言語理論や学習理論を理解する必要がある。その上で、学習者に対して適切な選択肢を提示することができるようになることを目指す。
各教授法は、学生の発表による模擬授業形式で行う。そのために、教案作成、リハーサル、実施、振り返り、報告書の提出といった教育実習で行うことを実践してみる。そのうえで、次年度に教育実習をすべきかどうかを、自ら判断できるようにしたい。
また、模擬授業形式での発表終了後は、次年度の教育実習を見据えて、現在の外国語教育で主流となりつつあるTBLTとCLILについて学ぶ。

教科書 /Textbooks

『アプローチ＆メソッド世界の言語教授･指導法』(リチャーズ＆ロジャーズ、東京書籍)
『フォーカス･オン･フォームとCLILの英語授業-生徒の主体性を伸ばす授業の提案』(和泉伸一、アルク)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『日本語教育学を学ぶ人のために』(青木直子他、世界思想社)
○『日本語教育の理論と実践』(田中望他、大修館書店)
○『日本語教授法ワークショップ(増補版)』(鎌田修他、凡人社)
○上記のDVD
○『「フォーカス・ オン・ フォーム」を取り入れた新しい英語教育』(和泉伸一、大修館書店)
○『CLIL内容言語型学習：上智大学外国語教育の新たなる挑戦』(渡部良典他、上智大学出版)
○『CLIL新しい発想の授業：理科や歴史を外国語で教える!?』(笹島茂編、三修社)

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

1 回　授業オリエンテーション【アプローチ】【メソッド】
2 回　教師の役割【教育の目的】【学習者オートノミー】
3 回　言語教育の歴史【言語教育改革】【メソッド時代】
4 回　オーラル･アプローチ【場面教授法】
5 回　オーディオリンガル･メソッド
6 回　全身反応法(TPR)、サイレント・ ウェイ
7 回　コミュニティ･ランゲージ・ ラーニング(CLL)
8 回　コミュニカティブ言語教授法とOPI
9 回　教授法時代を終えて【ポスト教授法】
10回　フォーカス･オン･フォーム
11回　TBLT(タスク重視の教授法)の理論
12回　TBLTの実際
13回　CLIL(内容言語統合型学習)の理論
14回　CLILの実際
15回　まとめと自己評価

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(授業形式)50%
授業への取り組み40%
期末レポート10%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、課題の予習を前提として行います。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
各教授法については、学生による授業形式で行います。そのため、教案の作成、ビデオ録画による振り返り、報告書の作成を授業の前後に行います。

履修上の注意 /Remarks

各教授法については学生による授業(発表を含む)の形式をとる。教育実習へ向けての準備としたい。
日本語教師養成課程における「日本語教育学概論」「第二言語習得論」「日本語教育カリキュラム論」「異文化間教育」を履修しておくこと。
留学等のために、履修が前後する場合には、必ず事前に履修相談に来ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本語教育実習のための実践的な準備授業となります。そのため、授業時間外での学習時間を多く要します。

日本語教授法 【昼】

キーワード　/Keywords
アプローチ　メソッド　言語理論　学習理論　オルタナティブ　教師オートノミー

異文化間教育 【昼】

担当者名 /Instructor　矢野　花織 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

グローバル化の急速な進展に伴い、国境を越えた人の移動がますます盛んになっている。日本でも、外国人住民（中長期在留者）や「日本語指導が必要な児童生徒」が増加傾向にあり、また、国際結婚も31組に1組と高い割合を占めている。
つまり、私たちの暮らす地域や学校には、「日本」と「外国」の2つの(あるいは2つ以上の)異なる文化の狭間にある人がいることが珍しくなくなっており、それを踏まえた上で、教育や人間形成の過程・活動を考えていく必要がある。
そこで本講義では、まず、異文化間教育の基礎を学び、その後に、自分の興味に沿った演習テーマを選んでその学びを深めていく。それによって、中学校・高等学校の教員や日本語教師を目指す者にとって基本的な知識となることはもちろん、すべての受講者にとって、今後、外国人住民とともに多文化共生社会を担っていくための基本的スキルを習得するきっかけとなることをねらいとしている。

教科書　/Textbooks

資料を配布します。文献購読・演習に必要な書籍については授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　日本の外国人政策と異文化間教育
第３回　国際交流・外国人支援と多文化共生
第４回　外国人住民の言語と情報保障（１）【外国語相談】【コミュニティ通訳】
第５回　外国人住民の言語と情報保障（２）【「生活者としての外国人」のための日本語教育】
第６回　外国人住民の言語と情報保障（３）【やさしい日本語】
第７回　「外国につながる子ども」の家庭と教育（１）【家族滞在】【留学生】
第８回　「外国につながる子ども」の家庭と教育（２）【国際結婚】【呼び寄せ】
第９回　帰国・外国人児童生徒と日本の学校
第10回　子どもの言語発達とバイリンガル教育
第11回　文献購読（１）【コミュニケーション支援】
第12回　文献購読（２）【異文化コミュニケーション】
第13回　演習～第1グループ発表
第14回　演習～第2グループ発表
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　　課題…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、指示します。

履修上の注意　/Remarks

授業で配布する資料については次回までに必ず目を通し、特に指示がない限り毎回持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学生の受講目的や興味などにあわせて、グループワークや視聴覚教材を取り入れながら進めていきます。
人前で話すことが苦手な者は「書く」ことを、文章やイラストなどをかくことが苦手な者は「話す」ことを通して、自分なりの方法で積極的に活動に参加し、全員で授業を創っていくことを期待します。

キーワード　/Keywords

日本語教育方法論 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

この授業では、日本国内における留学生への日本語教育について、ピア・ラーニングの教育観から学ぶ。具体的には、ジグソーリーディングやLTD学習方法を実際に体験し実践していく中で、仲間との学びの有効性を実感してもらう。さらに、ピア・ラーニングの考えに基き、文法の授業を分析・デザイン・提案し、デモンストレーションを行うことで、学習者の学びを支援する教師の役割について理解を深めてもらう。

教科書　/Textbooks

『ピア・ラーニング入門』(池田玲子他、ひつじ書房)
『日本語教育文法講義ノート』(山下暁美編著、アルク)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『実践・LTD話し合い学習法』(安永悟、ナカニシヤ)
○『学生参加型の大学授業ー協同学習への実践ガイド』(ジョンソン,D.W他、玉川大学出版部)
○『先生のためのアイディアブック』(ジョージ・ジェイコブス他、日本協同教育学会編)
○『文法を教える』(国際交流基金、ひつじ書房)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション　【ピア・ラーニング】
2回　協働とは何か【対話的問題提起学習/参加型学習】
3回　日本語教育における言語教育観の転換【仲間との相互作用】
4回　LTD話し合い学習法【LTD過程プラン/評価】
5回　LTDで論文を読む【ピア活動における意見交換】
6回　ピア・リーディング実践①【ジグソー・リーディング】
7回　ピア・リーディング実践②【プロセス・リーディング】
8回　ピア・レスポンス【レポートのコメント交換活動】
9回　文法の授業デザイン/初級の文法指導
10回　中上級の文法指導
11回　文法分析①【名詞/形容詞/動詞の分類】
12回　文法分析②【テンス/アスペクト/モダリティ】
13回　文法分析③【待遇表現/敬語】
14回　文法分析④【理由/断り/謝罪/意見】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…30%
課題…30%
自己評価…20%
ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

少人数での学習形態が多いので、積極的に発言しグループの学びに貢献してください。
2年次に日本語教育学概論及び第2言語習得論を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ピア・ラーニング　協働学習　ピア・リーディング　文法分析

日本語教育実習 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

最も身近な学部留学生を対象とした正規の日本語科目に参加し、実習授業を行う。ティーチング・アシスタントとして授業に参加しながら、授業目的に対する理解を深め、学期期間に少なくとも2回の実習授業を行う。授業の成否に一喜一憂することなく、実習から何を学びえたのかを丁寧かつ詳細に振り返ることで、教師に不可欠な内省力の育成を目指す。同時に、日本語教師としての自分自身をイメージできるようになることを期待したい。

教科書　/Textbooks

「日本語教育学概論」「第二言語習得論」「日本語教育カリキュラム論」「日本語教授法」「異文化間教育」「日本語教育方法論」で使用した全てのテキスト

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ジョージ・ジェイコブズ他『先生のためのアイディアブック - 協同学習の原則とテクニック - 』日本協同教育学会
○青木直子他編『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社
○春原憲一郎他『日本語教師の成長と自己研修』凡人社
○ジェア・ブロフィ『やる気をひきだす教師：学習動機づけの心理学』金子書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業オリエンテーション及び実習計画【コースデザイン】【評価】
２回　学習者について知る【学部留学生】【アカデミックジャパニーズ】【生活者としての外国人】【日本語教室】
３回　学習者主体と教師の成長【学習者オートノミー】【教師オートノミー】【同僚性】
４回　授業準備【教案】【リハーサル】
５回　実習(1)【授業準備】【実施】【リフレクション】【気づき】
６回　実習(2)
７回　実習(3)
８回　実習(4)
９回　実習(5)
10回　実習(6)
11回　実習(7)
12回　実習から学んだことをどう生かすか【評価】
13回　総括【教師の成長】【社会の変化】
14回　報告書の作成(1)役割分担の確認
15回　報告書の作成(2)原稿の完成

成績評価の方法　/Assessment Method

自己評価レポート　…　100　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ティーチング・アシスタントとして授業に参加する際には、事前に授業内容の予習を行い、授業後にはその日の振り返りを行います。それをもとに実習日記を作成し、指導教員にコメントを求めます。
また、実習を行う回には、1か月前に担当する学習項目を決定し、2週間前に教案を作成します。そして、2回以上の教案指導を受けます。そして、実習授業のリハーサルも行います。また、実習後は、ビデオを見ながら振り返りを行い、実習日記を作成して指導教員にコメントを求めます。
最後に、実習成果の一つとして、報告書の作成を行う。

履修上の注意　/Remarks

「日本語教育学概論」「第二言語収録論」「日本語教育カリキュラム論」「日本語教授法」「異文化間教育」「日本語教育カリキュラム論」を履修しておくこと。その他の日本語教師養成課程科目についても、3年次までに履修可能な科目は、できるだけ多く履修しておくことが望ましい。
実習は、人数や適性を判断して、「日本語I」「日本語II」「日本語III」「日本語VII」「日本語教室」に振り分ける。
実習期間は、実習日に加えて授業準備のために大学に来ることができるようにスケジュールを空けておくこと。
実習に関することは、早めに自主的に準備を始めること。わからないことや疑問に思うことがあれば、適宜質問しよう。また、ポートフォリオを作成して、学習及び実習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

日本語教育実習 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育実習は、受け入れ先の事情が優先されるので、必ずしもシラバス通りにはいかないこともあることを承知しておいてください。

キーワード　/Keywords

学習者主体　学習者オートノミー　体験学習　リフレクション(内省)　教師オートノミー

日本語教育実習 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

最も身近な学部留学生を対象とした正規の日本語科目に参加し、実習授業を行う。ティーチング・アシスタントとして授業に参加しながら、授業目的に対する理解を深め、学期期間に少なくとも2回の実習授業を行う。授業の成否に一喜一憂することなく、実習から何を学びえたのかを丁寧かつ詳細に振り返ることで、教師に不可欠な内省力の育成を目指す。同時に、日本語教師としての自分自身をイメージできるようになることを期待したい。

教科書　/Textbooks

「日本語教育学概論」「第二言語習得論」「日本語教育カリキュラム論」「日本語教授法」「異文化間教育」「日本語教育方法論」で使用した全てのテキスト

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ジョージ・ジェイコブズ他『先生のためのアイディアブック - 協同学習の原則とテクニック - 』日本協同教育学会
○青木直子他編『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社
○春原憲一郎他『日本語教師の成長と自己研修』凡人社
○ジェア・ブロフィ『やる気をひきだす教師：学習動機づけの心理学』金子書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業オリエンテーション及び実習計画【コースデザイン】【評価】
２回　学習者について知る【学部留学生】【アカデミックジャパニーズ】【生活者としての外国人】【日本語教室】
３回　学習者主体と教師の成長【学習者オートノミー】【教師オートノミー】【同僚性】
４回　授業準備【教案】【リハーサル】
５回　実習(1)【授業準備】【実施】【リフレクション】【気づき】
６回　実習(2)
７回　実習(3)
８回　実習(4)
９回　実習(5)
10回　実習(6)
11回　実習(7)
12回　実習から学んだことをどう生かすか【評価】
13回　総括【教師の成長】【社会の変化】
14回　報告書の作成(1)役割分担の確認
15回　報告書の作成(2)原稿の完成

成績評価の方法　/Assessment Method

自己評価レポート　…　100　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ティーチング・アシスタントとして授業に参加する際には、事前に授業内容の予習を行い、授業後にはその日の振り返りを行います。それをもとに実習日記を作成し、指導教員にコメントを求めます。
また、実習を行う回には、1か月前に担当する学習項目を決定し、2週間前に教案を作成します。そして、2回以上の教案指導を受けます。そして、実習授業のリハーサルも行います。また、実習後は、ビデオを見ながら振り返りを行い、実習日記を作成して指導教員にコメントを求めます。
最後に、実習成果の一つとして、報告書の作成を行う。

履修上の注意　/Remarks

「日本語教育学概論」「第二言語収録論」「日本語教育カリキュラム論」「日本語教授法」「異文化間教育」「日本語教育カリキュラム論」を履修しておくこと。その他の日本語教師養成課程科目についても、3年次までに履修可能な科目は、できるだけ多く履修しておくことが望ましい。
実習は、人数や適性を判断して、「日本語I」「日本語II」「日本語III」「日本語VII」「日本語教室」に振り分ける。
実習期間は、実習日に加えて授業準備のために大学に来ることができるようにスケジュールを空けておくこと。
実習に関することは、早めに自主的に準備を始めること。わからないことや疑問に思うことがあれば、適宜質問しよう。また、ポートフォリオを作成して、学習及び実習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

日本語教育実習 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育実習は、受け入れ先の事情が優先されるので、必ずしもシラバス通りにはいかないこともあることを承知しておいてください。

キーワード　/Keywords

学習者主体　学習者オートノミー　体験学習　リフレクション(内省)　教師オートノミー

生涯学習学 【昼】

担当者名 /Instructor　恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	1学期	講義	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生涯学習・社会教育に関する専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会や人間の課題に対して教育的課題として発見できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	生涯学習・社会教育の視点から問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯学習学	EDU220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類－２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
○　雑誌『月刊　社会教育』国土社
○雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
○雑誌『月刊　公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回生涯学習・社会教育の意義
第2回　生涯学習ボランティア　–学習への支援と学習成果の活用–
第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
第4回社会教育施設と生涯学習施設　–管理運営と連携–
第5回生涯学習関連施策の動向　–社会教育の歴史と発展–
第6回学習者の特性と学習の継続発展–学習相談、サービス、学習情報の提供
第7回社会教育の内容・方法・形態–学級・講座の企画
第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
第9回社会教育施設–公民館
第10回社会教育施設–博物館
第11回社会教育施設–図書館
第12回大都市における公民館–北九州市　–自治体行財政制度と施策立案・推進–
第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
第14回成人教育の国際的動向　–日本の特質と学習権–
第15回住民の力量形成と地域づくり　–家庭教育・学校教育・社会教育の連携–

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート…７０％　　課題レポート…３０％

生涯学習学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意　/Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

博物館概論 【昼】

担当者名 /Instructor　門田　彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

博物館に関する基礎的な知識全般を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。
具体的には、最新の博物館の動向をふまえながら、博物館の定義、種別、目的、機能、歴史、関係法規、また学芸員の役割や社会で求められている博物館像について学ぶ。実際の博物館での事象を具体例として検証することで、博物館の現状や課題について理解することを目指す。

教科書　/Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・『博物館関係法令集』(日本博物館協会)
・『月刊　博物館研究』(日本博物館協会)
・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版)
・大堀哲・水嶋英治編『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』(学文社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス (授業の手順と内容について)
2回　博物館の定義 (意義と理念)
3回　博物館の歴史
4回　博物館の種別について
5回　博物館における収集
6回　博物館資料の取り扱いについて
7回　学芸員の役割
8回　博物館における展示について① (展示の種別)
9回　博物館における展示について② (展示の企画・運営)
10回　博物館における展示について③ (展示の技法)
11回　博物館資料の活用と保存環境
12回　博物館と文化遺産
13回　博物館における教育プログラム
14回　博物館を取り巻く諸問題について
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%　　定期試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
・授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意　/Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。
・授業は聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモすること。
・新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、なるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでほしい。

博物館概論 【昼】

キーワード　/Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館経営論 【昼】

担当者名 /Instructor　永尾　正剛 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネージメント）に関する基礎的能力を養う。具体的には、博物館施設の管理と事業目的に即した運営の在り方を理解し、博物館の総合的経営に関する基礎的知識と能力、コスト意識を学ぶ。あわせて市民参画の在り方や、関連施設・組織との連携方法を考える。

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、受講者各自に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『博物館学講座』全１０巻（雄山閣）
網干善教編『博物館学概論』（関西大学出版）
『月刊　博物館学研究』（日本博物館協会）
伊藤寿朗・森田恒之編『博物館概論』（学苑社）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　社会教育施設としての博物館
２回　「博物館法」の理念と事業
３回　博物館の世代と推移（機能と変遷）
４回　博物館の設置及び経営方針の策定
５回　博物館運営状況の点検と評価
６回　博物館資料の収集と保管
７回　博物館資料の展示と調査研究
８回　利用者への学習機会と情報の提供
９回　学校・家庭及び社会との連携
１０回　博物館の組織（職員配置と研修）
１１回　施設及び設備と危機管理
１２回　事業計画と予算編成
１３回　博物館経費の運用
１４回　費用対効果の点検（コストの効率化）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

筆記試験　１００％。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

博物館法を熟読し、社会教育施設としての役割を考える。ついで、新聞などで報じられる博物館に関する情報から、博物館経営の課題を検討する。

履修上の注意　/Remarks

講義のポイントをしっかりメモすること。
授業前に前講義の概要を見直しておくこと。
授業後は筆記したノートの要点を確認すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「学芸員」資格を取得するという強い意志をもって出席してほしい。

キーワード　/Keywords

地域貢献とコスト意識。

博物館情報・メディア論 【昼】

担当者名 /Instructor　那須　孝幸 / Takayuki Nasu / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
					○		○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

博物館の仕組みや芸術と日常との接点について洞察しながら、現代社会における博物館メディアの現状と今後を考える。同時に、事例として世界最初の万博である1851年のロンドン万博の頃から現代までの約150年間をめぐる国内外の芸術表現、思想を幅広く概観することで、社会や日常生活へ反映されていく情報メディアの実態を探る。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』ぎょうせい
森山朋絵監修『映像体験ミュージアム』工作舎

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　メディアとは何か　～メディア社会の博物館
２回　メディアとは何か　～美術館学芸員の視点から
３回　芸術・メディア・社会（１）　1960年代の芸術動向を事例に
４回　芸術・メディア・社会（２）　芸術メディアの社会性（レポート作成）
５回　「原安三郎コレクション 広重ビビッド展」視察（北九州市立美術館分館で現地研修）
６回　視覚メディアの歴史（１）　人類は視覚メディアをどのように捉えてきたのか
７回　視覚メディアの歴史（２）　現代へつながる視覚メディアの技術（レポート作成）
８回　芸術・メディア・社会（３）　19世紀における絵画と写真の関係
９回　芸術・メディア・社会（４）　20世紀における視覚表現の多様性１
１０回　「ヴラマンク展」視察（北九州市立美術館分館で現地研修）
１１回　芸術・メディア・社会（４）　20世紀における視覚表現の多様性２（レポート作成）
１２回　社会へのメッセージ（２）　現代におけるメディアの活用事例
１３回　社会へのメッセージ（３）　現代におけるメディアの多様性を考察する
１４回　メディアとしての博物館　～博物館の役割をメディアの観点から考察
１５回　著作物とメディア　～アーティストとアート作品の関係

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート　５０パーセント
定期試験　３０パーセント
日常の授業への取り組み　２０パーセント

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業に対する予習はとくに求めないが、授業のあとは、内容に関連するニュースや歴史などのメモをとるよう心掛けること。
また、そうした社会動向に対して自身の意見をまとめるよう心掛けること。

履修上の注意　/Remarks

北九州市立美術館分館での学外授業を2回予定。
授業開始までに各自前回の復習を行っておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

映像資料を交えながら講義するほか、学外授業も行う。また、テーマごとにレポート作成を行う。
講義を通じて、博物館にまつわるメディアの知識だけでなく、自主的に深く洞察する力を身につけてほしい。

キーワード　/Keywords

博物館　展覧会　視覚メディア　オリジナリティ　アーカイヴ　社会と法律

博物館展示論 【昼】

担当者名 /Instructor　門田・北九州市立文学館・北九州市漫画ミュージアム

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館の展示の基本理念と具体的方法についての基礎的な知識を養う。
様々な分野の博物館における様々な展示形態・展示方法・機材の使用方法について学ぶとともに、実際の展示の現状・課題について習得する。

第4回～第11回は外部講師として、北九州市漫画ミュージアムと北九州文学館の学芸員をお招きして学内で行います。ただし第7回の授業は、漫画ミュージアムへの学芸見学の予定です。（詳細な予定については、第1回目の授業のときに説明します。）

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012年）
・表智之・金澤韻・村田麻里子『マンガとミュージアムが出会うとき』（臨川書店、2009年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンスおよび「展示」の意味について
第2回　人文系博物館の展示と自然系博物館の展示
第3回　美術館・博物館の展示の企画
第4回　美術展示とマンガ展示の差異
第5回　マンガ資料の特性とその学術的意義
第6回　地域の文化としてのマンガ / 北九州ゆかりのマンガ家たち
第7回　展示設計と企画展マネジメント
第8回　マンガ展示は誰のために
第9回　文学館の展示概論
第10回　文学館の展示パネル・キャプション
第11回　文学館の図録
第12回　美術館・博物館の展示作業
第13回　美術館・博物館の展示と解説
第14回　美術館・博物館の在り方（評価と社会性について）
第15回　まとめ

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…10%　課題レポート　90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を訪ね、展示の仕方について観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。
授業は聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモすること。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館資料保存論 【昼】

担当者名 /Instructor　渡抜 由季 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

資料を適切な環境で保存・管理することは博物館の重要な使命である。
本講義では、博物館資料の保存に必要とされる技法・材料と環境因子、資料の調査方法等について講義する。
また、博物館における資料の保存環境について実例も紹介し、理解しやすい授業をめざす。
到達目標として、保存環境・展示環境を科学的・人文学的に捉え、適切な判断できる能力が学芸員に求められている。
ここでは資料保存に関する基礎的能力を養う。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『博物館資料保存論』石崎 武志 (著)、講談社、2012年
『文化財の保存環境』独立行政法人国立文化財機構　東京文化財研究所 (編)、中央公論美術出版、2011年
『人文系　博物館資料保存論』青木豊 (編)、雄山閣、2013年
『博物館資料の臨床保存学』神庭信幸 (著)、武蔵野美術大学出版局、2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマと内容
①ガイダンス (博物館における資料保存の意義)
②文化財保護の歴史と展開 (文化財保護法と文化財公開施設の計画に関する指針)
③収蔵、展示などの保存環境資料の保存環境 (ゾーニング、構造、メンテナンス、危機管理)
④資料保存の諸条件とその影響 (材料と環境因子 (温湿度、光、振動、大気等) の関係)
⑤生物被害とIPM (生物被害の概要、対応策の変遷)
⑥伝統的保存方法 (曝涼、虫干し等の伝統的な保存展示運用、正倉院の保存環境)
⑦資料の保全 (材料調査、構造調査、環境調査)
⑧資料の状態調査・現状把握 (絵画の状態調査)
⑨資料の修復・修理 (絵画の修復・修理)
⑩資料の梱包と輸送 (絵画の梱包と輸送)
⑪屋外彫刻の保全 (屋外環境の問題点と対応策)
⑫現代美術の保存と修復 (生物の展示、タイムベースドメディアと媒体の保存と記録等)
⑬災害予防と対策 (自然災害–東日本大震災の文化財レスキューの事例を中心に、免震台)
⑭文化財の保存と活用 (博物館と地域の関わり、ボランティア等)
⑮まとめ (レポート)

成績評価の方法 /Assessment Method

3分の2以上の出席は必須。小テスト4回 (80%) とレポート (20%) を合わせて評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教員が作成した資料を配付しますが、新聞 雑誌、図書、ウェブ等を通して情報収集してください。また、資料保存という視点で実際に美術館・博物館に足を運んでみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館教育論 【昼】

担当者名 /Instructor　岩本　史緒 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

美術館・博物館の教育的役割について考えることは、地域と文化、社会と文化、そしてひとりひとりの暮らしと文化の関わりについて考えることにつながります。例えば高齢化や産業構造の変化に対峙する地方自治体において、あるいは自然災害や公害で破壊されたコミュニティにおいて、美術館・博物館はどのような役割を担っていくことができるのでしょう？また多文化社会を生きていく子どもたち、障害や言語的・設備的ハードルによって施設に足を運びにくい人々に対し、どのように美術館・博物館の資料やノウハウを活用し、豊かな文化的体験を提供することができるでしょう？

この講義では、美術館・博物館の教育的機能の考え方がどのように移り変わってきたかを踏まえつつ、近年の特徴的な試みについて国内外の事例から学びます。より広い視点でこれからの美術館・博物館の教育的役割を考えるため、美術館・博物館以外の文化施設、芸術祭、NPOなどによる取り組みも紹介したいと思います。

受講者は、期間中、美術館・博物館が行う教育プログラムについて調査を行い、最後に北九州の状況を踏まえた教育プログラムを作成することを求められます。本講義を通し、これからの美術館・博物館の役割についてより具体的に考えることができればと思います。

教科書　/Textbooks

ありません。レジュメ、資料を必要に応じて配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、授業の中で紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. イントロダクション (講義の軸となる考え方と事例の紹介)
2. 博物館教育の原理 (歴史的・理論的背景)
3. 今日の博物館教育 (国内外における近年の動向)
4. 事例　博物館と教育 (生涯学習・学校教育との連動)
5. 事例　博物館と市民1 (人生と文化)
6. 事例　博物館と市民2 (社会の多様化と博物館)
7. 事例　博物館と地域社会1 (伝統を記録する)
8. 事例　博物館と地域社会2 (地域の記憶と向き合う)
9. 事例　博物館と産業 (観光と文化産業)
10. 実地研修
11. プレゼンテーション1 (実地研修レポート)
12. 教育プログラム演習 (企画をたてるまで)
13. 教育プログラム演習 (企画のつくり方)
14. プレゼンテーション2 (教育プログラム企画)
15. これからの博物館教育 (フィードバックとまとめ)

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト：10%　実地研修レポート：20%　教育プログラム企画書：20%　プレゼンテーション：20%　授業への取り組み：30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・日頃から積極的に博物館・美術館を訪れ、ワークショップなどにも参加してください。

履修上の注意　/Remarks

・対話・演習による授業のため、出席と参加態度、議論への貢献を求めます。
・実地研修は講師が候補を提示し、受講者が各自日程を調整の上参加するものとします。費用は受講者負担となります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学芸員資格を持つ学生の進路も多様化しつつあります。この講義でカバーする内容は、美術館・博物館に勤めることを目指す方だけではなく、地方自治体や政府機関、劇場・音楽堂といった文化施設、まちづくりに関わる企業やNPOなどを目指す方にも有効な視点を多く含みます。自分の中の「問い」を大切にしながら参加してもらえればと思います。

キーワード　/Keywords

博物館　美術館　キュレーター　エデュケーター　教育普及　アウトリーチ　ワークショップ　キュレーション

博物館資料論 【昼】

担当者名 /Instructor　門田　彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

博物館資料についての基礎知識を養う。
具体的には、博物館資料の種類や意味からはじめ、その収集・整理・保管等に関する理論や方法について学ぶ。また、博物館における調査・研究活動と、博物館資料の取り扱い、資料の活用に関する手順などを知り、博物館資料についての理解を深める。

教科書　/Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・『月刊　文化財』(文化庁)
・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版)
・大堀哲・水嶋英治編『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』(学文社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　博物館資料と博物館法について
2回　博物館資料の分類
3回　博物館資料の収集の方法と理念
4回　博物館資料の整理と分類
5回　博物館資料の調査・研究
6回　博物館資料の取り扱い
7回　博物館資料としての古文書
8回　博物館資料としての絵画
9回　博物館資料としての近代文化遺産
10回　博物館資料と教育普及事業
11回　美術館資料の展示について
12回　博物館資料の保存・修復について
13回　博物館資料の諸権利について
14回　博物館資料の再評価と可能性
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%　定期試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
・授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意　/Remarks

この授業を受講する場合は「博物館概論」を受講しておくと、理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。
・新聞などに取り上げられる博物館や文化財の情報に気を配るとともに、日常生活においても物を大切にする習慣を身につけてほしい。

博物館資料論 【昼】

キーワード　/Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館実習I 【昼】

担当者名 /Instructor　野井･門田　他

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「博物館実習I」では、実際の博物館相当施設での館園実習の事前教育として、北九州市内の博物館相当施設の見学実習と学内での実務実習を行います。

教科書　/Textbooks

「博物館実習日誌」（生協にて販売）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

ありません。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

授業は原則として土曜日３，４限に行う予定であるが、博物館･ 美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を日曜や休日、休暇期間中に変更することもある。

第1回　事前学習
第２回　見学実習もしくは実務実習①
第３回　見学実習もしくは実務実習②
第４回　見学実習もしくは実務実習③
第５回　見学実習もしくは実務実習④
第６回　見学実習もしくは実務実習⑤
第７回　見学実習もしくは実務実習⑥
第８回　見学実習もしくは実務実習⑦
第９回　見学実習もしくは実務実習⑧
第１０回　見学実習もしくは実務実習⑨
第１１回　実習II報告会（予定）
第１２回　見学実習もしくは実務実習⑩
第１３回　見学実習もしくは実務実習⑪
第１４回　見学実習もしくは実務実習⑫
第１５回　事後学習

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度と実習日誌で１００％評価する。
施設見学を欠席した場合は各自で見学して実習日誌に記入すること。
理由如何を問わず３回以上欠席は不可。

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前には、次に行く博物館について、インターネット等で調べておきましょう。授業後は、説明内容、見学内容について、授業中に作成したメモに基づいて、博物館実習日誌に消えない筆記具（ボールペン、万年筆等）を用いて記録してください。

履修上の注意　/Remarks

博物館実習Iは博物館実習IIと２学期連続して取らなければならない。
最初の授業の折にそのおよその授業の計画を説明するので、必ず出席のこと。
実習科目なので欠席は原則として認めない。万が一欠席した場合は、見学を各自でおこない日誌を書くこと。
事後学習学外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻･ 欠席は許されないので要注意。
また見学に際しての交通費･ 入館費は各自の負担である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

博物館実習II 【昼】

担当者名 /Instructor　野井・門田　他

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館園実習です。博物館相当施設において30時間以上（5日間以上）の実習を行いますが、その内容は施設によって違います。
実習は本学が博物館・美術館に依頼して実施されますが、担当学芸員はじめ館員の方すべてが、業務の傍らで時間を割いて機会を作ってくださって初めて実現しており、決して迷惑を掛けるようなことがあってはなりません。
ことに取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品です。当然慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれます。

教科書　/Textbooks

「博物館実習日誌」（生協にて販売）
「博物館学芸員資格取得についての手引き」（配付プリント）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

講義で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

「博物館実習II」の受講申告者には５月頃に直前説明会を行います。
第2回以降は各施設の指定する実習期間と12月に予定している実習報告会とする。

「博物館実習II」は４年次履修で、期間は２単位分５～10日間（合計45時間以上）を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行います。
「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくと
ともに、次の諸学科の単位を修得していなければなりません。

イ、博物館概論・博物館経営論・博物館情報論・博物館資料論
ロ、教育原理（比較文化学科の学生）・教育学概論（人間関係学科の学生）
ハ、選択科目２科目以上（２系列以上からそれぞれ１科目以上）

説明会に欠席した場合は履修できません。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事があります。館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとします。

成績評価の方法　/Assessment Method

実習日誌に記載された担当学芸員の評価と実習報告会での報告内容により１００％評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に、実習を行う博物館についてインターネットなどで、調べておきましょう。また、当該館が扱う分野（たとえば、歴史、自然史）についての基礎的知識を学んでおきましょう。毎日の実習内容を、当日のメモをもとに十分に練られた文書を作成したうえで、博物館実習日誌に記録してください。

履修上の注意　/Remarks

真摯な姿勢をもって実習を行うこと。
各自で損害賠償保健に加入しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

１．教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。

２．ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。

３．これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。

４．参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．教職の意義と教員の役割
３．教員という仕事の魅力と困難さ　(外部講師　中学校長)
４．教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
５．教員の仕事の理想と現実(外部講師　本学卒業生の中学校教員)
６．教員に求められる資質　　ー　子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
７．教員の仕事　その１　教科指導と授業づくり(中学校教諭)
８．教員の仕事　その２　教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事　その３　８，９回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事　その４　道徳教育実践の主体としての教師　-　道徳は教えられるか？
11. 教員の仕事　その５　生活指導実践主体としての教師 -　子どもたちと一緒に「発達の糧」となる生活を創造する
12.「反省的実践家」(ドナルド・ショーン)としての教師　-　その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために　-　体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ、授業アンケート(「教職課程を履修する意識がどう変わったか」)

＊講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業内で実施するミニレポート等)　３０点、期末試験７０点
なお、欠席した場合には一回につき５点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類–１」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション：教育とは何か
２回　教育の関係　：教育のモデル
３回　生涯にわたる発達と教育：生涯発達
４回　発達段階と発達課題：思春期・青年期
５回　感覚・身体と教育：五感・感覚教育
５回　教育思想①　：諸外国の教育思想
６回　教育思想②：日本の教育思想
７回　教育史①：西洋の教育史
８回　教育史②：日本の教育史
１０回　学校教育の機能：基礎集団としての学級
１１回　学校教育の課題：学校で生じる問題
１２回　メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
１３回　国際化と教育：言語・文化
１４回　仕事と教育：進路形成
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2700

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ￥298
※ただし、文科省HP（下記）より「生徒指導提要」の第3章部分（p.43-81）を印刷して用いてもよい。
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第２回　乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
第３回　ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
第４回　ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
第５回　イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
第６回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
第７回　自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
第８回　学習の過程【学習理論、論理的思考】
第９回　友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
第10回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第11回　他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
第12回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第13回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第14回　発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 教育制度の基本原理（１） 教育制度とは
２回 教育制度の基本原理（２） 日本の教育法制
３回 学校制度の基本的事項（１）機会均等、義務教育
４回 学校制度の基本的事項（２）中等教育、学校体系
５回 学校制度の基本的事項（３）就学・懲戒
６回 教科書に関する制度
７回 教員制度の基本的事項（１）教員免許法制
８回 教員制度の基本的事項（２）教員の指導力、研修
９回 教員制度の基本的事項（３）公務員としての教師、教員の待遇
１０回 教育行財政の仕組み（１） 中央教育行政、地方教育行政
１１回 教育行財政の仕組み（２） 教育委員会と学校
１２回 学校関係者による協力支援の制度
１３回 地域社会の変容と学校
１４回 教育制度改革の動向
１５回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回　教育課程編成の基本原理
第 2回　日本の教育課程の変遷
第 3回　学習指導要領と教育課程編成
第 4回　学力と教育課程
第 5回　学校における教育課程編成
第 6回　「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
第 7回　教育課程の評価
第 8回　諸外国の教育課程・カリキュラム（１）東アジアを中心に
第 9回　諸外国の教育課程・カリキュラム（２）英語文化圏を中心に
第10回　諸外国の教育課程・カリキュラム（３）欧州を中心に
第11回　教育課程の開発
第12回　今日的課題と教育課程（１）アクティブラーニング
第13回　今日的課題と教育課程（２）人の国際移動と教育
第14回　今日的課題と教育課程（３）ESD
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　森　千鶴 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房, 2009年、2,500円
文部科学省　　中学校学習指導要領　　外国語編　開隆堂、2009年　72円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE １～３開隆堂　2012年　310円
松本茂ほか著、ONE WORLD English Course　１～３教育出版　2012年　310円
高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN　ENGLISH SERIES New Edition　１～３"三省堂　2012年　310円
笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course　１～３東京書籍　2012年　310円
矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH　１～３教育出版　2012年　310円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校）の立て方
9. 評価について
10. DVD（師範授業）の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD（師範授業）の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業（中学校）【1年生】
14. モデル授業（中学校）【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末の定期試験（７５％程度）を中心として、提出物（１５％程度）及び授業参加度（１０％程度）を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に指定された教科書の範囲を読んでおく。また事後には渡されたプリント等で復習する。

履修上の注意　/Remarks

・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語科教育法Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　森　千鶴 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房、2009年、2500円
文部科学省　高等学校学習指導要領　外国語編　英語編　開隆堂　2011年　158円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂　2012年、630円
NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II　三友社
南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円
Onstage English Course I・II池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II　三省堂
田辺正美ほか著、PROMINENCE English　I・II東京書籍、2012年、630円
山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE　Second Edition I・II"　増進堂　2012年　570円
Minton, T.D. ほか著　Revised POLESTAR English Course I・II　数研出版　2012年　570円　"Revised Edition SUNSHINE　English Course I・II"開隆堂
田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition　ENGLISH COURSE I・II"　桐原書店　2013年、650円　卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II啓林館　2013年、650円
Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社
市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN　2012年、630円　ENGLISH COURSE I・II"文英堂
Genius English Course Revised I・II大修館書店　霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂　2012年、630円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2．学習指導要領および4技能の統合
3．リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について（高等学校編）
6．学習指導案（高等学校）の立て方
7．モデル授業の準備
8．モデル授業（高等学校）[コミュニケーション英語I]
9．モデル授業（高等学校）[コミュニケーション英語I以外の科目]
10．ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11．ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12．諸外国（たとえばフィンランド）の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13．諸外国（たとえばフィンランド）の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14．日本の英語教育（小・中・高連携）について
15．復習と試験の準備

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末の定期試験（７５％程度）を中心として、提出物（１５％程度）及び授業参加度（１０％程度）を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には指定された教科書のページを読んでおく。事後には渡されたプリント等を用いて復習する。

履修上の注意　/Remarks

・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
・モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

英語科教育法Ｂ 【昼】

教職に関する科目
必修科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor　雪丸　尚美 / 英米学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義は，中学校･ 高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として，実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には，それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように，（１）英語教育の施策に関する知識の習得，（２）各言語技能の指導技術や教室運営の基礎知識，（３）今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また，実際に模擬授業（中学校）を行い相互に評価･ 批判しあうことで，授業実践の力をつけさせる。模擬授業は一人1回を予定しているが、他の受講生の発表も真摯に聞き，自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお，この授業は，森千鶴先生担当の「英語科教育法A」と整合性を保つよう考慮している。しかし，適性なクラスサイズで一貫性のある授業を提供するために，原則として「英語科教育法C」（1学期開講）とあわせての受講を強く勧める。

この科目は，履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

（１）『新編New Horizon English Course 3』（中学検定教科書）（東京書籍）※生協の指定書店で購入
（２）『中学校学習指導要領解説（外国語編）』（文部科学省）（開隆堂）
（３）『新しい時代の英語科教育の基礎と実践』（JACET教育問題研究会）（三修社）2600円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○『英語教育』（大修館、月刊雑誌）

その他の文献は授業で紹介する。また，各出版社の検定教科書は教職資料室（本館12階）で閲覧することができる。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが，履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

１．オリエンテーション
２．日本における英語教育政策、英語教育の目的
３．英語教育課程（カリキュラム，学習指導要領）
４．言語習得と教授法
５．中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
６．中学学習指導要領の解説及び指導案作成法（細案の書き方）
７．模擬授業（中学校、導入の実践 Unit1, 3, 5）
８．模擬授業（中学校、会話文指導の実践①教科書Unit1,2, 3）
９．模擬授業（中学校、会話文指導の実践②教科書Unit4, 5, 6 ）
１０．模擬授業（中学校、リーディング指導の実践①教科書Unit1,2, 3）
１１．模擬授業（中学校、リーディング指導の実践②教科書Unit4, 5, 6）
１２．模擬授業（中学校、文法指導の実践①教科書Unit1, 2, 3）
１３．模擬授業（中学校、文法指導の実践②教科書Unit4, 5, 6）
１４．模擬授業（中学校、タスク指導の実践）
１５．まとめ（英語科教員としての責任と課題，質疑応答）

成績評価の方法　/Assessment Method

（１）指導案作成 20%
（２）模擬授業 20%
（３）学び報告書 20%
（４）模擬授業の振り返り報告書 20%
（５）授業への取り組み 20%（4回以上欠席した者は，成績評価の対象外とする）

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

＜事前学習＞該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業の準備をする。
＜事後学習＞授業内容の復習を行う。また、模擬授業の担当者は，授業の様子を録画したDVDを視聴し「振り返り報告書」を書く。模擬授業を担当していない者は，模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめる。

履修上の注意　/Remarks

（１）教員免許状を取得し，将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き，無断欠席は履修放棄とみなす。
（２）模擬授業を行う際は，服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う（発表者はスーツ着用）。
（３）模擬授業のスケジュール等，詳細については初回授業で説明する。

英語科教育法Ｃ 【昼】

教職に関する科目
必修科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

検定教科書の購入方法については，生協で確認すること。

キーワード　/Keywords

英語科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor　雪丸　尚美 / 英米学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は，中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として，実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には，それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように，（１）英語教育の施策に関する知識の習得，（２）各言語技能の指導技術や教室運営の基礎知識，（３）今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また，実際に模擬授業（高等学校英語）を行い相互に評価・批判しあうことで，授業実践の力をつけさせる。他の受講生の発表も真摯に聞き，自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお，この授業は，森千鶴先生担当の「英語科教育法B」と整合性を保つよう考慮している。しかし，適性なクラスサイズで一貫性のある授業を提供するために，原則として「英語科教育法C」（1学期開講）とあわせての受講を強く勧める。

この科目は，履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される。

教科書 /Textbooks

（１）『平成29年度改訂新版　CROWN English Communication I』（高校検定教科書）（三省堂）※生協の指定書店で購入
（２）『高等学校学習指導要領解説（外国語編・英語編）』（文部科学省）（開隆堂）
（３）『新しい時代の英語科教育の基礎と実践』（三修社）2600円　※前期に購入した場合は不要

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『英語教育』（大修館、月刊雑誌）

その他の文献は授業で紹介する。また，各出版社の検定教科書は教職資料室（本館12階）で閲覧することができる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが，履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

１．オリエンテーション
２．学習者論と教師論
３．測定と診断
４．学習障害と英語教育
５．高等学校学習指導要領の解説及び指導案作成法（細案の書き方）
６．模擬授業（高校、導入指導の実践）
７．模擬授業（高校、導入指導の実践）
８．模擬授業（高校、リーディング指導の実践①教科書Lesson 4,6）
９．模擬授業（高校、リーディング指導の実践②教科書Lesson 6,10）
１０．模擬授業（高校、文法指導の実践①教科書Lesson 4,6）
１１．模擬授業（高校、文法指導の実践②教科書Lesson 6,10）
１２．模擬授業（高校、アクティブラーニングの実践①教科書Lesson 6,10）
１３．模擬授業（高校、アクティブラーニングの実践②教科書Lesson 6,10）
１４．模擬授業（高校、タスク指導の実践）
１５．まとめ（英語科教員としての成長，質疑応答）

成績評価の方法 /Assessment Method

（１）指導案作成 20%
（２）模擬授業 20%
（３）学び報告書 20%
（４）模擬授業の振り返り報告書 20%
（５）授業参加度 20%（4回以上欠席した者は，成績評価の対象外とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習>該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業の準備をする。
<事後学習>模擬授業の担当者は，授業の様子を録画したDVDを視聴し「振り返り報告書」を書く。模擬授業を担当していないものは，模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめる。

履修上の注意 /Remarks

（１）教員免許状を取得し，将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き，無断欠席は履修放棄とみなす。
（２）模擬授業を行う際は，服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う（発表者はスーツ着用）。
（３）模擬授業等の詳細については，初回授業で説明する。

英語科教育法Ｄ 【昼】

教職に関する科目
必修科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

検定教科書の購入方法については生協で確認すること。

キーワード　/Keywords

国語科教育法Ｃ 【昼】

担当者名 /Instructor　坂東　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

＜授業の概要＞
　国語科の目標、学力、内容、評価の歴史的変遷を学び、新学習指導要領の特徴・課題を理解した後、グループに分かれ、現在の国語科教育実践の諸問題を改善する授業について検討を行う。

＜授業の到達目標＞
・国語科教育実践の基盤である、目標、学力、内容、評価、授業を行う際に留意すべき事柄について、史的な展開を含めて理解し説明することができる。
・新学習指導要領の特徴や課題を理解しあらましを説明することができる。
・国語科教育実践の諸問題について意欲的に考察し、改善を図ろうとする態度を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

『実践　国語科教育法』　町田守弘編著　（学文社　2012）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『中学校学習指導要領解説　国語編』　文部科学省　（東洋館出版　2008）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　：　オリエンテーション（授業方法・内容の紹介）
第２回　：　国語科教育の教科目標
第３回　：　国語科教育の学力論
第４回　：　国語科教育の内容
第５回　：　国語科教育における評価
第６回　：　学習指導要領の解説１　–「話すこと・聞くこと」「書くこと」–
第７回　：　学習指導要領の解説２　–「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」–
第８回　：　単元的展開の実践例１　–大村はまの実践から–
第９回　：　単元的展開の実践例２　–1980年代以降の実践から–
第10回　：　国語科年間指導計画
第11回　：　「書くこと」の実践（校内スケッチを書く）
第12回　：　「読むこと」の実践（グループで校内スケッチを読み合いアドバイスをする）
第13回　：　「話す」「聞く」「話し合う」の実践（文集の編集をする）
第14回　：　文集の編集案を発表する
第15回　：　まとめ

定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

・定期試験（期末試験）　50%
・授業内レポート、授業外レポート　20%
・授業態度・授業への参加度　10%
・受講者の発表、授業内での制作作品　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・指定されたテキストの範囲を読んでおくこと。
・次回までの課題を授業中に指示するので、準備すること。
・授業の理解に有益な文献を適宜紹介するので読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

・授業までにテキストを読んでおくこと。
・授業のあとにポイントをまとめておくこと。

国語科教育法Ｃ 【昼】

教職に関する科目
必修科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

国語科授業実践の基礎知識を身に付け、国語科の授業づくりにつて楽しく学んでいきましょう。

キーワード　/Keywords

国語科教育　国語科の授業づくり

国語科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor　坂東　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

＜授業の概要＞
　テキストを用いて、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導についてグループでレジメを作成して、歴史・指導法・今日的課題についての発表を行う。その後に、グループで学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

＜授業の到達目標＞
・国語科の領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導の歴史的変遷と様々な指導法、今日的課題を理解し説明することができる。
・開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

『新訂国語科教育学の基礎』　森田信義ほか　（渓水社　2010）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『中学校学習指導要領解説　国語編』　文部科学省　（東洋館出版　2008）
『教育科学国語教育』　（明治図書　月刊誌　2015～2016）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　：　オリエンテーション
第２回　：　「話すこと・聞くこと」（歴史的変遷、指導法、今日的課題、授業実践例）
第３回　：　「書くこと」（歴史的変遷、指導法、今日的課題、授業実践例）
第４回　：　「読むこと」文学的文章（歴史的変遷、指導法、今日的課題、授業実践例）
第５回　：　「読むこと」説明的文章（歴史的変遷、指導法、今日的課題、授業実践例）
第６回　：　「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（歴史的変遷、指導法、今日的課題、授業実践例）
第７回　：　学習指導案の作成（指導に当たっての留意点、学習指導案の作成）
第８回　：　学習指導案の検討
第９回　：　「話すこと・聞くこと」の模擬授業と検討
第10回　：　「書くこと」の模擬授業と検討
第11回　：　「読むこと」（文学的文章）の模擬授業と検討
第12回　：　「読むこと」（説明的文章）の模擬授業と検討
第13回　：　「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の模擬授業と検討
第14回　：　国語科教育の今日的課題
第15回　：　まとめ

定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

・定期試験（期末試験）　50%
・授業内レポート、授業外レポート　20%
・授業態度・授業への参加度　10%
・受講者の発表、授業内での制作作品　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・指定されたテキストの範囲を読んでおくこと。
・次回までの課題を授業中に指示するので、準備すること。
・教育実習や採用試験に関する情報収集を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

・授業までにテキストを読んでおくこと。
・授業のあとポイントをまとめておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学習指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の授業実践力をつけていきましょう。

国語科教育法Ｄ 【昼】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords
国語科教育の理論と実践、授業作り、模擬授業

道徳教育指導論 【昼】

教職に関する科目
必修科目

担当者名 /Instructor　田中　友佳子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより 、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　授業のねらいや計画、注意点の説明
第２回：道徳とは何か、なぜ必要か　倫理、哲学、法と道徳との関係性
第３回：道徳教育の変遷①　近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
第４回：道徳教育の変遷②　戦後から「改正教育基本法」、まで
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①　生命倫理をめぐる問題について考える (グループ討論)
第８回：道徳教育の現代的課題②　性の多様性について知る(グループ討論)
第９回：道徳教育の現代的課題③　住み良い社会とは何かを考える (グループ討論)
第10回：道徳教育の現代的課題④　「世代間の平等」の問題を考える (グループ討論)
第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
第12回：「道徳の時間」の教材研究①　読み物教材に対する批判的検討
第13回：「道徳の時間」の教材研究②　問題解決的な学習に対する批判的検討
第14回：学習指導案の発表とコメント
第15回：全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード　/Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

１．文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。

２．学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。

３．子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。

４．生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説　「特別活動編」（平成２０年９月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編　2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ)　学文社
高旗正人他編　「新しい特別活動指導論」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　-　特別活動の教育的意義
２回　学級活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章第１節他）　学級活動の実際　中学校
３回　学級活動の実際　その２　高等学校
４回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その１　対立解決プログラムについて
５回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その２　傾聴のスキル、アサーティブネス
６回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その３　ウィン・ウィン型の問題解決
７回　生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動　その４　対立の仲介のロールプレイ発表
８回　生徒会活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章２節他）
９回　学校行事の目標・内容と指導計画（テキスト第３章３節他）学校行事の実際　中学校
10回　学校行事の実際　-　高等学校
11回　学級の荒れを克服し、お互いを大切にする人間関係を築く学級活動の取り組み
12回　困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
13回　特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
14回　指導計画の作成と内容の取扱い（テキスト第４章）
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点（課題レポートなど）　期末試験　80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【昼】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords

特別活動の目標･ 内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学 【昼】

担当者名 /Instructor	下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。
そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書　/Textbooks

新しい教育の方法と技術　2012　篠原 正典 (著), 宮寺 晃夫 (著)　ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育と学習・理論と方法・実践
第３回：授業の歴史（欧米）
第４回：授業の歴史（日本）
第５回：学習の理論・協同的な学び
第６回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
第７回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第８回：授業の過程・デザイン-実践-評価
第９回：情報機器・メディア活用の授業
第１０回：「学力」について考える
第１１回：授業の研究１
第１２回：授業の研究２
第１３回：教師の専門性・専門職性
第１４回：教材研究・教材開発
第１５回：まとめ
定期試験
（２~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は。実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
発表・レジュメ作成・・・ ２０％
最終試験・課題レポート・・・ ５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。
一緒にがんばりましょう。

キーワード　/Keywords

生徒・進路指導論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。
① 生徒指導の意義、生徒指導の３機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと

② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること

③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。

⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。 また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規＋教育で考える 生徒指導ケース１００」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション ＋ 課題レポートの説明
２回 生徒指導の意義と原理（生徒指導提要ト第１章他）、生徒指導と生活指導
３回 教育課程と生徒指導（生徒指導提要第２章他） その１ - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
４回 教育課程と生徒指導 その２ 学級活動・学校行事と生徒指導
５回 生徒指導に関する法制度等（第７章他） その１
６回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
７回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
８回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
９回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
10回 進路相談のロールプレイ実習
11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その１ 少年期
14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その２ 思春期
15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート２０%、期末試験８０%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論 【昼】

教職に関する科目
必修科目

履修上の注意　/Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード　/Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

１．　学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談）、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。

２．教育相談の基本的な理念と技法（傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を修得すること。

３．　不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

○　文科省編　「生徒指導提要」
○　楠 凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○　広木克行　「教育相談」（教師教育テキストシリーズ）　学文社
○　吉田圭吾　教師のための教育相談の技術　金子書房
○　日本学校教育相談学会　学校教育相談学ハンドブック　ほんの森出版
一丸藤太郎・菅野信夫編著　学校教育相談　ミネルヴァ書房
楠　凡之　「いじめと児童虐待の臨床教育学」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　課題レポートの説明
２回　子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
３回　子どもの発達課題と教育相談
４回　教育相談の基本的な理念について　一　受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
５回　教育相談の基本的なスキルについて　-　共感的応答
６回　教育相談の基本的なスキルについて　-　直面化
７回　教育相談の基本的なスキルについて　-　ロールプレイ体験
８回　子どもの「問題行動」と教育相談　その１　不登校問題
９回　子どもの「問題行動」と教育相談　その２　発達障害の問題
10回　子どもの「問題行動」と教育相談　その３　薬物問題（外部講師　北九州ダルク施設長）
11回　保護者理解と教育相談
12回　教育相談における関係諸機関との連携
13回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　少年期
14回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　思春期　全体のまとめ
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの”ｖｉｅｗ”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の”ｖｉｅｗ”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード　/Keywords

教育相談の理念と技法、　子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

教育実習１ 【昼】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

４年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

１．教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚

２．学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など

３．生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類–3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
２回 教育実習生の１日
３回 教育実習の体験から学ぶ（中学）
４回 教育実習の体験から学ぶ（高校）
５回 学校で求められる人権教育について
６回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
７回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
８回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
９回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
11回 模擬授業②(特別活動 その１ 何らかの場面指導他)
12回 模擬授業③（特別活動 その２ 学級活動）
13回 模擬授業④（各教科 その１）
14回 模擬授業⑤（各教科 その２）
15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価（６０％） 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価（４０％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。
一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習１　【昼】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords

教育実習２ 【昼】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 １回	； オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 ２回	； 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 ３回	； 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 ４回	； 教育実習に向けての課題の整理	【教育に求められる資質と教育実習の課題】
第 ５回	； 実習校実習②	【教育実習指導】
第 ６回	； 実習校実習③	【教育実習指導】
第 ７回	； 実習校実習④	【教育実習指導】
第 ８回	； 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 ９回	； 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第１０回	； 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第１１回	； 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第１２回	； 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第１３回	； 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第１４回	； 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第１５回	； 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習３ 【昼】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 １回 ； 実習校実習① 【教育実習指導】
第 ２回 ； 実習校実習② 【教育実習指導】
第 ３回 ； 実習校実習③ 【教育実習指導】
第 ４回 ； 実習校実習④ 【教育実習指導】
第 ５回 ； 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
第 ６回 ； 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
第 ７回 ； 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
第 ８回 ； 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
第 ９回 ； 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
第１０回 ； 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
第１１回 ； 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
第１２回 ； 実習校実習⑫ 【教育実習指導】
第１３回 ； 実習校実習⑬ 【教育実習指導】
第１４回 ； 実習校実習⑭ 【教育実習指導】
第１５回 ； 実習校実習⑮ 【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習２と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習２と同時履修（教育実習の時間数の単位換算のため）。
教育実習３のみ受講の場合は教育実習２で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習２の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教育心理学 【昼】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義では、近年子どもたちの学力を構成する一要素として注目される「学習意欲」や子どもの「学び」、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）に関して、発達心理学、認知心理学、社会心理学などに触れながら理解を深めていく。
　とくに子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方を取り上げながら学習することを通して、「心理学的視点を踏まえながら、教育の諸事象に関する考え方を持てること」を目標とする。
　講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を設けていく。

教科書　/Textbooks

やさしい教育心理学 第4版　鎌原 雅彦 (著), 竹綱 誠一郎 (著)　有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：なぜ教育心理学を学ぶのか　教育を心理学で考える
第３回：記憶に関する理論　認知心理学の理論
第４回：学習とは何か　教えて考えさせるということ
第５回：学習の理論　学習心理学・発達心理学の理論
第６回：子どもの発達を考える　発達心理学の理論
第７回：学習意欲とは何か　学習意欲の構造論から
第８回：子どもをいかに評価するか　学習意欲の観点から
第９回：「学力」について考える　学習意欲と態度
第１０回：教育測定・評価（１）　評価の尺度について
第１１回：教育測定・評価（２）　教師の視点と生徒の視点
第１２回：学校カウンセリング　スクールカウンセラーの役割
第１３回：学校・学級の心理的諸問題（発達につまづきのある子どもたち）
第１４回：学習の方法と意欲　学習方略の理論
第１５回：まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内での活動への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ２０％
講義でのミニレポート・・・ ３０％
最終試験・・・ ５０％

なお出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：簡易レポート・授業で扱うプリントについて、その都度指示をする。

事後学習：講義内で学んだ心理学的手法について学校現場の課題や実践と関連して考えるよう、都度指示を出す。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しております。一緒にがんばりましょう。

キーワード　/Keywords

障害児の心理と指導 【昼】

担当者名 /Instructor　税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：障害児の心理と指導について
第２回　障害の概念とノーマライゼーション
第３回　人々の障害者観：障害をどう捉えるか
第４回　障害の重積・深化の過程と発達援助
第５回　視覚障害について
第６回　聴覚障害について
第７回　姿勢・運動の障害について
第８回　知的障害について
第０回　障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
第10回　自閉症スペクトラムについて
第11回　注意欠陥多動性障害について
第12回　学習障害について
第13回　青年期以降に診断される障害について
第14回　障害児・者への地域支援の在り方
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくること。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育社会学 【昼】

担当者名 /Instructor	作田　誠一郎 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	集中	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。
・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

I.イリッチ,東洋・ 小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・ J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウィリス,山田潤・ 熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・ 山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・ 伊藤茂樹，2010，『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』日本図書センター
酒井朗・ 多賀太・ 中村高康編著，2012，『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育社会学の対象と方法
第３回：子どもの社会化と家族・ 学校
第４回：学校という組織
第５回：学校社会と生徒文化
第６回：学校社会と教師文化
第７回：文化的再生産論にみる学校社会
第８回：少年非行と逸脱理論（１）–アノミー論と文化的接触理論
第９回：少年非行と逸脱理論（２）–コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会化　近代教育制度　学校文化　文化的再生産　教育改革

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor　弓野　勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

○人権教育とは、「自他の人権の実現と擁護のための必要な資質や能力を育成し発展させることを目指す総合的な教育」です。
　文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、「私の人権教育の創造」をめざす。
○教育現場の具体的な人権問題の事象に学び、人権教育の知識を豊かにすると共に、人権感覚を研き、人権教育の技能・スキル・態度を培う。
○「部落差別の解消の推進に関する法律」の施行により、「教育・啓発の推進」が求められています。同和問題への「正しい理解と科学的認識」を培い、解決への道筋を確かにすると共に、「授業内容の創造」をめざす。

教科書　/Textbooks

○「手づくり資料」を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○授業中に「テーマ毎に紹介」します。

人権教育論 【昼】

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

(1)私の人権教育の創造
第1回　「体罰」と人権
○ 教育現場の体罰の実態。
○ 体罰のない学校を創るため、懲戒・ 体罰・ 正当防衛を正しく理解する。
第2回　「いじめ問題」と人権①
○「いじめ問題」の実態に学び、いじめの構図、加害者の心理、傍観者の心理を理解し、
教育内容の創造の道筋を考える。
第3回「　いじめ問題」と人権②
○ 文部科学省の「いじめの定義」、「いじめ防止対策推進法」を理解する。
○ いじめ認知調査「レジリエンス」（自己回復力）
第4回　文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
「同和教育の成果と手法の評価を踏まえ、教育内容の創造へチャレンジ」する。
①人権尊重の精神に立った学習活動の創造。学力と進路の保障。
「人権が尊重される授業づくり」「自尊感情と学習理解力・ 人権意識の相関関係」
「全国学力テストの結果の分析と課題」
第5回　②人間関係づくり。なかまづくり。
「なかまづくりの原点と実践例」「金子みすずさんからのメッセージ」
第6回　③教育環境、雰囲気づくり
「学級人権文化の創造」「子どもの居場所づくり」
第7回　④隠れたカリキュラム。空間的意識の大切さ。
「人権教育の技能・ スキル・ 態度」「アサーティブな表現を研く」
「金子みすずの詩と東京大学入試問題」
第8回　個別の人権課題に学ぶ①
○発達障害と子どもの人権
第9回　個別の人権課題に学ぶ②
○「障害者差別解消法」「性の多様性」

(2)気づきと発見の部落史授業
第10回　①近世の文学者の人権感覚に学ぶ
○一茶・ 蕪村・ 芭蕉の俳句から学ぶ。
②近代医学の夜明け。「解体新書」と出会い直す。
○「腑分け」の主人公
第11回　③現代の社会問題としての同和問題の起こり（成立）について学ぶ
○明治時代～大正時代～昭和時代
「解放例の目的と意義」「近代化への政策と差別の再生産」
第12回　○「水平社宣言と水平社の結成」
「竹田の子守唄と少女たちの叫び」
第13回　○「結婚差別」（２人の若者の遺書）
「憲法14条・ 24条」「人権意識調査」から考える。
第14回　○「教科書無償運動と親たちの願い」
「全国高等学校統一応募用紙と就労保障の取り組み」
第15回　○同和問題解決への国の施策
「同和対策審議会・ 答申～同和対策事業特別措置法」
○「部落差別の解消の推進に関する法律」について
○法律制定の経緯と意義。
○部落差別の現状と課題。「授業内容創造への視点」

成績評価の方法　/Assessment Method

○毎時間の「受講票」「定期的な小テスト（レポート）」「要点整理プリント」「テスト」を合わせて総合的に評価します。
○「受講票」は「質問・ 意見・ 理解内容」を記入し提出。
○評価の割合は「テスト」（60％）、「受講票」（20％）、「小テスト（レポート）」（20％）です。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

○この授業科目の単位（2単位、週90分授業）を修得するためには、授業とは別に「毎週180分程度」の自習が必要と考えます。
○基本的には、「前もって配布された資料」に必ず目を通し、学習内容をチェックしておく。
○テーマ毎に「要点整理プリント」を配布します。次の授業で提出します。
○「小テスト、レポート（100字以内）」は、事前に予告します。
「レポート用紙」は、事前に配布します。
○自習内容の詳細に関しては、授業の中で指示します。

履修上の注意　/Remarks

人権教育論 【昼】

教職に関する科目
選択科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ことばの科学 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原　朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津　由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田　直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　序(1)：ことばの不思議
第2回　序(2)：ことばの習得
第3回　ことばの単位(1)：音韻
第4回　連濁
第5回　鼻濁音
第6回　ことばの単位(2)：語
第7回　語の基本：なりたち・構造・意味
第8回　語の文法：複合語・短縮語・新語
第9回　ことばの単位(3)：文
第10回　動詞の自他
第11回　日本語と英語の受動態
第12回　数量詞
第13回　時制と相：方言比較
第14回　ことばと脳：言語野と他の領域
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度…10%　課題…30%　期末試験…60%

ことばの科学 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		

国際学入門	IRL100F

授業の概要　/Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく２本の柱が必要となる。すなわち、①グローバライゼイションのすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバライゼイション】【多様化】
第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
第11回：「地域研究」の技法。【フィールド･ワーク】
第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
第14回：まとめ
第15回：質問

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜指示する。

国際学入門 【夜】

履修上の注意　/Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活世界の哲学 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
○ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
○ホルクハイマー / アドルノ『啓蒙の弁証法––哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
○ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
○ハンナ・アレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　近代とは何か【概説】
３回　近代の勃興【ガリレイと科学革命】
４回　生活世界の概念（１）【フッサールの科学批判】
５回　生活世界の概念（２）【ハイデガーの世界論】
６回　生活世界の変容（１）【機械化の進行】
７回　生活世界の変容（２）【近代産業社会】
８回　確認テスト
９回　生活世界の変容（３）【戦争の美学】
１０回　生活世界の変容（４）【政治の美学】
１１回　生活世界の変容（５）【ホロコースト】
１２回　生活世界の変容（６）【全体主義と思考能力】
１３回　生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
１４回　古代世界の公共空間（１）【ギリシャ概説】
１５回　古代世界の公共空間（２）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…50%　　学期末試験…50%
（第８回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。）

生活世界の哲学 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード　/Keywords

科学技術　生活世界　活動　ポリス

日本の防衛 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促し

本年度は特に「平和安全法制」について力点を入れて解説する。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識･理解の獲得、②課題発見･分析･解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　安全保障と防衛(1)
　安全保障を学ぶことの重要性、
第3回　安全保障と防衛(2)
　安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
第4回　安全保障と防衛(2)
　脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
第5回　日本の安全保障(1)
　安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
第6回　日本の安全保障(2)
　安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献)
第7回　日本の防衛(1)
　防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
第8回　日本の防衛(2)
　海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
第9回　日本の防衛(3)
　平和安全法制の概要
第10回　日本の防衛(4)
　平和安全法制の論点
第11回　日本の脅威(1)
　北朝鮮の脅威①　兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
第12回　日本の脅威(2)
　北朝鮮の脅威②　弾道ミサイル及び大量破壊兵器
第13回　日本の脅威(3)
　中国海空軍の脅威①　中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
第14回　日本の脅威(4)
　中国海空軍の脅威②　中国軍の戦略と行動
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてくだい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命と環境 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）903円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（日高・中尾）
２回　自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）　【物質の単位】【自然科学】
３回　自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）　【元素】【原子】【超新星爆発】
４回　自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）　【DNA】【タンパク質】
５回　生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）　【種】【学名】【系統樹】
６回　生物の多様性（２）単細胞生物と多細胞生物（日高）　【細胞膜】【共生説】
７回　生物の多様性（３）生態系と進化（日高）　【食物連鎖】【絶滅】【進化】
８回　遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）　【突然変異】【遺伝学】
９回　遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）　【有性生殖】【減数分裂】
１０回　遺伝子の多様性（３）多様な生命の紹介（外部講師）
１１回　科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）　【血液型】【星座】
１２回　科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）　【太陽活動】【地球温暖化問題】
１３回　科学的な方法とは（３）人類の起源を調べるには（日高）【ミトコンドリア】
１４回　関連ビデオ鑑賞（日高）
１５回　質疑応答とまとめ（日高）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題４０％、期末テスト６０％

生命と環境 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。
・ ２学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

情報社会への招待 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，情報社会を総合的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎として，変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの １【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの ２【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウエア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウェア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

情報社会への招待 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 75%
日常の授業への取り組み … 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って，授業の資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，授業中に配布した課題プリントを持ち帰って，次回の授業時に提出したり，北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第9回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第10回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第11回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第13回　復習
第14回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第15回　総括　- おわりに -

成績評価の方法　/Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

地球の生いたち 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　長井　孝一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地球の生いたち	G0L001F

授業の概要　/Course Description

我々の住む地球は太陽系の第３惑星として，今から約４６億年前に誕生した。その４６億年の地球史の中で，大地や海，大気が形成され，地球生命が誕生し，さらに，そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約３８億年前に誕生し，長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今，地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として，その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在，我々はこれまでにも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では，地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書　/Textbooks

教科書は使用せず，プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会），1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店），861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）,1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方　【地質時代と絶対年代】
２回目：生きている地球１ 【地球惑星の構成としくみ】
３回目：生きている地球２ 【ウェゲナーと大陸移動説】
４回目：生きている地球３ 【プレートテクトニクストとプルームテクトニクス】
５回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
６回目：地球地球史を記録する地層と化石１　【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
７回目：地球地球史を記録する地層と化石２　【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
８回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
９回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
１０，１１回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
　　１０回目：カンブリア爆発の特徴と原因
　　１１回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
１２回目：繰り返す大量絶滅１【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
１３回目：繰り返す大量絶滅２ 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
１４回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
１５回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し，授業の内容を復習すること。また，シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない，可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて，授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意　/Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して，地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード　/Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

思想と現代 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

思想と現代	PHR004F

授業の概要　/Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『哲学の歴史　第９巻--反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
○『哲学の歴史　第１２巻--実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
○小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　実存の思想（１）【概説】
３回　実存の思想（２）【キルケゴール】
４回　実存の思想（３）【ハイデガー】
５回　実存の思想（４）【サルトル】
６回　実存の思想（５）【メルロ=ポンティ】
７回　実存の思想（６）【補足】
８回　確認テスト
９回　精神分析の思想（１）【前期フロイト】
１０回　精神分析の思想（２）【後期フロイト】
１１回　精神分析の思想（３）【フロイト以後】
１２回　フェミニズムの思想（１）【第一波～第二派】
１３回　フェミニズムの思想（２）【日本のウーマン・リブ】
１４回　フェミニズムの思想（３）【フレンチ・フェミニズム】
１５回　フェミニズムの思想（４）【クイア】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…５０％　期末テスト…５０％
（※第８回に予定している確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

思想と現代 【夜】

履修上の注意　/Remarks

第８回に確認テスト（第３回～第７回が試験範囲）を実施するので、受講希望者は遅くとも第３週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則として、このテストを受験していない者には単位を認めない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気･ 就活･ 実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

民主主義とは何か 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　中道　壽一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要　/Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の３つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運 動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、１９３８年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。
そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書　/Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○Ｊ・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
第１回　はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
第２回　「デモス」と「クラティア」について
第３回　二つの民主主義伝統について
第４回　近代市民革命と自由民主主義について
第５回　現代民主主義の理論の比較・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
第６回　現代民主主義の理論の比較・・参加民主主義論、共生の民主主義論
第７回　現代民主主義の理論の比較・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
第８回　まとめのグループ討論、グループ発表
第９回　民主主義の運動（組織）について・・１９８９年の東欧革命、１９６８年の「青年の反乱」の日独比較
第１０回　民主主義の運動（組織）について・・１９３８年の日独青少年交歓事業について
第１１回　民主主義の制度について・・議院内閣制と大統領制の比較
第１２回　議院内閣制民主主義の諸問題について
第１３回　大統領制民主主義の諸問題について
第１４回　民主主義制度の比較のまとめ・・首相公選制について
第１５回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。
日常の授業への取り組み　２０％
小テスト　１０％
レポート（任意）　２０％
定期試験　５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布した講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）の当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書く留めた穴埋め個所を中心に復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、
国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。
多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。
毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失しないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落したら、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

人権論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　柳井　美枝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係･歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義･重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

人権論	SOC004F

授業の概要　/Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。
本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。
その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標
１．人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
２．人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
３．現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
４．自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書　/Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社）福岡県人権研究所発行 ￥1000）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。
※５～１４については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心をもち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　力武　由美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

ジェンダー論	GEN001F

授業の概要　/Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのかーそのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書　/Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ–女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　日本語とジェンダー–戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
２回　ジェンダー・リテラシーで読み解く文学–村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
３回　現代アートとジェンダー–映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
４回　男もつらいよ–アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
５回　ジェンダー家族を超えて–週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
６回　セクシュアリティを考える–あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
７回　学校教育の今昔–学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
８回　社会保障とジェンダー–津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
９回　ジェンダーの視点からみる農業–エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
１０回　アジア現代女性史の試み–ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
１１回　女性差別撤廃条約と人権–絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
１２回　ジェンダーと平和学–女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
１３回　グローバリゼーションと労働市場–国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
１４回　デートDV–TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス（DV）】
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言…25%、プレゼン…25%、レポート…25%、期末試験…25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

社会調査 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		

社会調査	SOC003F

授業の概要　/Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書　/Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
○『ガイドブック社会調査（第２版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　何のための社会調査か
第２回　量的調査と質的調査
第３回　調査と研究の進め方
第４回　社会調査を企画する
第５回　ワーディング（１）【質問文の作成】
第６回　ワーディング（２）【選択肢の作成】
第７回　調査票の構成
第８回　サンプリングの考え方
第９回　サンプリングの方法
第10回　実査の準備
第11回　データファイルの作成（実習）１【入力フォームの作成】
第12回　データファイルの作成（実習）２【ＳＰＳＳファイルの作成とデータクリーニング】
第13回　データファイルの作成（実習）３【度数分布表の作成】
第14回　分布と統計量、クロス集計、相関係数
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…３０％　日常の授業への取り組み…１０％　レポート…６０％
（総合的に判断する。）

社会調査 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード　/Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

市民活動論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業と社会 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		

企業と社会	BUS001F

授業の概要　/Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書　/Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論　第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文眞堂、1991年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　【企業観の変遷】【6つの企業観】
第2回「財・サービスの提供機関」としての企業①　【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
第3回「財・サービスの提供機関」としての企業②　【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
第4回「株式会社」としての企業①　【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
第5回「株式会社」としての企業②　【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
第6回「大企業」としての企業①　【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
第7回「大企業」としての企業②　【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
第8回2-7回のまとめ
第9回「家」としての日本企業①　人事における日本企業特有の現象（１）　【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
第10回「家」としての日本企業②　人事における日本企業特有の現象（２）　【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
第11回「家」としての日本企業③　株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
第12回「家」としての日本企業④　「家」の概念　【日本企業の独自性】【家の論理】
第13回「家」としての日本企業⑤　今後の日本的経営　【原理と構造】【家社会】
第14回「社会的器官」としての日本企業　【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
第15回総括

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 50%　　中間テスト・・・ 30%　　レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

企業と社会 【夜】

履修上の注意　/Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代の国際情勢 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 大平　剛 / 国際関係学科 北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 白石　麻保 / 中国学科 松田　智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科 アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代の国際情勢	IRL003F

授業の概要　/Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書　/Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　尹明憲　オリエンテーション
第2回　　アダム・ヘイルズ　演劇とインターナショナリズム　【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】【協力】
第３回　　アーノルド・ウェイン　The Role of Public Spaces in New York City　【urban space】【parks】【recreation】【enjoyment】【renovation】
第４回　　大平　　変容するアジア情勢と日本の国際協力（１）中国ファクター
第５回　　大平　　変容するアジア情勢と日本の国際協力（２）日本の安全保障戦略
第６回　　北　　現代アメリカ合衆国の社会（１）　【人種】
第７回　　北　　現代アメリカ合衆国の社会（２）　【移民】
第８回　　白石　　中国の持続的発展の可能性　【経済成長・SNA・投資】
第９回　　松田　　総合商社と海外プロジェクト　【プロジェクトファイナンス・世界銀行】
第１０回　山本　　ヨーロッパの危機（１）　【地域主義】【民主主義】
第１１回　山本　　ヨーロッパの危機（２）　【ユーロ】【難民】
第１２回　尹　　在日外国人と多文化共生　【在日コリアン】【ニューカマー】
第１３回　尹　　在日外国人と多文化共生　【ヘイトスピーチ】【多文化共生】
第１４回　尹　　東アジアの経済事情（１）【地域的特徴】【経済関係】
第１５回　尹　　東アジアの経済事情（２）【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト　（8回）100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の担当者の指示に従って学習を進める。

現代の国際情勢 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意　/Remarks

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード　/Keywords

開発と統治 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治	IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバリゼーションが刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ（明石書店）、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 「開発と統治」をはじめるにあたって 担当：三宅
第２回 民主化問題を考える視座（１） 【民主化問題】 担当：伊野
第３回 民主化問題を考える視座（２） 担当：伊野
第４回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐって 【ミャンマー】 担当：伊野
第５回 世界と日本のフードバンク 【フードバンク】 担当：原田正樹・三宅
第６回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？ 【ライフアゲイン】 担当：原田・三宅
第７回 子ども食堂「もがるか」の運営と取り巻く人々 【子ども食堂】 担当：原田・三宅
第８回 フードバンク運動参加の学生の取組みと討論 【学生】 担当：原田・三宅
第９回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
第10回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権に焦点をあてて 【米国】 担当：申
第11回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
第12回 グループワーク「会社を作る」を通してのガバナンスの理解 【グループワーク】 担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念を考える 担当：三宅・伊野・申
第15回まとめ～ガバナンスに関してのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度…30% 小課題の提出…20 % 試験…50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、マスメディアに見られる「ガバナンス」に関する情報を収集しておき、自らのガバナンス概念を考えておく。事後学習は、授業で習ったそれぞれの「ガバナンス」概念・説をノートに整理しておく。最後のグループワークで活かす。

開発と統治 【夜】

履修上の注意　/Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード　/Keywords

ガバナンス　ミャンマー　民主主義　フードバンク　韓国　米国　地域社会　子ども会　グループワーク

国際紛争と国連 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

国際紛争と国連	IRL005F

授業の概要　/Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書　/Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考書　財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）。
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　コースガイダンス
第2回　国連情報へのアクセス方法　【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
第3回　国連を知る①【国連　1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
第4回　国連を知る②【国連　1990's-】【冷戦後の国連】
第5回　紛争を知る　【難民】【発生国】【受入国】
第6回　国際紛争を見る分析軸　【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
第7回　国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム　【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
第8回　国連による平和の創出②：平和創造　【事務総長による周旋】【The Team】
第9回　国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開　【6章半の活動】【PKO原則】
第10回　国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化　【多機能化】【キャップストーン報告】
第11回　国連による平和の強制①：決定プロセス　【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
第12回　国連による平和の強制②：実施上の課題　【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
第13回　国連による持続的平和の定着　【平和構築】【平和構築委員会】
第14回　国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国　【財政的貢献】【人的貢献】
第15回　まとめ

国際紛争と国連 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
　　課題等への対応…30%　学期末試験…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

３つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード　/Keywords

【国際紛争】　【国連】　【平和創出】　【平和維持】　【平和強制】　【平和構築】

歴史の読み方I 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　赤司　友徳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅰ	HIS004F

授業の概要　/Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、逓信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、多彩な経歴を持つ人物である。後藤は入念な調査と分析に基づく、経費積算、計画立案を行うという科学的視点を重視し、「科学的政治家」などと評された。
本講義では、後藤の「科学」に着目し、彼が関わった行政・政治・外交の重要な局面において、その科学的視点がどのように活かされたのかを読み解く。またそれらの歴史的転換点において、後藤と関わった著名人の史料もあわせて読みながら、史料に基づいた歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965～67年〔復刻版〕
○北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
鶴見祐輔『決定版　正伝・後藤新平』全8巻、藤原書店、2004～2007年
この他は講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　愛知県病院長兼医学校長時代：自由党異変【板垣退助】、健康警察医官設置之建白書
第3回　内務省衛生局時代：『国家衛生原理』、万国衛生会議、【北里柴三郎】
第4回　内務省衛生局長時代（１）：「医師免許規則改正法案」、伝染病研究所設置問題【北里柴三郎、福沢諭吉】
第5回　内務省衛生局長時代（２）：『陸軍検疫部報告書』【児玉源太郎】
第6回　内務省衛生局長時代（３）：「台湾阿片二関スル意見」【伊藤博文】【桂太郎】
第7回　台湾民政長官時代：台湾公債事業【児玉源太郎】【新渡戸稲造】
第8回　南満州鉄道総裁時代：「満州経営作梗概」、【原敬】
第9回　国務大臣時代（１）：【桂太郎】【西園寺公望】【山本権兵衛】
第10回　国務大臣時代（２）：【水野錬太郎】、シベリア出兵
第11回　第一次世界大戦後の欧米遍歴時代：【新渡戸稲造】【原敬】
第12回　東京市長時代：「大調査機関設置構想」【原敬】、東京市政調査会【安田善次郎】
第13回　在野時代：対ヨッフェ交渉
第14回　国務大臣時代（３）：関東大震災と帝都復興
第15回　まとめ

※【　】の人名は、後藤新平以外に取り上げる史料の作成者

歴史の読み方I 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（80％）と平常点（授業への参加態度、コメント等で20％）で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回授業の終わりに、次回使用する史料を配付するので、よく読んで予習をしておくこと。また授業の中で参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

そのとき世界は 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

そのとき世界は	HIS002F

授業の概要　/Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：ミャンマー概説１（風土、文化）。
第３回：ミャンマー概説２（社会）。
第４回：１９３０年代の世界。
第５回：１９３０年代のミャンマー。
第６回：1930年農民大反乱。
第７回：第２次世界大戦と世界。
第８回：第２次世界大戦とミャンマー。
第９回：1960年代の世界。
第１０回：1960年代のミャンマー。
第１１回：1980年代の世界。
第１２回：1980年代のミャンマー
第１３回：現代のミャンマー。
第１４回：民主化のゆくえ。
第１５回：まとめ。
第１５回：質問日。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意　/Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

人物と時代の歴史 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　山﨑　勇治 / 北方キャンパス　非常勤講師, 新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

人物と時代の歴史	HIS001F

授業の概要　/Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
　なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
　二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。
まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、３代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
　さらに、大英帝国の後を継いで１００年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第３代ジェファーソン大統領、第７代ジャクソン大統領、第１６代リンカン大統領、第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山﨑は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の２人について人物と時代を語る。その際、２人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。
　２１世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第１主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。
　イギリスでは１昨年からのＥＵ離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なＥＵ離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればＥＵ存続にも影響を与えかねない。
　こうした背景も視野に入れながら、第２次世界大戦後に果たした世界のアメリから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にＥＵ（ヨーロッパ連合）の形成過程において３度もＥＥＣ（とＥＣ）に申請してやっと認められたイギリスがなぜＥＵから出て行くと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書　/Textbooks

資料を配付します。（新村）

口述講義。その際資料を配布する。（山﨑）

人物と時代の歴史 【夜】

参考書(図書館蔵書には ◯) /References (Available in the library: ◯)

新渡戸稲造『武士道』（ＢＵＳＨＩＤＯ）
○藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
○中村彰彦『保科正之』（中公新書）
『歴代アメリカ大統領」（ブティック社）

毎日の新聞（朝日、毎日、読売などどの新聞でも良い）を購読のこと。（山﨑）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
（新村）
第1回　「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
第2回　【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
第3回　【３・１１東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
第4回　乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
第5回　聖徳太子（厩戸皇子）と【飛鳥・奈良時代】
第6回　アメリカ大統領I（初代ワシントン大統領、３代ジェファーソン大統領、７代ジャクソン大統領、１６代リンカン大統領）【独立戦争・建国・南北戦争時代】
第7回　アメリカ大統領II（第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領）第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

（山﨑）
第8回　２１世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケ　　ル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
第9回　イギリスとＥＵの関係について
第10回　キャメロン首相と国民投票
第11回　なせＥＵ離脱派の投票率がが残留派より多かったのか
第12回　トランプ候補とクリントン候補との争点とは何かー
第13回　トランプ候補が勝利した理由
第14回　トランプ大統領は何を目指しているのか–グローバル経済はどんな影響を受けるのか
第15回　総まとめーレポート提出の要件、提出締切日などの説明–

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70％）と平常の学習状況（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　寺田　千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスＩ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なこころで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書　/Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　メンタルヘルスを学ぶ目的
第2回　メンタルヘルスに関する基礎知識（１）【日本における現状と課題】
第3回　メンタルヘルスに関する基礎知識（２）【問題の種類】
第4回　メンタルヘルスに関する基礎知識（３）【よくある誤解】
第5回　ライフサイクルとメンタルヘルス（１）【子ども】
第6回　ライフサイクルとメンタルヘルス（２）【大人】
第7回　精神と行動の異変（１）【精神症状】
第8回　精神と行動の異変（２）【精神疾患①】
第9回　精神と行動の異変（３）【精神疾患②】
第10回　精神と行動の異変（４）【子どものころから現れやすい問題】
第11回　セルフケア①【ストレスの仕組み】
第12回　セルフケア②【ストレスマネジメント】
第13回　セルフケア③【相談の有用性】
第14回　セルフケア④【ソーシャルサポート】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%　　日常の授業への取り組み　50%

メンタル・ヘルスI 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意　/Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰しも精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード　/Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

フィジカル・ヘルスII 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　（講義）運動と身体の健康
３回　（実習）仲間づくりを意図したウォーミングアップ
４回　（実習）運動強度測定
５回　（講義）運動の効果（精神的側面）
６回　（実習）ウエイトトレーニングのやり方
７回　（実習）体脂肪を減らすトレーニング
８回　（実習）テーピングによる簡単な予防法
９回　運動の効果（身体的側面）
１０回　（実習）レクリエーションスポーツ①（ペタンク・インディアカ）
１１回　（実習）レクリエーションスポーツ②（風船バレー）
１２回　（実習）レクリエーションスポーツ③（アルティメット）
１３回　（講義）運動の効果（社会的側面）
１４回　これからのスポーツ
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また講義の場合には、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。実技のときには、その内容を無理のない程度で、自宅で試してみる。

フィジカル・ヘルスII 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード　/Keywords

フィジカル･エクササイズI (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・ スキル科目

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・ 栄養・ 休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・ 知識の習得
３回　フライト練習（１）＜ヘアピン＞
４回　フライト練習（２）＜ハイクリアー＞
５回　フライト練習（３）＜ドライブ、スマッシュ＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（３）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（４）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル･エクササイズI（バドミントン）【夜】

履修上の注意　/Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

データ処理 【夜】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現 【夜】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90% 、積極的な授業参加 … 10%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

教職論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

１．教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。

２．ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。

３．これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。

４．参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．教職の意義と教員の役割
３．教員という仕事の魅力と困難さ　(外部講師　中学校長)
４．教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
５．教員の仕事の理想と現実(外部講師　本学卒業生の中学校教員)
６．教員に求められる資質　　ー　子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
７．教員の仕事　その１　教科指導と授業づくり(中学校教諭)
８．教員の仕事　その２　教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
９. 教員の仕事　その３　８，９回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事　その４　道徳教育実践の主体としての教師　-　道徳は教えられるか？
11. 教員の仕事　その５　生活指導実践主体としての教師 -　子どもたちと一緒に「発達の糧」となる生活を創造する
12.「反省的実践家」(ドナルド・ショーン)としての教師　-　その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために　-　体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ、授業アンケート(「教職課程を履修する意識がどう変わったか」)

＊講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業内で実施するミニレポート等)　３０点、期末試験７０点
なお、欠席した場合には一回につき５点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類– 1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション：教育とは何か
２回　教育の関係　：教育のモデル
３回　生涯にわたる発達と教育：生涯発達
４回　発達段階と発達課題：思春期・青年期
５回　感覚・身体と教育：五感・感覚教育
６回　教育思想①　：諸外国の教育思想
７回　教育思想②：日本の教育思想
８回　教育史①：西洋の教育史
９回　教育史②：日本の教育史
１０回　学校教育の機能：基礎集団としての学級
１１回　学校教育の課題：学校で生じる問題
１２回　メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
１３回　国際化と教育：言語・文化
１４回　仕事と教育：進路形成
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【夜】

教職に関する科目
必修科目

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2700

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ￥298
※ただし、文科省HP（下記）より「生徒指導提要」の第3章部分（p.43-81）を印刷して用いてもよい。
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第２回　乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
第３回　ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
第４回　ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
第５回　イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
第６回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
第７回　自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
第８回　学習の過程【学習理論、論理的思考】
第９回　友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
第10回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第11回　他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
第12回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第13回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第14回　発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　教育制度の基本原理（１）　教育制度とは
２回　教育制度の基本原理（２）　日本の教育法制
３回　学校制度の基本的事項（１）機会均等、義務教育
４回　学校制度の基本的事項（２）中等教育、学校体系
５回　学校制度の基本的事項（３）就学・懲戒
６回　教科書に関する制度
７回　教員制度の基本的事項（１）教員免許法制
８回　教員制度の基本的事項（２）教員の指導力、研修
９回　教員制度の基本的事項（３）公務員としての教師、教員の待遇
１０回　教育行財政の仕組み（１）　中央教育行政、地方教育行政
１１回　教育行財政の仕組み（２）　教育委員会と学校
１２回　学校関係者による協力支援の制度
１３回　地域社会の変容と学校
１４回　教育制度改革の動向
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ･資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【夜】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回　教育課程編成の基本原理
第 2回　日本の教育課程の変遷
第 3回　学習指導要領と教育課程編成
第 4回　学力と教育課程
第 5回　学校における教育課程編成
第 6回　「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
第 7回　教育課程の評価
第 8回　諸外国の教育課程・カリキュラム（１）東アジアを中心に
第 9回　諸外国の教育課程・カリキュラム（２）英語文化圏を中心に
第10回　諸外国の教育課程・カリキュラム（３）欧州を中心に
第11回　教育課程の開発
第12回　今日的課題と教育課程（１）アクティブラーニング
第13回　今日的課題と教育課程（２）人の移動と教育
第14回　今日的課題と教育課程（３）ESD
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法Ａ 【夜】

担当者名 /Instructor　森　千鶴 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房　2009年、2500円
文部科学省　　中学校学習指導要領　　外国語編　開隆堂　2009年　72円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE １～３開隆堂　2012年　310円
松本茂ほか著、ONE WORLD English Course　１～３教育出版　2012年　310円
高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN　ENGLISH SERIES New Edition　１～３"三省堂　2012年　310円
笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course　１～３東京書籍　2012年　310円
矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH　１～３教育出版　2012年　310円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校）の立て方
9. 評価について
10. DVD（師範授業）の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD（師範授業）の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業（中学校）【1年生】
14. モデル授業（中学校）【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末の定期試験（７５％程度）を中心として、提出物（１５％程度）及び授業参加度（１０％程度）を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には指定された教科書の範囲を読んでおく。事後には渡されたプリントなどを復習する。

履修上の注意　/Remarks

・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語科教育法Ｂ 【夜】

担当者名 /Instructor　森　千鶴 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省　高等学校学習指導要領　外国語

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂　2012年　630円
NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II　三友社
南村俊夫ほか著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社　2007年　765円
Onstage English Course I・II池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II　三省堂　田辺正美ほか著、PROMINENCE English　I・II東京書籍　2012年　630円　山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE　Second Edition I・II"　増進堂　2012年　570円
Minton, T.D. ほか著、Revised POLESTAR English Course I・II　数研出版　2012年　"Revised Edition SUNSHINE　English Course I・II"開隆堂
田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition　ENGLISH COURSE I・II"　桐原書店　2013年　650円　卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II啓林館　2013年、650円
Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社
市川泰男、高橋和久ほか著　"NEW EDITION UNICORN　ENGLISH COURSE I・II"文英堂　2012年　630円
Genius English Course Revised I・II大修館書店　霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂　2012年、630円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2．学習指導要領および4技能の統合
3．リーディングの理論と実践 [理論編]
4.　リーディングの理論と実践 [発展編]
5.　絶対評価について（高等学校編）
6．学習指導案（高等学校）の立て方
7．モデル授業の準備
8．モデル授業（高等学校）[コミュニケーション英語I]
9．モデル授業（高等学校）[コミュニケーション英語I以外の科目]
10．ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11．ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12．諸外国（たとえばフィンランド）の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13．諸外国（たとえばフィンランド）の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14．日本の英語教育（小・中・高連携）について
15．復習と試験の準備

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末の定期試験（７５％程度）を中心として、提出物（１５％程度）及び授業参加度（１０％程度）を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には指定された教科書の範囲を読んでおく。事後には渡されたプリント等を用いて復習する。

履修上の注意　/Remarks

・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
・モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

英語科教育法Ｂ 【夜】

教職に関する科目
必修科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

道徳教育指導論 【夜】

教職に関する科目
必修科目

担当者名 /Instructor　田中　友佳子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより 、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　授業のねらいや計画、注意点の説明
第２回：道徳とは何か、なぜ必要か　倫理、哲学、法と道徳との関係性
第３回：道徳教育の変遷①　近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
第４回：道徳教育の変遷②　戦後から「改正教育基本法」、まで
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①　生命倫理をめぐる問題について考える (グループ討論)
第８回：道徳教育の現代的課題②　性の多様性について知る(グループ討論)
第９回：道徳教育の現代的課題③　住み良い社会とは何かを考える (グループ討論)
第10回：道徳教育の現代的課題④　「世代間の平等」の問題を考える (グループ討論)
第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
第12回：「道徳の時間」の教材研究①　読み物教材に対する批判的検討
第13回：「道徳の時間」の教材研究②　問題解決的な学習に対する批判的検討
第14回：学習指導案の発表とコメント
第15回：全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中、適宜説明を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード　/Keywords

特別活動論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

１．文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。

２．学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。

３．子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。

４．生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説　「特別活動編」（平成２０年９月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編　2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ)　学文社
高旗正人他編　「新しい特別活動指導論」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　-　特別活動の教育的意義
２回　学級活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章第１節他）　学級活動の実際　中学校
３回　学級活動の実際　その２　高等学校
４回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その１　対立解決プログラムについて
５回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その２　傾聴のスキル、アサーティブネス
６回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その３　ウィン・ウィン型の問題解決
７回　生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動　その４　対立の仲介のロールプレイ発表
８回　生徒会活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章２節他）
９回　学校行事の目標・内容と指導計画（テキスト第３章３節他）学校行事の実際　中学校
10回　学校行事の実際　-　高等学校
11回　学級の荒れを克服し、お互いを大切にする人間関係を築く学級活動の取り組み
12回　困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
13回　特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
14回　指導計画の作成と内容の取扱い（テキスト第４章）
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点（課題レポートなど）　期末試験　80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords

特別活動の目標･ 内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学 【夜】

教職に関する科目
必修科目

担当者名 /Instructor	下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師
履修年次 /Year	2年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。
　そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書　/Textbooks

新しい教育の方法と技術　2012　篠原 正典 (著), 宮寺 晃夫 (著)　ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育と学習・理論と方法・実践
第３回：授業の歴史（欧米）
第４回：授業の歴史（日本）
第５回：学習の理論・協同的な学び
第６回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
第７回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第８回：授業の過程・デザイン-実践-評価
第９回：情報機器・メディア活用の授業
第１０回：「学力」について考える
第１１回：授業の研究１
第１２回：授業の研究２
第１３回：教師の専門性・専門職性
第１４回：教材研究・教材開発
第１５回：まとめ
定期試験
（２~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は。実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
発表・レジュメ作成・・・ ２０％
最終試験・課題レポート・・・ ５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。

キーワード　/Keywords

生徒・進路指導論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。
① 生徒指導の意義、生徒指導の３機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと

② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること

③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。

⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。 また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規＋教育で考える 生徒指導ケース１００」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション ＋ 課題レポートの説明
２回 生徒指導の意義と原理（生徒指導提要ト第１章他）、生徒指導と生活指導
３回 教育課程と生徒指導（生徒指導提要第２章他） その１ - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
４回 教育課程と生徒指導 その２ 学級活動・学校行事と生徒指導
５回 生徒指導に関する法制度等（第７章他） その１
６回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
７回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
８回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
９回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
10回 進路相談のロールプレイ実習
11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その１ 少年期
14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その２ 思春期
15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート２０%、期末試験８０%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード　/Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

１．　学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談）、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。

２．教育相談の基本的な理念と技法（傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を修得すること。

３．　不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

○　文科省編　「生徒指導提要」
○　楠 凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○　広木克行　「教育相談」（教師教育テキストシリーズ）　学文社
○　吉田圭吾　教師のための教育相談の技術　金子書房
○　日本学校教育相談学会　学校教育相談学ハンドブック　ほんの森出版
一丸藤太郎・菅野信夫編著　学校教育相談　ミネルヴァ書房
楠　凡之　「いじめと児童虐待の臨床教育学」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　課題レポートの説明
２回　子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
３回　子どもの発達課題と教育相談
４回　教育相談の基本的な理念について　一　受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
５回　教育相談の基本的なスキルについて　-　共感的応答
６回　教育相談の基本的なスキルについて　-　直面化
７回　教育相談の基本的なスキルについて　-　ロールプレイ体験
８回　子どもの「問題行動」と教育相談　その１　不登校問題
９回　子どもの「問題行動」と教育相談　その２　発達障害の問題
10回　子どもの「問題行動」と教育相談　その３　薬物問題（外部講師　北九州ダルク施設長）
11回　保護者理解と教育相談
12回　教育相談における関係諸機関との連携
13回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　少年期
14回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　思春期　全体のまとめ
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの”ｖｉｅｗ”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の”ｖｉｅｗ”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード　/Keywords

教育相談の理念と技法、　子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

教育実習１ 【夜】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

４年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

１．教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚

２．学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など

３．生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類–3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
２回 教育実習生の１日
３回 教育実習の体験から学ぶ（中学）
４回 教育実習の体験から学ぶ（高校）
５回 学校で求められる人権教育について
６回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
７回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
８回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
９回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
11回 模擬授業②(特別活動 その１ 何らかの場面指導他)
12回 模擬授業③（特別活動 その２ 学級活動）
13回 模擬授業④（各教科 その１）
14回 模擬授業⑤（各教科 その２）
15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価（６０％） 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価（４０％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。
一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習１　【夜】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords

教育実習２ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 １回	； オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 ２回	； 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 ３回	； 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 ４回	； 教育実習に向けての課題の整理	【教育に求められる資質と教育実習の課題】
第 ５回	； 実習校実習②	【教育実習指導】
第 ６回	； 実習校実習③	【教育実習指導】
第 ７回	； 実習校実習④	【教育実習指導】
第 ８回	； 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 ９回	； 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第１０回	； 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第１１回	； 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第１２回	； 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第１３回	； 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第１４回	； 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第１５回	； 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習３ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 １回 ； 実習校実習① 【教育実習指導】
第 ２回 ； 実習校実習② 【教育実習指導】
第 ３回 ； 実習校実習③ 【教育実習指導】
第 ４回 ； 実習校実習④ 【教育実習指導】
第 ５回 ； 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
第 ６回 ； 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
第 ７回 ； 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
第 ８回 ； 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
第 ９回 ； 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
第１０回 ； 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
第１１回 ； 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
第１２回 ； 実習校実習⑫ 【教育実習指導】
第１３回 ； 実習校実習⑬ 【教育実習指導】
第１４回 ； 実習校実習⑭ 【教育実習指導】
第１５回 ； 実習校実習⑮ 【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習２と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習２と同時履修（教育実習の時間数の単位換算のため）。
教育実習３のみ受講の場合は教育実習２で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習２の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習（中・高）【夜】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の４つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、III類の４　に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理、プレゼンテーション方法の説明
２回　子どもたちから学び、一緒に成長できる教師であるために(実践報告とグループ討論)
３回　生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのロールプレイ実習
４回　教員に求められる対人関係能力について
５回　生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
６回　教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の検討
７回　教科の授業のスキルアップその１（わかりやすい話し方、板書の仕方等（模擬授業及びグループ討論））
８回　教科の授業のスキルアップその２（生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等（模擬授業及びグループ討論））
９回　教科の授業のスキルアップその３（わかりやすい資料提示、情報機器の活用の仕方等（模擬授業及びグループ討論））
10回　教科の授業のスキルアップその４（効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方（模擬授業及びグループ討論））
11回　保護者との信頼関係づくりの課題（グループ討論）
12回　家庭・地域との連携・協力に向けての課題（グループ討論）
13回　学校現場でのフィールドワークの報告　その１（教科教育を中心に）
14回　学校現場でのフィールドワークの報告　その２(教科外教育、生徒指導を中心に)
15回　教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物（教育実践演習ワークシート、学級経営案）　２０％　平常点３０％　期末レポート　５０％　で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

教職実践演習（中・高）【夜】

キーワード　/Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学 【夜】

担当者名 /Instructor　田島　司 / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となってほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

教科書　/Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション、学校の意義、教育の意義【心理学】【学際性】
２回　幼児，児童の心身の発達と教育【表象世界】【しつけ】【不適応】
３回　児童期の発達【学級崩壊】
４回　学習過程【条件づけ】、【強化】、【般化】、【モデリング】、【洞察等】
５回　動機づけ【内発的動機づけ、帰属】
６回　家庭における教育【育児】【しつけ】
７回　家庭における教育【教育への動機】
８回　学校組織と教師【組織としての学校の特殊性】【職業としての教師の特殊性】
９回　教室内過程【教師生徒との関係】
１０回　教室内過程【生徒間関係】
１１回　教育評価【測定】
１２回　発達の個人差と障害児【障害理解】
１３回　発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
１４回　現代の教育問題について
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の小テスト　…　100％
※小テストは３～４回行う。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義前の予習としては、教育心理学に関する内容を特定のテーマに偏ること無く、図書館等で参考になる本を自主的に読むなどしておくことが望ましい。講義後の復習としては、学修したキーワードに関して深く掘り下げるための本を読んでほしい。その際、教育心理学のみならず、発達心理学、社会心理学、学習心理学などの本も参考になるので幅広い分野の本を手にとって欲しい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

人権教育論 【夜】

担当者名 /Instructor　弓野　勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

○人権教育とは、「自他の人権の実現と擁護のための必要な資質や能力を育成し発展させることを目指す総合的な教育」です。
　文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、「私の人権教育の創造」をめざす。
○教育現場の具体的な人権問題の事象に学び、人権教育の知識を豊かにすると共に、人権感覚を研き、人権教育の技能・スキル・態度を培う。
○「部落差別の解消の推進に関する法律」の施行により、「教育・啓発の推進」が求められています。同和問題への「正しい理解と科学的認識」を培い、解決への道筋を確かにすると共に、「授業内容の創造」をめざす。

教科書　/Textbooks

○「手づくり資料」を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○授業中に「テーマ毎に紹介」します。

人権教育論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)私の人権教育の創造
第1回 「体罰」と人権
○教育現場の体罰の実態。
○体罰のない学校を創るため、懲戒・体罰・正当防衛を正しく理解する。
第2回 「いじめ問題」と人権①
○「いじめ問題」の実態に学び、いじめの構図、加害者の心理、傍観者の心理を理解し、
教育内容の創造の道筋を考える。
第3回「 いじめ問題」と人権②
○文部科学省の「いじめの定義」、「いじめ防止対策推進法」を理解する。
○いじめ認知調査「レジリエンス」(自己回復力)
第4回 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
「同和教育の成果と手法の評価を踏まえ、教育内容の創造へチャレンジ」する。
①人権尊重の精神に立った学習活動の創造。学力と進路の保障。
「人権が尊重される授業づくり」「自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係」
「全国学力テストの結果の分析と課題」
第5回 ②人間関係づくり。なかまづくり。
「なかまづくりの原点と実践例」「金子みすずさんからのメッセージ」
第6回 ③教育環境、雰囲気づくり
「学級人権文化の創造」「子どもの居場所づくり」
第7回 ④隠れたカリキュラム。空間的意識の大切さ。
「人権教育の技能・スキル・態度」「アサーティブな表現を研く」
「金子みすずの詩と東京大学入試問題」
第8回 個別の人権課題に学ぶ①
○発達障害と子どもの人権
第9回 個別の人権課題に学ぶ②
○「障害者差別解消法」「性の多様性」

(2)気づきと発見の部落史授業
第10回 ①近世の文学者の人権感覚に学ぶ
○一茶・蕪村・芭蕉の俳句から学ぶ。
②近代医学の夜明け。「解体新書」と出会い直す。
○「腑分け」の主人公
第11回 ③現代の社会問題としての同和問題の起こり(成立)について学ぶ
○明治時代~大正時代~昭和時代
「解放例の目的と意義」「近代化への政策と差別の再生産」
第12回 ○「水平社宣言と水平社の結成」
「竹田の子守唄と少女たちの叫び」
第13回 ○「結婚差別」(2人の若者の遺書)
「憲法14条・24条」「人権意識調査」から考える。
第14回 ○「教科書無償運動と親たちの願い」
「全国高等学校統一応募用紙と就労保障の取り組み」
第15回 ○同和問題解決への国の施策
「同和対策審議会・答申~同和対策事業特別措置法」
○「部落差別の解消の推進に関する法律」について
○法律制定の経緯と意義。
○部落差別の現状と課題。「授業内容創造への視点

成績評価の方法 /Assessment Method

○毎時間の「受講票」「定期的な小テスト(レポート)」「要点整理プリント」「テスト」を合わせて総合的に評価します。
○「受講票」は「質問・意見・理解内容」を記入し提出。
○評価の割合は「テスト」(60%)、「受講票」(20%)、「小テスト(レポート)」(20%)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

○この授業科目の単位(2単位、週90分授業)を修得するためには、授業とは別に「毎週180分程度」の自習が必要と考えます。
○基本的には、「前もって配布された資料」に必ず目を通し、学習内容をチェックしておく。
○テーマ毎に「要点整理プリント」を配布します。次の授業で提出します。
○「小テスト、レポート(100字以内)」は、事前に予告します。
「レポート用紙」は、事前に配布します。
○自習内容の詳細に関しては、授業の中で指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人権教育論 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育工学 【夜】

教職に関する科目
選択科目

担当者名 /Instructor	大塚　一徳 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義は，教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術，教材と教具，指導方法等を学び，授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術）の進展を踏まえ，PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに，模擬授業の実施及び評価等を通して，教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し，各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500 円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）
１．　オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
２．　授業と教育方法　【教育方法】
３．　授業と教育技術　【教育技術】
４．　授業のシステム化の方法と授業設計の手順　【授業設計】
５．　授業過程の分析と改善　【授業過程】
６．　授業実施の技術　【授業技術】
７．　授業の評価　【授業評価】
８．　教育における情報化社会の影響【情報化社会】
９．　教育におけるICT（情報通信技術）の活用【ICT】
１０．学習指導案の作成　【学習指導案】
１１．教材研究　【教育メディアとその活用】
１２．模擬授業　【模擬授業】
１３．テストと学習内容の評価　【テスト】
１４．授業実践能力の改善と向上　【教育の方法と技術の実践能力】
１５．現代の教育課題と講義のまとめ　【現代の教育課題】

成績評価の方法　/Assessment Method

教材研究課題（２０％），模擬授業（３０％），試験（５０％）により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
事後学種としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意　/Remarks

教材研究，模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords